

平成27年（ワ）第13562号 福島被ばく損害賠償請求事件

原告 井戸川克隆

被告 東京電力ホールディングス株式会社

被告 国

原告最終準備書面第43号 第5分冊

2025（令和7）年1月17日

東京地方裁判所 民事第50部 合ろ係 御中

怨念で死す

原告 井戸川克隆

原告最終準備書面第43号

第1分冊 事故前の真実

第2分冊 事故発生

第3分冊 事故隠しの正体

第4分冊 事故の総括

第5分冊 怨念で死す

第6分冊 平成の乱

第7分冊 憤怒で鬼になった原告

第8分冊 要旨の紹介

内容

まえがき	2
怨念で死す	9
つまり	455

まえがき

「表題の怨念で死す」とは、本人が死を納得したものではないことを示すものである。

本件事件（東京電力株式会社福島第一原子力発電所が起こした事件）について、第5分冊では、最後を迎える双葉町民が本件事件に納得していないことを証明している貴重で唯一無二の証拠である。

双葉町民は、平和で、国民としての義務を果たしながら、清貧であってもそれぞれが人として穏やかな終を迎える場としていた。

その願いを何の予告もなしで、更に了解もしないまま、居場所が分らない場所で望まない最後を迎える悔しさは、一片の経緯書では語りつくせないであったであろうことは、やがて死霊となって加害者に向かうことは容易に想像ができる。

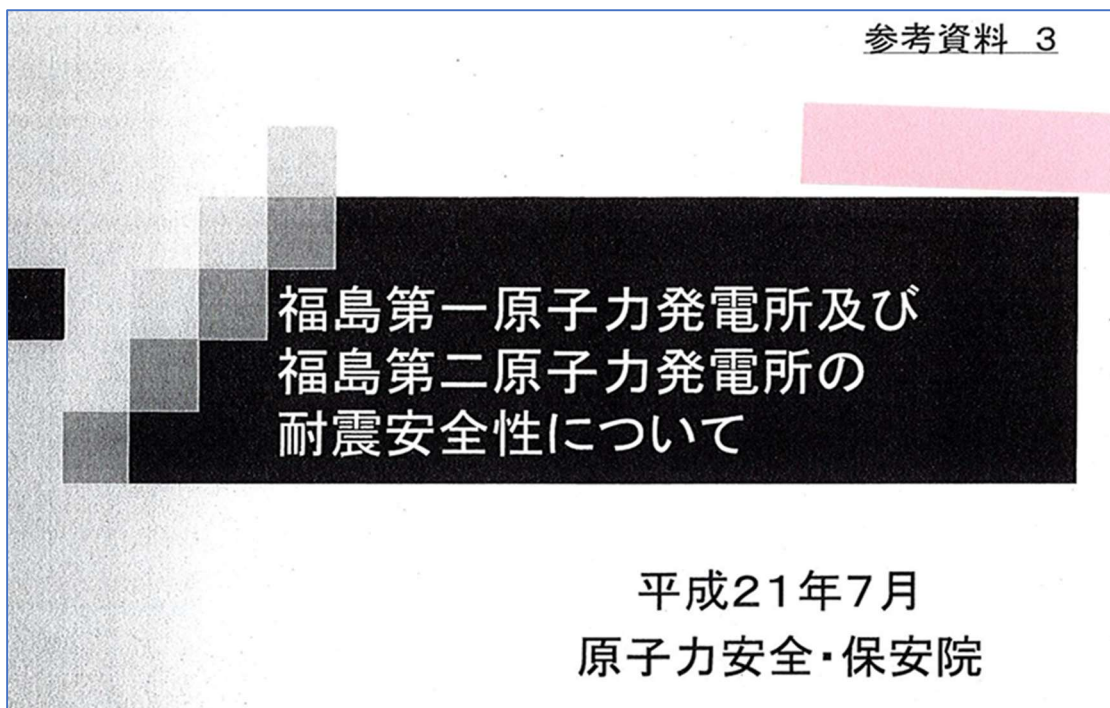
双葉町民は長年、原子力発電所と共生をしてきたことは事実である。しかし、原子力発電所のウソ・偽りに付き合わされ、不幸になる約束はしていない。まして、本件事故後の多くのウソで双葉町民の安寧を壊しておきながら、ウソで責任を逃れることは絶対に許すことはできない。

以下に添付する経緯書の1枚目から20枚目までは、津波で亡くなられた方になるので、本書には含まれていない。

以下の資料は、平成21年福島県原子力安全確保技術連絡会の会議資料として、原子力安全・保安院から示されたもの。現実には、平成23年3月11日東日本大震災の大地震と大津波によって、東京電力株式会社福島第一原子力発電所は、止める、冷やす、閉じ込めることができなかった。

以下に示す内容が正確であれば、本件のような過酷な事故に至らなかった。

下記資料は、原告（双葉町）に対して、虚偽公文書作成同行使という罪を犯したために、次頁以降に示すように双葉町民は、この虚偽資料の犠牲になったのである。



目 次

1. 耐震設計の基本的考え方と
耐震バックチェックについて
2. 原子力安全・保安院の評価結果

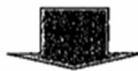
1. 耐震設計の基本的考え方と
耐震バックチェックについて

原子力発電所の耐震設計の基本的考え方

原子力発電所の耐震設計は、原子力安全委員会が定めた「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に従い設計

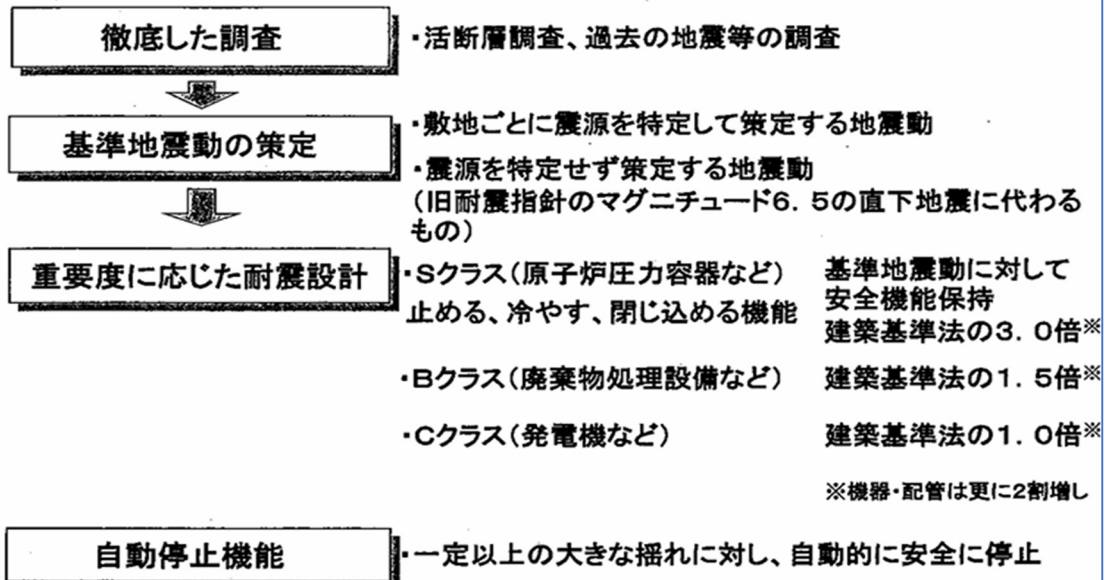
その基本的考え方は、

大きな地震があっても、発電所周辺に放射性物質の影響を及ぼさない



安全上重要な「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」機能が確保されるように設計

耐震設計の基本方針を実現するために



5

耐震設計審査指針の改訂について

原子力発電所の耐震安全性

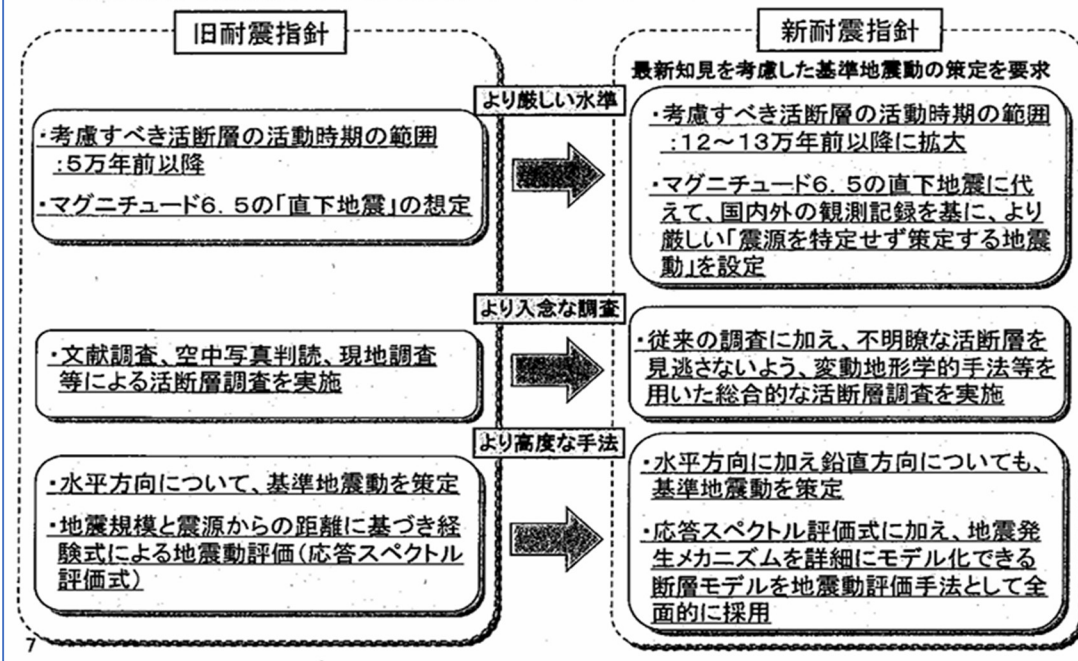
福島第一・福島第二原子力発電所をはじめ全国の原子力発電所については、「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」(昭和56年7月原子力安全委員会決定。いわゆる「旧耐震指針」)を踏まえ、耐震安全性評価を行うとともに、原子力発電所の設置許可後に生じた地震等から得られる科学的知見を踏まえ、耐震安全性についての確認を適宜行っており、原子力発電所の耐震安全性は十分確保されている。

耐震設計審査指針の改訂

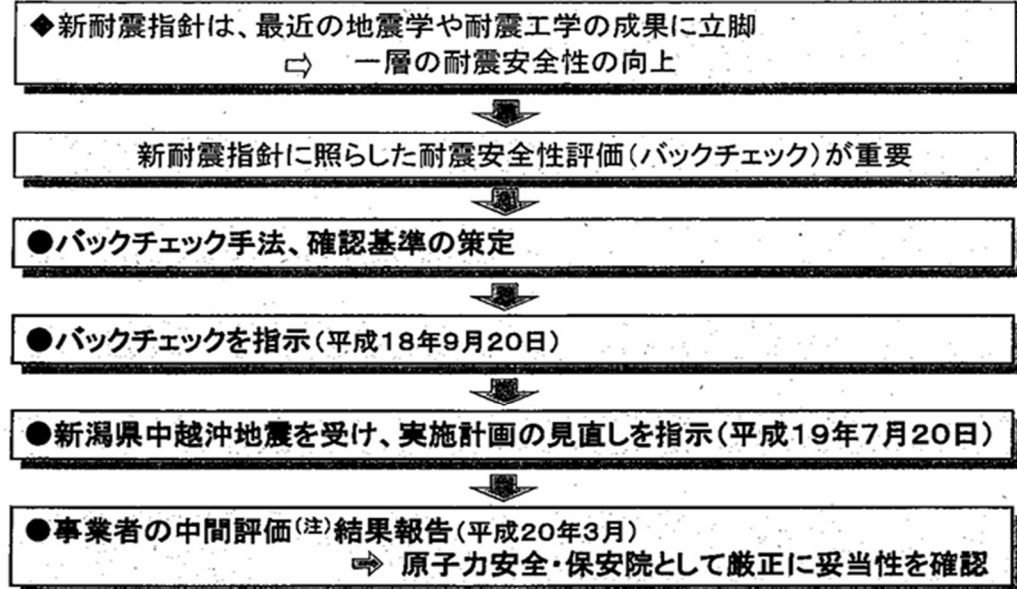
最近の地震学や耐震工学の成果など最新の知見を取り入れ、発電用原子炉施設の耐震安全性のより一層の向上に資するとの観点から、「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」(平成18年9月原子力安全委員会決定。いわゆる「新耐震指針」)が策定された。

6

新耐震設計審査指針のポイント

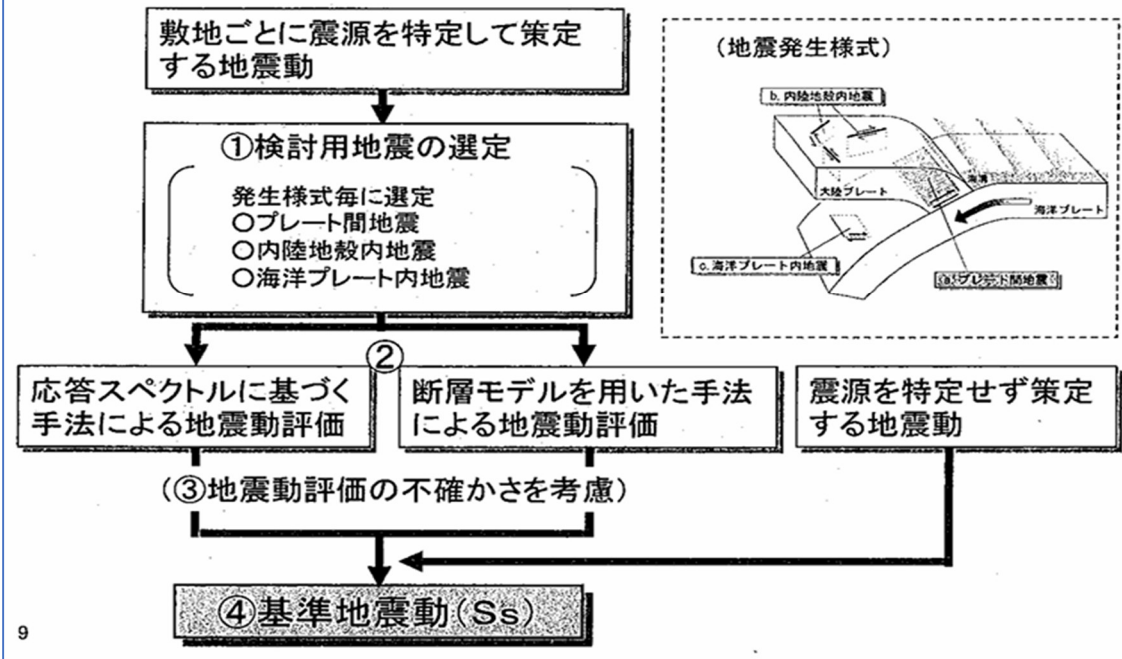


耐震設計審査指針の改訂に伴う対応



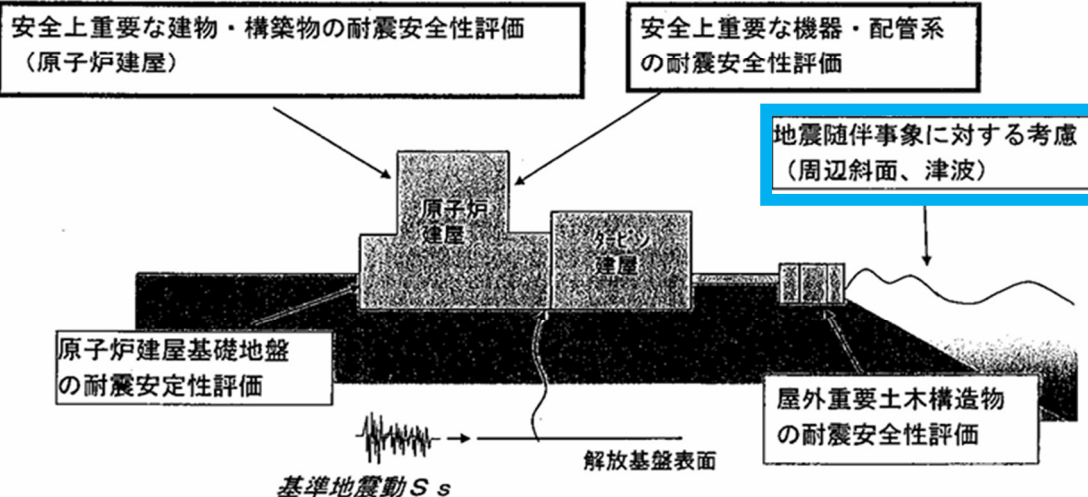
（注）中間評価とあるが、基準地震動の策定、安全上重要な設備に関する耐震安全性の評価であり、発電所の基本的な耐震安全性の確認を行うもの

バックチェックの方法(基準地震動の策定)



バックチェックの方法(耐震安全性評価)

基準地震動 S_s を策定し、下記の施設等の耐震安全性評価を実施。



今回は ☐ で困った設備のうち重要なものについて評価

怨念で死す

「21」

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町 [redacted] 病院	双葉町の自宅から午前9時頃自家 用車にて川俣町方面へ避難するが 体調を崩し [redacted] 病院に入院する。
2	3月31日	同上	31日午前0時12分 肺炎のため病 床にて死亡。過酷な環境での避難 生活により心身にストレスを受け病 状悪化死に至った。震災がなければ、週 に2日デパートに行っていた程に健康 であり、今も存命であったと思われる。
3			
4			
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住 所	[redacted]
			連絡先	[redacted]
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	老人ホーム ～福島高校体育館	避難指示に従い、避難準備を行うも、避難手段や避難先が決まらず、玄関前フロアに長時間待機の状態が続く。自衛隊のシールド部隊に包まれ、一路川俣方面を徒歩でも、到着したとき、福島高校体育館。寒さと混乱の中で、物資もなく、冷たい床の上に薄い毛布を一枚引かれ避難生活が始まる。水分、食料共に十分に摂取することができず、衰弱していく。
2			
3	8月19日	福島市内 介護老人保健施設 ～へ移動	本来、家族の避難先は那須塩原市へ移動を希望したが、脱水により、衰弱が顕著で、移動距離の少ない福島市内の老健へ移動。この時、受け入れ先の施設長より、
4			身体機能の低下が著しく、急変の可能性が高いと告げられる。
5	3月23日	～病院へ入院	脱水、肺炎にて入院。早朝連絡あり。病院へ行くに重篤であることを告げられる。
6	3月25日	死亡	早朝治療の甲斐なく死亡。通称は移動先避難所での生活、原子力災害による過剰なストレスで死に至ったものと思われる。災害がなければ、今も入所していた。
7			特養で穏やかな日々を過ごし、存命していたと思われる。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	町立双葉北小学校	3月11日の地震により、双葉北小学校へ避難。車椅子で自宅より。
2	3月12日	浪江町大塚小学校へ。避難。川俣町、福岡小学校体育館に避難	3月12日地震発生指示により、自衛隊の輸送車で車椅子のまゝ専車大塚小学校へ町、福のバスで、川俣町福岡小学校体育館に避難。
3	3月19日	町社協のバスで埼玉フーリーナに避難	椅子に座ったままの長時間の移動で、この時点で心身とも、ストレス衰弱があらわさう。
4	3月21日	町社協のせきで特老ホームに入所	町社協のせきで特老ホームに入所。にサポートスライ、私もこれです。母も元気になく、よさかーと思った。
5	3月28日	町社協のせきで市民医療センターへ、柏急病院まで	町社協のせきで市民医療センターへ、柏急病院まで。職員の方の対応が、悪いと連絡（呼吸が薄い）。
6	3月28日	市民医療センター	私が病院へ着いた時はすでに死亡。病院へ搬送された時は死んでいた。3月28日AM11時30分死亡
7			今年1月2日自宅内に転倒し右大腿骨骨折。1月4日手術。1ヶ月後退院。自宅に地震に合う着のきき、避難入浴も忘れ、長時間の座り、椅子の移動が最悪だった。
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>	
	氏名	<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉厚生病院	地震後の津波により多量の泥水を呑み、双葉厚生病院に入院す。
2	3月12日	[redacted] 病院	原子力災害対策特別措置法及の災害対策基本法に基づき警戒区域設定され、[redacted] 病院に移された。
3	3月19日	[redacted] 病院	午前 11時52分、上述の事由により死亡した。
4			
5			
6			
7			
[redacted]			
事情聴取先 <small>※役場より聞き取り調査を行う場合があります。</small>		氏名	[redacted]
		住所	[redacted]
		連絡先	[redacted]
		住所	
		氏名	
		住所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	南相馬市 (原町)	自衛隊のトラックで移動 震災時は、 避難先は 埼玉県に避難。 避難先は、自衛隊のトラックで移動。
2	3月15日	養護学校	社会福祉協議会のマイクロバス で移動
3	3月19日	栃木県	栃木県(乗用車)にて移動 職員の方より電話があり 子供、子系4名で会いに行つて 来ました。寒かったと何回も言っていた。
4	3月28日	赤十字病院入院	3月28日の0時30分過ぎに入院。治療 の甲斐もなく8時20分に肺炎のため死亡。 飲み物も食べ物も少なく過酷な避難 生活及び原子力災害により病状が悪化して、 震災前は元気でした。
5			
6			
7			
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 <small>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</small>	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先
			自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	クリニック	震災時はクリニック内 3月11日の地震により川口市 に移動
2	3月12日	泌尿器科	避難場所により泌尿器科病院へ入院
	3月17日		泌尿器科より別の病院へ移転中経過
3	3月17日	泌尿器科 にて6:20分死亡	過酷な環境で十分な透析 が出来なかった事、原子力発電所 の事故により長距離の移動を
4			強いストレスで体調も崩し 病状が悪化、結果死亡に至った 震災がなければ今も存命であった と思われる。
5			
6			
7			
<div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 <small>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</small>	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先
		自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣小学校	3月11日の地震、3月12日の避難指示により ミカマ川俣町小学校へ避難。
2	3月14日	ビジネスホテル	東京へ避難(次男を)ため 磐越道→北陸道→関越道経由 から東武、常磐道不通により。
3	3月15日	(次男)	(本人)、(長男) 2名に2避難。
4	3月23日	同上	(妻)の生存が確認される。 救急病院に入院中 精神的に苦しいショックを受けた。
5	3月25日	同上	本人面会希望するが、道路状況で ガソリンが入り困難 2名を面会へ行く。1週ほど近く放置 脱水状態で生存が危ぶまれたが、危機を 脱した。(本人)へ報告。
6	4月3日	同上	避難手続きする。 4月8日(本人)家族面会(妻) に避難手続き完了。
7	4月7日	病院	24時30分頃(体調が悪く)救急車にて 搬送。午前2時30分、治療の甲斐もなく 急性心筋梗塞のため、病室にて死亡。避難 生活、母子が表に心身共に苦しい状況。 ショックを受け死に至る。震災がなければ今も生存していたと 思われる
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	12月27日 の夜		自衛隊が搬送してきたとき、 溺死の状態を病状が悪化していたと、 断られた。
2			避難先で、通商の終りと 食事困難、治療を受けず死に至った。 震災の被害は今も存命であるとされている。
3	3. 11		要介護者、双葉病院入院中 双葉病院入院中 母との面会中地震発生
4	3. 12		「双葉病院」にて、自衛隊に発見され、 双葉病院系列の「」に搬送 依頼されたが断られた。非常災害搬送 溺死の状態を病状が悪化していたと、
5			通商の終りと食事困難、治療を受けず 死に至った。 震災の被害は今も存命であるとされている。
6	3. 14 3. 15		3/4以降死と推定。 高松に
7			高松に、何れかの時は死にいた。
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先
		自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日		3月11日の東日本大震災による原発事故発生に伴い、福島市の息子のアパートに避難しました。
2	3月24日	病院	3月24日体調に異変が生じ、病院に緊急入院しました。
3	3月25日		25日午前6時3分治療の甲斐も虚しく多臓器不全のため病床にて死亡。原発事故による避難が元で、心身ともに著しいストレスを受け病状が悪化結果死に至った。震災がなければ今も存命であったと思われます。
4			
5	3. 13 3. 23		福島市のアパートで家族全員の避難生活が始まる。6畳1間のアパートは1人1人狭く、1人1人が寝る。中は汚いテレビを見れば、眼が赤い。横になって寝る生活が続き、辛い。
6	3. 24		朝から食べるとお腹が痛く、1人、2人食べると辛い。辛い。辛い。
7			息子を横になっている父を起すと、変色の流涎物を吐いた。心臓発作入院を要する。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
	氏名		住所
	氏名		住所
	氏名		住所

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

18 / 456

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	特別養護老人ホームせんだい	せんだいのスタッフの方には聞かずに勝手に入所しました。
2	3月12日 3月13日		避難指示により「せんだい」から 休養館に避難 同 日
3	3月18日 ?	スクリーニング	同上
4	3月18日 3月19日	介護老人保健施設 [redacted]	避難所への避難生活は無理なものの 判断から移転（日本赤十字社、東洋館の 指導があったと聞いています。） 特別せんだいの施設に入所施設確保のため 入所しました。
5	4月15日	[redacted] ↓	4月15日の朝 吐血。 [redacted] には無理、という事で [redacted] に搬送しました。
6	4月15日	[redacted] 病院	胃の処置をしても吐血、出血止まず 4月16日 朝方前死亡
7	備考	[redacted] から搬送工場の報告を受け、4月に入 らないうちに、その際、下痢、嘔吐などいろいろなことでした。その後 [redacted] 病室で [redacted] 飲んでいて薬を見ると、それが急性胃腸炎の原因 となっていました。	
[redacted]			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住 所 [redacted]
			連絡先 [redacted]
	氏名		住 所 [redacted]
			連絡先 自宅・携帯 [redacted]

（事実は違いますが、非常事態でもあり、せんだいのスタッフの方達には一切を避難所として
くばった方だけでも、感謝している（たいです、など批判的な感情は、あり
感じております。

震災後から死亡までの経緯について

身元慰金支給に係わる審査会の重要な資料となりますので、できるだけ詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	病院	3月11日の地震発生時、ガン検査入院中で入院から四日目。避難できず病院内待機。
2	3月12日 ～ 15日	同上	12日の一回目水素爆発の後、病院職員がほとんど緊急避難してしまい、適切な治療看護と投薬治療を受けられない状況に陥り、病状が急速に悪化していった。
3	3月16日	同上	病状の悪化に伴い、長男 担当医師 と面会。担当医師より下記の通りの供述を受ける。 「この状況下では満足な治療は受けさせられなかった。それは申し訳ない。このまま原発事故が長引けば、最悪の場合は悪化している を地下の遺体安置所に放置し、職員は全員避難せざるを得ない」
4	3月18日	病院	日を迫るごとに症状が悪化し、もはや 病院では治療が困難と判断され、急速、 病院への搬送が決定。 しかしながら、燃料不足など輸送手段困難な中、長時間ワゴン車に塞がれたままというかなり無理な体勢にて移動。その搬送の体への負担の結果、さらに衰弱が進行。
5	3月22日	同上	午前11時22分、搬送後わずか4日で治療の甲斐なく病床にて死亡。 震災後の不十分な医療体制と、無理な搬送の体への負担により、急激に死期を早めた。検査入院時は通常の生活を送っていたので、震災が無く通常の治療を施しておれば現在も存命であったと思われる。
	事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		住所 連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	小学校に避難	3月12日の避難指示により、施設職員と共に乗用車で避難。
2	3月15日	体育館に避難	3月15日避難指示により、施設職員と共に乗用車で体育館に避難。
3	3月18日	特別老人ホームに避難	3月18日避難指示により、施設長、施設職員と共に乗用車で避難。
4	3月29日	病院	3月29日、体調を崩し職員により病院へ入院。脳梗塞と診断。
5	5月6日	病院	5月6日11時53分治療の甲斐も無し、突然容態が急変し脳梗塞のため死亡。避難先老人ホームで死亡したことは体調不良の訴えもなく元気に過ごしていたが、避難生活及び原宿カキ屋により心身共にストレスを受け脳梗塞に陥ったと思われる。
6	5月11日	特別養護老人ホーム「さくら」へ移す	
7			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3、11	双葉町 [redacted]	地震により [redacted] に避難
2	3、12	旧村平 [redacted]	避難指示により、乗用車にて、旧村平 [redacted] に避難。
3	3、14	川俣町 [redacted]	旧村平 [redacted] より乗用車にて川俣町 [redacted] に避難。
4	3、17	[redacted] 病院	午後 3時50分 高熱により救急車にて [redacted] 病院入院。呼吸器の肺炎と診断され検査を打ちながら病状が悪化。夕方に呼吸困難の発作が頻発し、余命少ないと宣告され、連絡するよう告げられる。
5		〃	食事は、呼吸器の肺炎により、水分が不足し、水分を30分おきに少量ずつ摂取。そのほか、呼吸器の肺炎により、高熱が続き、完全安静の状態で、一日3回、600cc/1000cc あり、呼吸器の肺炎は、初日から重症で、1日中、
6		〃	高熱が続き、1日中、24時間 毎日、高熱が続き、呼吸器の肺炎は、初日から重症で、1日中、排泄、排便は、すべて、排泄器、又は、おしり、に排泄がなされ、安静に過ごす。
7	3、21	〃	午前11時30分 高熱の平熱となり、肺炎の症状が軽減。避難生活及び、呼吸器の肺炎により、心身共に、大変、苦しいと、思われる。
[redacted]			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名 [redacted]	住所 [redacted] 連絡先 [redacted]
		氏名 [redacted]	住所 [redacted] 連絡先 [redacted] 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	広野町	3月11日時点、広野町 入院中。(肺炎)
2	3月31日	広野町	発熱が続き、衰弱の症状。
3	4月25日	広野町	4月25日午後8時4分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため、病床にて死亡。原子力災害により家族との面会もできなくなり、心身ともにストレスを受け病状が悪化、結果死に至った。
4			震災がなければ、今も存命であったと思われる。
5			※ 個別避難とは 単独患者については、避難所に入る 際、移動について命がけで、 手配する等、避難を単独で行 うと経過がある。一掃消毒の免除。
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	浪江町 [REDACTED]	脊髄損傷で入院中 [REDACTED]
2	3月12日	"	[REDACTED] 避難指示
3	3月13日	"	3月12日の避難指示により、受け入れ病院への移動 の際、自衛隊のヘリコプターを待つことは出来ず は [REDACTED] 自らも避難指示により、脊髄損 傷の治療が出来ないと思われ、3月13日 に介護施設へ入所し、介護が必要となる見込み で介護も可能と判断される。
4			
5			死亡を確信したのは10~14日程度であった。
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
		[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]
	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
		[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3. 11		ダイービル半壊災にあう
2	3. 12		避難先へより川俣町へ避難
3	3. 14	部み市	避難先へより川俣町へ避難 避難先へより川俣町へ避難
4	3. 17	部み市	部み市へ避難 部み市へ避難
5	3. 18		朝、部み市へ避難 そのうち入院。 部み市へ避難
6			部み市へ避難 部み市へ避難 部み市へ避難
7	3. 28		夜7時30分、部み市へ避難 部み市へ避難 部み市へ避難
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

26 / 456

「39」～1/2

2-1

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉中学校	3月11日の地震により、自宅裏に高冷者2人と身体障害者の長男と3人だった。近所の人の車に乗せてもらい中学校に避難。この方が声をかけてくれたので、取り残さなかった。...
2	3月12日	葛尾村	中学校の体育館にて、町民が避難の際、バスに乗ることでござい。取り残されてしまったので葛尾村の長男の方に乗せてもらい、長男の車の奥に乗り込んで行ったとのことである。
3	3月14日	福島市	葛尾村民避難となり、葛尾村のバスに乗せてもらい避難。寒さに耐えていたとのことである。
4	3月15日	福島市	高冷者、身体障害者がこの時体育館で過ごすことになった。親戚の好意で、妻の妹の家と一泊に泊ることにしたためお世話になった。バドミントンも準備した。
5	3月18日	川俣体育館	翌日、埼玉アリーナに行くとの情報あり。埼玉に居住している長女を乗せ、埼玉行きのバスに乗車するため川俣へ移動した。長男も転倒し母親が助けを求めた。
6	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	町長の集まりをため、皆2人の不審者にバスで移動。ボランティアの方に背負ってもらい、指定場所へ連れて行ってもらったとのことである。
7	3月20日	埼玉県	カマコ不審の中、どうにか、長女夫婦に抱えてもらい、埼玉県の長女宅へ移動。
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先

次P 別

「39」～2/2
2 - 2

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
8 才	3月30日	埼玉県 旧騎西高校	長蛇に11人が日中高全着つたきりに日2 しょうため、不安もあり、知人のいる、旧騎西 高校避難所へ行った。その後、埼玉県 動体科、父体調不良となり、入院した と聞いた。
9 才	4月8日	埼玉県 入院	体調不良にて入院。発熱もあり。 食欲不不振、歩行困難、白尿、 感情不安もあり、心身共に不安定な状況。 この状態で、よくこんな移動は出来ぬと 医師より言われたとのこと。
10 才	4月21日	埼玉県 死亡	H29年4月21日、午後8時31分、右側の 甲斐を強く、急性呼吸不全のため、病院にて 死亡。通院中環境での何れもの避難先移動 中、息が止まり、心臓も止まり、死したと 医師から報告された。結果死に至った。震災の ため、今も存命であったと思われ、91歳の父に して、今回の避難生活は本当に大変な事な らうと思われ、本当に残念です。
才			
才			
才			
才			

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3. 11 3. 12	双葉病院入院中	震災時は[]で双葉病院入院中 であった。 [全話 心を込めて。 流石な 考へてみる]
2	3. 13	いわき光洋高校 新港[]病院	自衛隊ヘリコプターでいわき光洋高校へ避難 同ヘリコプターで新港[] 病院へ搬送される。
3	3. 18		18日午後7時24分治療の甲斐も無く 心臓突然死のなか病床にて死去。 通気器が環境のため、心身ともに著しい ストレスを受け、病状が悪化し死に至ったと 思われる。このような事がなければ今も 存命であったと思われる。
4			
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[]	住 所	[]
			連絡先	[]
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月 11日	特別養育老人ホーム 〒7 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	寝たきりのため 移動手段がなく 置き去り状態。 特別養育老人ホーム「〇〇〇〇〇〇〇」へ所中
2	3月 12日	〇〇〇〇〇〇〇 小学校 ② 川俣 〇〇〇〇〇〇〇 ③ 〇〇〇〇〇 高校体育館	・ 午後14時30分、自衛隊のトラックで 小学校に向き原発に近過ぎ断わられず ・ 川俣 〇〇〇〇〇 お避難者満杯で入れず ・ 夜10時30分 〇〇〇〇〇 体育館着、避難生活はじめる
3	3月 18日	〇〇〇〇〇 高校体育館	12日の夜から寝たきりで体育館で 18日の晩まで避難生活を続ける。
4	3月 19日	栃木県 太田原市 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	引取り先の施設とはったことから 横取位のまま、福島～太田原まで ワゴン車で移動し入所。
5	3月 26日 5 4月 24日	〇〇〇〇〇 病院 (1回目)	心不全の疑いあり入院 4月24日落ち付いたことから退院
6	5月 30日 5 6月 1日	〇〇〇〇〇 病院 (2回目)	心不全再発 敗血症性ショックと診断
7			6月1日、11:00 急変死亡

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	住所	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	連絡先	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
	氏名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	住所	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	連絡先	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

別紙

42

+ウラ面

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3/11		震災時は[]で特老せんたん 入所中 特老 せんたん
2	3/12	この期間に連絡が 取れずわかりません。	避難指示により[]で避難へ 自衛隊の車で避難したとの ことです。(後日知りました)
3	3/19 2/中旬	介護老人保健施設 []	施設の避難生活は経験であるから物部。 連絡あり 知りました。 肺炎症状あり。
4	4/2	[] 病院	4/2 体調を崩し [] 病院へ入院 [] 急変
5	5/26	"	5/26 AM 8:55に治療の甲斐 なく満床にて死亡。 避難中の水分不足、栄養不足。
6			寒さの為体力消耗が原因と 思われるとの院長先生の説明が ありました。
7			震災がなければ、今も存命で 100歳まで生かされたかと家族で いつか話しておりました。 [] 看護士に会い木下リ代や交通費 もかきみ ました。 震災か なければ お母さん にあげ
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名 []	住 所 [] 連絡先 []
		氏名 []	住 所 [] 連絡先 [] 自宅・携帯

※ 夜になると母の哀しそうな顔が浮かんで来て
不眠症になり、通院しております。ホームには週2回
心ず行って元気づけてきてたのが最後には付き添
たかたです。
急変で病院にかけつけ一晩
でなくなり残念です。

つてもやれず、手厚い看護もしてやれなくて、母の体は汚れと
汗で頭はフケの固まりでまみれていた。

病院も患者がいっぱいで個室に入院しました。

入院費はかかりませんでしたか個室料、下着、パジャマ等
用意する様にいわれ、クリーニング代もかかりました。

とにかく母には苦痛はなくてすむことをさせておきたと

思いますが頭からはなれず、毎日かつら、思いを過こ

してあります。事故さえなければそれなりの告別式で送る

ことが出来たのに寂しい最後のお別れでした。

誰に怒りをぶっつけければ良いのでしょうか？

こういう者もいるということも東電に伝えて下さい。

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	自宅避難	3月11日の地震により、家屋の屋根付及修理等改修も行った。と平素の生活をしていました。
2	3月12日	避難所(原功)指示により、 表江崎 へ避難 (1泊)	朝10:00より自宅を車で家族と 11時に避難。本人は避難するのを 大変嫌がっていました。
3	3月13日	遠方へ避難するにあたり 福島市 へ避難 (1泊)	朝6:00より車で移動、ガリニヤで 時が過ぎた。 体調が悪化し始まり、本人もつらそう でした。
4	3月14日	福島市 旅館へ避難	体調が悪化し、知人宅へ避難所では 迷惑が掛かるとの事で、移動。同時に クリニックに入院する。
5	3月17日	福島市 旅館へ避難	3月17日クリニックに紹介 され、入院。 体調は悪化する一方でした。
6	4月7日	旅館へ避難	避難所移動につき退院し、避難所で 養生するも、体調は現状のままで、 車で移動
7	4月19日	会津 旅館へ避難	4月26日、10時21分、治療の甲斐もなく、 心臓性心不全で、肺炎との死亡、避難生活 の重労働により、著しいストレスを受け、発熱、 悪化し、結果死に至りました。震災の原動力が なければ、今も元気な方だと思います。

事情聴取先
※役場より聴き取り調
査を行う場合があります。

氏名

氏名

別紙

「44」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3. 11	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
	3. 12	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
2	3月15日	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
3	3月18日	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
4	3月28日	介護老人保健施設	老人介護施設に入所する。 環境が変わり心身ともに苦しい ストレスを感じていた。
5	5月18日	会津若松市消防隊入隊中	18日より呼吸停止、意識障害により転院 するも治療の甲斐も無く26日午後9時 28分に亡くなりました。この震災は14日 から少しも生き残るのみなと思われます。
6	5. 16	介護老人保健施設	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
7	5. 18	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
	5. 26	会津若松市消防隊入隊中	会津若松市消防隊入隊中 消防隊の救急車に乗車し、会津若松市消防隊入隊中
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		氏名	住所
		連絡先	連絡先
		連絡先	自宅・携帯

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

35 / 456

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3/11	ヘルスケア双葉	3月11日の地震よりヘルスケア双葉 に避難
2	3/12	福島高校に避難	自衛隊ヘリにて福島高校体育館 に避難。 その時 （その時、衣服に汚染あり）
3	3/18	介護老人保健施設	福島高校体育館の環境が悪い為、 介護老人保健施設に避難。熱がとれず下痢などの 症状の状況であった。
4	3/28	病院	介護老人保健施設にて 容態が急変して病院に搬送。病室にて死亡 午後11時03分死亡
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所	
		連絡先	
	氏名	住所	
		連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	又々葉病院	又々葉病院 入院中に震災
2	3月15日	会津	3月12日 避難指示があるものの 避難を希望が 確保できず。15日に避難（一時避難） 脱水倒れもあり かなり衰弱した状態、 長時間の移動も 体力をうばう。
3	6月26日	会津	度々の悪転をくり返し 5月16日からは 投薬も きかず 衰弱する一方。治療の申甲斐をなく 併発のため死す。
4			又々葉病院に入院中は 痛みの状態のため 顔色をよく過ぎていた。原宿の災害による 避難や環境の変化 長時間の移動が とらえては 体力低下等により かなり 今回の結果に至ったと思う。
5			
6			
7			
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町 [REDACTED]	3月12日の避難指示により 自家用車にて川俣町 [REDACTED] に避難。 [REDACTED]
2	3月19日	埼玉 [REDACTED]	田代の指示により バスに乗車し埼玉 [REDACTED] へ。血圧の薬、体調不良のため [REDACTED] にはいかる。
3	3月30日	福島県いわき市 [REDACTED]	[REDACTED] 血圧の薬、腕・脚の痛みのため [REDACTED] 市 [REDACTED] 病院にいく。
4	4月9日	千葉県流山市 [REDACTED]	親戚宅へ。
5	4月18日	埼玉県加須市避難所	血圧、腕・脚の痛みのため [REDACTED] 病院に受診 [REDACTED]
6	5月27日	埼玉県加須市 [REDACTED] 病院	27日、午後7時20分、虚血性心疾患のため死亡。通院中環境での避難生活により、原子的災害により、心身は著しいストレスを受け死に至った。意識は不明。今も生命を祈る。
7			

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
		[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]
	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
		[REDACTED]	連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
甲	3. 11	橋本町 []	[] 橋本の [] 病院へ搬送 施設の中で、二は、介護、小児科等の中核生活に落ちたため施設を卒業。震災（原発事故）により母親（20才当時）を介抱することができず、母と歩み寄りながら生きていくことになった。
乙1	3月12日 3月19日	[] 病院	3月12日に東京の [] 病院へ入院。 ②は他の施設等への入所が困難で、①の前施設からいかに早く退院し、自宅でのケアを受けることが必要であるとの見解を示された。（と言う。）また、余命を限られた状態で受け入れられる状態であった。（と言う。）
乙2	3月19日 4月20日	平田村の [] 病院	3月19日に東京の [] が倒壊し、④は倒壊した。④は倒壊してから約1週間ほどは、介護生活を営んでいた。（と言う。）しかし、残念ながら5月16日午前5時に倒壊した時は倒壊した様子（倒壊）があった。（言う。）倒壊時、午前5時には倒壊した時
丙			倒壊した。何日か経過後、倒壊した。倒壊した。（と言う。） 以前のより体調が悪くなった。
丁	4月20日 5月17日	[]	4月20日に小名浜の [] に搬送され、⑤は倒壊した。⑤は倒壊してから約1週間ほどは、介護生活を営んでいた。（言う。）しかし、残念ながら5月16日午前5時に倒壊した時は倒壊した様子（倒壊）があった。（言う。）倒壊時、午前5時には倒壊した時
戊			倒壊した。倒壊した。（言う。） 救急車にて⑥は倒壊した。倒壊した。（言う。） 倒壊した。倒壊した。（言う。） 倒壊した。倒壊した。（言う。）
己			このように震災（原発事故）がなければと思う。残念である。

事情聴取先
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。

氏名	[]	住所	[]
	[]	連絡先	[]
氏名	[]	住所	[]
	[]	連絡先	[]

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	救急隊より搬送	震災前は呼吸器により、呼吸器が使用できないことが多かった。
月 日	避難先		避難の状況
1	3月12日	自衛隊 病院	午後4時頃、自衛隊に避難（救急隊より搬送でバッド用ベッドの搬送があった） 午後6時頃、自衛隊ヘリコプターにより搬送 病院に搬送されたが、午後11時頃、自衛隊 病院敷地内テントに収容される。
2			（搬送の可能性があったが、自衛隊内にも 収容される） 呼吸器を装着したが、病状は急化の途 であった。
3	3月13日		午後5時頃、自衛隊の中を歩き回して、 転倒し診断書は、転倒による骨折と診断 しているが、転倒は、もう遠くない状態であっ たことは間違いないが、震災後の事故が転倒 を早めたことは間違いないと思われる。
4			
5			
6			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	②双葉町社会福祉協議会	<p>、右足股関節骨折（被災2年12月）</p> <p>（ていたが、手とひいてゆっくり歩いてトイレには行っていた。</p> <p>データーサービスには週に2日行っていました。</p>
<p>月 日</p> <p>避難先</p> <p>避難の状況</p>			
1	3月11日	双葉町社会福祉協議会	データーサービスの月ごとのまき宿泊（帰宅困難の為）
	3月12日	原町	<p>多に迎えに福祉協議会へ行くことになり道路が渋滞で時間がかかったため川俣には、その日は行かず夜間にノ泊した。</p>
2	3月13日	川俣	避難指示の川俣に着く。元気で食事、会話出来るが、いろいろと移動するので不安なところがある。
	3月19日	埼玉・アリーナ	また移動で時間がかかるので体の方がいじ配でしたが、元気で安心しました。
3	3月31日	埼玉県加須市	<p>、体育館での宿泊利便の2</p> <p>常に揺れているので大変でした。</p> <p>4月4日、インフルエンザが熱を出す。すぐに病院にいき、タミフルを飲む。</p>
4	4月17日	病院（埼玉県加須市）	<p>5月1日は熱が下がるが個室にいら、7月に体育館にひとりで。元気に食事、11日 騎西にきてデーターサービスに行く（乗ったと...）</p> <p>17日 また熱を出し肺炎で病院（加須）に入院する。息が苦しいので酸素マスクを自分ごとにしてしまう。手を縛られて（まう、食事はできるが、水にけでる。</p>
6	4月24日	病院	<p>被災2年4月24日 午前1時54分 治療の甲斐もなく肺炎のため 病床にて死亡。</p>
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

42 / 456

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉厚生病院入院中	3/5 体調崩し、双葉厚生病院入院。 入院時は気持ちが悪いと訴えていた。 杖をついて歩行していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	双葉厚生病院～双葉高校校庭 ～病院	避難指示により、3/12夕方、ヘリコプターで 病院に搬送されたとのことであるが、入院 は、3/13となっており不明な部分あり。
2	3月13日	病院	3/13、午後8時頃病室に入る。黄疸が著明であ った。双葉厚生病院にも著明な黄疸により入院 していたようで、歩行困難となっていた。
3	3月15日	〃	減圧のため、経皮経肝胆道ドレナージを施行。
4	3月16日	〃	会話問題なし。介助でベッドから起き上がり、 端座位になることができた。夕方から食事開 始。その後、食事は3月末頃まではなんとか食 べられていた。
5	3月22日	〃	介助でなんとか立ち上がる。立位保持は安定。
6	4月上旬	〃	立位にはなれるが歩行はできない。
7	4月17日	〃	食事とれず。4/18～4/20まで発熱。
8	4月上旬	〃	ときどきせん妄状態が出現してきた。
9	4月21日	〃	会話がかみあわない。食事がとれないため栄養 サポートチームが介入した。
10	4月25日	〃	記憶が曖昧になってきた。
11	5月上旬	〃	座位にはなんとかなれるが立ち上がれない。
12	5月13日	〃	全く会話にならない。
13	5月16日	〃	このころより発熱が続く。
14	5月上旬	〃	精神科受診。痴呆状態と診断された。
15	6月 1日	〃	6/1、いったん解熱するも、6/6より再度発熱。
16	6月中旬	〃	状態が日に日に悪くなってきた。
17	6月18日	〃	呼びかけに対する反応がなくなった。
18	6月23日	〃	午後3時58分、病床にて死亡。医師によると 肝門部胆管がんで、発病後約3か月の死という 診断であり、原発事故で避難し、環境、状況の 変化等により著しいストレスを受けたため死期 を早めたとのことでありました。このようなこ とがなければ、もっと長生きし、今も存命であ ったと思われる。非常に残念でなりません。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

44 / 456

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	外巻街ハルツイフ 小たば	福島県浪江町より、ハルツイフ小たばに避難
	月 日	避難先	避難の状況
1	3. 12 3. 16	南相馬市小高区 [redacted]	避難指示により、南相馬市 [redacted] に避難
2	3. 17 3. 28	郡須郷 [redacted]	郡須郷 [redacted] に避難
3	3. 29 4. 18	浪江町親戚宅	浪江町の親戚宅に避難 ・普段と変わらない生活・食事も普通 ・波が来るといふように感じた。
4	4. 19 4. 30	茨城県鉾田郡阿見町	茨城県鉾田郡阿見町のイートに移る。 ・普段と変わらない生活・食事も普通 ・毎日散歩をいれた。 5/24 40℃の高熱のため [redacted] 病院受診
5	7. 1	[redacted] 病院	2/2. 検査の結果、肺がんと診断される。 余命が1年と宣告。病院では、災害による 避難生活によるストレスが、がんの病状を 悪化させた要因との説明あり。
6	7. 11		午前9時41分、治療の甲斐なく肺がん 死。避難生活により、心身ともに著しい ストレスが病状を悪化。震災がなければ 今も生存していたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

「55」②

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町ヘルステー	津波発生により 3月11日双葉町ヘルステーへ避難
2	3月12日 3月16日	南相馬小高区 [redacted]	避難指示により 3月12日～3月16日まで [redacted] 宅に避難 [redacted]
3	3月17日 3月28日	邦須塩原 [redacted]	3月17日～3月28日まで 邦須塩原 [redacted]
4	3月29日 6月18日	横浜 [redacted] に移る	3月29日～6月18日まで 横浜
5	6月18日	茨城県柏市にうつる	茨城県柏市柏区新見町にうつる
6	6月23日 6月24日	6月23日～24日 熱中症 6月24日 [redacted] 病院 に行き	約 40℃の熱がでたため [redacted] [redacted] 病院受診
	7月1日	[redacted] 病院	[redacted] 病院に入院
7	7月1日 7月11日	[redacted] 病院に入院	7月1日9時21分 治療の甲斐も 病状にて死す。避難生活及Cの原動力 [redacted] 心臓に著しいダメージを受け 病状が悪化。震災が原因で [redacted]

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住所	[redacted]
		[redacted]	連絡先	[redacted]
	氏名	[redacted]	住所	[redacted]
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 生年月日	[REDACTED]	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について			
1	3月11日	福岡県双葉郡双葉町 [REDACTED] [REDACTED]	老すいのため、殆んど、腰にきりり 状態。介護を要しました。 （さびしい）		
[REDACTED]					
	月 日	避難先	避難の状況		
1	4月12日	福岡県 [REDACTED]	避難指示により、福岡 [REDACTED] 避難		
2	3月10日	[REDACTED]	介護老人保健施設 [REDACTED] [REDACTED] 情報提供をいただいた。		
3	3月17日	福岡市 [REDACTED] [REDACTED]	3/11日～同じ状態です [REDACTED] 施設体育館へ迎えにきて 入所させる。（避難先決定）		
4			全介助の状態です。歩行困難。 食事は援助を要す。股関節状態 急激な体調の変化はなかった。除々に 悪化していった。		
5	4月1日	[REDACTED] 介護老人保健施設	急性脚麻痺を併発し、午後1時30分、病状 が急変し、通気器を装着した。通気器を装着して 災害により心身ともに苦しい状況で、介護施設に 入所することになった。今も介護が必要だと思われ		
6					
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	[REDACTED]	住 所	[REDACTED]
			[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]
		氏名	[REDACTED]	住 所	[REDACTED]
			[REDACTED]	連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	痴呆症であったが、会話は出来ていた。時間はかかったが、手を借りての食事、排泄、散歩等を過ごしていた。
既 病 歴			
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月13日	不明	不明
2	3月14日 ～6月17日	郡山市 病院	自衛隊ヘリコプターで 病院に搬
3	6月17日 ～6月20日	郡山市 病院	病院より転院。 午前9時58分、呼吸停止により病床にて死亡。震災に加え、原発事故での過酷な避難生活により、心身ともにストレスを感じることがなければもっと長生きしたと思います。天命を全うした時は、自宅の床で永眠を希望していた母の気持ちを思うと、不満でならない。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	自宅にて待機	
	3月12日		午前9時頃、[redacted]、スクーター型の自動車に4人乗車し帰宅した。郡路では受け入れられず、帰郷にて車中泊。同一姿勢でいた。
2	3月13日		娘が新潟市にいたため、49号線と新潟へ向け移動中。本人と申請者である祖父は、顔色が悪かった。車中、エロビに寄ったが食料がなく新潟まで食わずで餓死した。新潟市湖内町の[redacted]駐車場にて2泊目の車中泊となった。
3	3月14日	新潟市	お昼過ぎに新潟に到着して世話になることになりました。
	3月15日	新潟市	祖父は心臓も悪く血圧も高くストレスも多かったと思います。
4	3月16日	新潟市	心臓の薬はいつも持ち歩いてました。 別紙診断書のとおり
5	7月30日	猪苗代 [redacted]	[redacted] 猪苗代にせいの夫が両親を連れてきたが、食事も満足できなかった。以後死亡まで [redacted] 猪苗代に滞在していた。
6	8月8日	猪苗代 [redacted]	前日まで猪苗代町内の病院にて受診してました。
7	8月9日	猪苗代 [redacted]	午前2時頃客体が悪変し、急救車にて30〜40分かけ [redacted] 病院に到着した頃には心肺停止状態であった。 急救車が来るまで心臓マッサージはしたが蘇生できず、検死となった。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住所	[redacted]
		[redacted]	連絡先	[redacted]
	氏名	[redacted]	住所	[redacted]
		[redacted]	連絡先	[redacted]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」入所中	ねたきり状態、意思疎通なし。 歩行困難（全介助状態） 食事は経管による栄養摂取。
月 日	避難先		避難の状況
3月12日			避難指示により、自衛隊トラックで体育館避難。毛布1枚程度の状態で体育館フロアーに寝かされていた。が心配されて県に相談。県医師会から県老人保健施設協会に連絡が入り、市内の老人保健施設で受入をするよう指示あり。
3月19日	老健施設		老人保健施設入所。入所前から脳梗塞後遺症のため四肢麻痺があり、上下肢とも拘縮著明で寝たきりの状態、発語もなし。通常の食事はとれず、経鼻経管栄養。合併症として慢性心不全、慢性気管支炎あり。
5月13日	病院		午前1時30分ごろ呼吸困難、顔面蒼白、発汗著明となり緊急入院。体温37度台酸素飽和度80%台と著しい低下を認め、酸素吸入を施行。また、アシドーシス・脱水補正のため点滴。レントゲン写真・胸部CT上右肺炎と胸水貯留があり、抗生物質投与とともに痰の咯出を助けるために定時の吸入と吸引も行う。
5月20日	"		中心静脈栄養による管理。胸部CT上、右気胸と肺炎の悪化が見られた。
5月23日	"		血圧の低下がみられ、急性循環不全として、ブレードとドブレックス（昇圧剤）の投与と呼吸心拍監視を開始。この後、なかなか血圧が安定せず、昇圧剤を離脱できたのは7/7。肺炎のほうもなかなか治療に反応せず、難治の状態となる。
7月21日	"		左顔面から頸部の腫脹と発赤があり、CTにて左耳下腺炎と診断し、抗生物質投与と局所の冷却で治療を行う。
8月 2日	"		吐血があり、上部消化管出血の疑い。
8月 4日	"		胃カメラを施行したが、出血源の確認できず。
8月27日	"		午前9時15分、治療の甲斐なく病床にて死亡。寝たきりの高齢者であることから、肺炎などで死亡するリスクは常にあったと思われるが長距離の移動や環境の変化といった避難に伴うストレスが肺炎発症のリスクを高めたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉厚生病院	自宅療養中であつたが、地震により具合が悪くなり、双葉厚生病院避難。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	駐屯地 (仙台市)	自衛隊ヘリコプターで、駐屯地に搬送される。
2	3月13日	二本松市	自衛隊ヘリコプターで、駐屯地から、二本松市体育館に搬送される。
3	3月14日	病院入院	胸部苦痛を訴え、病院循環器科に入院（詳細は不明）。状況改善し、安定したためリハビリに入所。
4	4月14日 ～9月26日	リハビリ	入所中の経過については、別紙参照。
5	9月26日	病院	胸部苦痛を訴え、心臓血管外科受診。Sat 87-89%。胸部Xp、CTにて両側胸水貯留を認め、加療目的に入院。補液、利尿剤、昇圧剤酸素投与を行い全身管理。
6	9月27日	#	夕方より呼吸状態悪化したため、気管内挿管を行い、人工呼吸器管理を開始。
7	10月1日	#	血圧低下、尿量低下、酸素飽和度低下を認め、薬剤の増量、追加を行うも、状態改善得られず。
8	10月3日	#	午後6時9分、治療の甲斐なく病床にて死亡。慢性心不全の急性増悪が原因で、避難や居住環境の変化が状態悪化の一因となったことは否定できない。このようなことがなければ、今も存命であつたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

	状態（体調、食事、精神面など）	支援内容、特記事項等
H23.4/6		相談員より施設入所相談あり。避難所を転々としていた中で体調をくずし緊急入院となったケースとのこと。書面にて情報収集し、同じく避難されている長女さんと電話やりとりのもと、4/14の入所決定する。
4/14（木）～	<p>入所時血圧 98/72、脈 121、体温 35.5℃</p> <p>慢性関節リウマチによる全身関節痛や動悸の訴えがある。両足背に浮腫あり。</p> <p>入所後は、職員や他利用者と交流をとられ、しきりに入所できたことに感謝されると共に、震災当時を思い出し涙を流され不安になられていた。</p> <p>服薬は朝・夕にて 3 種服用、膝や肩関節痛に対し軟膏塗布する。</p> <p>食事は全量摂取されていた。（主食全粥・副食常食、塩分 6g 制限、糖尿 1200kcal 食を提供）</p> <p>リハビリ開始となり、歩行練習も行う。</p> <p>立位の安定や失禁がないことで、4/20 よりリハビリパンツから布パンツへアップする。</p>	<p>にて入所となる。</p> <p>同行される。入所手続きをとり、避難所へ戻られる。</p> <p>4/20 サービス担当者会議開催（※資料添付）</p>
5 月	<p>5/4～腹痛の訴えあり様子観察するが、食事は全量摂取できている。下痢便あり、5/7 副食軟食へ変更となる。</p> <p>5/9～腹痛消失</p> <p>ポータブルトイレでの排泄自立される。</p> <p>施設活動にも積極的に参加される。</p> <p>しかし、暗くなると震災を思い出され、家族がバラバラになってしまったと寂しがる。不安になると動悸がしたり、呼吸が荒くなっていた。職員は常にお話を傾聴するよう心掛けて対応していた。</p>	
6 月	<p>6/21 目の不調訴えあり、眼科を受診し、老人性白内障との診断にて、カリユ二点眼指示あり。</p> <p>6/23 左肩から胸にかけ痛みを訴えられたり、脈が早いこと気にされる。</p> <p>施設生活は楽しく送られているが、震災のことは忘れられないと、自宅のこと、避難先転々としたこと、家族のこと、泣き泣き話されていた。</p>	
7 月	<p>依然時々帰宅願望きかれる。</p> <p>車椅子等移乗動作が一部介助から見守りへアップとなる。</p> <p>関節痛は入所時より継続しているが、自製内にて軟膏塗布やリハビリでの物理療法を実施。</p>	

8 月	<p>夫といっしょに暮らすことが具体的にになると、うれしい気持ちと夫に迷惑をかけてしまうという気持ちとで精神的に落ち着かなくなり、話しを傾聴する機会が増える。また、夫の携帯に電話をかけて話しをしたいという希望も以前より増え、施設から夫へ電話を入れ話しをする機会を設ける。</p>	<p>60-3」 猪苗代の避難所に移られていた 達が郡山に8月末に移ることになる。それに伴い、夫よりいっしょに暮らすことを考えていきたいと話をしていただく。 状態が安定しており、ご本人の精神面を考えると、家族が自由に行き来できる郡山を拠点に支援していこうということになり、双葉町確認のもと、郡山の居宅介護支援事業所と連携をはかっていくことになる。 8/8 居宅介護支援事業所 さん施設来所され、状態報告や本人と面談される。今後について検討を行う。 8/15 サービス担当者会議開催 (※資料添付) 8/18 夫郡山に越してきたが、体調くずしフォーレ挿入したと話しがある。 8/27 夫も通院中で、入院することになるかもしれないということで、避難された自宅に戻る予定をしばらく延期することになる。</p>
9 月	<p>9/26 頭痛、のどの痛み訴えられる。体温 35.9℃、風邪薬(PL 顆粒)が処方される。 20:00 血圧 152/74、体温 36.6℃、脈 124、血中酸素飽和濃度 94%、頻脈、過呼吸あり。 21:00 血中酸素飽和濃度 88~91%、脈 138、咽頭痛、息苦しいとの訴えあり吸入を行う。 9/27 1:00 体温 38.4℃、脈 137、血圧 130/80、血中酸素飽和濃度 87~90% 1:30 カロナール内服 3:30 体温 36.0℃、脈 137、血圧 116/70、血中酸素飽和濃度 95% 病院受診し、胸水あるとのことで入院となる。</p>	
10 月		<p>10/6 相談員より死亡の連絡入る。 10/7 ご家族施設へ来所される。</p>

サードヘルプ担当者会議の要点

開催日 23年 4月 20日 開催場所 医師室 開催時間 13 : 40 ~ 14 : 00 開催回数 1回

会議出席者		所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名
検討した項目	1. 現状確認 2. ケアプラン作成						
検討内容	<p>1. 相談 : 地震、津波、原発での避難からの入所となる。家族も避難しており、今は会津にいたるが7月には仮設住宅へ移るようになると思われる。家族としては、安全でできる場の提供を希望されている。</p> <p>看護 : 血圧100~120/70~80、体温も問題ない。食事も良好。血糖値測定したが104と問題なかった。内出血しやすく注意して皮膚状態をみていきたい。リウマチのためフレッドニソ服用している。体の痛みは自前内である。</p> <p>栄養 : 身長153cm、体重56.4kg、BMI20と標準範囲で低リスクとなる。食事は、全粥・常食、塩分6g制限、DM1200kcalで提供している。摂取は全量と良好。良足背に浮腫があり、今後も確認していきたい。また、体重と摂取量のモニタリングも行っていきたい。</p> <p>リハ : 平行棒や歩行器での歩行練習を行っている。両肩、手指、腰に痛みがある。痛みは左右差はないが、右の方が変形は強い。今後も、痛みに注意しながら維持できるよう歩行練習を中心に行っていきたい。入所時スリッパだったので、リハにて靴を貸し出している。指示理解良好である。排泄動作では、スポンジの上げ下げ、特に上げることが難しい。</p> <p>介護 : 入所後今日初めて家族面会に来た。時々地震のことを思い出し、感情失禁みられる。その都度声かけしている。現在入浴は特浴で対応しているがアツプできそう。排泄も日中は失禁もなく、布パズでもいけそうである。</p> <p>2. 震災の不安から心穏やかに過ごしていただけたらいい。コミュニケーションをはかり精神的支援に努めていく。</p> <p>また、心身安定した状態で過ごせるよう、健康管理や栄養管理のもと安定した排泄動作ができるよう移動動作向上に努めていく。</p>						
結論	<p>不安になることなく過ごしていただけたらいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄り添ってゆくりと話をしたりと精神的サポートに努める。 ・お仲間と交流できるよう、集団活動やレクリエーション活動等の提供を行っていく。 ・健康管理のもと不安なく過ごしていただけたらいい。 ・痛みの把握をはじめ、本人に体調確認しながら、適切な対応をとおして健康管理を行っていく。 ・浮腫の状態、体重や食事摂取量の把握を通して、栄養状態の管理を行う。 ・安定した移動動作ができるよう、 ・移動ケアプログラムとして、平行棒内歩行を痛みにながら1~2往復介助にて歩く機会をつくる。 ・リハにて、痛みに注意しながら、平行棒や歩行器での歩行練習を行っていく。 <p>医師より...慢性関節リウマチがあるので痛みのコントロールを行っていく。また、高血圧症、痛風、不整脈など疾患があるので、一度検査してみたい。</p>						
残された課題 (次の開催時期)	※ 次回は3か月後を予定する。ただし、必要に応じ随時開催する。						

所屬(職種)	氏 名	所屬(職種)	氏 名	所屬(職種)	氏 名
1. 現状確認 2. ケアプラン作成					
<p>1. 相談 : 地震、津波、原発での避難からの入所となる。家族も避難しており、今は会津にいますが7月には仮設住宅へ移るようになると思われる。家族としては、安全で安心できる場の提供を希望されている。</p> <p>看護 : 血圧100～120/70～80、体温も問題ない。食事も良好。血糖値測定したが104と問題なかった。内出血しやすく注意して皮膚状態をみていきたい。リウマチのためゾレドニン服用している。体の痛みは自前内である。</p> <p>栄養 : 身長153cm、体重56.4kg、BMI20と標準範囲で低リスクとなる。食事は、全粥・常食、塩分6g制限、DM1200kcalで提供している。摂取は全量と良好。良足背に浮腫があり、今後確認していきたい。また、体重と摂取量のモニタリングも行っていきたい。</p> <p>リハ : 平行棒や歩行器での歩行練習を行っている。両肩、手指、腰に痛みがある。痛みは左右差はないが、右の方が変形は強い。今後も、痛みに注意しながら維持できるよう歩行練習を中心に行っていきたい。入所時スリッパだったので、リハビリで靴を貸し出している。指示理解良好である。排泄動作では、スポンジの上げ下げ、特に上げることが難しい。</p> <p>介護 : 入所後今日初めて家族面会に来た。時々地震のことを思い出し、感情失禁みられる。その都度声かけしている。現在入浴は特浴で対応しているがアツプできそう。排泄も日中は失禁もなく、布パットでもいけそうである。</p> <p>2. 震災の不安から心穏やかに過ごしていけるようコミュニケーションをはかり精神的支援に努めていく。</p> <p>また、心身安定した状態で過ごせるよう、健康管理や栄養管理のもと安定した排泄動作ができるよう移動動作向上に努めていく。</p> <p>不安になることなく過ごしていけるよう、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄り添ってゆっくりと話しをしたりと精神的サポートに努める。 ・お仲間と交流できるよう、集団活動やレクリエーション活動等の提供を行っていく。 <p>健康管理のもと不安なく過ごしていけるよう、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みの把握をはじめ、本人に体調確認しながら、適切な対応をとおして健康管理を行っていく。 ・浮腫の状態、体重や食事摂取量の把握を通して、栄養状態の管理を行う。 <p>安定した移動動作ができるよう、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動ケアプログラムとして、平行棒内歩行を痛みにながら1～2往復介助にて歩く機会をつくる。 ・リハビリにて、痛みにながら、平行棒や歩行器での歩行練習を行っていく。 <p>医師より…慢性関節リウマチがあるので痛みのコントロールを行っていく。また、高血圧症、痛風、不整脈など疾患があるようなので、一度検査してみたい。</p>					
※ 次回は3か月後を予定する。ただし、必要に応じ随時開催する。					

作成日 平成23年08月15日		目標(長期) 安心して在宅復帰ができる。		短期集中リハ: 無 認知症短期集中リハ: 無		経口移行: 無 経口維持 I・II: 無	
課題/ニーズ	目標(短期3か月)	ケア項目	ケア内容	担当	評価(月付)		
01. 震災の記憶から開放されて落ち着いて過ごしたい。	不安になることなく過ごすことができる。	精神ケア	①. 震災のことを思い出し不安になる時は、思い切って話しをする。また、こまめに声かけを行い、精神的支拂に努める。	介護士			
02. 気楽に過ごしたい。	苦痛なく気楽に過ごせる。	身体ケア	②. お仲間と交流できるよう、集団体操やレクリエーション活動等の参加促しを行う。また、行事等では挨拶など役割を依頼する。	介護士			
03. できることを増やし、失と一様に思われない。	移動動作が安定する。	生活ケア	③. 関節の痛みや拘縮などのケアを随時しながら、歩行の観察や適切な対応を通して歩行能力に努める。	医師 看護師			
		栄養ケア	④. 施設食の提供のもと、栄養増加に注意しながら、食事摂取量や体重の把握を通して栄養管理を行う。	栄養士			
		認知リハビリ	⑤. 病みに注意しながらコミュニケーションをとりながら、物忘れ、マシントレーニング、歩行練習を行う。	理学療法士 作業療法士			
		移動ケアプログラム	⑥. 歩行の練習のもと、ご本人の意向確認しながら、1日1〜2回、居室のトイレをキャスター付四脚歩行器にて一部介助にて歩行を行う。	介護士			
		生活リハビリ	⑦. 食事後にホールから居室に戻る時は、車椅子自動の扱いを行う。	介護士			
週間サービス計画書							一日を通して特別必要な対応及び注意点
	月	火	水	木	金	土	日
朝	訓練室での 集団体操	集団体操	入浴 無団体操	訓練室での リハビリ 無団体操	無団体操	入浴 無団体操	集団体操
昼	レクリエーション	レクリエーション	レクリエーション	レクリエーション	レクリエーション	レクリエーション	
夜							
・毎日朝・夕で看護士にて点検を行う。 ・痛みの訴え時にインドノール塗布する。 ・キャスター付四脚歩行器での歩行は、無理には促さず、ご本人が歩行する気持ちになった時実施する。声かけは負担にならない範囲で行っていく。 ・エプロンたたみやおしぼりたたみ等の家事的な作業もお願いして行っていただき、感謝を伝えていく。							

本ケアプランについてその内容の説明を受け、同意し交付を受けました。

同意日:

利用者氏名:

ご家族氏名:

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

57 / 456

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

58 / 456

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

• 15 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好
23 肺の好

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」 [redacted]	[redacted] 特に変わったところもなく、日常生活を送っていた。
[redacted]			
	月 日	避難元	避難の状況
1	3月12日	福島 [redacted]	3月11日の地震・原発事故により福島 [redacted] へ避難。
2	3月18日	福島市 介護老人保健施設 [redacted]	3月18日、福島 [redacted] より、介護老人保健施設 [redacted] 入所。
3	4 月	〃	日常生活動作は全介助。移動は全介助にて車椅子を使用。食事はペースト食、水分はゆるめのトロミをつけて提供しても摂取量は少ない。臥床傾向あり、離床時に両下肢チアノーゼみられる。白内障あり見えにくい。聴覚あり大きな声で伝わる。
4	5 月	〃	徐々に離床時間を長くし、2時間位は可能となる。下肢のチアノーゼ出現しなくなる。主食は半分摂取可能。水分はゼリーにて提供。日常生活動作は、一部介助に改善あり。他の利用者や職員と話す様子あり。
5	6 月	〃	離床の回数が増えている。立ち上り、軽介助で可能。ゼリーは全量摂取。仙骨部の発赤ないが圧痛あり。自発的にベッド上で身体を動かしている。ベッド周囲の歩行可能。レクリエーションに参加している。表情に明るさみられる。
6	6月27日	郡山市 「特別養護老人ホーム」 [redacted]	6月27日、特別養護老人ホーム [redacted] 入所。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	
		連絡先	自宅・携帯
		住所	
		連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
7	7 月	郡山市 「特別養護老人ホーム」	経口摂取可能（自分で食事摂取可能） コミュニケーション可能。 下肢末梢循環不全軽度あり。 入浴、排泄全介助対応。
8	8 月	〃	水分、食事摂取拒否あり。 全介助対応とする。 下肢循環不全軽度あり。 腹痛や下肢痛あり。ベッド上で下肢常時挙上対応とする。
9	9 月	〃	全身に浮腫軽度あり。 足先の循環不全あり。 下肢足先の切断も含め入院予定となる。 食事摂取困難で点滴対応となる。
10	10月6日	郡山市 病院	10月6日、閉塞性動脈硬化症のため入院。
11	11月11日	〃	11月11日、午前1時00分に病状が急変し 病床にて死亡。厳しい環境での度々の移動、過 酷な避難生活で気力、体力が衰退し、病状の悪 化とともに死に至った。この度の震災がなけれ ば、現在も施設での生活を送っていたと思われ る。
6			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム せんたん	健康状態は良好
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島市	自衛隊のトラックにより、せんたん職通と福島に移動。
2	3月18日	福島市介護老人保健施設	では介護が来ないため老人保健施設へ移動。
3	3月31日	福島市病院	避難したとちに肺炎に罹り入院。
4	4月	〃	寝たきりになり点滴だけの生活に落ちた。
	5月	〃	〃
5	6月	〃	〃
	7月	〃	〃
6	8月15日	〃	15日午前11時35分、治療の甲斐なく肺炎のため病床にて死去。 原因为災害がなければ避難することなく肺炎ともならずと長生きした。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		連絡先	
		氏名	住所
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について
 災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく
 記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町 双葉厚生病院	3月11日の地震時、住居より避難する際、家屋の壁が崩れ足をはさまれた。隣の住人に助けられ、双葉厚生病院に搬送。病院では、震災間近でほとんど治療ができないまま、廊下にひかれたベッドで一晩を過ごした。
2	3月12日	南会津町 病院	3月12日の避難指示により、集団での避難を待っていたが、本人の体調がよくないため、自家用車にて病院へ搬送。夕方到着後治療を受け、両足の骨折が判明、病院へ入院。
3	3月13日 ～ 3月31日	南会津町 病院	持病である心臓疾患(大動脈瘤)と震災による精神的な不安を考慮し、手術は行わず、固定し回復を待つことになった。点滴と輸血を中心とした治療が続いた。
4	4月1日 ～ 4月30日	南会津町 病院	骨折の治療とともに、心臓疾患が悪化や原発事故の不安などを訴えることはあったが、食事制限を受けながらも、体力の回復を待った。
5	5月1日 ～ 5月31日	南会津町 病院	骨折した足のリハビリを開始し、回復は見られたが、精神的な不安があり、下血を確認。胃腸の検査を行うが、体力を考慮しカメラなどの検査ができないまま、治療を継続した。
6	6月1日 ～ 6月30日	南会津町 病院	骨折した足の回復によりリハビリを再開し、杖をついての自力歩行ができるまで回復した。回復状況により通院による治療が可能までになった。しかし、精神的な不安やストレスなどにより再度下血。ナースセンターそばの治療室にて酸素や治療器を付けた治療が続いた。
7	7月1日 ～ 7月19日	南会津町 病院	7月19日、体力が回復し、足の治療もすんだことから退院。避難した借り上げ住宅にて療養。デイサービス(週1回)をうけるなど体力の回復を待った。
8	7月19日 ～ 8月5日	借り上げ住宅	8月5日、6時起床、ベッドにて着替えをしている最中に吐血。救急車にて病院へ搬送。7時41分治療の甲斐もなく虚しくも上部消化管出血による窒息心肺停止のため、病院にて死亡。環境変化での避難生活や原子力災害により心身ともに著しいストレスを受け病状が悪化、結果死に至った。災害がなければ今も存命であったと思われる。
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所
			連絡先
	氏名		住所
			連絡先
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		運2回、ロサービスにお世話になり、家での生活は、下半身は不自由でしたが、食事は、毎日3食、自分でとり、特に、夕食時には、日曜日を、楽しみにしており、私と妻とで介護を、しておりました。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町立双葉北小学校	3月11日の地震により、双葉町立双葉小学校に避難。
2	3月12日	福島県南相馬市鹿島区	避難指示により、自家用車で、南相馬市鹿島区に避難。
3	3月15日	福島県河沼郡会津坂下町	での介護生活が容易ではなくなり、に4時頃かけて、避難のため、移動しました。毎日食事、3食とり、夕食時には、少量の、晩飯も、していました。会津市で暮らすと、花火に生活していた。
4	4月3日	福島県会津若松市	は自宅と違い、部屋が狭く、一室に、介護生活をするのが、困難となり、会津若松市の、に入居。
5	9月21日	福島県河沼郡会津坂下町	より、夕方に発熱があり、翌朝、朝には、解熱されるので、病院にて受診して下さい、との、連絡があり、診察の結果、両側性肺炎、胸膜炎と、診断され入院。
6	10月20日	福島県河沼郡会津坂下町	1ヶ月間入院、治療の結果、病状も良くなり、医師の退院許可が、与えられたので、10月20日に退院。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
17	10月21日	福島県河沼郡会津坂下町	10月20日入院した。その後、午後11時50分頃、から、容態が悪化したとの連絡があり、救急車で病院に搬送される。21日午前1時10分、治療の甲斐も乏しく、うっ血性心不全のため、救急室にて死亡。過酷な環境での
2			避難生活及び家族死により、心身ともに、著しいストレスを受けたため、衰弱し、死に至った。震災がなければ、もっと長生きし、今日、存命であったと、思われる。
3			
4			
5			
6			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	下総町野上	車いすの生活でいたが、ほとんど人の手を貸いず生活できていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日		
2		経路はほとんど分らな	2～3ヶ所移動したらしい
3	3月20日	会津若松市 老人保健施設	震災後、必死に避難したのかと 思っていたので、自分で調べたところ で、施設が見つかり、その日移した。 両腕にリフトで移動し、ショックをきけ、興奮 （？）の様子だった。
4	3月24	会津若松市 病院	下血がみられ検査に入院。 その後、経過して入院となった。 入院後は、ほとんど意識がなく、意識のり状態 と過呼吸を繰り返した。
5	6月9日	病院	6月9日 午後9:30分、意識が回復して 5月10日の入院生活で一日をけつ方に 向いているようだったが、意識が回復したから 心臓病に罹り、ストレスがたまり、思われる 高齢ではあるが、内臓が丈夫で 100歳までは生きられる 様子だった。
6			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉町大字長島 特別養護老人ホーム「ゼンデン」	特別養護老人ホーム「ゼンデン」に入所していた。会話がきちんとできていました。11日のうち夜間は1時間だけ寝たと思っております。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島市	3月12日の原3号発電所事故により避難。11日混乱により途中の経路が確認出来ず、大落りしたようです。
2	3月17日	福島市伏拝 社会福祉法人	での生活は容易ではないうで、福祉施設に入所。この時点で本人に会っていないため健康状態は確認出来ませんでした。入所中は言葉が少し減り、少し頭が混乱している様子。
3	6月11日	東白川郡矢祭町	ショートステイの施設に入所。長期入所可能な施設に移転。鼻にチューブを入れて栄養をとっていたので、話しがわかるほどの痛みは断える事がありました。
4	6月22日	茨城県常陸大田町	入所条件として、栄養を直接胃にチューブを入れて摂取する事だったので、手術の為に入院。お見舞いに行った時は少し衰弱しているように見えました。
5	7月14日	東白川郡矢祭町 特別養護老人ホーム	手術後の経過も良かったので施設に戻りました。のどのチューブがなくなったので少しだけ話しやすくなったようです。
6	9月4日	茨城県常陸大田町	肺炎のため開病院に入院。9月26日午前1時治療中、呼吸もなく病床上で死亡。原3号発電所による避難生活や長距離の移動によって、心身ともに強いストレスを受け、体力が衰えて死に至ったと思っております。喪失感などはまだ強く、今も涙が止まらないうえです。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		慢性腎不全を患っていたが、腹膜透析（自宅にて夜間就寝中）により支障なく、透析等、又ボランティア活動も元気にすごしていた。震災直後、わが家をはじめ周囲の近所の見まわしをしていました。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町役場	大津波とのこと、高台の役場に避難。夜間は電気が通っていた近所の会社の休館所で避難（停電のため腹膜透析が出来なかった）
2	3月12日	南相馬市内	避難指示により、車（乗客）の送迎する車に同乗し、途中で津波の被害に遭い、迂回をくり返し、ようやく目的地に着く。即、入院となったが、病院の状況、津波被害や原発災害避難のため、
3	3月15日		スタッフも少なくなり、又、業務も中断。入ったことなく、一日二日の状態。ようやく本との連絡がとれて、屋内避難中の南相馬市から深夜千葉市へ向けて移動開始。
4	3月16日	千葉市	早期、千葉市内に到着。腹膜透析の薬材、材料到着。腹膜透析開始。 病院からのリストより、千葉市内に病院を確保（）
5	(3月19日)		3/19 千葉の病院へからの就労で治療を継続するとのこと。環境の変化、スタッフとの信頼関係への不安等、精神状態不安定、不眠が続いた。
6	4月 5 8日	5月中旬、病院の近くに家を借り移動	通院（検査） 自宅での腹膜透析。新しい病院に慣れていくが、精神状態不安定、不眠が続き、 ※9月～死亡までは別紙）
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

入院から死亡まで

月日	入院先	身体状況	食事面	精神状況等
9月16日 9月末頃		早朝から腹痛を訴える。腹膜にパイプが入っている状態に。思いこみで入院。即刻入院。検査。腹膜炎と診断。治療開始。	食事もすすまなかつた。胃腸に関係ない。受け付けない。	腹膜炎患者にとつての。おれのが腹膜炎。その。発症には特に。治療をして。いたが。本人にとつても。たいへん。シロツク。だった。様子であった。
10月		症状の回復が。すすまな。パイプの入っている。腹膜炎を。なおすために。血液透析に。きりかえた。心臓に。負担がかかる。ために。最悪の状態。	食事もすすまな。すすまな。い。ゼリー。状のもの。を。吐いた。ため。経腸栄養剤。を取り入れる。ようになった。	腹膜炎の治療のために。血液透析になった。心臓に。負担。がかかる。以上。にかかると。本人。自身。心配。した。こと。で。あり。その。ために。腹膜炎。透析。を選んだ。という。経緯。があり。本人。にとつて。相。あ。な。ス。ト。レ。ス。と。な。つ。た。食。事。に。と。つ。て。も。栄養。神。経。の。ゼリー。も。吐。いた。こと。か。も。と。な。り。受け。付け。づ。く。な。り。経。腸。栄養。剤。に。変。わ。つ。た。こと。も。数。力。の。減。退。に。つ。な。か。つ。た。
11月		痛みもとれ。きた。状態。長期。に。な。つ。て。予。定。より。も。退。院。が。の。び。単。独。の。移動。の。ため。足。が。も。ろ。く。な。つ。た。	あい。か。わ。ら。ず。公。公。ら。れ。ない。状態。が。い。づ。れ。に。い。る。	予定。より。も。後。い。入院。に。不安。が。増。加。し。て。い。る。『。帰。り。たい。』。を。通。告。その。帰。り。たい。が。退。院。難。先。人。か。ら。双。葉。町。人。と。何。け。ら。れ。は。し。め。た。友人。に。電話。を。かけ。話。け。た。の。の。頃。
11月14日 11月15日		予。定。中。透。析。を。終。了。食。後。急。変。予。定。11月27日。死亡。		家族。に。は。よ。う。な。も。言。え。ない。まま。平成。23年。11月。15日。双。葉。人。の。帰。還。も。叶。わ。ず。友人。知。人。と。の。再。会。も。叶。わ。ず。死。亡。し。ま。し。た。南。相。馬。市。か。ら。千。葉。人。の。長。距離。の。移動。を。は。し。め。心。身。と。も。に。過。酷。な。状。況。が。死。期。を。早。め。た。もの。と。し。か。言。い。や。う。か。あり。ま。せ。ん。『。腹。膜。透。析。』。に。よ。つ。て。も。と。長。生。き。出。来。た。は。ず。腹。炎。さ。ま。な。か。つ。た。ら。し。も。と。生。き。ら。れ。た。は。ず。と。悔。ん。だ。お。り。す。

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		お薬は飲んでおりまして、日常生活にはなんの困りもなく元気に生活しておりました。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ふたばヘルステア	3月11日の地震によりヘルステアに避難
2	3月12日	川俣	避難指示により乗用車で川俣に避難
3	3月16日	千葉県我孫子市	避難所での生活は不安なので、この頃には、今までの様に知り合いもくすねに6時間かけて移動
4	4月24日	福島市	この頃には、今までの様に知り合いもくすねに6時間かけて移動
5	10月30日	福島市	今までの生活とは違い、火も庭もなく散歩に出てもさびしい思いで帰ってくる。表の中にはいても小さな部屋で何をすることも出来ず、家の事ばかりを思っていました。
6	11月2日	福島市	夕方急に意識がなくなり救急車で福島市病院に搬送され検査の結果脳梗塞により入院。
		福島市	11月2日治療の甲斐もなく脳梗塞のため病床上で死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により80歳の年々11月には特に心身ともに著しいストレスを受けたためと、思っております。震災がなければもう少し長生き出来たと残念に思います。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		氏名	住 所
		氏名	連絡先
			自宅・携帯

3月16日 ~ 追加 .

毎日何をする事もなくソファーに一日座ったままで
足がむくみ微熱も出はじめ 診察してもらっても
はっきりした事が分からず精神的にも参って
ストレスの影響も大ではないかと思っています。

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「70」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム 「せんだん」	特別養護老人ホーム「せんだん」 にショートステイで入所していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	特別養護老人ホーム 「せんだん」	家族も自宅から避難している。本人 は寝たきりだったため、そのまません だんにとどまる。
2	3月12日	南相馬市 特別養護老人ホーム	せんだんの職員とともに 避難指示により、南相馬市の に避難。
3	3月17日	郡山	にも長くはいられなか たため、郡山市 へ避難。
4	3月19日	千葉県松戸市	孫が郡山へ迎えに行き、 そのまま乗用車で千葉県松戸市の 老人ホームに入所。
5	3月28日	千葉県松戸市 病院	脱水症状で松戸市の 病院に搬送され、入院。 入院中、食欲もなく、どんどん飲みこめ なくなる。
6	5月11日	千葉県松戸市	5月11日11時24分、治療の甲斐も 虚しく老衰のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害 により心身ともに著しいストレスを受けたため 衰弱し死に至った。震災がなければもと長生きに 思われる
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム せんたん	せんたんの日常生活は自力歩行、トイレ、 食事等は自分の力でやる事が出来ていた。 会話も皆と仲良く話す事ができる
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 3時頃	せんたんより双葉高校へ を経由し 南相馬市へ到着	バスに23時頃乗車 23:00 泊
2	3月13日	午前10時頃 南相馬市にある特別養護老人ホームへ移動	
3	3月16日	郡山へ（滞在約3時間） （詳細は混乱のため不明）	
4	3月17日 深夜	せんたんより 東京練馬のへ	母と避難先がやっと判明（たまたま 幸にて迎えに約8時向位かかり東京へ 混雑のため少し精神が錯乱している様で 言動がおかしい状態でした。不安定な様子
5	3月18日 早朝	東京練馬へ	少し落ち着いてきたが言動が正常には戻 らず（自分の葬式をした等とおかしな事を言う） 食事は、あまり食べなかった様子で、白い 御飯を喜んで食べた。
6	3月19日		せんたんはもう死んでしまうのでは と思う程の様子だったが、元気ヒシと 知らないうちに、最後を迎えるまでには それだけでも幸せと思わなければと覚悟する
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		住 所	連絡先
		連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月22日	東京練馬	21:20頃 緊急の為(38.8°)救急車を要請、救急隊よりスクリーニングの結果を知る必要があると言われ、心臓の連絡が、スクリーニング結果
2	3月22日 深夜	練馬 病院	搬送してはいたが判明し、その後練馬 病院へ搬送されるが、病院到着後、医師より搬送を促している人け診察をしたと告げられる
3			医師のやり取りの後入院する事になったが、病名は「肺炎、心筋梗塞、心臓のし、病院にはカテーテル設備がないため、別の病院に搬送したがカテーテルはなくて、
4			と断ると、今度は個室が空いていないと言われ1月20500円の個室でも承諾するとして、医師よりこのまま取りに来ないで、車にありせんとの一言、月を疑う言葉、母の体調を考へて、悲しと、悔しさを噛みしめた。
5			
6	3月31日	埼玉県行田市	10日間の入院後体調回復、退院、その後車にて埼玉県行田市のにショートステイをお願いする。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月31日	埼玉県作田寺	ご家族の送迎で ショートステイ開始となる
2	4月		102歳のお祝いをする。とても喜んで下り、ご家族と一緒に食事している機会も得る。他にも少くお祝いされてきた。他の方と話をしたり、コンサートへも参加したり、笑顔多く過ごしている。
3	5月		37.5℃と熱がでる。咳が少し出ている様子だが、熱下がると、食欲もあり、元気が戻る。日中、両臀部、右肩に痛みが続き、湿布を貼付する。湿布で本人も安心されている。他は特別 お変わりなく過ごされている。
4	6月		プロのカラオケに 耳負（10才）を連れて行っていただく。ご家族と外出される。家族関係良好、面会も多く、安定して過ごされている。 38.0℃と熱が出ることもあったが、2日程で下がり、その後食欲もあり、元気が戻る。他のご利用者の職員にも誘われてカラオケの様子で、音楽とお話しながら過ごされる。
5	7月		他のフロアへご自分でお散歩へ行かれることもあり、園の方と色んな話をされ、笑顔見られる。ご家族の面会をとても楽しみにされている様子。体調回復されることになって過ごされている。
6	8月		ご自分のペースでフロアを散歩されている。体調を大きくおすこしく過ごされている。リハビリにも積極的に参加して下さる。まきば園の行事にも参加される。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「71-4」

震災後から死亡まで

経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料として記入してください。

のますので、できる限り詳しく

死亡者氏名		住所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
1	9月		胸より出血見られる。医師の診察あり。様子見て、出血、痛み強い時は救急室科受診との診察。痛み、多量出血見られる。様子をみる。中学生のお話ボランティアに参加し、楽しくお話を聞ける。
2	10月		胸より出血見られていない。職員、他が利用者の方と楽しくお話を聞ける。多く見られる。16日～軽い喘息、顔、顔面浮腫見られる。ご家族に手配がある。ご自分で居場所を定めていらっしゃる。危険なところを避ける。
3			医師の指示で、胸部レントゲン撮影。軽い間質性肺炎の疑いあり。点滴を打つ。喘息の薬を飲む。19日、顔面浮腫見られる。危険なところを避ける。危険なところを避ける。
4			下向顔面浮腫、喉が腫れ、食べ物が詰まるといふ。
5	11月		1日、ご自分の歩行が難しく、介助を要する。 2日、朝、トイレへ行かれた後、リフトに乗った後、突然嘔吐される。顔色悪く、目の焦点が合わない。声には何も返答されず。
6			呼吸状態悪化しAED装着、10分間心肺蘇生法を実施する。救急隊到着し、処置後、市立総合病院へ搬送する。
事情聴取先 ※役場より照会を取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		氏名	住所
		連絡先	自宅・携帯
		連絡先	自宅・携帯

別紙

No1

「72-1」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		生 年 月 日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		病気（腎臓）はあったが、 自宅にて自立生活できていた。 孫のめんどうも見てくれていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉中学校	3月11日の地震により、双葉中学校に避難。
2	3月12日 3月15日	川俣 公民館	避難指示により、自宅にてたて 公民館へ避難。（双葉から7時間 かかった）
3	3月15日 3月17日	山形	上記避難先での生活で時々大騒ぎ あがり等の不穏行動が頻るようになり 左記へ、自宅にて移動 では少し落ち着き、食事、会話、入浴等 できていた。
4	3月17日 3月18日	新潟	山形で「ガソリン確保できず」新潟へ移動 疲労感あり、友人からに、過ごすも なんとか自立で生活できていた。
5	3月18日 3月19日	群馬	ガソリン確保できず、群馬経由で 神奈川へ
6	3月19日 3月31日	神奈川県伊勢原市	避難生活、移動のストレス、疲労あり。 身体の疼痛もやや強く出始める。 食欲も減退、歩行も入浴、排泄も 介助が必要。 続 No1
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		氏名	住 所
		氏名	連絡先

震災後から死亡までの経緯について

72-21

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住	
		生年月	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日		
2	3月11日		
3	3月31日	神奈川県横浜市中区	で世話になっていたが、めいわくもかかっており 公園へ引越す。 自力歩行困難にて息子があふて階段を
4			上がっていた。 引越後当初は 部屋内は つかまり歩き 会話等 なんとか 可能であったが 徐々に 食事摂取困難となり
5	5月20日	診療所	自宅介護で点滴を行っていた。 急に衰弱し、寝たきりとなり会話も困難に。 5月20日 左記に入院。傾眠状態でずい ずい呼吸が浅くなり、呼吸困難が顕著に悪化し
6	5月30日		5月30日 病床にて死亡。 自宅に2泊りさせていたが、と長きで 思われる。過剰な運動生活により著明な ストレスを受け、急激に衰弱し死に至った。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	3/6面会 ・食欲有り、顔色もよく、会話有り。 ・和菓子を食べ、こんなおいしいもの食べたことないと話した。 ・床ずれ2か所有り、菜がきいて泊ってきているとのこと。（スタッフの方より）	
月 日	避難先	避難の状況	
1 3月12日 ～3月17日	福島高校	避難指示により福島高校に避難。 着のみ着のまま、微熱があり、軽い肺炎とのこと。	
2 3月17日	老人保健施設	福島高校より移動	
3 3月18日	〃	・褥瘡の壊死部のカット、洗浄、ゲーベンクリームとワセリン塗布し、ガーゼ保護を毎日ベースで処置。 ・脱水傾向強く、口腔内乾燥がみられる。 ・避難の際に、左膝を打撲したとのこと腫脹と痛みあり。 ・レントゲン施行し、骨には異常なし。湿布と安静対応にて経過をも見ることとなる。	
4 4月 9日	〃	左踵骨部に5×5cmの褥瘡形成。処置継続。	
5 4月12日	〃	体調が安定してきた状況となり、ベッド上で拘縮予防と認知面へのアプローチを開始。	
6 5 月	〃	5月の採血結果で、栄養状態が悪いため、メディカルスープやアイソカルの提供を開始。	
7 3月～5月	〃	3～5月入所中の身体状況、生活状況 ・身体の拘縮あり、車椅子での座位保持できず。リクライニングで対応。 ・食事はリクライニングにて一部介助にて摂取。 ・立位保持できず、オムツで排泄対応。 ・入浴は、機械浴にて体力も考慮して週2回の対応を行う。 ・着脱は全介助で対応。 ・一日の大半はベッド上での対応となっていたが、体力の状況を見ながら、徐々に離床時間を確保。食事の時間とその後30分～	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

「73-2」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			1時間程度は、テレビが好きなこともあり、リクライニングでテレビ鑑賞をⓂ行っていた。
8	5月29日		午後から夕方にかけて嘔吐を何度も繰り返す。
9	5月30日	福島 病院	<p>AM2:00に、血中酸素：86～93%で安定せず。脈：46、体温：37℃、四肢冷感と顔面発汗あり。血圧は、触診で最高血圧70、最低血圧は測れない状況となる。救急車で酸素100ℓ流すも血中酸素80で上がらず。</p> <p>AM2:54分、呼吸状態が悪化したと救急車で搬送された。気管内挿管、人工呼吸器接続等の治療を施行したが、急性呼吸不全により治療の甲斐も虚しく、午前11時25分、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため死に至った。このようなことがなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「セント」	胃ろうにより食事を摂ることができず、特に1週間が思いのほかではない状態。
	月 日	避難先	避難の状況
1	平成23年 3月11日	特別養護老人ホーム「セント」	3月11日の地震と原子力災害により一刻も早い避難が必要とされたが、避難先が定まらず施設に不安な一日をすごした。
2	3月12日	福島市	自衛隊救護車により福島市に搬送された。双葉町～福島市は約80kmの長距離の移動で疲労。加えて寒く、栄養の摂取もできなかった。
3	3月18日	福島市介護老人保健施設	施設入所。しかし定員を越えた入所のため、狭い場所へ一時的に預けられた。急な避難により寝具等が不自由な様子。（ベッドが1人用では狭く、2人用と重なった。）
4	5月20日	同上	1体温調整が困難となり、熱が「41.5℃」多くなり、1体が低下がみられる。双葉町のセントに居た時の介護は受けられず、表情が暗い。
5	11月20日	同上	熱がおり、セシウム。避難の疲れが出ている様子が見える。
6	平成24年 1月5日	同上	施設に3.11の困難により、救急車で搬送され、仙臺市、福（長女）が駆けつけ死亡に立ち会った。双葉町に居た時、施設からすぐそばの山で土が落ちて怖い思いがっけいである。周囲が荒廃で避難生活は、老人は母に2人ともお世話になり、原子力災害がなければ、お世話を焼いてあげた。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		氏名	住所
		連絡先	連絡先
		連絡先	自宅・携帯

別紙

「ア5-1」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	平成22年 3月14日、センターにて 放射線治療のため入院待機。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町ヘルスケアセンター	3月11日午後震に降り避難。
2	3月12日	福島市	双葉町避難場所がわからず、 福島市へ避難。体調不良。 (携帯電話が壊れたため)
3	3月18日	川俣	知人と連絡がとれ、双葉町の避難所を 確認。 体調が悪く、横に倒れこたえがたかった。
4	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	双葉町集団避難のため、 埼玉県へ初移動。
5	3月19日	埼玉県川口市	入院治療等のため、 体調不良のため、横に倒れこたえがたかった。 入院先が決まらず待機。
6	4月18日	川口市	センターの先生より 紹介を受け、センターより センター紹介。 治療部分別1ヶ月で大きく好転。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		住 所	
		連絡先	

5月7日 [redacted] 1427-
6月上旬

治療終了のため退院。
がんは小さくした。
福島県入初動作。紹介状。
[redacted] 以下。

6月4日 [redacted] 以下

治療のため通院。
現在、治療方法。病
療の指示。
自宅(避難先)に近い。
[redacted] 病状紹介状。

11月8日 [redacted] 病院

7.8.9月通院。
11月に入り、検査の負血にリ入院。
肺がん以外に、急性骨髄性白血病併発。
治療の甲斐も乏しく、細菌性肺炎のため
病室にて死亡。

12月17日

過酷な環境と避難生活、及び
原子力災害にあり、著しいストレスを受け、
白血病の併発もあり、死に至った。
震災がなければ、治療もっと早く行なわれ、
もう少し、長生きし、今も存命であったと思われ、
先生からも早すぎたと言われた。

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉町 双葉厚生病院	発熱のため入院中。次回退院が 決まっていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町 双葉厚生病院	地震により多床室に避難。シーツなどの マット1枚で床に寝る状態で不安な夜。 同じ掛け布団のすきまをにぎり返すことが できました。
2	3月12日 3月10日	二本松	政府の指示により自衛隊のヘリで移動 センターは医療機関ではおなひで急 うけ入れを待つ（家族とは離れる）
3	3月14日	白河	肺炎をこし微熱あり。入院中に腕骨折。 その治療も続ける。声がかけても返さずあまりに 心配で泣く。緊急せいかなく退院の話を あり。次のうけ入れ先を探す。
4	5月24日	茨城県日立市	避難先での介護は難しく日立市内の 安入先を探し民間救急車により3時間かけて 搬送。毎日声がかかる事になったが返さな くなり。ホッとすると時々寝かせた（1人）がし。
5	6月26日		前日頃から高熱が続き心配したが21時 20分急激な発熱で意識不明の状態で 死亡。原因が肺炎による何れもの移転は激 しく体力を消耗し衰弱し死に至った。驚き がなければもういっしょに命を亡くしたと 思っていた。
6			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		日々、自宅にて静かに過ごしていた。週3回、透析通院を欠かさず行っていた。食事・睡眠も普通であった。
	月 日	避難先	避難の状況
	3月12日 ～3月13日	南相馬市小高区 南相馬市原町区	3月12日、午前11時頃、自宅より南相馬市へ避難。 20km圏外避難指示により、南相馬市原町区へ移動。 避難後、最初の透析を原町区 病院で受ける。病院がかわったため、治療後つらそうであった。
	3月16日	福島市	病院の都合で、福島市へ転院。 で透析することになる。 避難所が見つからず、ホテルへ2泊する。
	3月17日 ～3月18日		3月17日、での最初の透析。避難から一週間が過ぎ、疲れもあり、歩行するにも介助が必要になってきた。病院の近くに避難所が見つかり移動する。
	3月25日		相部屋の避難生活。風邪をひき、38℃の熱があり、タミフル服用。特別に個室に入れてもらう。めっきり足腰が弱ってくる。夜中、幻覚症状か大声を出すことがある。
	4月 8日	福島市	センターへ移り、ようやくアパートへ入居する。通院は車椅子で、目も悪化し眼科にも通院。 日常生活も、昼と夜が逆転し、常に故郷に帰りたいと叫ぶ。
	6月 8日 ～7月15日	福島市	日に日に状態が悪化し、立つことさえ出来ず、食事もとれず入院となる。 入院してからも食べられず、点滴による栄養補給となる。話も出来ず、無気力状態となる。 望郷の念が、心をむしばんでしまった。 午前5時00分、治療の甲斐もなく病床にて死亡。このような災害がなければもっと長生きし今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「78」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	精神科病院 双葉亭病院	精神科病院 双葉亭病院
月 日	避難先	避難の状況	
1	3月11日	新大塚駅 上高 病院	3月11日～14日の状況は不明 3月15日 病院入院
2	4 月	〃	食事等、普通に食べている。 身の廻りの事は、自分で行っている。
3	5 月	〃	
4	6 月	〃	状態は、4月と変わらない。
5	7 月	〃	
6	8. 10	総 病院	病状が急変し、午後10時30分前後に死亡。 連絡先は、病院にかけつけ、長時は連絡がとれず。 この間の事は、自分で行っている。今も後悔、反省を 思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		住 所	連絡先
		連絡先	自宅・携帯

別紙

1791

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日 老人保健施設	ほぼ、全介護状態での生活であった。	
	月 日	避難先	避難の状況
1	不明	いわき	双葉から、どのような経路で避難したかは不明である。
2	3月15日 ～3月23日	会津 病院	<p>3月11日の地震に起因する原子力事故により老人保健施設 から、いわき市 を経て、会津若松市の 病院への避難を余儀なくされ、避難によるストレス及び栄養不良、脱水などのケア不良状態のため、3月23日、午前10時7分病床にて死亡。</p> <p>死亡当時は、身元不明であったため、死体検案書扱いとなっている</p> <p>このような状況であったため、やむを得ない部分もあったと思われるが、身元不明の状態で取り扱われ、本人にとってはさぞ無念であったろうと思うと残念でたまらない。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「80」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所(入院先)		震災前の健康状態について	
1	3月11日 「特別養護老人ホームせんだん」に ショートステイ中被災	寝たきり状態で、経管栄養を投与していた。	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	特別養護老人ホームせんだん	ショートステイ中に被災。帰宅予定日であったが帰宅予定時刻をすぎても送迎バスが来なかったため、施設を訪ねたところ入所を延長していただくこととなった。
2	3月16日	福島	TV報道にて「せんだん」入所者が原子力災害のため自衛隊により避難したことを知り、避難先を捜索したところ、福島であることが判明。引き取り要請があったが、寝たきり状態であり、避難先も決定していない状況での看病は不可能な為、養護施設等の引受先を探してもらうよう依頼。
3	3月19日	特別養護老人ホーム	施設側で受け入れた際、衣服は身に付けておらず紙オムツのみの状態で運ばれてきたとのこと。「せんだん」入所時に持参していた衣服等の所持品は何も無く、身一つの状態で搬送された模様。過酷な避難による恐怖からか、意識がもうろうとしており、話しかけると顔を手などで覆って隠れるような動作をみせた。
4	3月23日	病院	肺炎を発症し入院。入院後は意識も回復し、会話も普段通りできるようになったが、その後、肺炎を繰り返し発症した。と、遂に、永眠した。
5	6月10日	特別養護老人ホーム	病院を退院し、左記施設へ入所。
6	6月12日	病院	病状急変の為、病院へ搬送された。病院より、心肺停止の連絡。急性心筋梗塞で死亡。 原子力災害による過酷な避難生活および環境の変化を余儀なくされ、心身ともにストレスを受けたために衰弱し死に至った。震災・原子力災害がなければ今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り 調査を行う場合があります。		氏 名	住 所
			連絡先
		氏 名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		足腰弱く歩行困難。 双葉厚生病院通院。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島県川俣町	避難指示により、福島県川俣町へ避難。
2	3月19日	埼玉県スーパーアリーナ	川俣から、埼玉県スーパーアリーナに移動。
3	3月24日	特別養護老人ホーム 入所	埼玉県スーパーアリーナより移動、入所する。 右踵褥瘡あり処置行う。気分不快なく受け答え良好。 29日、声かれ鼻水みられ、喉に違和感少しあり。 31日、菜の花ドライブ参加され楽しめる。 食事8割程度の摂取、トイレ入口より歩行促す。
4	4 月	〃	5日、6日と目まい訴えあり。 13日お花クラブに参加、又、居室にて自ら歩行し転倒。痛み、外傷なし。 家族の面会たびたびあり、声掛けに反応良好。 19日、左足むくみ痛み聞かれる。
5	5 月	〃	16日、舌先を噛んでしまい痛みあり。 28日、左踵褥瘡あり処置行う。 30日、足がしびれ、力が入らないと訴えあり。 声掛けに笑顔、返答あり、穏やかに過ごされる。
6	6 月	〃	5日～両下肢むくみあるがしびれなし。ベッドで休む事が多くなる。 8日、14日、めまい、足のしびれの為、 検査通院。 22日、トイレにて転倒。 27日、28日、めまい訴えあり。
7	7 月	〃	6日、9日、 病院脊髄科、脳外科通院。 10日より、熱発、痰がからみ、咳聞かれる。 食事量低下される。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	住 所
		連絡先	連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
			22日、風邪症状改善。 24日、立位とれず、排泄ポータブルトイレ使用開始。 30日、腹満あり、自ら腹圧かけられない様子あり。
8	8 月		3日、自尿困難なため、バルーンカテーテル挿入。 9日頃より、めまい訴え続く。 16日、17日、19日、22日、23日、24日、26日 検査通院。 血圧変動が続き、ベッドで過ごす事が多くなる。 26日、通院後、痕がらみ多く、酸素飽和度86%に低下。再度、 病院に通院するも家族来院できず、入院せず帰苑。 27日、 通院し、入院となる。 30日、家族来苑。病院にて心肺停止、蘇生にて辛うじて心臓が動いている状態との事で退所。
9	8月27日 ～11月12日	病院	気管支炎の診断で入院。 入院後、保存的加療も痰づまりで、8/27日、窒息、心肺停止となり、蘇生するも低酸素脳症で自発呼吸弱く、人工呼吸器管理。意識回復なく11/12日、午前6時59分、低酸素脳症で病床にて死亡。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」 足は不自由だったが、元気だった。	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	南相馬市 病院	「せんだん」より、双葉高校へバスにて避難。 小学校を經由し、（3時間滞在）→南相馬市 病院23:00到着1泊する。
2	3月13日	特別養護老人ホーム	南相馬市の特別養護老人ホームへ移動。
3	3月16日	郡山	郡山を經由（3時間滞在）し、 避難所での生活は容易ではないが、食事、会話も普段と変わりなく元気に過ごしていた。
4	3月18日	那須塩原市 入所	郡山より入所。 入所時より発熱がみられるが、すぐに落ち着かれる。臀部にただれ、陰部にかき傷あり。食事摂取自立、歩行不可。立ち上り可。日中、トイレ誘導。夜間、オムツ対応。
5	4 月	〃	4/1発熱あり通院される。すぐに落ち着かれるが、食事摂取量が減っていく。時折、介助が必要となる。全身に痛みがでてくる。かき傷所々にみられる。日中、ベッドにて生活する時間が多くなる。 4/16花見を行う。
6	5 月	〃	身体のかき傷が増える。食事面に変化は見られないが、日中、ベッド上で過ごす時間が増える。
7	6 月	〃	食事内容がペーストに変更となる。摂取量が減少する。
8	6月10日 ～6月26日	病院入院	発熱、栄養状態不良のため、6/10～6/26まで入院となる。
9	6 月	那須塩原市	6/26退院。 塩分制限され、梅毒が見つかる。 食事摂取が自力では困難になる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
10	7 月	〃	食事摂取量が増える。日中はベッドでの生活が多くなる。陰部の痛みが強く、かき傷を多くつくられてしまう。
11	8 月	〃	食事摂取量が減少する。立ち上りが困難になりオムツ対応になる。発熱も時折みられる。
12	9 月	〃	ゼリー食での対応となり、摂取量は増えるが、活気なく、食事以外はベッドにて過ごされる。発熱がみられ、食事摂取量減少する。
13	9月23日 ～9月24日	〃 病院	9/23日、急に呼吸困難となり、救急車で〃病院に搬送される。 9/24日、午後10時31分、急性心筋梗塞により病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であつたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

「83」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		平成11年11月10日より、うつ血性心不全、アイゼンメンジャー症候群のため、〇〇医大に、月1回通院していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	南相馬市	自宅で後片付けをしていたら、〇〇が来て一緒に避難。どこに避難していいかわからず、とりあえず、11時頃原町方面に向かった。
2	3月13日	山形県新庄市	〇〇が、山形ということで山形に避難。
3	3月30日	福島市飯坂湯野	〇〇の所に避難。物置を改造したような狭い部屋に住んでいた。
4	4月 5日	猪苗代町	家族全員で、猪苗代町の〇〇に行ったが、希望どおりの部屋割りが出来ないとの事で、また、それぞれの避難場所に戻った。
5	5月12日 ～12月7日	いわき市	過酷な環境で、心身ともにストレスを受けながらも、頑張って生活をしていた。 〇〇医大へは、月1回通院を継続していた。特に、食事等は普段と変わった所はなかった。いわき市に異動。
6	12月7日	〇〇医大	避難生活により病状が悪化し、〇〇医大に入院した。
7	1月20日	いわき市	寒い日が続くので、もつと入院していたかったが、病状が落ち着いてきたので退院。
8	2月15日	いわき市	容態が急変し、救急車を要請するも間に合わず午前6時頃（推定）自宅にて死亡。 原発事故がなければ、もつと長生き出来たろうと思われる。本人も悔しかっただろうと思うと残念である。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「84-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」入所中	車イスでの生活であったが、食事、会話等は普通に出来ていた。
	月 日	避難先	避難の状況
	3月11日 ～3月14日	不明	不明
	3月15日 ～4月19日	白河 病院	自衛隊により、白河 病院に搬送された事が病院によりわかった。 4月9日に面会に行った時は、食事、会話を普段と同じで元気だった。 大好きな饅頭が食べたいと言っていた。
	4月19日 ～4月21日	東白河郡矢祭町	白河 病院より、 に入所。 入所した時は、息子が亡くなったので会いに行くことができず、施設の方と電話連絡だけであったが元気な様子でした。
	4月21日	茨城県常陸太田市	4月21日、肺炎のため入院。
	4月～11月	〃	別紙。
	12月 6日	茨城県常陸太田市	12月6日午後11時37分、治療の甲斐も無く、慢性心不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受け、病状が悪化し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

「84-2」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	ふたば福祉会 特別養護老人ホーム「せんだん」	車イスでの生活だったが、食事、会話等は普通に出来ていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	4月21日	病院	より肺炎のため 病院に入院。
	4月24日		自然気胸 肺水腫
	5月20日		MRSA感染、右不全気胸、胸水
	6月15日		胸水減少
	7月22日		肺水腫、MRSA感染
	8月2日		肺水腫、右不全気胸
	8月24日		右不全気胸悪化
	9月14日		イレウス
	9月20日		常時吐瀉
	10月7日		右不全気胸悪化
	10月15日		胸水減少
	11月17日		呼吸器不全、下
			全身衰弱、衰弱
			各臓器機能低下、結果的に
	12月6日		PM 11:30 死亡

平成 24年 3月 29日

上記のとおり、回答いたします。

住所

氏名

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		ヘルスケアふたばでデイサービス通所介護を受けており、そのまま宿泊。 電話で迎えに行くことを告げると、今日は皆と一緒に宿泊するの、迎えにでなくてもよいとの事でそのままお願いをする。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、デイサービスセンターの職員と一緒に、バスで川俣町に避難。
2	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	バスで、さいたまスーパーアリーナに移動、家族と合流する。
3	3月30日	埼玉県加須市 旧埼玉県立騎西高校	スーパーアリーナから旧埼玉県立騎西高校に移動。
4	4月10日	〃	発熱により、受診。後に、幻覚症状があり、病院受診。
5	4月17日 ～9月26日	埼玉県加須市 病院	その後、発熱が続き食欲も低下、同室者のインフルエンザ発症により、病院受診。インフルエンザと肺炎を発症しそのまま入院する。入院生活が長引いたため、歩行不能になったため、入院を続ける。
6	9月26日	福島市飯坂町 応急仮設住宅	病院を退院し、福島市飯坂町の仮設住宅に移動し、在宅介護を行いながら、デイサービスの通所介護を受けて、リハビリに励んでいた。
7	10月24日 ～11月1日	福島市 センター	腸閉塞のため9日間入院する。
8	24年 2月 7日	福島市 病院	朝は元気にデイサービスに出かけたのに、昼頃風呂に入ったところ、急に意識不明の状態となり、救急車で病院に搬送されたが、午後12時25分、治療の甲斐も虚しく、心室細動のため死亡。 病院入院後、本人は自宅に帰りたいと幾度となく話しておりましたが、騎西高校では、退院後介護不能の為、福島市の仮設住宅に移り、介護施設で通所サービスを受けながら、在宅介護を行っていた。本人もあと5年は生きるといってリハビリに励んでおり、春になったら、一度自宅に連れて行こうと話していただけに大変残念です。このようなことがなければ、もつと長生きし今も存命であつたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

56-13

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		喘息はあったが、普通に生活していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	原子力事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣町に避難。食事や会話等も普段と変わりなく、避難生活を送っていた。
2	3月19日	埼玉県スーパーアリーナ	川俣町より埼玉県スーパーアリーナに移動。
3	3月30日	埼玉県立騎西高校	埼玉県スーパーアリーナより加須市旧騎西高校に移動。
4	5月 8日	羽生市	夕食後、急に呼吸困難になり、救急車で病院に搬送される。その日は、治療後、一旦避難所に帰る。
5	5月 9日	〃	症状改善せず再度受診。脱水症状強いため入院。
6	6 月	〃	
7	7 月	〃	
8	7月31日	〃	7月31日午後8時41分、治療の甲斐も虚しく嚔下生肺炎のため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身共に著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

診療情報提供書

「86-2」

作成日：平成 24年 7月 21日

〒

紹介日：平成24年7月21日

性別 男

【傷病名】

- # 1 肺気腫
- # 2 誤嚥性肺炎

【紹介目的】

照会書について情報提供

【症状・診療経過・検査結果 など】

平成24年5月9日～7月31日まで入院加療していた。

5月8日発熱、倦怠感あり受診。酸素飽和度86%（普段は88%）。胸部X-P、CTにて誤嚥性肺炎と診断。点滴施行し内服処方にて帰宅となる。

翌5月9日症状改善せず来院。脱水症状強い為入院となる。元々肺気腫が既往にあり呼吸不全あり誤嚥性肺炎を併発し症状が悪化したものと考ええる。

入院し点滴、抗生剤投与、酸素療法開始。避難してから食欲低下あったとのこと。

入院後、解熱され、酸素飽和度も上昇、喘鳴、呼吸苦なし食思良好され点滴減量した。その後の血液検査で炎症反応改善、胸部CT結果でもよくなった。

5月19日本人と家族に病状説明し退院可能と伝えた。しかし、震災の被災者で避難生活につき退院後もストレスがかかると思われたため落ち着くまで退院せず入院を継続した。（家族と本人希望にて）活気あり、酸素療法中止後酸素飽和度も安定。

5月25日退院後について本人より話あり、6月上旬の退院を考えていると。

5月26日午後より発熱、肺雑音、痰がらみあり抗生剤内服処方。その後熱は上昇し血液検査、胸部X-P、心電図施行。喘鳴ある為、抗生剤点滴、酸素療法開始しする。その後は解熱され酸素飽和度の低下は見られるも呼吸苦等はなし。歩行時軽度喘鳴あるが、呼吸苦の訴えはない為抗生剤は中止とした。

6月6日外泊許可。6月7日～8日まで外泊。外泊中特に問題なく過ごされたと。笑顔にて外泊から戻られる。

6月16日～17日外泊。特に問題なかったと。

労作時、息切れ、酸素飽和度の低下みられ酸素1L開始。

6月21日発熱、酸素飽和度の低下あり酸素1Lから2Lへ増量。

6月22日外出後の発熱、喘鳴出現。抗生剤点滴とネオフィリン点滴開始。肺炎の再燃、感染性喘息にて再度治療開始。

喘鳴、咳嗽あり、自己排痰可能だが喀出困難あり、痰がでるまでが苦しいと訴えあり。

診療情報提供書

「86-3」

作成日：平成 24年 7月 21日

〒

紹介日：平成24年7月21日

Page. 2

性別 男

(続き)

7月6日家族に病状説明。今後、在宅酸素療法適応だが居住地が決まっておらず自宅に機械が搬入できないので居住地が決まったら在宅酸素の手配を行う。

発熱、解熱を繰り返している。

7月15日家族に病状説明。肺気腫は今後治らなく、在宅酸素療法が必要。肺の構造が肺気腫により壊れており、その上軽度の肺炎が合併している。無理をすれば心不全を併発して死に至る事もある。急変の可能性もある。延命治療についても考えて欲しい。と説明した。

7月23日退院後受け入れてくれる病院が決まったと報告あり。紹介状をみて受け入れ可能か判断し、可能でない場合は他院を紹介してもらえとのこと。また、急変時は息子より「人工呼吸器を付けてください。」と申し入れあり。

7月25日微熱あり、酸素飽和度の低下あり、喘鳴著明あり呼吸困難あり。

7月26日呼吸状態悪化あり、家族へ病状説明。再度呼吸器管理について確認するが家人と本人との意見調整つかず挿管できず。食止め。長男、次男来院し挿管せず様子を見る。と返答あり。延命は望まないとの事。

7月27日酸素5Lにて酸素飽和度維持できている。

7月28日不穏行動あり。意味不明な言動あり。食事開始。酸素マスク外しやティッシュを口に入れるなどの行動あり。17:00頃より意識レベル低下、痰がらみ著明。20:00頃より意識レベル上昇あり不穏、体動活発。抑制開始。家族付き添いあり。

7月29日食止め。意識レベル再度低下あり呼吸状態悪化あり。無呼吸あり。

7月30日痛み刺激反応なし、対光、睫毛反射なし血圧低下。

7月31日両眼共に瞳孔1.5mm両下肢末梢チアノーゼあり。心拍、酸素飽和度共に低下あり20:41死亡確認。

以上 入院後から死亡に至るまでの経緯です。
震災との直接的因果関係は無いと判断します。

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		双葉町クリニック通院。 高血圧、肩こり等があったが、自宅内では、階段の上り下りもでき、トイレも食事も自立していた。
月 日	避難先	避難の状況	
3月11日	ヘルスケアふたば	3月11日の地震により、ヘルスケアに避難。所内トイレも自分で行き交っていた。気持ち的には落ち着かない様子であった。	
3月12日	二本松市	借り住まわしていただく。階段の手すり、スベリ止め等を設置していただき、お風呂、食事には自分で歩いて行っていた。身のまわりの事は自分で行っていた。	
3月18日	二本松市 医院	医院で受診し、薬等をいただく。	
6月 1日	二本松市	アパートに入居してからは、部屋が狭いせいかすつきりせずに徐々に体調も悪くなる。双葉町にいたときは、自宅の周りもよく見え、風通しもよかったが、アパートの前も高く、家で前が見えないため、せつないなあと口に出していた。	
7 月	〃	7月11日頃から風邪をひき先生に往診していただき、薬を飲んでいたが、良くなったり悪くなったりの繰り返しで、食事もあり食べなくなった。	
7月17日 ～8月17日	福島市	17日昼ごろ、先生に往診していただいたところ肺炎と言われ、悪くなったら連絡するように言われた。夜、容態がおもわしくないので病院を紹介していただき、救急車で搬送、入院となる。1カ月の入院で回復、8月17日退院する。	
8 月		8/26日頃から、体調を崩し、暑い毎日だったせいか、食事を受け入れなくなり、医院に往診をお願いし、点滴をしていただいていたが、洩れたりすることが多く、対応してくれる病院を紹介して下さるよう、医院にお願いをした。	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「87-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	[REDACTED]		高血圧症の治療は受けていたものの、呼吸器系疾患の指摘を受けたことは無く、また呼吸器系疾患に腹圧がかかる自覚症状も無かったと伺っている。		
[REDACTED]					
月 日	避難先		避難の状況		
9 月 6 日	[REDACTED] 病院		[REDACTED] 病院で受け入れていただくことになったので、救急車で搬送していただき入院する。		
9 月	"		当初、経口摂取量が少なかったため、中心静脈カテーテルを挿入、高カロリー輸液を行っていた。一時的ではあるが、経口摂取量は徐々に増える傾向にあり、9月下旬には、ほぼ全量を摂取できるようになった。		
10 月	"		10月初めに輸液を中止し、中心静脈カテーテルを抜出した。その際、倦怠感が悪化し、再び食欲が振るいなかった。10月中旬以降、経口摂取量はほとんどゼロとなり、10月18日、再び中心静脈カテーテルを挿入、輸液を開始した。しかしその後も経口摂取量はゼロ。		
11 月	"		劇的な悪化を来し、意識も徐々に低下。眠っていることが多くなった。11月11日には尿量もほとんどゼロ、衰弱が顕著となり、以後の予後についても悪いと判断された。		
11月13日	"		11月18日午後3時45分、治療の甲斐も虚しく汎小葉性肺炎のため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身共に著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であった。		
[REDACTED]					
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	[REDACTED]	住 所	[REDACTED]
		氏名	[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]
		氏名	[REDACTED]	住 所	[REDACTED]
			連絡先	自宅・携帯電話	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「88」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」入所中	食事、会話等は普通に出来ていた。
	月 日	避難先	避難の状況
	3月12日	福島	避難指示により、福島に避難。
	3月18日	千葉県流山市	はとても寒く、避難生活は無理であることから、夜中、3時間かけて千葉県流山市に移動。
	3月22日	千葉県流山市 特別養護老人ホーム	介護困難なため特老に入所。
	3月29日	千葉県流山市 病院	3月29日、急な吐血により救急車で病院に搬送。
	4月	病院	
	5月	病院	4月9日の音程算出外 音程算出外流ハワット 5月6日 H6 4.5 6.4 2.4 8 4 6.2 6.2 1.7 (70P 121.9 17.5 5.2 1) に 7.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5
	6月	病院	6月10 H6 9.2 6.2 6.2 6.2 6月20 7.4 5.2 6.2 6.2 6.2 6.2 6.2 6月24日 6.2 2.7 3
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所 連絡先
		氏名	住所 連絡先

89

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		平成23年1月 病院で放射線治療 普段の生活をしていた。高血圧の薬を飲んでい た。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣に避難。
2	3月13日 ～3月15日	津島	12日夜、とても寒く悪寒のため帰宅しようと津島まで来たが、警察に止められて津島の避難所に入った。体調すぐれず下痢となり、着替えもなくとても困った。
3	3月16日	二本松市	から に移動。
4	3月18日 ～3月21日	千葉県柏市内ホテル	千葉県柏市内のホテルに移動。
5	3月21日 ～3月28日	埼玉県草加市	埼玉県草加市・ へ移動。 3/25・26・28日、肺炎のため草加市 クリニック受診。 3/24 陳旧性心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症のため、 病院受診。
6	3月27日 ～4月27日	埼玉県	4/7・21 病院
7	4月27日 ～8月22日		5/19・6/23・8/11 病院受診。
8	8月22日 ～9月22日	病院	体調悪く、越谷市 で診察を受け、クリニックの指示で救急車で循環器科に搬送され入院となる。日に日に食欲も減、衰弱していく。癌が広がっており、緩和ケアを実施する。
9	9月22日 ～11月6日	埼玉県吉川市 病院	病院から 病院に転院。 状態は、全病院入院中と変わらず。 11/6午前11時10分、治療の甲斐も虚しく前立腺癌のため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身共に著しいストレスを受けた。また、避難中、服用していた薬がなく、体調の悪化につながり死をはやめたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「91」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		普通に日時用生活を送っていた。 健康状態も普通。 自動車運転可
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣町に避難。（妻・孫・子の妻の4名）
2	3月14日	千葉県松戸市	川俣町から千葉県松戸市まで、一般道を自家用車にて避難。
3	7月31日	埼玉県加須市	千葉県松戸市から移動。 9/9、妻が硬膜下出血で入院。毎日、看病で病院に通っていた。
4	9月14日	病院	午前9時頃、半身不随の状態となり、救急車で病院に搬送された。検査の結果、脳幹部の出血と診断され入院となる。半身不随も、意識は目と口にて確認。
5	9月30日	〃	入院中、肺炎発症（機能低下） 投薬治療を続けるも、状態は一進一退で経過。呼吸困難が進む。 栄養補給は点滴のみ。
6	10月21日	〃	10月21日、午後3時56分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたことが大きな要因である。震災がなければもっと長生きし今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

「92」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		身の回りのことは、すべて自分でしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島県二本松市	原子力事故に伴う避難指示により、川俣に避難するも、いっばいのため避難
2	3月13日	福島県いわき市	宅へ移動。食事や会話も普段と変わりなく元気だった。
3	3月15日	福島県二本松市	いわき市もむ非常事態の為、再び宅へ移動。
4	3月16日	東京都練馬区	宅へ移動。長い避難移動で体調不良を訴え町医者で点滴を1カ月位受ける。その後、体調は良かったが、不慣れた土地のため外出することはほとんどなかった。
5	7月 3日	いわき市平	本人が福島県に戻ることを望んでいたため、の住んでいるいわき市に移動。
6	9月 6日	内科 いわき市平	借上げ住宅が3階のため外出することもなく、食欲もなくなってきたので、内科受診。以後、月1回程度通院していた。
7	3月14日 ～4月14日	病院 いわき市平	食欲もなく、歩くことも困難となり、足も浮腫尿も出なくなったので、内科より紹介をいただき、病院外来を受診。検査の結果、胸水が認められ、心不全（増悪）低酸素血症、脱水症・食欲低下の疾患と診断され入院加療となったが、4月14日16時36分、治療の甲斐も虚しく慢性心不全（増悪）のため、病床にて死亡。震災前は100歳を軽く超えられるぐらい元気だった。不慣れた土地での生活のため、外出することもなくなり、歩くことも困難となった。過酷な環境での避難生活や原子力災害により、心身ともに衰弱し、死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯電話

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		毎日、自転車で散歩し、普段の生活をしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ヘルスケアふたば	地震により、ヘルスケアふたばに避難。
2	3月12日	川俣町	避難指示により、自家用車で川俣町に避難。
3	3月19日	埼玉県スーパーアリーナ	町が準備したバスで、埼玉県スーパーアリーナに移動。避難所での生活は容易でなかったが、普段と変わりなく生活していた。
4	3月31日 ～4月19日	旧埼玉県立騎西高校	スーパーアリーナより、旧埼玉県立騎西高校に移動。集団生活でストレスもたまり、体の調子もあまりよくない。
5	4月19日 ～9月25日	猪苗代町	旧埼玉県立騎西高校より、猪苗代町に移動。に移動してからも、体の調子が悪く、会津若松市内の病院に2回程通院した。双葉にいたときは環境が変わり、ストレスが溜まっているようである。特段、変わった所もなく、普段の生活を送っていた。 <u>通院は、腹痛が原因で、ガスが溜まっているとの診断であった。市販の便秘薬を飲んでいた。</u>
6	9月25日 ～11月2日	借上げ住宅 福島市	避難所の閉鎖により、福島市の借上げアパートに移動。特に、変わった所もなく普段の生活を送っていた。
7	11月2日	福島市 病院	11月2日、朝7時前、ご飯を食べさせようとしたところ、様子がおかしいので救急車を要請し、病院に搬送されるも、7時36分、高度脱水により死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災と原子力災害がなければ、もう少し長生きしたと思われる。 <u>高度脱水の原因としては、脳梗塞等にはじまる全身状態低下で嚥下困難をきたし、高度脱水となり、多臓器不全をきたし死亡したと推定されるとの医師の所見でありました。</u>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

93-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		毎日自転車で散歩し、普段の生活をしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ヘルスケアふたば	地震により、ヘルスケアふたばに避難。
2	3月12日	川俣町	避難指示により、自家用車で川俣町に避難。
3	3月19日	埼玉県スーパーアリーナ	町が準備したバスで、埼玉県スーパーアリーナに移動。避難所での生活は容易でなかったが、普段と変わりなく生活していた。
4	3月31日 ～4月19日	旧埼玉県立騎西高校	スーパーアリーナより、旧埼玉県立騎西高校に移動。集団生活でストレスもたまり、体の調子もあまりよくない。
5	4月19日 ～9月25日	猪苗代町	旧埼玉県立騎西高校より、猪苗代町に移動。に移動してからも、体の調子が良くなり、会津若松市内の病院に2回程通院した。双葉にいたときは環境が変わり、ストレスが溜まっているようである。特段、変わった所もなく、普段の生活を送っていた。
6	9月25日 ～11月2日	借上げ住宅 福島市	避難所の閉鎖により、福島市の借上げアパートに移動。特に、変わったところもなく普段通りの生活を送っていた。
7	11月2日	福島市	11月2日、朝7時前、ご飯を食べさせようとしたところ、様子がおかしいので救急車を要請。病院に搬送されるも、7時36分、高度脱水により死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身共に苦しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災と原子力災害がなければ、もう少し長生きしたと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所(入院先)		震災前の健康状態について	
1	3月11日		平成22年春ごろから、間質性肺炎による呼吸不全であるが自宅で時々酸素療法を行う程度で、普段は自分のバイクで近隣町まで買い物や通院を行っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日		3月11日の地震により自宅で避難
2	3月12日	南相馬市原町区	避難指示により避難所へ行こうと思ったが体が不自由なため、息子の自家用車でへ避難。食事、身の回りのこと、普段と変わりがなく元気に生活していた。
3	4月3日	千葉県市川市	親戚にも長期間になると気を使うことや携帯酸素ボンベが無くなり、へ6時間かけて移動し、酸素ボンベを手配してもらった。普段と変わりがなく生活していたが、いつ帰れるのか心配していた。
4	4月	千葉県市川市	二女宅で避難していたが、1週間経過すると南相馬市や福島の方で避難できないか、家族に会いたいなど、家族が避難している埼玉県加須市へ数回会いに行った。狭い部屋での生活にストレスが見られ、周りの人を怒るようになった。
5	5月7日	岡山県高梁市	での避難生活も精神的ストレスが重なり、ここにいたくない。双葉町への帰還と、家族との生活を強く望んでいた。しかし、現実に行く場所がなく、岡山県高梁市の施設に行く方法しかなく、宅に移動した。本人は、岡山県の遠方までは望んでなく、1週間悩んだ末、止む無く7時間かけて避難移動した。食事は普段通りだが、会話は怒ることが増えてきた。

6	5月9日	岡山県高梁市 [redacted]	受入れ体制を整えてくれた、岡山県高梁市の[redacted]に入居。普段と変わ りなく生活していた。
7	6月	岡山県高梁市 [redacted]	遠い地域と慣れない環境など、さらに望郷の 念が強く、長男や双葉町の人、親戚等に何回 も電話を入れ、福島県内へ避難したいと話し ていた。いつ帰れるか分からない精神的スト レスから、妻や長女に不満のことがやることが 頻繁になってきた。
8	7月7日	岡山県高梁市 [redacted]	岡山県高梁市の病院で検査を受け、肺がんと 診断されことに、本人は大変ショックで、こ こで死にたくないと、双葉町へ行きたいと繰 り返していました。
9	8月	岡山県高梁市 [redacted]	孫や子供たちがお見舞いに訪れ、双葉町に住 んでいた家族との再会が何よりも嬉しいと、 ガンを宣告され、家族との再会が最後になる のかと思うと大変辛そうであった。 戦争体験があり体の不自由な本人にとって は、故郷へ帰還できない思いと家族と生活で できないことが、心の支えを失い戦争よりつら い、無念さを抱きながら辛い毎日であった。
10	9月29日	岡山県高梁市 [redacted]病院	朝起きると、背中の痛みと呼吸が苦しく、高梁 市の病院で検査を受けた。その結果、ガンの進 行が早く、大動脈浸潤など今後どういことが 起きるか、不透明である。緊急時の対応と体の 痛みを除去するため入院。
11	10月	岡山県高梁市 [redacted]病院	背中の痛みはとれず憂うつな毎日、10月11日 病院の個室に移った。しかし、毎晩夢を見て寝 不足と右手が不自由になってきた。食欲と会話 も少なくなってきた。
12	11月20日	岡山県高梁市 [redacted]病院	11月20日14時52分、治療の甲斐もなく肺 がんのため、病床にて死亡。 体の不自由な高齢者には、突然の原子力災害に よる避難指示により、故郷、平和な日常生活を 奪われ、過酷な環境での居住移動、避難生活に より、心身ともに著しいストレスを抱えたため 衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生 きし今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り 調査を行う場合があ ります。			氏 名 [redacted] 住 所 [redacted] 氏 名 [redacted] 連絡先 [redacted] 氏 名 [redacted] 住 所 [redacted] 氏 名 [redacted] 連絡先 [redacted]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「95-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		自分では身体を動かすことができなかった。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	郡山	避難指示により、バスに乗り郡山に避難。寒い板の間に寝かされていた。避難所での治療は不十分なため体調不良。
2	3月18日	平田村 病院	病院の介護用バスで、郡山から移動、入院する。
3	4 月	〃	四肢拘縮あり。経口摂取困難にて経管栄養を行う。ほぼベッド上での生活。
4	5 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。尿路感染症を併発するも改善。
5	6 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。下顎脱臼あり。
6	7 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。疥癬症を併発するも改善。
7	8 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。ベッド上での生活づく。
8	9 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。顔面に蜂窩織炎を併発するも改善。
9	10 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養で管理。嘔吐により誤嚥性肺炎に罹患。
10	11 月	〃	四肢拘縮あり。経管栄養及び中心静脈栄養を施行。栄養状態改善せず、肺炎を再燃す。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

「95-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
11	12月19日	平田村 病院	12月19日午前9時24分、治療の甲斐も虚しく、肺炎のため病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受け、死期をはやめた。このようなことがなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「96」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1			何ら不自由なく、普段どおりの生活を送っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月13日	自宅	自宅で過ごす。
2	3月14日	福島市	特に体調も変わらず、普段の生活を送っていた。
3	3月15日	石川郡石川町	
4	3月16日 ～3月29日	東京都府中市	
5	3月29日 ～5月22日	東京都渋谷区	
6	5月22日 ～平成24年 1月20日	東京都世田谷区	
7	平成24年 1月20日	東京都武蔵野市 病院	<p>1月20日午後7時頃、風呂に入ったところ、浴槽の中で具合が悪くなり、救急車で病院に搬送される。</p> <p>午後9時44分、治療の甲斐も虚しく虚血性心不全のため死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けた事が原因と思われる。震災がなければこのような事もなく今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「97」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1			ほぼ寝たきりの生活であった。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島	原発事故に伴う避難指示により、福島に避難（交通手段は不明）
2	3月17日	介護老人保健施設	「せんだん」から、職員が避難して対応できないと聞いたので、施設を探していただき移動した。水分及び栄養もまともに摂られていない状態（脱水症状）と言われた。
3	3月25日 ～8月19日	病院	で38.9℃の発熱と意識レベルが低下したため、病院に入院する。治療方針としては、入院、安静、検査、点滴等を行うこととするが、入院期間については、かなり重症であることから不明ではあるが、3月25日入院する。8月19日午前3時33分、治療の甲斐も虚しく、うつ血性心不全のため病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「98-1.

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1			脳梗塞後遺症のため寝たきり。 平成16年ペースメーカー植え込み。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自衛隊の車で川俣町に避難。
2	3月14日 ～9月17日	病院	避難先を巡回診療していた医師が、肺炎と診断し、救急車でへ搬送。 その後、病院に転院。 入院時、肺炎と診断。抗生剤にて軽快したが、喀痰よりMRSA、緑膿菌検出した。もともと、経鼻経管栄養のため、しばしば燕下性肺炎をくり返した。 症状落ちつき、9月17日に病院に転院した。
3	9月17日 ～11月6日	病院	※転院時の状況 脳梗塞後遺症で寝たきり。経鼻経管栄養。背部、仙骨部に多発する褥瘡あり。 X-P・CT上陳旧性の肺炎像あり。 心電図上、著大なブロック、ペースメーカー調律。 入院時の採血では、Hb9.4と軽度の貧血。 ALB3.0と低下。GOT、GOPとも50台と軽度の肝機能障害あり。尿検査では、亜硝酸、混濁がみられ、尿路感染の所見。 ※入院後の状況 入院後、37℃の発熱を繰り返した。痰も多く、頻回の吸引が必要。 9/26のX-P上、右肺炎を認め、抗生物質の投与を行う。また、褥瘡に対しても連日の処置が必要であった。 11/6、全身状態安定したため、老健施設への入所の運びとなる。
4	11月 6日 ～ 11月13日	老人保健施設	入所時、微熱あり。 経鼻経管栄養継続。 痰、咳が多くみられた。 チアノーゼ出現。酸素状況84
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

98-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	
		震災前の健康状態について	
既 病 歴		(□ある：心臓病、高血圧、糖尿病、その他 ()、□なし)	
	月 日	避難先	避難の状況
5	11月13日 ～平成24年 2月8日	病院	11/13、で約40℃の発熱あり、 当院入院。 X-P・CT上、右下葉肺炎あり。動脈採血にて PaCO2-23 PaO2-60と呼吸不全の状態、O2-30 投与開始。補液と抗生物質投与を行った。 11/27末明出血。胃カメラでびらん性胃炎。 このころから肺炎の状態も不良で、12/2から IVH管注とする。その後、肺炎は一進一退とな り、IVHから離脱できないまま、H24.2.8、 病院へ転院する。
6	2月8日	病院	2/8、病院より転院。 採血にてWBC:11400↑、Hb:7.3↓、GOT:83↑ GPT:77、r-GTP:45↑、CRP:8.11↑ 炎症反応、貧血、肝障害を認めた。 SPO2の低下あり、O2:10使用。 褥瘡あり（左右腸骨部・右背部・仙骨部） 喀痰培養にてMRSA(+)
7	2月8日 ～3月12日	"	肺炎所見あり、リゾン4.5g/日開始。 褥瘡処置も開始。 2月9日、IVHよりエルネオバ1号1500ml開始。 以後、肺炎の再燃繰り返すもゾシン投与にて改 善。 2月29日より、経管栄養をメイバランスR green400mlで開始。 以後、状態安定しているため、3月11日より、 メイバランスR blue500mlx2に変更す。 3月12日、19時経管終了後に容態が急変。 アンビュー、心臓マッサージ、アドレナリン注 等を施行したが、3月12日21時21分、治療の甲 斐も虚しく慢性心不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により 心身ともに著しいストレスを受けたことが大き な原因と思われる。震災がなければもっと長生 きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「99.

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		クリニック通院。 脳梗塞（軽度）
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣	原発事故に伴う避難指示により、自家用車にて川俣に避難。
2	3月19日	さいたまスーパーアリーナ	バスで、埼玉スーパーアリーナに移動。
3	3月20日	東京都府中市	スーパーアリーナ（避難所）での生活は容易ではないので、宅に2時間かけて移動。高齢の為、疲れもあって、会話も少なく食欲も細くなっていた。
4	7月16日 ～8月10日	病院	<p>1週間位前から、頭痛の訴えあり、また熱も出て精神的に不安定だったため、救急車にて立川市の病院に搬送された。 検査の為入院。</p> <p>※入院時の状況 1週間位前からの食欲低下、頭痛にて受診。家族からは、震災後の抑うつ傾向もあり、そちらのケアも可能であれば行なってほしいとの話あり。 採血検査にて貧血あり。胃切除後のvitB12欠乏性貧血も考えられ、vitB12製剤の筋注により治療開始。また、頭痛、抑うつ傾向に関しても精査を進めて行く方針とした。</p> <p>※入院後の状況 貧血に関しては、vitB12製剤の筋肉注射にて改善がみられていた。 頭痛に関しては、頭部CTにて評価を行ったが、器質的疾患は否定的であり、緊張型頭痛や抑うつ傾向に伴う症状と考え、鎮痛薬、抗不安薬にて対症療法を行っていたが、改善はみられなかった。 「原発のせいで故郷を追われ、帰る場所がなくなってしまった。もう楽しみや希望がない。死にたい。」という発言もみられたため、精神科コンサルトを行った。</p>
事情聴取先		住 所	
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		連絡先	
		住 所	
		連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

「99-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
既 病 歴		（□ある：心臓病、高血圧、糖尿病、その他（ ）、□なし）			
月 日	避難先		避難の状況		
			<p>精神科医師の診察にて、震災のストレスによる反応性のうつ病との診断を受け、抗うつ薬にて治療開始となった。</p> <p>その後も状態改善みられず、第15病日午後13時過ぎに、ベッド上で横顔した状態のところを、同室の患者に発見された。すぐに、医師、看護師が訪室し、心肺停止状態であったため、心肺蘇生を開始した。その後、いったんは心拍再開し、ICUにて人工呼吸器管理となったが、その後も全身状態改善せず、8月10日午前3時26分治療の甲斐も虚しく、多臓器不全（低酸素脳症）にて病床で死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため、このような事になってしまった。震災がなければ、もっと長生きし今も存命であったと思われる。</p>		
事情聴取先 <small>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</small>		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯
		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「100」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		胃の全摘出手術をしたため、食事療法をしていた。（約20年位前） 高血圧と肝臓の薬を服用していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日夜	双葉駅駐車場	原発事故に伴う避難指示(3km圏内)により、双葉駅駐車場に避難し、車中で1夜を過ごす。
2	3月12日朝	小高	原発事故に伴う避難指示(10km圏内)により、南相馬市小高区に避難移動する。
3	3月12日夜	原町	原発事故に伴う避難指示(20km圏内)により、南相馬市に避難移動する。 ※胃がないので食事に苦勞する。
4	3月15日	宮城県丸森町	避難指示により、南相馬市が準備したバスで、宮城県丸森町に避難する。 ※食事に苦勞。毎日服用していた薬を持っていたかったため健康状態に不安。食べられないため疲勞。
5	3月16日	栃木県太田原市	避難所での生活は容易でないため、栃木県太田原市のを頼りに、5時間かけて移動。
6	3月19日	埼玉県所沢市	宅は6畳1間のため、家族でお世話になるには狭いため、埼玉県所沢市の宅に移動する。
7	3月20日 ～3月23日	東京(高速バス)～大阪(フェリー)～長崎(バス)～諫早市 (市営災害住宅)	知り合いを頼って、長崎県諫早市に、深夜、高速バス～フェリー～高速バスを乗り継いで長距離移動する。
8	3月23日 ～9月7日	諫早市 病院	いつ揃えるのかと、心身ともにストレスを受け以前よりも血圧も高くなり、生活環境の変化、心労で体重も減っていたが、普段の生活を送っていた。 9月7日、昼食中、急に具合が悪くなり、救急車で病院に搬送されたが午後1時44分治療の甲斐も無く、急性大動脈解離のため死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため死に至った。震災がなければ、もっと長生きし今も存命であったのではないのでしょうか。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯電話

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「101-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		普段と変わりなく過ごしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣町に避難。
2	3月12日	栃木県真岡市	川俣町にて、福島第一原発1号機の爆発を知り、栃木県真岡市に避難。数日前から、体調を崩していた。
3	3月27日	福島市	福島市に移動。
4	5月 3日	いわき市	いわき市のマンションに移動。
5	5月10日 ～5月28日	泌尿器科	腎機能悪化し、透析導入のため、内シャント作成目的で入院。 HD(血液透析)開始後、全身状態良好。食欲も改善し、人工血管移植し、血液透析へ。 症状も改善し、退院となる。 以後、外来透析へ。
6	6月10日 ～7月20日	病院	約1週間前より発熱あり、抗生剤点滴などで解熱したが、めまい、嘔吐出現したため救急車にて来院、入院となる。 入院中、グラフト閉塞を生じ、6/28、ショーンカテーテル挿入した。又、6/12、夜間不穏、右不全麻痺を生じ、脳梗塞として短期間治療する。 その後、再び発熱し、抗生剤点滴治療し、解熱したため、7/20退院となる。
7	8月2日 ～平成24年 4月3日	"	発熱（微熱）倦怠感あり入院。 検査の結果、結核性膿瘍リンパ節炎の診断で、治療開始（内服）。しかし、徐々にADL低下し、摂食困難となつたため、H24.2.23、胃瘻造設したが、誤嚥のため、3/5より胃瘻からの流動食中止、点滴に切り替え抗生剤治療。 3/7透析撤退。3/23透析トライしたが施行不可となり、4/3午後11時35分治療の甲斐も虚しく
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

7101-24

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	

121 / 456

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

記入者

	月 日	避難先	避難の状況
1	震災前	自宅等	〈日常生活等〉 持病の肺炎腫約5年前頃から 酸素吸入器(酸素レベルス)は夜間睡眠のみ使用。酸素ボットも通院時のみ使用 平常使用せず。
2			朝新聞を後箱から自分取出。購読。 朝食後自宅付近を杖を使用散歩(杖なし時) テレビの時代劇・大相撲を観るのを楽しみ
3			平成2年自動車転倒後は平成2年1月に 購入のセパカ(電動4輪車)を自分で運転 1日/2回近所の食品店に行き雑貨等 買物にて帰宅するのを楽しんでいた。
4	3月11日	双葉町役場本庁舎	地震直前は、自宅で楽しみにしていた 11月のパズルをいていた。 屋外・高台、の防災無線でパンプク近くの 野球場の駐車場に移動。 屋内避難、の防災無線で双葉町役場に移動。
5	3月12日	川俣町	東電社員来庁し、用事は大袈裟、巡回する。 双葉町役場を午前6時20分頃、役場職員 が速くに、西に避難を、の大声で本人、私、妻 二男が各自川俣へ(自家用車、酸素ボット 1本、車椅子、本人分乗等)
6			午前11時20分頃避難所の所。 午後3時過ぎ、本人避難所内を困難に 判断し、消防団員、救急隊員と相談。 避難所から救急隊員が病院に連絡
7	3月12日 5月25日	病院	夕方入院 4月上旬川俣町山木屋地区高濃度放射線 量検出。地区住民避難開始5月15。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1			<ul style="list-style-type: none"> 上記の件、前後から病院から家族に対し退院可能な連絡が再三来るようになる。 この間、家族は3月19日さいたまスーパーアリーナ3月30日旧埼玉県立蕨西高校跡へ避難。
2			<ul style="list-style-type: none"> (私・妻・三男の三人、長男は別の避難所へ) 入所中の家族見舞。 4月10日三男(飯坂小、軽自引取り途中) 4月20日私・妻(新幹線福知山駅避難所に) 5月9日長男(新幹線97号利用)
3	5月25日	県借上住宅 (白河市)	<ul style="list-style-type: none"> 5月8日家族(私・妻)白河市の県借上住宅へ入居決定。 5月17日家族(私・妻)白河市のアパートに入居。 5月25日本人白河市のアパートへ入居。
4			<ul style="list-style-type: none"> 5月27日白河[]病院後診。脳脊髄器使用手続完了。後診は第3内科には双葉厚生病院で後診した医師が転勤しており、本人・家族共に安心した。月1回通院。
5			<ul style="list-style-type: none"> 脳脊髄器の使用状況及び日常生活は避難前とほぼ同様。ただし、白河市は交通量が少なかったため、散歩の距離が多少少なくなり、回数も少し減った。
6			<ul style="list-style-type: none"> 双葉町の避難所、同じアパートに住む人から、早朝出勤には「田んぼに行くか」「田植えが済んで、白河に住んでいる事、双葉町に帰る事も理解出来ずに同じ事を何度も繰り返していた。
7			<ul style="list-style-type: none"> 双葉町在住の時より認知症の症状はあったが、震災以後のショック・ストレスでその症状がより進んだ。(新聞を読み、テレビ観る事に)

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

102
No.3

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	6月25～27日 8月23～25日 10月6～8日	シブヤク	家族の一時帰省のためにショートステイをした。 (6月26日, 10月7日, 第3回目 2月18日本人 2月17日退院の決定延長, 2月19日退院) 避難中の親族の慰労会のためショートステイ (3月16日, 名古屋市, 8月23～25日)
2			その他 (1) 9月27日に親の実兄が東京都山手区 9月28日午後1時頃に避難し、入居して 2月17日退院の決定延長, 2月19日退院 9月入居した人を出かけた。
3			(2) 上記以外には私が妻のどちらかがアパート に居る様に心掛けた。買物を短時間で 済ませる様に心掛けた。8月2日
4	11月2日 11月4日 ～11月20日	病院 通院・入院	11月2日前日午後11時30分頃本人自宅の玄関 で転倒。病院後診。肋骨 14箇所骨折。骨折・バネで固定。 11月4日病状良好なため病院へ。市に 水が漏れていて、11月27日退院
5			骨折以降は散歩が少なくなり自宅で過 す時間が多くなった。(寒さが増えた 事で一因ではあるが...)
6			以下 記入者の関係 11月17日午前3時頃、トイレの隣で転倒 朝食吐く。点滴を1本 11月30日朝食吐く。点滴を1本 病院へ病名突発性難聴で入院。 12月22日退院。原因不明で、ストレスあり。
7	平成24年 1月20日 2月19日	病院 通院・入院	難聴が進行。入院、私の入院でストレスが 増大。1月20日から毎日9時入浴後息苦しい状況になり 酸素レベルが15月下旬から下りてきた。 (入浴後30分間) 1月20日、息苦しいと病院

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

102-
No.4

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1			<ul style="list-style-type: none"> 1月20日通院。アパートは寒く、父の病状悪化を防止するため、医師に相談。入院2月19日入院 父の病状悪化を入院と介護。父の入院、完治していない難聴の時の通院等とその他費用が重なり、家族全員がストレスが溜まり、大声を出したり、喧嘩が多くなった。
2			<ul style="list-style-type: none"> (2男12月下旬から同居) 上記の状況になった際に、ケアマネジャーが介護の軽減、毎日入浴は本人の負担に保てるため週2回入浴した週3回のデイサービスを行う「ケアプラン」提案され、ケア先の手配をお願いした。
3			
4	2月24日	デ-サービス	<ul style="list-style-type: none"> デ-サービス開始。(週2回)本人はカラオケ・入浴等があり、デ-サービスの日を楽しみにするようになった。自宅毎日やっていたスポーツの雑誌や筆記用具も持参していた。
5	3月4日	本人・家族の通園 転出に付	<ul style="list-style-type: none"> 3月4日長男休暇で白河に。12月の年末年始以来の長男の転出。再度訪有。 3月6日白河町に転出。2男下見。 本人の健康状況も改善し、長期の白河での転出は困難と家族で相談。同時に
6			<ul style="list-style-type: none"> 本人の難聴・完治状況も家族の通園生活からのストレスも軽減させるため、父の介護施設等に入居させるとし、3月7日県備上住宅申請。2男も2男も白河町のケアマネジャー等に介護施設入居に付をお願いした。
7			<ul style="list-style-type: none"> 3月26日白河町の県備上住宅決定。しかし、通園(特に白河地域)の介護施設は震災により介護職員不足の運営が激しく、父の入居先がなかなか決定しなかった。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「102」

震災後から死亡までの経緯について

No.5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1	4月5日	いかり	<ul style="list-style-type: none"> 4月5日父の入居施設決定。準備上住宅申請。入居先は高齢者共同住宅。 4月11日父の入居関係の介護担当者等が白河市の当方アパートに集合し、打合せ。その話
2			<ul style="list-style-type: none"> 合いの中で、私から配偶者(母)を転倒し後死(端因で...)父を双葉町在住時、白河市の避難中に1度転倒を説明。高齢者の転倒が重大な決断をせよと説明
3			<ul style="list-style-type: none"> 日に積りだす。入居先の介護担当者との重要性を認識出来たかどうかは不明。 4月13日本人の体調不良を言う。新発病院。加藤医師が血液中の酸素量を数値が前より悪くなっていると言われた。
4			<ul style="list-style-type: none"> 4月17日いかり市入居先に入居。 4月23日私妻・二男が野町入居完了
5	4月25日	病院(いかり市)	<ul style="list-style-type: none"> いかり市から西条吸入器使用の経緯を説明。その際に医師から「血液中の酸素量が少ない。今日の酸素レベルに達しない。心電図も異常がある」と言われた。(その時同行)
6	4月27日		<ul style="list-style-type: none"> 午前5時巡回時異常なし。酸素の管は外れていた。午前7時巡回時に転倒発見。その時は本人大丈夫、言っていた。午前8時朝食。午前8時半頃朝食を吐いた。看護士が駆けつけ、管理室から救急車を呼んで対応した。
7			<ul style="list-style-type: none"> 管理者が来た。たんたん様子が衰えにわたって、救急車で病院へ本人を搬送された。 住居の日常生活状況。いかり市から巡回する際に酸素の管を外

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

702 -

No. 6

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1			<p>お隣に居た。</p> <p>(2) 同じ3階の12号室出身の居者の部屋に行き話をする事が多かった。4月時を過ぎるのを外にいた。</p> <p>(3) 自宅を食事に居る事が多かったが4月26日は「皆と一緒に食事した。皆がホールで食事した。介護の人は何時も違う人だった。」</p>
2			
3	4月27日	病院	<p>「本人自室で転倒し、救急車で病院入院。は9時20分頃電話で知る。途中国道6号線まで交通事故現場で渋滞し、病院到着は11時少し過ぎた。</p> <p>最初には整形外科、病状悪化する。病室移動を呼吸器科に回された。</p>
4			<p>* 担当医師の話。</p> <p><整形外科医師></p> <p>「大腿骨を骨折してる。呼吸器が良くないから麻酔科医師の協力が要。手術が出来ない手術が必要。手術が終われば車椅子の生活になる。怪我より呼吸器の方が心配だ。呼吸器科の医師の話は聞いてもらう。」</p>
5			<p><呼吸器科医師></p> <p>「骨折より呼吸器の方が大変だ。危篤ではないが危篤に近い状況だ。」</p>
6			<p>・ 午前中は本人が苦しいという話の話し掛けがあった。</p> <p>(家族が掛けた時は意識がなかったと聞かされた。)</p>
7			<p>・ 午後3時頃急に呼吸が苦しくなる。</p> <p>・ 午後4時頃から危篤状態になる。</p> <p>・ 午後4時27分病室にて死亡。</p> <p>直接死亡肺気腫、影響と及ぼした傷病は大腿骨骨折。</p>

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

rod -
No. 7

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況
1		申請に付て、	高齢者父あり、地域で「絆」と平然と日常生活を営み、かつ避難生活に環境での避難生活を強いた震災、原発事故により著しいストレスを受け、病状の進行を早め、結果死期に至った。震災・原発事故がなかったらもう少し長生き出来た事と思える。
2			又、震災・原発事故の影響により、福島県特に茨城県地域の介護要員の不足と、その質の低下を招いた面がある認識せざるを得ない事で、父の死期を早めた要因の一つと考えられる。
3			最後に、これまで父が長命で漫然事が出来たのは、携わった医療・介護関係者の適切な親切な対応があったからであり、亡き父に代り深く感謝申し上げます。
4			特に避難者特に高齢者、病弱者がいかに厳しい状況に晒されているかを明らかにするために取って申請に踏み切った次第です。
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		平成5・7年頃、両人工膝関節置換術 時期不明…心房細動・ペースメーカー植込み術 脳梗塞 平成20年…脳梗塞再発
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日		午後2時頃、県警から避難要請あり。 震災後、エレベーターが止まったため、入院患者全員を職員4人1組となって、シーツに患者を乗せ、一人ずつ階段を使って一階フロアまで搬送。機動隊のバスが到着したが、一階フロアに寝かされた患者たちの様子を見て、バスによる搬送は無理と判断し、患者を病室に戻す。
2	3月13日	〃	医師、看護師、医療スタッフ等による管理下で入院治療を継続。
3	3月14日	〃	午後4時頃、自衛隊員により避難要請あり。 入院患者全員を一階フロアまで再度、シーツに乗せて階段を降りて移動させる。その後、福島に搬送。
4	3月15日 ～ 3月24日	福島県	原発の避難指示のため、浪江町から避難し、炎症反応高値のため入院となる。気管孔があるが、8Frのサクシジョンチューブも入らない。鼻腔より多量にドロドロ痰引ける。SP0293%、家族の付き添いない。四肢拘縮あり。気管孔があるが、吸引することができない。痰は多く、呼吸状態悪い。
5	3月24日 ～ 5月16日	埼玉県	震災の為、療養病院から病院へ避難し、3/24、後方支援のため埼玉県へ転院。 転院時、軽度低Na血症、仙骨部褥瘡（びらん）等を認めたが、全身状態は比較的安定していた。診療録等は紛失しており、病歴の詳細は不明だが、頭部CT等により脳梗塞後遺症と考えた。両片麻痺、病巣からは失語症の可能性はあるが明らかなeye contactなく、追視・従命は不能で、apallish state疑われた。経口摂取不能でPTEG造設、膀胱カテーテル留置中。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

「103-2」

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況
			<p>呼吸はCheyne-Stokes様で無呼吸を認めるが、SpO2 96-98%(room air)。痰の自己喀出困難で時に吸引が必要だが、入院中明らかな肺炎等はなかった。AfはHR70-100台で経過(時にECG上、pacing波形有)。Wararizationし、投薬にてPT-1NR 1.53~2.02。</p> <p>※看護記録</p> <p>入院時より痰がらみが多く、頻回に口腔内からの吸引を要するものの、嘔吐反射が強く、有効的な吸引が行えていなかった。食道瘻についても詳細不明にて使用できず、鼻腔より胃管カテーテルにて栄養注入を行っていた。</p> <p>造影検査を行い、食道瘻が問題なく継続できることを確認、4/4より食道瘻からの経管栄養注入を開始した。経管栄養を2時間前後の時間をかけて滴下するようにし、滴下終了後も30分以上経過してから吸引することで、嘔吐や逆流なく経過した。時折、37℃台前半の発熱がみられるが、肺炎像は見られず経過した。</p>
6 5月16日 ～ 平成24年 6月21日	[redacted] 病院		<p>※検査所見、病状経過、治療経過</p> <p>【入院時身体所見】</p> <p>血圧111/72mmHg、脈拍100/min(整)、体温36.5℃、SpO2(room air)99%。心音：正常呼吸音：正常。腹部：soft, fatty。四肢：浮腫なし。</p> <p>(神経学的所見)</p> <p>意識：失外装状態。意思疎通不能。重度の四肢麻痺(特に右半身は完全麻痺)。深部反射：右上肢正常、他は衰弱傾向。Babinski徴候陰性。</p> <p>【検査所見】</p> <p>尿：Prot(±)、Glu(-)、OB(-)、WBC(3+)。杆菌(3+)。便潜血(-)。血算：WBC 6200、Hb 12.3。生化：TP 7.1、Alb 3.5、BUN 28.6、Cre 0.56、BS 106、HbA1c 5.0、AST 2.8、ALT 35、CPK 41、Na 140、K 4.4、CI 103、CRP 0.1</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	
		連絡先	自宅・携帯
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「103-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所	
			生年月日	
	3月11日現在の現住所(入院先)		震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況	
			<p>心電図：頻脈性心房細動、完全右脚ブロック 胸部X線：明らかな浸潤影なし。頭部CT：左中大脳動脈領域、右内包後脚に陳旧性梗塞。中等度脳萎縮。心エコー：左房拡大、両心室肥大。腹部エコー：胆嚢壁肥厚。胃カメラ：びらん性胃炎、十二指腸潰瘍(S1 stage)。</p> <p>【入院後経過】 意識障害(失外装状態)が遷延し、食事摂取不能のため、人工呼吸を継続しつつケアを行った。9/20、胃瘻造設施行。しかし、肺炎を繰り返すため経管栄養を断念、中心静脈栄養に移行した。平成24年3月5日頃から、うっ血性心不全が急速に悪化し、3月30日午前10時4分うっ血性心不全のため、病床にて死亡。 脳梗塞後遺症(重度の意識障害及び四肢麻痺)及びうっ血性心不全を抱えた状態で、福島から東京への避難生活を余儀なくされたことは、多大なストレスを及ぼした可能性が高い。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		何不自由なく、毎日元気に生活していた。 自分の好きな野菜を作り、子供、兄弟に送り楽しんでいた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	郡山市	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で避難。
2	3月13日 ～3月16日	須賀川市	須賀川市に移動。
3	3月16日 ～5月17日	埼玉県新座市	埼玉県新座市に移動。
4	5月18日 ～平成24年 3月6日	茨城県石岡市	普段と何ら変わりなく、元気に生活していた。 一時帰宅してからは、心身ともに著しいストレスを受け、満足に眠れない生活が続いていた。
5	3月6日	茨城県土浦市 病院	3月6日、午後急に具合が悪くなり、 病院受診。脳梗塞を発症し入院となる。 ※入院時の状況 来院時、重度の左麻痺があり、緊急で血管内治療を行ったが、脳こうそくの進行を防ぐ事は出来なかった。
6	4 月	〃	4/10日頃から肺炎を併発。 4/20日から挿管管理となった。 4/24日から人工呼吸器管理を開始。
7	5 月	〃	集中的治療を継続したが、改善は得られず、全身状態が徐々に悪化。
8	6月6日	〃	経過中に肺炎を併発し、6月6日午前4時55分、治療の甲斐も虚しく脳梗塞のため、病床にて死亡。生活環境の激変によるストレスが発症に影響したものと思われる。（医師の所見） 震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「105-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	浪江町	脳性小児麻痺にて寝たきり。 原因不明のCRFにて、浪江町にてHD導入。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	病院 福島市	原発事故に伴う避難指示により、 病院に搬送されるも、水道が断水状態で透析治療は不可能であった。
2	3月16日 ～4月28日	病院	<p>※搬送時の状況 3/16日、病院入院の透析患者とともにバスで搬送されてくる。（10人程度） ※経過 震災後13日に前医で透析が行われ、16日に救急搬送されてくる。 来院時より収縮期血圧80台と低血圧を認め、ICU入室の上CHDFを施行。むしろ震災後体液量は低下しており、溶質除去のみを行った。CHDF中血圧は90-100mmHgで安定して経過。17日11時でCHDF終了。その後、週3回（月、水、金）血液透析へ移行。 前医では、毎回大腿静脈直接穿刺が行われていた。入院後は、左内頸静脈にvascular accessカテーテルを挿入して透析を施行していたが、4/5より右腋窩からのバスカテに交換。（右内頸は頸の保持が不可能、鼠経は両下肢の極端な屈曲の抑制困難のため、当初鎖骨下へ挿入予定であったが、体位不良のため鎖骨下静脈が抽出できず、腋窩からのアプローチとなった。） 挿入部が腋窩で易感染が予想されたことから、挿入後は5～7日毎のVCMIgを予防的な観点で投与した。 4/19、左肘部に内シャント造設術を施行したが転院先が急遽決定したためシャント穿刺は行っていない。 その他、脳性麻痺、カテーテル感染 4/28 病院へ転院。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

105-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況
3 4月28日 ～7月26日	<p>病院</p>		<p>4/28 病院から転院。</p> <p>※入院時診断名：慢性腎不全・脳性麻痺 病院で、左内シャント造設していただいたので、病院では、初穿刺施行して、ブラッドアクセスは良好。不随運動やジストニアなどがあり、透析中四肢固定し透析可能。寝たきり、食事は全介助。</p> <p>※治療経過 入院経過観察中、6月初旬には、舌と唇を含めた全身ジストニア増強により燕下困難となった。小児麻痺の進行に伴うものと判断されました。全身衰弱から一時は生命の危険がありましたが、服薬治療にて安定してきた。家族には、急変のリスクがあり、今後透析を離脱せざるを得ない状況になる可能性も高いことを説明。急変の時はDNRの方針だった。</p> <p>※退院時診断名：慢性腎不全・脳性麻痺</p> <p>※退院処方 ①ギャバロン錠5mg ②ネオドバストン配合剤L100 コムスタン錠100mg ③D-ソルビトール内用液75% 精製水〔滅菌・内服用〕 ④タケブロンOD錠15mg ⑤ハルシオン錠0.25mg ⑥ホスレノールチュアブル錠250mg ⑦ミオナール錠50mg</p> <p>7/26 病院へ転院。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

105-3.

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
7月26日 ～ 平成24年 6月14日	病院	<p>7/26 病院より転院。</p> <p>※転院時の状況 HD目的で紹介転医入院加療。 日常生活自立度C2、不随意運動(+)、認知症(-)、全身ジストニア(+).</p> <p>※入院中の状況 入院にて、週3回のHD施行。 8/2より、脳性麻痺にてリハビリテーション開始。 24.6.14 発熱KT37℃前後、急性肺炎発症。 抗生剤注施行、全身管理とするも、急性心不全発症。 午後7時54分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため病床にて死亡。 たび重なる転院のための移動、過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死期を早めた。 震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>	
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。			
		氏名	住 所
		連絡先	
		連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

106-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		1月6日～3月3日まで、病院入院。 退院後、2回目の外来通院が、3月11日で3月22日の入院予約をして帰宅。少し過ぎて震災に遭う。
	月 日	避難先	避難の状況
1	平成23年 3月11日	双葉中学校	3月11日夕方、双葉中学校に避難したが、あまりの混雑に大事を取り、に避難。
2	3月12日	南相馬市小高区 飯館村	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で南相馬市のに避難。夕方、更に避難指示により、飯館村のに避難する。
3	3月12日 ～3月15日	飯館村	13日朝、双葉町民が川俣町に避難している事を知り、3月11日に石熊公民館へ避難した子供家族を探す。午後再会し、大熊の避難先(田村市)へ向かう子の妻と別れ、子と孫と共に行動。15日午後新潟へ向かう。
4	3月15日 ～3月17日	新潟市内 小千谷市	15日深夜、新潟市内に入り、新潟保健所の指導でスクリーニングを受け、幸いにも全員大丈夫で、16日未明ホテルへ。 16日、柏崎市内で携帯の充電等の用品を求め宅へ泊るが、子供、病人には寒さ等があまりにも過酷なため宅へ移動する。
5	3月17日 ～7月3日	千葉県八街市	3月18日、病院へ22日の入院を問い合わせるも、原発事故避難病院の対応で受け入れは不可とのことであった。の主治医の最大限の努力により、3月25日、千葉県を受診することが出来た。ベッド空きを待ち、4/5入院し治療再開。 ※受診経過 3月-3/25外来受診 4月-4/5～4/11化学療法のため入院 4/14・4/21・4/26外来受診 5月-5/23～5/27化学療法のため入院 5/10・5/17・5/31外来受診 6月-6/7・6/17・6/20・6/22・6/28外来受診 以上のように、6月末まで度々の検査通院する。医大が通常通り外来受診も可能とわ
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

106-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
6 7月3日～ 24年6月19日	郡山市富久山町	<p>かったので、郡山市に移動。 千葉県で、3・4コースを施行し 4コース終了後の効果判定ではSDとなる。 その後、福島県に戻り、7月19日から再び 病院で治療を行うこととなった。 10/11日に再発が確認される。（原発事故 による避難により、予定していた科学療法・内 視鏡的治療が遅れてしまい、化学放射線療法後 の再発、病勢が悪化したと考えられるとのこと であった。） 以後外来にて経過をみていたが、再発→気管内 腫瘍焼灼術→化学療法を繰り返していた。 4/13日には気管内ステントも留置し、以後 TS-1内服継続し、やや状態安定していたが 5/17に右気胸がみられ、緊急入院した。 入院中膿胸も併発し、また肺癌の進行もみられ 6/19日死亡。 ※受診経過 7 月-7/9外来受診 8 月-8/6外来受診 9 月-9/13外来受診 10月-10/4・10/11・10/19・10/20入院し、 気管支鏡下腫瘍焼灼術施行 10/26～10/31外来受診 11月-11/7外来受診 12月-12/8・12/15・12/19・12/26外来受診 1 月-1/4・1/23外来受診 1/12～1/16入院 1/30～2/13入院 2 月-2/28外来受診 5 月-5/17緊急入院 以上のような経過をたどり、6月19日午後11 時18分、治療の甲斐も虚しく病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、 心身ともに著しいストレスを受けたことや 何よりも、予定していた科学療法・内視鏡的治</p>	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		
	連絡先	自宅・携帯	
	氏名		
	連絡先	自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

106-3.

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
		<p>療が、スムーズに施行できなかったことが非常に残念でなりません。このようなことがなければ今も存命であったと思われる。</p>	
<p>事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名	
		連絡先	自宅・携帯
氏名		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

r107-11

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		自宅にて療養中。
	月 日	避難先	避難の状況
1	平成22年 9月28日 ～ 平成23年 3月11日	震災前までの病院での診療状況等	<p>9/28 病院からの紹介で受診（初診） 精査目的で消化器科入院。</p> <p>10/7 検査結果を本人、家族に説明。以後、OP 適応でないため化学療法を実施。 症状安定で11/8一時退院。 なお、食事は糖尿があるため、糖尿食メ ニューをとられる。</p> <p>11/19・11/26 外来での化学療法・主治医の診察及び検査。</p> <p>12/10・12/17・12/24 外来での化学療法・主治医の診察及び検査。 ただし、12/24は診察、検査のみ。</p> <p>1/7・1/14・1/28 引き続き、化学療法、診察、検査の実施。 1/14は診察、検査のみ。 OP適応でないが、症状は安定。</p> <p>2/14・2/18・2/25 外来での化学療法・主治医の診察及び検査。 症状は安定。</p> <p>3/11 外来での化学療法・主治医の診察及び検査。 症状は安定。</p>
2	3月12日	川俣町	<p>原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川 俣町に避難。 1,500人の避難者と生活。 寒さとの戦いであった。</p>
3	3月19日	埼玉県行田市	<p>医者にかかることも出来ず、体が弱ってくるの がわかったので、子供に頼んで義弟の家に避難 をさせる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	<p>住 所</p> <p>連絡先</p> <p>住 所</p> <p>連絡先 自宅・携帯</p>

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「107-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	住 所		
	生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
4 3月22日	埼玉県川口市	3/22 病院外来受診。 本人希望により、避難先への転院を希望され、紹介状作成。 病院での病名：脾癌、転移性肝腫瘍、高血圧、2型糖尿病 弟の家も狭いので長くはいれなかった。 また、病院を探すために、姉をたよりに川口市に移動する。	
5 3月25日	川口市	3/25川口市 受診。	
6 4月4日 ～4月6日	〃	4/4～4/6入院 脾癌、肝転移 科学療法導入。 その後、週1回通院。 外来にて化学療法施行。	
7 5月	〃	5/2・5/9・5/16・5/23・5/30 週1回外来にて化学療法施行。	
8 6月～ 平成24年 4月9日	〃	6月から、2週に1回に変更し、H24.4.9まで科学療法施行。	
9 平成24年 4月26日 ～5月8日	〃	容態が悪くなり、4/26～5/8まで入院。 腹部膨満、疼痛、緩和目的入院。	
10 5月23日 ～6月20日	〃	5/23容態悪化で入院するも、6/20午後6時50分治療の甲斐も虚しく脾体部癌により、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスや適切な治療を受けることができなかったため死期を早めたと思われる。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住 所	
		連絡先	自宅・携帯
	氏名	住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「108-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		<p>普段の生活を送っていた。 医大には定期的に通院していた。</p>
	月 日	避難先	避難の状況
1		震災前の状況	<p>H21.3.16から右目の視力低下を自覚、双葉厚生病院を受診したところ、右眼視力(0.01)で、眼底には異常所見を認めず、造影MRIにて頭蓋内視神経の造影効果、軽度腫脹を認めたが、眼球運動時痛は認めなかった。右眼鼻側の視野欠損があり、視力は手動弁まで低下。 虚血性視神経炎の疑いで、3/27～3/28・4/1～4/3、ステロイドパルス療法を施行。その後、プレドニン40mgから漸減し、4/14受診時には右視力(0.9)まで改善。 4/18頃から再び視力低下し、精査加療目的に眼科紹介。 サルコイドーシスを示唆するぶどう膜炎所見を認めず。ステロイドに反応したことから、視神経炎、サルコイドーシス等炎症性疾患を鑑別とし、4/22ACE、抗核抗体、アクアポリン4抗体測定し、神経内科受診するも確定診断に至らず。その後は、双葉厚生病院眼科でフォローされていたが、7/6、同院でのMRIで明らかに右視神経に腫瘍様病変の増大を認め、手術目的で8/16、病院脳外科入院。 8/20、開頭し、視神経部腫瘍からの生検施行し悪性リンパ腫の診断が得られたため血液内科紹介。 9/3、独歩退院。 右眼以外には明らかな神経欠損症状認めず。</p> <p>※外来受診状況 平成21年…6/25・7/14・12/18 平成22年…3/10・5/12・5/19・6/2・7/14・8/25・10/20・12/15</p> <p>○特に大きな変化はなかった。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「108-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
2	3月12日	川俣 福島	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣に避難。夜は、息子の寮に1泊する。
3	3月13日 ～3月15日		に移動。 症状変化なし。
4	3月15日 ～4月5日	福島	福島に移動。 症状変化なし。
5	4月5日 ～4月16日	福島	福島に移動。 症状変化なし。
6	4月16日 ～4月18日	猪苗代	猪苗代に移動。 症状変化なし。
7	4月18日 ～9月16日	福島市	に移動。 症状変化なし。
8	9月16日	応急仮設住宅	応急仮設住宅に入居。 症状変化なし。
9	平成24年 3月22日	病院	<p>※入院時の状況 3/22、仮設住宅で倒れているのを発見され、救急車で病院に搬送される。 深昏迷状態。脳CT、CTAで左被殻出血を認め、緊急内視鏡下血腫除去術施行。造影では明らかな異状血管、腫瘍再発所見は認めなかった。</p> <p>※入院後の状況 術直後CTで後出血一部有り、脳浮腫も顕著なため、人工呼吸管理のままボナール治療開始。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「108-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
月 日	避難先		避難の状況		
3月22日 ～6月21日	#		3/23 PIC挿入。 3/26 脳CTで血腫増大無く、ラボナール終了。 3/28 痰量多く、高CPK血症あり、ユナンジ3.0g/日開始。呼吸器離脱。吹き流しへ。HCP転床 3/30 3/28の痰培養結果 陰性。 4/2 抜管。呼吸様式は安定。 4/10 脳MRIで造影病変の不規則拡大有り、悪性リンパ腫を強く疑った。 4/19 内視鏡下血腫及び壊死組織除去術施行。病中病理検査ではML再発と判定。 5/7 照射開始。左右60Gy/30f 6/18 脳CT 腫瘍縮小。MS著名改善。照射終了。脳MRI 左前頭葉病変は縮小したが、小脳虫部深部に別病変有り、側脳室後角にもあり。 6/21 病院に転院。 ※外来受診状況 平成23年…3/30・5/16・6/27・7/25・8/8・8/29・9/12・11/7 平成24年…1/23・3/19 ○特に大きな変化はなかった。		
6月21日 ～6月28日	病院		6/21、病院より転院。 毎日、面会に行っていたが、ほぼ意識のない状態であった。 6/28 午後7時頃、容態が急変したとの連絡を受けたので、病院にかけつけたが午後9時20分上部消化管出血のため病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活や原子力災害により心身ともに著しいストレスを受け家族に暴力的になり、別居生活を強いられた結果、病状の変化発見の遅れに絡った。震災がなければ、もっと長生きし今も存命であったと思われる。		
10					
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所		
	氏名		連絡先	自宅・携帯	
	氏名		住 所		
	氏名		連絡先	自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

109-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	住 所		
	生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について
1			数年前に心臓病（弁に異常があり、血液が逆流）の手術を受け、であった。日常生活には全く問題なく、シルバー人材センターで働くほど元気でした。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉中学校	地震により、双葉中学校に避難。
2	3月12日	田村市	原発事故に伴う避難指示により、知り合いの車に相乗りして、田村市に避難。
3	3月15日	埼玉県川越市	にお願いし、お世話になる事に決まり、娘の車で10時間以上かけて移動。ガソリンが不足して、何時間も並んで補給するなど、かなりの時間を要したが、体調は良かった。
4	3月30日	川越市	毎日服用している病院の薬が不足してきた為、近くの病院を受診した。診察のレントゲン検査で異状が疑われ、医療センターの腫瘍科を紹介される。
5	4月 5日	医療センター	詳しい検査のため、検査入院することになる。気持ちも不安な事もあり、家の心配もあり、元気がない時もあったが、食事等はきちんととれていた。検査結果は左上顎癌であった。引き続き、入院し治療する事となる。
6	4月12日	〃	上顎洞開窓術で病巣を取り除く手術を受ける。
7	5月 ～6月	〃	放射線治療や抗ガン剤治療で、病巣もだいぶ小さくなり、本人も元気に回復していった。日常生活を普通に生活できる回復力で、退院も近く予定の日々であった。
8	7 月	〃	体調も良く、毎週末は外泊許可がでていた。外泊の際は、大好物の食事をリクエストする等又、外食したり映画を観に出かけたり、病気とは感じられない位の元気な様子だった。
9	7月23日	借上げ住宅 埼玉県坂戸市	医療センターを退院し、埼玉県坂戸市のアパートに戻る。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「109-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
		〃	入院前と同じ日常生活が送れていて、家族皆と楽しく生活できた。でも、故郷にに戻れないストレスや今後の不安等で、すごく悩んでいる様子は入院中からあり、先生にも悩みを打ち明けていた。精神的なストレスから血圧も上昇ぎみだった。
10	8 月	〃	入院していた〃医療センターには、定期的に（月1～2回）通院していた。抗がん剤の服用の効果もあり、現状維持で経過は良好であった。しかし、故郷の事や、帰れないストレスで血圧は上昇が続き、7月末から血圧の薬が処方されるようになった。
11	9 月	〃	定期的に通院して検査。薬の効果がよく、癌も現状維持で良好。特別な治療もなく、普段通りの生活を送っていた。しかし、血圧の薬は手放せなくなっていた。
12	10月 ～11月	〃	定期的に通院して検査。薬の効果がよく、癌も現状維持で良好。特別な治療もなく、普段通りの生活を送っていた。しかし、血圧の薬は手放せなくなっていた。 長年住んだ双葉町へ、早く帰りたいと何度も言うようになっていて、見ていて可哀想だった。片づけられない自宅を気にかけていた。
13	12 月	〃	11月末から血圧の薬が増加した。ストレスからか、血圧がさらに上昇しいて心配していた。次の検診で先生に相談しようとしていた矢先に、自宅で倒れる。
14	12月21日	〃医療センター	21日の夕方5時頃、ろれつが回らないような状態となったため、救急車を要請、〃医療センターに搬送される。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「109-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
15	12月21日 ～ 平成24年 2月1日	〃	CT検査の結果、脳出血と診断。同日、脳室ドレナージ術を行った。 1月6日、ドレーン抜去困難となり、同日、神経内視鏡手術。手術後は、重度の意識障害が残り反応できない入院生活が続いた。
16	2月2日 ～6月30日	埼玉県	埼玉県毛呂山町 に転院。 意識障害は回復することなく植物状態のまま。意識障害があると、癌治療も制限された。そのため、進行も早く、可哀想でならなかった。 倒れる前は、悩みこむ事が日々増し、ストレスも限界だったんだと思う。ストレスなく生活が出来ていけば、脳出血も防げたと思う。癌治療も頑張り、体も元気に回復して、日常生活を送っていたのだから、まだまだ長生き出来たはずである。脳出血で倒れる前、双葉町の事をたくさん話してくれました。大好きな双葉町に戻り生活できることを心から望んでおりました。 父は、本当に双葉町が大好きで、一日も早く復興されることを願い、自分も一生懸命頑張っていました。6月30日午後1時44分、左上顎癌のため、病床にて死亡。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯
		氏名	
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「110-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	グループホーム 富岡町	心臓病の薬は内服していたが、日常生活は声かけ、見守りにて生活できていた。グループホームで、毎日バイタルチェックし異常なく月に一度今村病院の往診を受けていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日 ～3月12日	富岡町	震災時はグループホームにいたが、余震が続くことと物品が散乱したので、危険回避のため、道路向かいの に避難する。余震とライフラインの中断により、真っ暗の中で不安な夜を明かした。
2	3月12日 ～3月16日	川内村	20km圏外への避難指示があり川内村役場に行く。認知症高齢者の事業所であることを説明しそば屋の座敷を借りる。40人収容のところ65人が入ったので、横になると重なり窮屈だった。水素爆発の後、暖房が使えず寒さと恐怖で眠れない夜を過ごした。食事は、役場から離れた避難所のため十分に届かず、当事業所管理者が福島市から購入したパンやカップめん、牛乳などを食べる。連日、テレビで津波、原発事故の様子を知り不安が増した。
3	3月16日 ～3月22日	福島市	30km圏外への避難指示が出たので福島市に向かう。途中、葛尾村で雪と雷で真っ暗の不気味な天候、5時間位車で移動し、に着く。移動で疲労困憊の様子が見られた。グループホーム協賛会の会長の世話により、食料、居住ホールなどの支援を受け、布団に寝ることができ、お風呂にも入れた。慣れないところでの不安があり、環境の変化が認知症状に影響した。「大変なことになった」と興奮し、眠れない日が続いた。他事業所のため、長居はできないと、福島市内にアパートを借り全員で引っ越す。
4	3月22日 ～10月11日	福島市内	アパートの1階部分、10部屋を借り、2～3人ずつの共同生活をする。初めは自分たちのアパートと安心した様子が見られた。体力を消耗したのは、浜通りの涼しい気候で過ごしていたのと違い、中通りの盆地の蒸し暑さは耐え難いものだった。食欲が減り、食事の時間以外は横になることが増えた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「110-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先	避難の状況		
5	10月11日 ～	大玉村仮設住宅 グループホーム	大玉村の仮設グループホームは、従来のグループホームのようで各自個室があり、食堂とホールには皆で集う広さが確保されていた。「富岡に全員で帰ろう」「大玉に全員で行こう」を合言葉に頑張ってきた。しかし、高齢者にとって十分に食事がとれなかったこと、故郷にいつ戻れるかわからない不安はかなりのストレスとなった。日々、食欲が減退し行事に参加することが少なくなった。		
6	平成24年 1月～6月	〃	ベッド上での全介助の生活となる。食事は車イスにて職員の全介助にて移乗、初めは自力で摂取するが、疲労感あり残り半分は介助する。息子夫婦、親族の面会が多く、面会のたびに活気を取り戻す状態となる。冷たい水が飲みたいと、夜間「みずー」と4～5回飲水を介助する。6月～全介助にてゆっくり入浴する。6月15日、ゆつくりと目を閉じて食事する。38℃の発熱あるが、息子様の買ってきたビールを、おいしそうに飲む。6月17日、発熱し食欲なく、下肢のむくみがあり、活気なく体力の減退が心配で、18日、〃病院外来を受診する。検査の結果、KT39.3度、血糖400代、入院し点滴にて治療開始する。入院し、酸素療法、点滴などの治療をするが、徐々に全身状態が衰弱し、7月9日、治療の甲斐も虚しく、呼吸不全により病床にて死亡。震災により、避難先を6回も転々とし、テレビの報道により「30年は帰れない」と知らされることは、故郷を想う気持ちが強ければかなり強いストレスとなったと思われる。また、防護服を着た双葉郡の映像を見るたび「戦争よりもひどいことになった」との言葉を何度も聞いている。震災がなければと残念である。		
7	6月18日 ～7月9日	〃病院			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名		住所	
				連絡先	自宅・携帯
		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「111-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」入所中	車イス使用。ほぼ全介護状態。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	福島県	原発事故に伴う避難指示により、自衛隊の車で福島に避難。
2	3月17日	介護老人保健施設	発熱等もあり、避難所での生活は無理であるとの判断から、老健施設に受入れてもらう。 ※入所時の状況 入所後も、KT37℃台の熱が続き、4日目には、KT38℃台まで上昇する。しばらくは個室を準備できない状況で過ごす。昼夜ともに「アーアー」と大声を出すこと多く、職員が声をかけると、一時的に落ち着くも、すぐに声出しがはじまり、精神的に不安定な状況であった。食事については、介助にて全量摂取されていたが、水分にはむせりが見られていた。日常生活は全介助。
3	4月	〃	4月に入り、熱が落ちつき、KT36℃台で経過。少しずつ笑顔が見られるようになる。また、個室でゆったり過ごせるようになり、週2回お風呂にも入っていた。
4	5月	〃	食事以外でも、リクライニングの車イスに起きて過ごし、体操等にも参加されていた。他者との交流はなし。発熱もなく、夜間は良眠されていた。
5	6月	〃	声かけに「ありがとう」や「どうも」等の発語が聞かれるようになる。食事も摂れており、当施設にも慣れてきた様子であった。
6	7月	〃	一般状態は安定していたが、食事面でむせりが多くなり、入所時よりもろみ剤が多くなる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「111-2」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所	
			生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況	
7	8月 ～11月	〃	一般状態は安定し、身体機能変わりなく過ごされる。食事や各種活動参加のため、ベッドから離れてリクライニング車イスで過ごしていた。声かけに笑顔が見られたり、自分の意思表示もあった。夜間良眠。	
8	12月	〃	食事中、後のむせりがさらに多くなる。日中は、ベッドから離れて他者と一緒に過ごす。排便後は、職員を呼んだり、声かけに対する返答聞かれる。体調崩すことなく状態は安定。穏やかに過ごされていた。身体機能も変わりなく、日常生活は全介助。食事は全量摂取。	
9	12月26日	特別養護老人ホーム 〃	〃より移動。 バイタル安定していたが、長距離移動のせいか2～3日後に発熱。 1週間位続く。	
10	24年1月	〃	時々微熱がでるが、クーリング等にて落ち着く。食欲もあり変わりなく過ごす。	
11	2月	〃	2月9日、夜間にけいれん発作にて、〃病院へ緊急搬送されそのまま入院となる。 24日退院。 食事の飲み込みが悪くなる。	
12	3月	〃	食事が摂れるようになり、変わりなく過ごしていたが、22日より発熱、販薬等により様子をみていたが、微熱が続いたため、主治医より入院しての治療が必要との事で、湯本病院へ入院となる。	
13	3月26日	〃病院	3月26日、特別養護老人ホーム〃より入院となる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯
		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「111-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況
14 3月26日 ～7月18日	病院		<p>3/26 特別養護老人ホームより入院。</p> <p>①急性肺炎②ショック状態③汎発性血管内凝固症候群と診断。</p> <p>鎮痛剤服用していたが、ショック状態となり、静脈注射剤に変更して治療継続する。</p> <p>輸液、抗生剤、強心利尿剤により、ショック状態から離脱したが、肺血症から多臓器不全を併発し、7月18日午前6時48分、治療の甲斐も虚しく低酸素血症により病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活により、免疫力低下を生ずる状態が存在したことや（環境、栄養、介護医療）、原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたことが大きな原因と思われる。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
1	3月11日	<p>単身赴任で、宮城県角田市の〇〇〇〇〇〇に勤務。毎週、土、日には帰省していた。たまたま、震災の時は休日で帰省しており、富岡町の海岸で海釣り中震災に遭遇、その後、原発事故により避難する。</p> <p>身体的には、特に悪い所もなく、元気に勤務していた。</p>	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	楡葉町〇〇〇〇〇〇	富岡町の海岸で海釣りをしていたところ、津波警報が出たので、楡葉町の〇〇〇〇〇〇に避難。
2	3月12日	川内村〇〇〇〇〇〇	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川内村〇〇〇〇〇〇に避難する。
3	3月13日	川俣町〇〇〇〇〇〇	家族が川俣町に避難しているとの情報を得たので、自家用車で〇〇〇〇〇〇へ移動、家族と合流する。
4	3月19日	さいたまスーパーアリーナ	バスで、さいたまスーパーアリーナに移動する。
5	3月30日	宮城県〇〇〇〇〇〇	震災前に単身で借りていた、1Kのアパートに息子2人と移動し3人での生活。
6	平成23年4月 ～ 平成24年7月	借上げアパート 宮城県角田市〇〇〇〇〇〇	借上げアパートに移動。2DKに息子2人、義母の4人での生活となる。 アルプス電気㈱に、震災前と同様勤務する。今後の事を考えると、眠れないと常に訴えていた。かなりのストレスを受けていた様子である。
7	7月16日 ～ 7月17日	〇〇〇〇〇〇病院 宮城県〇〇〇〇〇〇	7/16、23:20分頃、隣室でバタンという音だったので、家族が行ってみたところ苦しそうにもだえているのを発見したので救急車を要請。救急隊到着時Vf、除細動施行するも波形もどらず。不整脈の指摘あり。 〇〇〇〇〇〇病院到着後、2分1サイクルで心臓マッサージを行い、ボスミン1A×3回使用。その後も心停止波形、家族へ蘇生の可能性低い旨を伝える。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		氏名	住所
		連絡先	連絡先
		住所	住所
		連絡先	連絡先
		自宅・携帯	自宅・携帯

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

「12-2」

死亡者氏名			住 所			
			生年月日			
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について			
月 日	避難先		避難の状況			
			<p>0:30に家族の了承を得て蘇生中止。 7/17、0:47分、治療の甲斐も虚しく、心筋梗塞のため死亡。AI施行もはっきりとした死因分からず、警察に検死を依頼する。 また、遺族の希望により病理解剖施行する。 肝臓、腎臓、脳が浮腫しており、急性循環障害を示唆する所見であった。最も考えられるのが心筋梗塞であるが、目に見える冠動脈内の血栓はなかった。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により長引く避難生活や将来の家族の事を考えると、なかなか眠れないと常に訴えており、心身ともにかなりのストレスを受けていたと思われる。 震災、原子力事故がなければ、今も元気に過ごしていたと思われる。</p>			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。			氏名			
				住 所		
				連絡先		
			氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯		

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		高齢ではあったが、身のまわりのことは自分で行っていた。特に、病気もなく普段の生活を営んでいた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	二本松市	原発事故に伴う避難指示により、自衛隊ヘリコプターで二本松市に避難。
2	3月19日	栃木市	に避難移動。部屋の中は車イスもならず、道う、だっこの移動、トイレ介助と老々生活に多くの負担を感じる。また、精神的にも、夕方になると道って玄関まで移動し、その辺にあるものを何でもナイロン袋に入れ、杖で玄関をたたきながら、「帰る、帰る。」と号泣。こんな様子が、だんだんエスカレートするばかりであったので、デイサービス（週3回）、ショートステイを利用。
3	4月～5月	通所介護施設 特別養護老人ホーム	
4	6月13日 ～ 6月30日	介護老人保健施設	6/13、入所。 ADL的には、食事自立、車イスを自力駆動され（両上肢を使い）移乗立位も、見守り、一部介助で可能。聴力が強く、コミュニケーションは筆談で行う。記憶力、理解力は、年齢よりもしっかりしている。認知症のためか、時々、意味不明なことを言ったり、双葉町へいつ帰れるのかなど話しかけてくる。夕方になると、福島に帰りたいと、荷物をまとめ不穏になる。
5	7 月	〃	施設内は、車イスを駆動され、食事、トイレも自立されている。時々、大声を出して歌を歌われる。帰宅願望強く、不穏もみられる。体調的には、特に変化もなく、安定して過ごされている。
6	8 月 ～ 12 月	〃	特に問題もなく、同様に過ごされている。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく 113-2.1
記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
7	平成24年 1 月	〃	精神面では、たんすの衣類をかきまわしたり、 無くなってしまったなどの、被害妄想がみられ Faの要望により、衣類1組残し、倉庫預りとなる。 ADL的には同様。
8	2 月	〃	ADL的に特に変化なし。問題もなく生活している。 あいかわらず、精神面では、帰宅願望、被害 妄想がみられ、強度の難聴のせいか会話が かみあわず、イライラしている事がみられる。 機嫌が良いと、歌を歌っている。
9	3 月 5 月	〃	特に問題もなく、同様に過ごされている。
10	6 月	〃	6/5、発熱、右そけい部痛あり。 「病院」受診。 尿路感染症の疑いで、抗生剤治療となる。その後、 痛みもなく安定する。 6/11、この頃より、右足背、腫脹、発赤がみ られる。抗生剤にて症状軽減し、経過観察。
11	7 月	〃	7/17、再び、右足背、発赤、腫脹、熱感がみ られ医師診察。偽痛風の疑い、抗生剤治療とな る。 7/27頃より、肩の痛み、食事拒否がみられる。 食事量も数口になり、水分補給を促す。 7/30、刺激に対して、反応鈍く、食事もとらな くなる。医師診察にて点滴開始する。その後、 点滴継続で、ベッド上安静、呼吸安定。
12	8 月	〃	時折、苦痛表情あるも訴えなし。 8/2、右眼開眼されたまま閉じられず、睫毛反 射がわずかにあり、呼吸状態は無呼吸。浅表性 深めの呼吸を周期的に繰り返す。意識もなくな っている。Faへ、ターミナルケアの説明を し、8/3、ターミナルケアプランの説明と同意 書をいただく。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	
		連絡先	自宅・携帯
		氏名	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「113-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
		<p>その後、点滴継続しながら様子観察し、レベルダウン、反応も鈍くなどの状態で経過していく。</p> <p>8/13、時折、表情の変化あるも、声かけに対して反応なく、右前腕エデム著明。</p> <p>8/13、15時、下顎呼吸、下肢抹消チアノーゼあり、17時15分、呼吸心拍確認できず、17時23分医師により診断。対光反射なく、瞳孔散大、心拍停止により、治療の甲斐も虚しく、老衰のため病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受け、死に至った。震災がなければ今も存命であったと思われる。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「114-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		身のまわりのことや食事等は、すべて自分で出来ており、普通の生活をしていました。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	郡山市	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で家族3人で避難。
2	3月19日	郡山市 病院	食欲もなくなってきたので、このまま避難生活を続けることは無理と判断し、病院に入院させる。 ※入院時の状況 衰弱が著しく呼吸苦あり。肺炎を併発していた。点滴による栄養補給と抗生剤投与を開始した。食欲不振が続いた。
3	4 月	〃	抑うつ的で食欲不振が顕著、低栄養が続いた。精神科薬の投与を開始した。
4	5 月	〃	同様の状態が続く。息子の避難先への外泊を行った。下旬頃より食欲不振は回復傾向に。
5	6 月	〃	不安が強く、胸部苦悶などの身体症状を繰り返し訴えた。食欲にムラがみられた。息子の避難先への外泊を繰り返した。
6	7 月	〃	同様の経過。
7	8 月	〃	同様の経過。
8	9 月	〃	同様の経過。
9	10 月	〃	同様の経過。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況		
10	11月2日	特別養護老人ホーム 須賀川市	<p>11月2日 退院し、特別養護老人ホーム に入所する。</p> <p>※入所時の状況 お金の心配や夜間もなかなか寝付けない様子が一週間の間に2～3回度みられている。生活の多くの時間を妻と過ごすなど、不安な様子は十分に伝わっており、「なぜここにいるのか分からない」「双葉町に帰る」「東電の補償はどうなるのか」「ここでの生活はどうなるのか」と口にしていた。</p>		
11	12月	〃	<p>施設での生活も幾分慣れてきたのか、夜間帯は比較的休めるようになった。しかし、時間帯に手持ちのラジオを大音量で聴き始め、壁を叩く行為があり、職員が声をかけても「俺はつけてない」と興奮したり、ウエットティッシュに砂糖を詰め込み、ベッド上で舐めていたなど、精神状態に変調が見られ始めた。</p>		
12	平成24年 1月	〃	<p>精神状態に大きな改善はみられない。それが影響してか、食事摂取不良が続くこともあり、入所時と比べ体重が3～4kg減少する。 日課の新聞を読んでも「もう駄目だ」と悲観的で、声をかけても表情は位ままであつた。</p>		
13	2月	〃	<p>2/15、高熱のため 病院を受診。インフルエンザではなかったが、大事をとり内服開始となる。数日で落ち着くが、2/23、食堂内で転倒。体力も衰えているように伺えた。</p>		
14	3月	〃	<p>職員に対し、双葉町での生活を色々と話してくれる。このような穏やかに場面もあれば、食堂で突然に塩を探しはじめたり、夜間の服用後ねすぐに安定剤をが欲しいと訴えることもあり、精神状態が安定しているとは到底言い難い。</p>		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯
		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

「114-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
15	4 月	〃	日中は落ち着いて過ごす場面が増えてきたが、夜間帯は、服が濡れているといい様になっていたり、砂糖がほしいと訴えたりと状態は変わらない。日中、テレビを観ていた時に、浪江町についての放送があり大変喜ばれており、郷里に対する思いは強く、望まない生活を強いられている事に対しては、相当なストレスであつたことは容易に察する事が出来る。
16	4月25日	須賀川市 〃 病院	4月25日午前9時頃、胸の苦しみを訴えたので、施設の車で病院に搬送するも、午後6時36分治療の甲斐も虚しく心肺機能不全により、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。このような震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「115-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		・腎不全による人工透析を、昭和50年3月29日開始
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	浪江町	3/11、午後6時頃、主治医から、明日の透析は予定どおり行うとの連絡を受けていたため、妻を伴い、通常より約1時間早く出発、病院に着いたところ、スタッフからへ避難するので、同行するよう指示される。
2	3月13日	病院	当日、午前10時頃、病院スタッフが院長の指示を受け、これから先、いつ、どこで透析を受けられるか見通しがつかないので、病院に戻り最小限の透析を行うとのことで、に戻り、3時間の透析を受け、そのまま病室に泊まる。
3	3月14日 ～3月15日	福島医大	午後病院長から、ヘリコプターで福島医大に行くと言われる。その頃、腹部に発疹と痒みが現れ、主治医に伝え、極度のストレスによる帯状疱疹とのこと。直ちに点滴と塗り薬で処置し福島医大に移動する。両手、両足に障害があるので、苦痛と不安を訴えていた。
4	3月16日 ～3月28日	病院	3/16、午前3時56分、小雪降る中、バスで東北自動車道を50K/Hで走行、約5時間、体が不自由なため、苦痛と不安で顔が歪んでいた。病院に到着と同時に問診と検査があり、体調不良と診断され、直ちに透析を4時間かけて受け、少し安心したようだった。
5	3月29日 ～4月16日	クリニック (東京都台東区)	主治医の意向により、クリニックに転院する。すべてのスタッフが変わることに不安を訴えていたが、スタッフの皆さんが親切で安心したようであった。しかし、地元のこと、兄等、親戚達のことを思い出し、福島県に戻りたいと訴えるようになり、精神的に不安定さを感じ取り、透析治療にも影響するので、これ以上は無理だと考え、あらゆるところをお願いをし、苦勞の末、4/17、二本松市に転居することになった。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

「115-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
6	4月17日	借上げ住宅 (二本松市)	クリニック（東京都台東区）から、二本松市の借上げ住宅に移動する。
7	4月18日 ～ 平成24年 4月9日	借上げ住宅 (二本松市) 病院通院	主治医の間診を受け、午後5時からの透析を決定。ここでもスタッフと初対面であり、緊張しながらの透析で疲労があったように感じた。透析時間が、午前であったり、午後の部になったりとして、食事や体調管理には相当苦労していた。 4/18日より、1日おき（月・水・金）に、外来で透析治療を開始。 初めてのアパート生活で、階上の音すべてが気になって眠れず、睡眠薬を多用するようになり、だんだんと思うような透析が難しい現状になりつつあった。
8	4月10日 ～4月12日	福島医大	度重なる心労とストレスから、尿が100～160の頻尿となり、福島医大循環器科を受診。結果は、心臓のカテーテル治療が必要と診断され、4/10～4/12の3日間入院治療を受け、成功率85%と告げられる。その後、頻尿も安定するようになり退院する。
9	4月13日 ～8月14日	借上げ住宅 (二本松市) 病院通院	4/13から、病院で、1日おき（月・水・金）の透析治療を継続する。 8月に入り、軽い咳が続くようになり内科受診。避難後、初めてのCT検査を受ける。結果は8/17とのことであったが、8/14、看護科長から電話が自宅にあり、明日の透析予定は午後であるが午前に行い、終了後、入院治療となるため準備してくるよう指示される。 「なぜ、どうして、何のための入院なの」と訴えておりました。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「115-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況
10 8月15日 ～9月4日	病院		<p>8/15、数日前からの食欲不振のため入院。透析中、主治医からCT画像の説明がありC型肝炎から肝硬変になり、現在は、その上の段階に進み危険な状態にあると告げられる。入院中は、点滴、酸素吸引、それに透析と体力的に限界であった。</p> <p>9/4、午後11時43分、治療の甲斐も虚しく肝臓癌のため、病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。しんさいがなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p> <p>「生前、後2年頑張れば、透析歴40年、そして結婚歴50年、それまで付き添ってね」と微笑んでおりました。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「116-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日 双葉厚生病院入院中	①両下肢褥瘡 ②臀部褥瘡 ③右大腿骨頭部骨折により、3/11から入院中であった。 右大腿骨折のため、身動きができない状態のまま他の入院患者と共に一夜を過ごす。	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	双葉高校	厚生病院から自衛隊の車で、双葉高校のグラウンドで救助のヘリコプターを待つが、発電所の爆発のため、救助を待ちながら双葉高校に避難。
2	3月13日	福島県（二本松市）	自衛隊の車で、二本松市に避難。
3	3月14日 ～6月6日	病院（郡山市）	右大腿骨頭部骨折の状態のまま避難したので、から移送。 尿路感染症、褥瘡等あり。右大腿骨頭部骨折に対しては、手術適応がないと判断し、保存的加療となる。体力がなく歩ける見通しが立たないことで退院を勧められたが、家族も避難中であり、引き取ることができないため、矢祭に入所する。 ※医師の所見…避難に伴い、褥瘡や全身状態が悪化したと思われる。
4	6月6日 ～6月10日	（矢祭町）	家族も避難中であることから、引き取ることができないため、矢祭に入所する。 状態は、病院入院中と変わらず、入所後4日目に肺炎を併発する。 幾度もの避難で体力も衰える。
5	6月10日 ～8月1日	病院	前日18:00～体温37.6℃まで上昇。3点クーリングし水分補給。 6/10、X-P、CTにて肺炎と診断、入院となる。 難聴気味だが、少し大声で話せば会話可。時々意味不明な言動あり。 7/10、体温38.6℃、血圧97/47 体熱感 ⁺ 、痰あり。クーリング施行し体温36.9℃ 7/13、経管栄養開始。 7/16、体温36.1℃、血圧93/59、声かけに返答あるも、活気↓。 7/26、体温36.5℃、血圧101/61、傾眠傾向。 8/1、14:30 体温36.1℃、吸引にて白黄色痰中等量。血圧不安定40～90台。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	住 所
		連絡先	
		連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「116-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先	避難の状況		
			22:30 血圧79-47、呼吸反応なし。 22:45 AED、心マッサージ、人工呼吸行うも効果なく、午後11時02分、治療の甲斐も虚しく、肺炎により病床にて死亡。 骨折のため、動けない状況での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。このようなことがなければもつと長生きし、今も存命であったと思うと悔やまれてならない。		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所		
			連絡先	自宅・携帯	
	氏名		住 所		
			連絡先	自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「117-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		足が弱って、歩行は困難であったが、内臓関係はすこぶる健康、食欲旺盛で問題なく過ごしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣町	避難指示により、自家用車で川俣町に避難。空腹を耐えたため、配給で出されたおにぎりを少しずつ食べさせたところ、喉に詰まらせてしまい（入れ歯をもちだせなかった。）、救急車で病院に搬送される。
2	3月12日 ～3月24日	福島県 病院	救急車で搬送、誤嚥性肺炎と診断され、入院となる。加療の結果、状態改善し、近医に転院となる。
3	3月24日 ～6月7日	病院	肺炎（両側胸水）を認めたが、加療の結果、肺炎軽快し、退院できる状態となる。
4	6月7日 ～6月16日	特別養護老人ホーム	退院できる状態となったが、避難所へ戻ることは状態的に不可能と考えられ、病院から、町、県へ相談が及び、県からの依頼にて、6/7 入所となった。入所中の状況は、日常生活において全介助状態。食事は入院中と同様に、粥とミキサー食を提供。認知症あり、昼夜を問わずの独語と夜間不眠があった。6/16、誤嚥性肺炎と胸水貯留にて再び入院となる。
5	6月16日 ～7月19日	病院	一度、誤嚥を起こすと繰り返す事が多いと医師から説明される。診断の結果、急性気管支肺炎で入院となる。一月の治療で驚く程回復し退院となる。
6	7月19日 ～ 平成24年 5月2日	特別養護老人ホーム	病院から再入所となる。食事摂取状況のレベル低下があり、主食、副食ともペースト食となる。昼夜間を問わずの独語と夜間不眠も変わらず。家族は、週1～2回の面会に訪れていた。家族からは、自分たちの住む仮設住宅へ連れて
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「117-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
			帰りたいという希望も聞かれたが、独語や夜間不眠等、認知症の症状がある中での、狭い仮設での暮らしは、本人、家族共に大きなストレスになるであろうことが予想され、施設生活継続となる。 5/2、誤嚥性肺炎で再び入院となる。
7	5月2日 ～5月24日	病院	5/2、誤嚥性肺炎、脱水症、発熱で入院となる。 加療の結果、誤嚥性肺炎軽快し退院となる。
8	5月224日 ～5月29日	特別養護老人ホーム	5/24、病院より入所となる。 傾眠状態にて、食事摂取不良のことが多い。 また、嚔鳴と痰上昇も目立つ。 5/29、発熱と痰上昇あり、病院受診。
9	5月29日 ～ 10月11日	病院	5/28より、痰や発熱あり。5/29には衰弱顕著で受診。胸部X-P上浸潤影やうっ血あり。CRP4.71 BNP131.7 脳CTで陳旧性病変あり。 ①難治性気管支肺炎②うっ血性心不全③陳旧性脳梗塞、認知症等により入院、点滴を中心に治療開始。入院が長引くにつれ痴呆が進む。 10/11、午前0時50分、治療の甲斐も虚しく気管支肺炎のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活や原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたことが大きな原因と思われる。震災前は、大家族で皆に見守られて暮らしていたのに、家に帰りたいという願いも叶わず、誰にも看取られず亡くなったことを思うと残念でならない。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先 自宅・携帯
		氏名	住 所
		氏名	連絡先 自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		<p>自宅一人で生活。外出はしないが、家の中を杖をついて歩くことができた。毎日、近所の友達や知人が訪れ、元気に暮らしていた。週末や必要に応じて、家族が買い物や世話をしに通っていた。今後の事を考えて、デイサービスや入浴サービスを受けられるよう、話を進めはじめていたところであった。</p>
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日		地震により、自宅の家具が倒壊し、危険なので宅に避難。その際、一人では歩けないので、近所の人に車に乗せてもらい、背負われて移動した。
2	3月12日	田村郡小野町	原発事故に伴う避難指示により、嫁の自家用車で避難。避難所までの道路が渋滞しており、長時間での車での移動が厳しく、また、避難所での生活も容易でないと判断し、川内村の山道を通って、に避難する。
3	3月14日	河沼郡会津坂下町	<p>長時間の移動と車への乗り降りにより、支えがないと歩けなくなった。嫁が勤めに出かけている間に、再び避難指示が出ると、嫁一人では、母を車に乗せて移動することは難しいと判断し嫁の妹の所に移動することとした。</p> <p>日中は、嫁の妹は勤務。嫁は母の介護と4月から自分の勤務が始まるので、そのための準備をする。</p> <p>母は、歩行が困難となってきたが、食事や会話は変わりなかった。双葉では、毎日多くの友達との交流があり、笑い声の絶えない元気な生活を送っていたが、避難してからは、訪ねてくる友達もなく、会話といえば、嫁と勤務から戻った嫁の妹ぐらいとなった。母の毎日の生活環境は、大きく変わった。</p>
4	3月31日 ～4月2日	河沼郡会津坂下町	<p>嫁が、4/1より勤務開始となり、田村市でが行われるため、前泊で出かけるはならなくなった。母一人でのアパート生活は無理なので、2泊3日のショートステイを利用する。その後の勤務状況によっては、ショートステイの利用を余儀なくされる状況である。「一人で知らないところに置いていかれる」と母の精神的ストレスは大きかった。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

118-2

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
	月 日	避難先	避難の状況
5	4月1日	借上げ住宅 河沼郡会津坂下町	アパートから、借上げ住宅に移動。
6	4月6日 ～ 平成24年 1月28日	①デイサービス 会津坂下町 ②ショートステイ 介護老人施設 会津坂下町	4/6より、週5日（月～土）のデイサービスと月1回のショートステイを利用する。
7	4月～10月	借上げ住宅 河沼郡会津坂下町	<p>デイサービスは車イスでの送迎。歩行練習により、少しずつ歩けるようになった。</p> <p>朝は、嫁が出かけてから約1時間、夕方は、嫁が帰宅するまでの約2時間をねアパートで一人で過ごしていた。</p> <p>デイサービスからアパートに戻ると、実際は来っていないのに「双葉の友達が遊びに来た」と話したり、デイサービスでの出来事の中に、双葉の友達の名前が出てきたりするようになってきた。</p> <p>デイサービスで、歩行の練習をしてもらい、家の中を歩けるようになってきた。</p> <p>自分で何でもできるようになったと思っているため、転んで骨折することが心配となる。</p> <p>夜も昼も眠りから覚めると、嫁の名前を呼ぶことが増えた。声を聞くと安心して、また眠りにつく。一人でいることの寂しさ、目が覚めたときに知らない所にいること不安など、今までと違う生活環境に、精神的なストレスを大きく感じているようだった。</p> <p>震災がなければ、毎日たくさんの友達との交流があり、楽しく暮らすことができていた。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「118-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
既 病 歴		(□ある：心臓病、高血圧、糖尿病、その他 ()、□なし)	
	月 日	避難先	
8	10月13日 ～ 11月13日	病院	<p>デイサービスから「熱があるので、病院を受診してほしい」との連絡があり、病院を受診。咳、痰、発熱あり、肺炎の疑いで入院となる。治療の結果、治癒し、11/13退院する。</p>
9	11月14日 ～ 平成24年 1月29日	<p>借上げ住宅 河沼郡会津坂下町</p>	<p>退院後は、食事がトロミ食になる。デイサービスでもそのようにお願いし、家でもできる範囲で努力。入院で足が弱っているため再び、歩行の練習を行ってもらった。今までと環境が激変し、友達との交流もなくなり、不安な状況が続いたため、急激に認知症が進んだ。デイサービスから帰ってきてから、嫁が帰宅するのを一人で待てなくなってきた。棚や冷蔵庫のものを何でも食べたり、食べたことを忘れていたり、話が合わなくなってきた。デイサービスの迎えや、嫁の帰りを待ちながら一人でアパートに置くのが心配な状態となってきた。ケアマネージャーと相談し、介護施設への入所のお願いと介護区分の見直しの手続きをすることとした。</p>
10	1月30日 ～4月17日	<p>介護老人保健施設 河沼郡会津坂下町</p>	<p>介護老人保健施設に入所する。施設内では、車イス歩行と手引歩行。食事は、スプーンで。トイレは、オムツを使用しながら誘導。週末に家族が施設を訪問するが、息子や孫の名前が出てこなくなってきた。思い出するのに時間がかかっていた。さらに、認知が進んだと感じた。</p>
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

118-4

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	
11	4月18日 ～5月10日	病院	施設で、一人でトイレに行こうとして転倒。左大腿骨転子部骨折で、入院となり、手術療法とリハビリを施行し、治癒に近い状態となり、5/10退院する。
12	5月10日 ～11月9日	介護老人保健施設 河沼郡会津坂下町	<p>5/10、病院を退院し、再び介護老人保健施設に入所し、リハビリを受ける。</p> <p>5/22、施設サービス計画書が提示され、健康状態の変化はないが、5/11、腹部、胸部にヘルペスのできたので処置中で、改善傾向が見られている。体重は43kgでBMI 17.7で必要エネルギー1219の所を1300提供しているが、食ムラがあるため食事量の観察、体重の減少が見られたら補助飲料の提供が必要。</p> <p>尿が濃縮尿の時もあるため水分補給も必要。</p> <p>整形外科受診は6/4予定。現在荷重禁となっているが、今後の整形外科指示により対応。動いた時などに下肢痛はあるが自製内で経過し座薬は使用しない。リハビリはROM、筋トレを週2回行っているが、手術した部分が痛いのかリハビリを嫌がる状態である。術後の経過としては、非荷重期間が長いADLの低下の可能性はある。</p> <p>入浴は定期的に行われている。</p> <p>更衣時は協力動作の指示を行う。</p> <p>昼夜オムツ使用であるが、臀部の皮膚状態の変化はない。</p> <p>コールを押すことができ、起きたいときなどコールを押してくれる。日中、眠気が強かったり、夜間眠らず発声するときもあるため、夜間の入眠状況観察。他者との交流は出来ているがスタッフからの声かけも多くし、日中寝ないよう、夜間は眠れるように対応していく。</p> <p>※息子の顔をみて、自分の弟（既に死亡）の名前を呼んだこともあった。かなり認知症がすすんでいると感じた。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

118-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先			
13	11月10日 ～ 11月17日	病院		<p>11/10、朝、職員が見回ったとき、ベッドでぐったりしていたので、緊急で病院に搬送。</p> <p>診察の結果、気管支肺炎で入院となる。</p> <p>11/17、午後3時37分治療の甲斐も虚しく阿側性急性肺炎のため、病床にて死亡。</p> <p>震災前、足は弱ってきていたが、内臓の病気などはなく、食べることで友達とおしゃべりを毎日の楽しみにして生活していた。避難生活による環境の激変とストレスで、認知症が急激に進み、食欲も減退。そのため、体重が減少し、体力的にも弱ってきていた。目には見えない内臓機能も弱ってきており、ついに死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯
		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		であるが食欲もあり健康に生活していた。
<p>がん余命宣告（□ある：____年____ヵ月 宣告日：平成 ____年 ____月 ____日）</p>			
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ヘルスケアふたば	3月11日の地震により「ヘルスケアふたば」に避難
2	3月12日	福島県郡山市	避難指示により、妻が「ヘルスケアふたば」へ迎えに行き、自家用車（2名）で犬（マルチーズ室内犬）と郡山市の に避難。 は であつたが、食事・会話が普段と変わりなく元気に生活していた。しかし、避難した は家族4人と室内犬1匹で生活していた。そこへ浪江町からの避難者5名（ ）、私の家族2名と犬1匹（室内犬）が押し掛けた。このため11名と室内犬2匹が狭い住宅に住むことになり、居住する場所もなく生活できる状態ではなかった。
3	4月 2日	栃木県那須塩原町（経由地）	郡山市 宅には大勢避難したため、ここでの生活は困難となり、東北新幹線が那須塩原駅まで再開通したため、新たな避難場所、船橋市へと向かう。しかし、身の回りの荷物と で体が動けない状態となり、駅員・乗客に援助してもらえが歩けず、東京駅に下車。新たな避難所、船橋市へはタクシーで行く。
4	4月 2日	千葉県船橋市	新たな避難場所は で約6畳の単身者用。そこへ3人と犬 で生活するのは狭く身動きできなかった。また、4階でもあり外出することもできず、このころから体がさらに動けなくなり、ストレスが多く食事もできない状態が続き、「双葉の家に帰りたい」と言い精神的に乱れが見られた。このため週1回、船橋市のディサービスでお世話になった。

5	6月 4日	埼玉県加須市	<p>私が[]に勤務していた関係もあり、震災から家族の面倒を一切見ることもできず、母等の世話は妻に任せきりになっていた。</p> <p>4月末に退職し家族と犬の住める借り上げ住宅を確保できたため一緒に生活をする。</p> <p>しかし、避難し続けた母は心身ともに衰弱しており、食事をしても嘔吐することがあった。</p>		
6	6月27日～ 12月26日	埼玉県加須市	<p>平成23年6月27日から平成24年12月26日（死亡日）まで加須市内の老人介護施設[]に入所する。</p> <p>避難により母の身体状態や精神的状況が不安定となり、[]にお世話になる。</p> <p>入所期間が経つにつれ落ち着いてきたかと思われたが、施設入所者から「なぜ加須に避難したの」「福島には戻れないの」「原子力はどうなの」などいろいろと聞かれ、「自分は頑張る」と自身に言い聞かせているもののストレスがどんどんたまり、「双葉町に帰りたい」「双葉町にはなぜ帰れないの」と苦しんで、精神的に不安定となった。</p> <p>施設では部屋を替えたり、個室に移動したりと大変気を使っていた。</p> <p>双葉町の自宅に帰れないことが、知らず知らず身体的、精神的に負担がかかり、施設に入所しながら毎週病院（加須市・[]病院）に通院していた。</p> <p>このような苦勞から胃などが悪化し、平成23年6月27日の施設入所から亡くなるまで3度入院を行った。</p> <p>震災前は双葉町で元気に生活していた母は、双葉の地を見ることもなく亡くなったことは可哀そうである。</p> <p>第一回目の入院 平成24年8月1日、[]病院入院 平成24年8月6日、腸の手術 平成24年8月14日、退院</p> <p>第二回目の入院 平成24年11月9日、[]病院入院 熱が下がらず 腎盂炎 平成24年11月19日、退院</p> <p>第三回目の入院 平成24年12月19日、[]病院入院 平成24年12月26日、腹膜炎で死亡 死因の原因は不詳である。</p>		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	[]	住 所	[]
				連絡先	[]
		氏名	[]	住 所	[]
				連絡先	[]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

r 120

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉厚生病院入院中	ディサービスに通所。 3月に床ずれができて、双葉厚生病院に入院し治療しており、3月10日退院予定であった。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日 ～3月15日	不明	双葉高校からヘリで避難したことを後日知らされた。
2	3月15日 ～4月15日	病院	双葉厚生病院より、肺炎、尿路感染症治療のため、病院に入院しているとの連絡を受ける。 面会にいくと、肉が食べたいと元気な様子で、歌を歌っていた。
3	4月15日 ～8月19日	西白河郡矢吹町 病院	重度褥瘡、MRSA感染のため、4/15入院。 津波で家が流された事は知らないようであり、歌を歌っていた。家族では、災害の事は教えていなかったが、他人から教えられたようで、家もない、部落もない、家に戻れないと知ったようで、元気がなくなっていった。 入院当初は、抗生剤等により、感染軽減したが、5月初旬よりMRSA出現、6月には、一時消失したが、7月25日頃より発熱。中心静脈栄養、抗生剤等加療したが効なく。 8/19日、午後10時26分敗血症のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力事故により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災と原子力災害がなければ、もっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

121-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」入所中	ほぼ寝たきりの状態ではあったが、穏やかに普段の生活を送っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川俣	原発事故に伴う避難指示により、バスで川俣に避難する。 避難所はとても寒く、避難者で一杯であり、寝たきり状態の者にとっては、厳しい環境であった。食欲もあまりない状態であった。 せんだんの職員の配慮により、特別養護老人
2	3月19日 ～3月31日	特別養護老人 栃木県那須郡那須町	※入所時の状況 ・MRSAであり、原則として居宅対応。 ・痰吸引あり。日常生活すべてにおいて全介助。 ・経管栄養施行（昼は水分のみ） ・入浴は特殊浴槽にて対応。 ・発語あるも聞き取りにくい。意思疎通が困難な状態。 ・左マヒ、拘縮あり。（両下肢） ※左足拘縮麻痺の原因は不明。 ・排便→5日→せん茶で対応。 ・検温→35℃～36℃台。血圧100/70～96/61
3	4月 ～6月	〃	・特に異常なし。
4	7月	〃	・胃ろう交換実施 ・特に異常なし。
5	8月	〃	・障害受給証申請のため、受診。 ・特に異常なし。
6	9月	〃	・発熱あるも、2～3日で解熱。 ・特に異常なく経過。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

121-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
7	10 月	〃	<ul style="list-style-type: none"> 胃ろう交換実施 歯科検診あり。 特に異常なし。
8	11 月	〃	<ul style="list-style-type: none"> 特に変わった様子もなく経過。
9	12 月	〃	体重減あるため、胃ろう内容を3回に変更。 中旬頃より、熱発（37℃台）続く。抗生剤にて対応し、解熱するも、数日後には熱発するような状態のため、状態観察を行っていた。 その頃より活気なく、軽度のチアノーゼあり。
10	平成24年 1月6日	〃	熱発（37℃）あり、活気なく経過。 自力にて排便困難。 抗生剤にて対応。 1月6日午後9時30分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身共に著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

1/22-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」 [redacted]		[redacted] 自分の事は、自分でほぼ行っていた。 健康状態は良好であった。		
[redacted]					
	月 日	避難先	避難の状況		
1	3月12日	川俣町 [redacted]	原発事故に伴う避難指示により、バスで川俣町 [redacted] に避難。		
2	3月18日	特別養護老人ホーム [redacted] 栃木県那須塩原市	特別養護老人ホーム「せんだん」の指示により栃木県の特別養護老人ホーム [redacted] に移動。（原発事故の混乱のため、移動手段は不明） [redacted] へは、親族が数度訪ねたが、双葉町にいた頃よりは、顔色も悪く、体調も悪いようであった。		
	5月30日 ～ 8月9日	特別養護老人ホーム [redacted] [redacted] 病院	5/30、特別養護老人ホーム [redacted] から移動。 老人性難聴のため、口数が少なく、妻の事を気にかけているようでしたが、会話が少なくなっているように見られた。体動時、息切れと喘鳴が見られることがあった。 5/30、[redacted] 病院での入所時健診の際、胸水、腹水、貧血の診断で入院となる。 入院時の検査にて、心不全著明、酸素療法20開始。利尿剤にて改善を図る。 気管支にて喘鳴(+)であったが、7月中旬より徐々に改善される。心不全は慢性化になるため今後も酸素療法が必要との診断。 7/30、胃カメラ検査でステージ6の胃癌が発見される。 病状については、本人も一部理解されている。 8/9、病状安定してきたため、在宅酸素使用にて退院となる。		
	8月9日 ～9月	特別養護老人ホーム [redacted]	8/9、[redacted] 退院。 退院後は、体調不良の訴えもみられず、穏やかに過ごされていた。 食事、セッティングすることで自力摂取し、洗面や口腔清潔は、必需物品を準備し、自力で行っていた。		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住 所	[redacted]	
			連絡先	[redacted]	
	氏名		住 所		
			連絡先	自宅・携帯電話	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「122-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況		
10 月	〃		基本動作については、入院中の筋力低下に伴い、立ち上がりや立位が困難でしたが、車椅子移動は、室内であれば自力で可能であった。		
11月 ～ 平成24年 1月	〃 病院		11/9、右下腹部の痛みを訴える。 当日のおやつ、夕食摂取されず、発熱(38.4℃)へ上昇し、嘔吐(2回)もあり、症状改善しないため、〃病院を受診、入院となる。 入院当初、腹痛、嘔吐は確認されず。 1/4に下痢、腹痛の訴えあり、内服処方し、約1週間で改善する。 貧血進行に伴い、11/30～12/2・1/28～1/30の2回輸血施行する。 5月に入院した際、ステージ5の胃癌の診断であったが、今回は病巣が大きくなっているとのことであった。		
2月1日 ～2月9日	特別養護老人ホーム 〃		2/1、〃病院退院となる。 ADLは、高齢と入院生活により低下し、食事自力摂取以外は、何らかの解除を必要とする。 食事量は、入院前と比べると半分程度は食べていた。		
2月10日 ～2月29日	〃 病院		2/10、朝から腰痛(+)、食事も摂取出来ず、〃病院受診。診察後入院となる。 声かけに対し返答良好。 呼吸苦訴えなし。		
3 月	〃 病院		独り言著明。夜間不眠、時々大声あり。 輸血施行。気分不快(-)、特変なく終了。 両下腿浮腫↑、刺激にて「痛い」と苦痛表情にて訴える。		
4 月	〃		全身浮腫著明。 発語あり。呼吸苦なし。会話時息切あり。 呼名に返答あり。痰吸引多量あり。		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所		
			連絡先	自宅・携帯	
	氏名		住 所		
			連絡先	自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「122-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況		
4月16日	#		<p>発語あるも聞き取れず、会話はできず。 全身浮腫同様。 4/16、午前10:26分心停止。心臓マッサージ、人工呼吸、AED続けるも蘇生せず。 11時15分治療の甲斐も虚しく、慢性心不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>		
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯
		氏名		住 所	
				連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

「123」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	ほぼ寝たきり状態であり、全介助を要する状態であった。
月 日	避難先		避難の状況
3月12日	福島		原子力事故に伴う避難指示により、福島市のに避難。
3月19日	老人介護保健施設 福島市		避難所での生活は容易でないで、3/19、介護老人保健施設に入所する。 ほぼ寝たきりの状態であり、全介助を要する。 ※通院状況…3/19・5/11・6/7
6月8日 ～6月27日	病院 福島市		6/4頃から発熱あり、X-P、CT上、両側肺炎が認められ入院となる。 補液と抗生物質を投与する。
6月28日 ～9月19日	老人介護保健施設 福島市		状態が落ち着いたので、再入所する。 状態的には、ねたきり状態であり全介助。 ※通院状況 7/13・7/28・8/10・9/14
9月20日 ～ 11月30日	病院 福島市		6/4頃から発熱あり、X-P、CT上、両側肺炎が認められ入院となる。 補液と抗生物質を投与する。
12月1日 ～平成24年 2月19日	老人介護保健施設 福島市		状態が落ち着いたので、再入所する。 状態的には、ねたきり状態であり全介助。 ※通院状況 12/1・1/4・1/6・2/8・2/19
2月20日 ～3月16日	病院 福島市		2/18頃から発熱あり、X-P、CT上、右肺炎が認められ入院となる。 補液と抗生物質を投与しながら治療を継続していたが、3/16午前0時35分、治療の甲斐も虚しく左肺炎のため、病床にて死亡。 肺炎による入退院の繰り返しは、避難中のものであり、ベースは脳梗塞で寝たきりという状態での移動や環境の変化が影響しているものと思われる。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「124-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	元気にデイサービスに通所していた。 地震のため、せんだんに避難。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	地震により、特別養護老人ホーム「せんだん」にお願いする。
2	3月12日	川俣	朝5時にせんだんに行ってみると元気であつた。バスで川俣に避難。
3	3月13日 ～3月26日	福島	どうやって福島に来たかはわからない。逢ったときは、ショックで口もきけない状態であつた。褥瘡が出来て痛そうであつた。これは大変と思い、東京のへ移動した。
4	3月26日 ～4月21日	介護老人保健施設	尿道カテーテル挿入中 前立腺癌治療の為退所。
5	4月23日 ～5月19日	介護老人保健施設	尿道カテーテル挿入中 前立腺癌治療の為退所。
6	5月21日 ～7月14日	介護老人保健施設	尿道カテーテル挿入中 前立腺癌治療の為退所。
7	7月16日 ～9月16日	介護老人保健施設	尿道カテーテル挿入中 9/16日、肺炎症状にて東京臨海病院に入院となる。
8	9月16日 ～10月12日	病院 東京都江戸川区	9/12より発熱認め、抗生剤投与行うも改善なく9/16病院に搬送入院となる。 肺炎球菌肺炎の診断にて抗生剤投与開始し、II型呼吸不全に対して、NPPVによる呼吸管理を行った。症状検査所見の改善を認め、10/12森山リハビリテーション病院に転院。 入院中、前立腺癌に対してホルモン療法を行った。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「124-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所	
			生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況	
9	10月12日 ～ 平成24年 3月10日	病院	10/12、病院より転院。 前立腺癌あり、尿管カテーテル留置しており、12週毎にゾラデックス皮下注が必要。全介助状態であるが、食欲は維持していた。経過中、肺炎を再発したが抗生剤にて改善した。胸部CTでは、右胸膜肥厚と下葉の無気肺が合併していたが、一般全身状態は変化なく、3/10に再入所となる。	
10	3月10日 ～ 8月28日	介護老人保健施設	徐々に、全身的状态低下。 8/28日、肺炎症状にて病院入院となる。	
11	8月28日 ～ 10月16日	病院 東京都江戸川区	8/25より、呼吸状態意識レベルの低下を認め、8/28病院へ搬送入院となる。 尿路感染症の診断にて抗生剤の投与を行った。尿培養にて緑膿菌検出され、尿感染症は慢性化することが予想された。経口摂取は困難であったため、9/26、CVポート挿入を行った。抗生剤投与後は、症状検査所見の改善を認め10/16、病院へ転院。	
12	10月17日	病院 東京都江戸川区	10/16日、病院より転院する。 10/17日、容態が急変し、治療の甲斐も虚しく午後6時33分、呼吸不全急性増悪のため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。震災がなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名		住 所
				連絡先
		氏名		住 所
				連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「125-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅 ヘルスケアふたばにてデイサービス通所中	自分のことは、何でもしていた。 健康状態は良かった。
	月 日	避難先	
1	3月11日		デイサービス中に地震発生、そのままヘルスケアに避難となる。
2	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、バスで川俣に避難。
3	3月19日	さいたまスーパーアリーナ	バスで、川俣町からスーパーアリーナに移動。
4	3月20日 ～6月18日	千葉県松戸市	埼玉スーパーアリーナに迎えにいくと、認知症が進み、身体状況も悪化、一人で歩くこともできない状況であった。 3/22、松戸市役所に相談、介護支援センターの担当者が訪問され、介護サービスの必要性を確認する。 にて居宅介護支援契約を結ぶ。避難生活ののち、床からの対上りが困難となっており、福祉用具介護用ベッドを導入。 3/28、先に長女宅に避難していた妻が介護されていたが、避難生活後、認知症が進み、介護負担が大きくなってきたため、週5日のデイサービス利用を開始する。 5/19、認知症の進行から夜間全く眠られなくなり、家族も眠ることができず、ショートステイ利用を追加する。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「125-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
5	6月18日 ～8月14日	千葉県松戸市 病院	となる。 ショートステイの迎えに行くと、右上下肢に脱力があり、即日、受診、脳梗塞のため入院となる。右上肢麻痺、右下肢不全麻痺が認められ、点滴、高気圧酸素療法など保存的加療となる。 8/14、治療も終了し退院となる。
6	8月14日 ～平成24年 2月13日	有料老人ホーム 千葉県柏市	8/14日、脳梗塞の治療も終了し、退院となる。入院生活にて認知症もさらに進行、身体的にも寝たきりとなり、在宅介護困難となり、有料老人ホームへ入居。移動は全て車イス、食事、排泄等全介助。
7	2月13日 ～4月1日	特別養護老人ホーム 千葉県松戸市	特別養護老人ホームに移動する。日常生活全般に解除必要。
8	4月1日 ～9月12日	特別養護老人ホーム 千葉県松戸市	個室ユニット型の開設に無伴い、特別養護老人ホームに移動する。日常生活全般に解除必要。
9	9月12日～ 12月12日	千葉県松戸市 病院	9/12日、呼吸状態、意識レベルに変化が見られバイタルに関しても不安定な状況であった事から、救急車にて病院に搬送され、入院となる。 肺炎、呼吸不全、意識障害がみられるため、気管内挿管人工呼吸器による呼吸管理。 点滴、投薬等の保存的療法を行う。 12/12日、容態急変し、午後3時52分、治療の甲斐も虚しく急性心筋梗塞により、病床にて死亡。長引く避難生活及び原子力災害によるストレス等を受け、衰弱し死に至った。このようなことがなければ、今も存命であったと思う。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「126-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	ほぼ寝たきり状態で、全介助。 入所中はとても穏やかな表情で、面会に行くとうれしくて涙を流していた時もあり、不自由なく暮らしていた。
	月 日	避難先	
1	3月12日	福島	原発事故に伴う避難指示により、自衛隊のトラックで福島へ避難。 避難所はとても寒い環境で、暖もとれない状態で、せんだんの職員の配慮により、次の病院へ入院となる。
2	3月18日 ～6月29日	福島市	3/18、福島高校より、福島市へ入院。四肢拘縮、喀痰排出困難、意思疎通行えず、食事は経管栄養。入院時より微熱、四肢に軽度の浮腫がみられた。 4/14、全身清拭後より左上腕浮腫出現。X-Pにて骨折を認め、バストバンド固定、アイシングにて経過観察とし、骨折改善後、リハビリ再開した。また、仙骨部褥瘡あり、微熱も続いていたため、抗生剤の点滴を行った。 右肘に表皮剥離あり処置、リハビリ加療を続けていたが、当院の入院期間満了のため、退院となる。
3	6月29日 ～7月8日	介護老人保健施設	6/29、病院を退院し、介護老人保健施設へ入所。 状態としては、骨折部はほぼ治癒に近い状態であった。 ほぼ寝たきり状態であり、意思疎通も行えず、食事は経管栄養であった。
4	7月8日 ～10月7日	病院	7/8日、体調が思わしくないため、病院受診、入院となる。 脳梗塞後遺症のため、両上下肢マヒあり。ねたきり。四肢拘縮。発語もない状態であった。さらに両側肺炎を合併しており、抗生物質投与や補液の治療を行う。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「126-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
10月7日 ～平成24年 12月10日	病院	<p>脳梗塞後遺症のため、両上下肢マヒあり。ねたきり。四肢拘縮。発語も殆どない。経口摂取不能。</p> <p>表情が乏しくなり、面会にいても、誰であるかわからない状態であり、体力もだんだんと衰え、輸血も頻繁に行うようになった。</p> <p>12/10日、容態急変し午後10時28分、治療の甲斐も虚しく急性心筋梗塞のため、病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを抱え、衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であつたと思われる。</p>	
事情聴取先		住 所	
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		連絡先	
氏名		住 所	
氏名		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「127-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	特に悪い所もなく、普段の生活を送り、家業の鮮魚商を元気に営んでいた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月18日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣町立飯坂学校に避難。じっとすわって、一日を過ごす状況であった。
2	3月19日 ～8月4日	山形県西置賜郡白鷹町	年老いた母の事を考えると、避難所での生活は容易でないので、自宅に5時間かけて移動。年老いた母と、弟夫婦、妻の5人でお世話になっていたので、人一倍心労が絶えなかった。特に、体調は悪いともなく、普段の生活を送っていた。ただ、ストレスはだいぶ抱えているようであった。
3	8月4日 ～ 平成24年 7月30日	郡山市 仮設住宅	8/4、山形県 自宅から郡山市 仮設住宅に移動。 仮設住宅に移動してからは、知り合いもなく、人間関係を初めから作らなければならず、とても悩んでおり、閉じこもりの生活が続いた。体調的には、特に悪い所もなく、普段の生活を送っていたが、ストレスはだいぶ感じているようであった。 <u>※仕事を一瞬にして奪われてしまったことが、よほどショックだったようである。</u> <u>知らない土地に避難をして、付近に誰も知り合いがいないことなどで、特に、高齢の母親の事が心配で、買い物に行っても、すぐに帰ってくる等、とにかく母親のことは、すごく気にしていた。</u> <u>飲酒等は、そもそも、そんなに好きではなくビールを1週間に1～2回、缶ビール(350ml)を1本程度飲んでいた。</u>
4	7月30日	郡山市 病院	1週間位前から、胃腸の調子がよくないということで、近所の医院を受診、内服薬を服用していた。 7/30、午前6時頃、胃腸の痛みを訴え、心肺停止
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「127-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
1	3月11日		

月 日	避難先	避難の状況
		<p>止状態で救急搬送された。蘇生術を行い、一度心拍再開するも、午後3時59分、治療の甲斐も虚しく、そして意識が戻らないまま、病床にて死亡するも、死因の特定ができず、警察で検死を施行した。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため死に至ったと思われる。震災がなければ、もっともっと長生きし、今も、元気で仕事をしていたと思います。</p>
事情聴取先 <small>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</small>	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「128-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	食事、会話、健康状態も良く、普段と変わりなく元気に生活していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	二本松	原発事故に伴う避難指示により、ヘリコプターで二本松市のに避難。
2	3月13日 ～5月24日	特別養護老人ホーム 栃木県那須塩原市	バスで、栃木県那須塩原市の特別養護老人ホームに移動。 ここでの生活は、空きベットがなく出入り口付近の通路にての寝起きの避難生活、寒い不環境のなか、精神的苦痛、ストレスにも負けずに健康で穏やかな生活を送っていた。
3	5月24日 ～平成24年 7月4日	特別養護老人ホーム 東白川郡矢祭町	5/24、から移動。 ※入所時の状況 新しい環境に不安や戸惑いがあり、体調不良や無気力が続いた。 会話や意思表示に関しては、問題は見られなかった。 ※入所中の状況 入所当初は、眩暈の訴えが多くみられ、病院受診し内服薬が処方された。 その後は、眩暈の訴えは特に見られず、環境にも慣れ、毎日穏やかな生活を送っていた。食事、健康状態など変わりなく過ごされていた。 1～2ヵ月に一回面会に行くと、双葉町に一度は帰りたい帰りたいと面会の都度涙ぐんでいた。 平成24年7月1日頃から食欲不振、体調不良の訴えが見られるようになった。（唾液のどる量が多くみられた。） 平成24年7月4日、トイレ誘導後、意識がなくなり病院搬送し、脳梗塞の疑いにて病院に入院となる。 退所となる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「128-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
月 日	避難先		避難の状況		
7月4日 ～8月14日	茨城県常陸太田市		<p>7/4、より搬送され、入院となる。</p> <p>※入院時の状況 睫毛反射(+)、意識レベル多少上昇。 自力体動不可。</p> <p>検査所見：CTにて脳梗塞、意識消失状態。</p> <p>※入院中の状況 7/4、酸素、点滴治療開始。 体温36.5℃ 血圧141/58 刺激、呼名に開眼する。追視(+)、 発語(-)</p> <p>7/26、血圧107/36、体温36.2℃ 両上肢体動みられる。追視(+)、 発語(-) サクションにて痰少量吸引する。</p> <p>8/13、AED、人工呼吸行っても効果なし。 8/14、午前0時23分慢性心不全のため、治療の 甲斐も虚しく、病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により 著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。 このようなことがなければもっと長生きし 今も存命であったと思われる。</p>		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所		
			連絡先		
		氏名	住 所		
			連絡先		

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「129-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	病院	2/20～3/10 病院入院。 出血性胃潰瘍及び胃幽門狭窄のため、点滴のみで命をつなぐ。病院では手術不能のため転院となる。 3/10～3/31 病院入院。 点滴のみのため衰弱。移動は車イス。 ガンによる潰瘍性有とのこと。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月10日 ～ 3月31日	病院	3/10 病院より転院。 点滴のみのため衰弱。 移動は車イス使用。 ガンによる潰瘍性有とのこと。
2	3月31日 ～ 6月8日	病院	3/31、病院より、震災のため、手術不能となり救急車にて搬送。 上部内視鏡検査にて胃癌と診断。 4/19、手術、幽門側胃切除施行。 6/8、経過良好で退院。
3	6月8日 ～ 9月22日	借上げアパート 二本松市	入院生活が長く筋肉が衰えた。 食事も、胃切除のため思うようにとれず、不安定な日々が続く。それでも退院できて、うれしかった。 ※震災当時のことは、病院に入院中であり、その後、震災の影響により、病院に転院せざるを得なかったことから、震災当時の双葉町の状況は殆ど知らなかった。 入院中に、他の患者から、いろいろな話を聞かされたり、聞こえたりし、これから双葉町はどうなるだろうと、毎日のように話されていたそうで、これらのストレスは相当のものだと思われた。
4	9月22日 ～ 10月23日	病院	9/22、慢性心不全急性増悪にて入院。 酸素投与、利尿剤投与等にて治療。 10/23、軽快し退院。
5	10月23日 ～ 10月28日	借上げアパート 二本松市	いらいらがつのり、おこつてばかりいた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「129-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所	
			生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況	
6	10月28日 ～ 12月2日	病院	食べられず、立ち上ることもできない。 下痢と嘔吐。 10/28、食欲不振にて入院。 点滴療法等施行。 12/2、退院。	
7	12月2日 ～ 12月6日	借上げアパート 二本松市	落ち着いた状態ですが、我が家に帰れないつらさがあった。	
8	12月6日 ～ 12月19日	二本松病院	突然の大量の嘔吐のため外来受診。検査の結果上部消化管出血の疑いで入院。 点滴療法等施行。12/19、退院。	
9	12月19日 ～平成24年 6月7日	借上げアパート 二本松市	とにかく食事療法に努める。あまり食べられないいらいだちはあるが、退院できた事に笑顔もふえた。	
10	6月7日 ～ 6月25日	病院	足がむくみ、歩行困難となり、息苦しく、食欲が全くない状態。 6/7 慢性心不全急性増悪にて入院。 利尿剤、ハンプ等にて軽快。 6/16 退院。	
11	6月25日 ～ 8月6日	借上げアパート 二本松市	とにかく食事療法に努める。あまり食べられないいらいだちはあるが、退院できた事に笑顔もふえた。	
12	8月6日 ～ 8月25日	病院	食事が全くとれず歩行困難。（四肢浮腫）となり、8/6、慢性心不全増悪にて入院。 利尿剤等投与するも、非代償性で治療に反応せず、8/25、午前11時29分、治療の甲斐も虚しくうっ血性心不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所	
			連絡先	
		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「129-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		心身ともに著しいストレスを受けたことが、病状を悪化させ死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「130-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	<p>デイサービス通所。 日常生活上は、何ら支障なく普段の生活を送っていた。</p>
	月 日	避難先	
1	3月11日	ヘルスケアふたば	デイサービス中、地震に遭遇。そのままヘルスケアに避難。
2	3月12日	会津坂下町	原発事故に伴う避難指示により、ヘルスケア職員と共に川俣町に避難する。
3	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	バスでスーパーアリーナに移動。
4	3月20日	横浜市	スーパーアリーナでの避難生活は容易でないの で、横浜市に移動する。 この頃から食欲がなくなった。
5	4月 2日 ～平成24年 6月11日	いわき市借上げアパート	<p>足、腰が弱くなり、公共乗物での移動は困難であり、親戚の自家用車でいわき市の借上げアパートに移動する。</p> <p>4月中旬から、デイサービスに毎日通所する。 避難移動等で、体力もなくなり歩くことも不自由になった。</p> <p>デイサービスと1ヵ月に1回のショートステイを利用。</p>
6	6月11日 ～ 12月31日	老人ホーム いわき市	<p>いわき市に入所。 まったく歩くこともできず、車いすとなった。 食事も自分では出来ず、介護必要となる ほぼ寝たきり状態となる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「130-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
7	平成25年 1月1日 ～3月13日	いわき市 病院	熱がでたため、救急車で病院搬送される。 点滴治療を行う。 この頃から、まったく話をする事ができなくなった。 病院は、3カ月の約束であったため、病院に転院する。
8	3月13日 ～4月20日	いわき市 病院	転院後も、点滴治療を継続中であったが、4/20 午前0時55分、治療の甲斐も虚しく感染性 ショックのため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により 心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し 死に至った。震災がなければもっと長生きし今 も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「13/ - 1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	じん肺、高血圧のため定期的に通院。 日常生活には特に支障もなく、普段と変わらない生活を送っていた。
	月 日	避難先	
1	3月12日	小野町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で小野町に避難。
2	3月16日	柏崎	小野町から、自家用車で柏崎市に移動する。
3	4月15日	会津若松市借上げ住宅	柏崎市から、会津若松市の借上げ住宅に移動する。
4	平成24年 2月27日 ～ 平成25年 1月16日	老人福祉施設	会津では、冬が寒く散歩もできないので、優良老人ホームに入所。 避難により、精神的に疲労していたようにみられた。じん肺と高血圧のため、通院は病院に継続。介護タクシーで通院。 精神的に他者とのかかわるのが難しかったと思われる。精神科の薬も多数服用。眠剤を服用しないと、寝れない状態であった。また、洗濯物の臭いにも敏感で、頭痛を訴えていた。入所して時間が経つにつれ、精神的状態は悪化していったと思われる。希望は一つ双葉町に帰ることであった。食事は、施設の食事はとらなかった。
5	1月16日 ～2月14日	病院	じん肺にて外来通院加療していたが、1/16、嘔吐、呼吸苦を認め、病院救急外来へ搬送され、肺炎の診断にて同日入院加療となる。
6	2月14日 ～4月6日	老人福祉施設	退院後は、肺、認知も悪化していた。歩行状況も、入院以前より悪化し、再入院に至るまでもディサービスに行き、リハビリをする気力はあったが、身体的においつかない状況
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「131-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
			であった。呼吸器の方はかなり悪化していたようである。苦しいとの訴えあり。何度も●●●病院呼吸器科を受診。食事は、施設契約している配食サービスを利用。誤嚥防止から、ミキサーにとろみをつけていた。
7	4月6日 ～4月11日	●●●●●病院	急性呼吸不全、じん肺のため、●●●●●病院に再入院となる。 4/11、午前0時15分、治療の甲斐も虚しく急性呼吸不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「13d-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	グループホーム「せんだんの家」	認知症であり、介護を必要としたが、自分で歩き、食事をとることもできていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	双葉高校体育館	原発事故に伴う避難指示により、双葉高校体育館に避難。グループホーム「せんだんの家」の介護スタッフが、全員避難したため、特別養護老人ホーム「せんだん」の施設長だけが残り、双葉厚生病院の看護師の協力を得て、オムツ交換（1回むむのみ）が行われた。しかし、水分の補給や軽い食事もしない過酷な状況にあった。
2	3月13日 ～3月15日	二本松市	自衛隊のヘリコプターにて、二本松に避難。 災害弱者も数多く避難しており、必要な介護が受けられる状況ではなかった。 また、寒さも加わり、発熱、脱水症状が現れた。
3	3月15日 ～4月5日	病院	3/15、主治医であった双葉厚生病院の林医師の紹介により、病院に搬送となる。発熱があり、経口摂取困難の診断により入院。 4/5、病状軽快し退院、同日、
4	4月6日 ～6月23日	特別養護老人ホーム	4/6、病院を退院し、入所となる。 ※入所時の状況 【食事】開口良く全量摂取。会場に要する時間は30～40分程度。 【水分】緩くとみをつけたお茶を吸い飲みにて摂取。口腔内に若干の溜め込みがあるがむせりなく摂取されている。 【褥瘡】MSWによるとレベルはステージⅡ程度。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

132-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		
月 日	避難先		避難の状況
			<p>【意思疎通】 自らの要望を言葉で伝達する事は困難と思われる。 はっきりとは聞きとれなかったが体位変換時に「痛い」というような発語が聞かれた。 視力、聴力は保たれているようで声や音がする方向へ顔を向けられる。</p> <p>※入所中の状況 ●4月 バイタル状況：体温は時々37℃台に上り、水分補給と掛け物調整で36℃に下がっている。、血圧は(上)100～120/(下)50～70で安定していた。</p> <p>排便状況：入所時は、尿管カテーテルが挿入されており、約1000mlの尿が出ていた。4/4頃より尿漏れがあり、4/13に管を抜去。初めは尿が出にくい時もあったが、徐々に尿量も増え、現在はオムツ交換で対応。排便は、1～2回/日ペース。</p> <p>医療面：入所時からの仙骨部の褥瘡は良くなり、赤みがあるだけで、退院時に処方された軟膏がなくなり、より軟膏を処方してもらい、現在は入浴後に軟膏をリンと(布)に塗り、患部貼っている。H23,4月の体重測定は45kg。</p> <p>本人の様子 食事：食事はベッドで、おやつはリクライニング型車椅子にて食堂で摂っている。</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

132-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先		避難の状況
			<p>当初は主食：粥、副食：ペーストで通常の量で提供していたが、食事介助（全介助）に時間を要し疲労感が強く、最後まで食べる事が出来ないことと、水分摂取量を確保するため、主・副食ともペースト食に変更。水分・汁物はトロミ付き。時折疲れて眠ってしまう事があり、その際は無理せず食事を中止、目が覚めている時は、全量摂取。</p> <p>入浴：2回/週のペースで、機械浴にて入浴。気持ちよさそうに入浴されている。</p> <p>排泄：オムツ+パットを使用し定時に交換対応。4/13にフォーレを抜去し、その後は自力での排尿が見られている。尿量は普通からやや多め。</p> <p>日中状況：訪室時や食堂へ来られた際に声掛けを行っている。短い発声が聞かれる時がある。傍を通った職員を目で追う姿が見受けられたり、最近では環境に慣れてこられたのか笑顔が見られる。</p> <p>夜間状況：体の向きを変えた際には起きられるが、概ね朝まで静かに休まれている。</p> <p>●5月 バイタル状況：入所した頃より状態も落ち着いて経過されている。 5/22、体温37.2℃、血圧139/61 脈拍72、上肢に振戦様の動きがあり、発汗もあつたため食事を</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「132-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先		避難の状況
			<p>水分中心で摂取していただく。午後には熱も下がり、いつもと同じ様子に戻られ、その後は落ち着いている。顔色も良く、肌のつやも良好。</p> <p>排泄：毎日、定期的に2～3回の排便あり。</p> <p>医療面：臀部の褥瘡は、とても良くなり赤みも消えて、今は何の処置もいらぬ状態。時間毎の体位変換、陰部洗浄など今も継続して対応。</p> <p>体重は5/17の測定で48.5kg。</p> <p>時々、左の目じりが赤くただれやすいので、清浄綿で清拭。</p> <p>本人の様子</p> <p>食事：毎食ほぼ全量摂取されている。眠気の強い際は、なかなか口をあけていただけない事もあるが、声をかけたり身体に触れたりしながら介助している。以前よりも口の開き、飲み込みも良好で、食事介助の時間も短くなったように感じられる。</p> <p>ムセリもあまり見られない。</p> <p>入浴：機械浴にて、2回/週のペースで入浴。</p> <p>排泄：日中・夜間共にオムツとパット使用し定時交換。陰部の清潔保持、尿路感染予防の目的で、お湯で洗い流したり、清拭を行なっている。</p> <p>日中状況：施設での生活に慣れて来られたように感じる。中旬頃より、リクライニング型車イスにて、毎食・おやつ時に食堂にて摂取する。周りを見たり職員の手を握ろうとする姿が見受け</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

132-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		<p>られる。</p> <p>夜間状況：体の向きを変える際に、起きられる事もあるが、その他は変わりなく朝まで休まれている。</p> <p>家族面会：5/6</p> <p>●6月</p> <p>バイタル状況：6/10～11、体温37.0℃～37.4℃に上昇、水枕で冷やし解熱。血圧140～100/80～50台。</p> <p>6/11、顔面発汗、手が時々震えるような動きあったが、その後は見られない。</p> <p>最終バイタル(6/22)</p> <p>KT 36.3℃・BP 133/76・P 64</p> <p>排泄：毎日1～2回定期的に軟便が出ていた。</p> <p>医療面：6/2、左手小指内側に2cm位の水疱及び赤く腫れているのを発見。軟膏で処置したが改善が見られないため、6/7</p> <p>皮膚科受診。抗生剤の飲み薬と軟膏を処方される。赤みも消えて保護のための布を貼付。</p> <p>6/17、アルブミン値検査…年節的なこともあり低めの結果。</p> <p>*アルブミン2.8(正常値3.8～5.3)</p> <p>*体重測定 47.5kg・BMI 25</p> <p>食事：ペースト食、水分汁物トロミ付きにてほぼ全量摂取。眠気が強い時は、顔嚥防止のため無理しないようにしている。口元にスプーンを運ぶと口を開けられる姿が見られる。ムセリは見られていない。</p> <p>入浴：機械浴にて、2回/週のペースで入浴。</p>	
<p>事情聴取先</p> <p>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「132-6」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			<p>排泄：日中・夜間共にオムツとバット使用し定時交換。陰部の清潔保持、尿路感染予防の目的で、お湯で洗い流したり、清拭を行なっている。</p> <p>日中状況：リクライニング型車イスで食堂へ案内。先月同様、周りに視線を向けたり、職員が手を握ると微かにであるが握り返してくる。表情も穏やかに見受けられる。</p> <p>夜間状況：各巡視時、クッション使用し体の向きを変えている。その際、目覚めることもあるが、概ね朝まで変わりなく休まれている。</p> <p>面会状況：6/5、家族の顔を口元が緩み笑顔のような表情になる。首を持ち上げたり、家族の顔をジッと見たりされていた。</p> <p>6/22、退所し、特養 入所となる。</p>
5	6月22日 ～ 平成24年 6月2日	特別養護老人ホーム	<p>6/22、特別養護老人ホーム から入所となる。</p> <p>※入所時のADL情報 食事：ムース食ハーフ＋補食 水分はトロミ使用。 ・摂取時間かかりムセリも見られる。 ・傾眠見られた際は無理せず対応。</p> <p>排泄：ベッド上にて排泄介助 移乗：1人全介助（スタンダード車イスにて可） ・仰け反り見られず。 エアーマット使用 ・臀部に褥瘡治癒あり。アルブミン値</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「132-7」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			<p>も低いために、再度褥瘡になるリスク高い。2時間毎の体位交換実施。</p> <p>その他：脱水に注意し、食事・水分量を確認する。1週間水分量と尿測を実施。※入所中の状況</p> <p>食事：ムース食ハーフ…全量摂取されていた。</p> <p>入浴：機械浴にて、2回/週のペースで入浴。</p> <p>日中：殆どベッド上での生活であった。</p> <p>夜間：目覚めているときもあるが、周囲に迷惑をかけるようなこともなく、概ね朝まで休まっている。</p> <p>表情：発語なし。喜怒哀楽は表情的には感じられない。</p> <p>面会状況：H23年 6/24. 7/4. 7/21. 7/24. 8/15 9/5. 9/9. 9/19. 10/10. 10/22 11/12. 12/18. 12/24 H24年 1/2. 1/29. 2/22. 3/7. 3/11 3/20. 4/9. 4/24</p>
6	5月2日 ～5月21日	病院	<p>5/2、食事量低下し、病院入院となる。</p> <p>嚥嚥、痰がらみ著明…点滴治療施行。</p> <p>経口摂取困難であり、経鼻経管栄養へと移行する事となる。</p> <p>5/14、病院にて経鼻経管栄養開始。1000Kcal/日。</p> <p>5/21、病状軽快し退院となる。</p>
7	5月21日 ～ 平成25年	特別養護老人ホーム 郡山市	<p>H24. 5. 21、施設再入所となる。</p> <p>痰がらみが著明であるため、定時痰吸引を開始する。</p> <p>H25. 4. 16、痰がらみ・嚥嚥が著明に見られ、既</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「132-8」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先		避難の状況
			<p>医師に上申する。経管栄養を中止し点滴で対応との指示を受ける。 4/18に受診予定。</p> <p>H25. 4. 18、入院受診。 検査行なうも肺炎の所見なし。 医師より家族へ肺機能が低下しているため、今後、誤嚥性肺炎を発症する可能性がある事との説明あり。 4/20より経管栄養を再開する予定。</p> <p>H25. 4. 20、経管栄養再開するも、痰がらみ、喘鳴が著明に見られ始めたため、経管栄養中止する。</p> <p>H25. 4. 21、医師に上申し、点滴の指示あり。経管栄養中止し、点滴開始する。</p> <p>H25. 4. 24、微熱・痰がらみ著明にあり。医師往診時、家族へ看取りの説明あり。 4/24日付けで看取り対応となる。 <u>※ほぼ寝たきりで、追視する程度であった。</u></p> <p>H25. 7. 24、19:00 努力呼吸見られ始める。 H25. 7. 25、 0:25、下顎呼吸見られ始める。 1:20、心肺停止。 2:05、懸命な介護並びに治療の甲斐もむなしく、老衰のため死亡。医師が来所し、死亡確認。</p> <p>面会状況 H24年…5/23. 5/28. 5/30. 6/2. 6/11. 6/20. 7/8 7/21. 7/22. 8/4. 8/7. 8/14. 8/25. 9/5 9/27. 9/29. 10/12. 10/16. 10/23. 10/31 11/16. 11/21. 11/25. 12/16. 12/18. 12/21 12/31</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

T 132-9

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		<p>H25年…1/10. 1/19. 1/22. 2/3. 2/26. 3/13. 3/24 3/27. 4/1. 4/10. 4/17. 4/20. 4/22. 4/24 4/29. 5/3. 5/5. 5/6. 5/10. 5/18. 5/25 5/27. 5/29. 5/31. 6/1. 6/3. 6/5. 6/7. 6/8 6/9. 6/13. 6/17. 6/21. 6/25. 6/26. 6/28 6/29. 7/2. 7/5. 7/7. 7/9. 7/10. 7/11. 7/12 7/13. 7/14. 7/15. 7/16. 7/17. 7/18. 7/19 7/20. 7/21. 7/22. 7/23. 7/24. 7/25</p> <p>※入所中の状況 食事：経鼻経管栄養→点滴栄養 入浴：機械浴にて、2回/週のペースで入浴。 日中：殆どベッド上（寝たきり）での生活であった。 夜間：目覚めているときもあるが、周囲に迷惑をかけるようなこともなく、概ね朝まで休まれている。 表情：発語なし。喜怒哀楽は表情的には感じられない。追視する程度。</p> <p>当初の過酷な環境での避難生活により、恐怖と心身ともに受けたストレスは大きく、衰弱し死に至った。原発事故による避難がなければもっと長生きできたものと思われる。</p>	
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。			
		連絡先	自宅・携帯
氏名		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

133-1

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	自宅周辺を散歩中被災する。 双葉厚生病院で月1回受診し、高血圧、心臓病などの処方薬を服用していた。 また、過去に心臓の不整脈があつたため、冠動脈にステントを入れる処置をしていた。 停電にもならなかったため、自宅で一夜を過ごす。
	月 日	避難先	
1	3月12日	川俣	原子力事故に伴う避難指示により、親戚の車で避難する。とても寒かったので、館内に入らず車で寝る。
2	3月15日	いわき市	車で、いわき市に移動。 時折雪が舞ったり、余震が強かったりで、ここも安心できないと考え避難先を検討。
3	3月17日	栃木県小山市	車で、栃木県小山市のに移動。 一晩だけ世話になり、また移動する。
4	3月18日	東京都練馬区	近くの病院を受診し処方薬をもらう。 急な避難生活により、足腰が弱くなり、転倒することが多くなる。
5	5月26日	借上げ住宅 福島市	福島市の借上げ住宅に移動。 月1回、病院を受診し、高血圧、心臓病の処方薬をもらう。 足腰も弱くなり、ほとんど自力では外に出なくなる。
6	平成24年 9月6日	福島市 医院	医院で血液検査→カルシウム不足と貧血あり。
7	12月11日 ～ 12月23日	病院	高度貧血、下血により入院。 検査の結果、貧血、大腸憩室症、高血圧症、慢性心不全と診断され、内服、補液療法、輸血療法を施行する。
8	12月23日 ～平成24年 5月7日	借上げ住宅 福島市	退院後は、普通に生活していたが、徐々に体力の衰えが感じられた。 3月頃から、歩くことも思うようにならず、食欲もなくなり 医院の往診を受け入院となる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

133-2、

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	住 所	
	生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
[REDACTED]		
[REDACTED]		
月 日	避難先	避難の状況
5月7日 ～5月20日	[REDACTED] 病院	<p>胸、腹水、食欲不振、下血がみられたため、内服、補液療法、輸血療法を施行するも、5/20、午前5時29分、治療の甲斐も虚しく多臓器不全により、病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため病状が悪化し、死に至った。特に、高齢者にとっては、相当の負担があったと思う。</p> <p>震災がななければ、もっと長生きし今も存命であったと思われる。</p>
[REDACTED]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住 所
		連絡先
	氏名	住 所
		連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	在宅で生活。拡張型心筋症及びB型肝炎の治療のため、定期的に病院を受診。自宅では、服薬のほか食事療法（水分・塩分の管理）、夜間は在宅酸素療法を実施。
	月 日	避難先	
1	3月11日	ヘルスケアふたば	3/11の地震により、送迎にて、ヘルスケアふたばに避難。
2	3月12日	川俣町	原子力事故に伴う避難指示により、バスに乗り、川俣町おじまふろさと交流館に避難。和室スペースがあったので、母親は和室を利用させてもらう。服薬、食事療法、在宅酸素療法は実施できなかった。
3	3月19日	埼玉県スーパーアリーナ	川俣町からバスに乗り、さいたまスーパーアリーナに移動する。スーパーアリーナでは、通路を利用した集団生活。在所中、病院を受診、投薬を受ける。食事療法は在宅酸素療法は実施できず。
4	3月31日	埼玉県旧埼玉県立騎西高校	スーパーアリーナからバスに乗り、埼玉県加須市の旧埼玉県立騎西高校に移動。1部屋20～30名程度での集団生活となる。食事療法、在宅酸素療法は実施できず。
5	4月13日 ～6月13日	病院	4/13、めまい、呼吸苦で倒れ、保健師の付添のもと、病院を経て、病院に緊急搬送される。入院後、利尿剤投与、強心剤による保存的加療を開始する。 4/26、カテーテル検査施行。施行後、合併症なく経過。胸部症状出現することなく経過安定。 6/13、CRT施行のため、病院へ転院する。 ※医師の所見 拡張型心筋症による低心機能症例。過度の肉体的、精神的ストレスをさけ、安静を維持、また、定期的な内服治療をうける必要があった。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所	
			生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況	
			また、心不全に対する酸素療法として、在宅酸素療法を導入されていた。避難生活による身体的負荷、精神的負荷に加え（安静保持不能）内服治療及び在宅酸素療法が不安定。また、とぎれたこと及び食事療法（水分、塩分管理）が出来なかったことにより、心不全の増悪へ影響したと考えられる。	
6	6月13日 ～6月27日	病院	外科的治療（CRT）の施行及び、「福島県県内に戻りたい」という希望により、病院に転院。検査・診察の結果、外科的治療は適応にならず、心不全への運動療法及び内服薬を調整し、心不全の加療を行った。長期の入院が必要となるため、6/27、転院。	
7	6月27日 ～7月5日	病院	6/27、慢性心不全（増悪）により、長期の入院が必要となったため、病院に入院となる。必要な検査及び内服薬調整が行われる。 ※医師の所見 過度のストレス、不規則な食事を強いられたため、増悪したものと考えられる。	
8	7月5日 ～7月31日	福島市	7/5、を退院し、が避難生活を送り、福島市内の避難施設となっていた旅館に移動。旅館の1部屋を借り避難生活を送る。食事療法は実施できず。日常の診察は、体への負担（医大では診察の待ち時間が長時間）等を考慮し、病院で月1回程度受診することとなった。 ※通院状況 7/19	
			温泉施設の使用期限の関係で、長女家族が転居する応急仮設住宅に移動。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯
		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯

	死亡者氏名		住 所 生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況		
9 7月31日 ～平成24年 1月17日	福島市 [redacted] 応急仮設住宅	1部屋を借り、避難生活を送る。浜通りとは異なり、福島市内は夏は猛暑、冬は零下まで冷え込み、かつ仮設住宅住まいで、余計に寒暖の差が、体には相当厳しかった様子。 夏ぐらいから体重が増え、むくみがひどくなる。また、福島市内には、減塩の食事を提供する宅配業者が少なく、食事管理が難しかった。 ※通院状況 8月…8/23・8/27 9月…9/13 10月…10/11 11月…11/8・11/22 12月…12/6		
10 1月17日 ～2月15日	[redacted] 病院	1/17、うまく立ち上がれないくらいひどい下肢のむくみ、立ちくらみによる転倒。急に眼が見えづらくなった等の症状があり、長女に連れられ、[redacted] 病院を受診そのまま入院となる。 昨年、[redacted] 病院入院時と比べ、体重が14kg程増加していた。無くなる1週間程前、主治医より「新しい利尿剤が功を奏し、体のむくみがひけ、状態は安定している」という説明を受けたばかりだった。亡くなる2日前に、血液検査で炎症反応がみられたので、抗生剤を投与した後くらいから状態が一気に変化し、嘔吐を繰り返し、意識障害の様子もみられた。亡くなる前日も、主治医はレントゲンを撮っても心臓の状態は悪くないので、亡くなることはないだろうということであったが、6/15、午前6時45分、容態が急変し、治療の甲斐も虚しく、拡張型心筋症のため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたために病状が悪化し、死に至った。震災がなければ、もっと長生きし今も存命であったと思われる。		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯
		氏名	住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

No. 1

125-12

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	双葉町スズ新山 社協デ－サービス (安全確保の為泊す)	・食欲あり・夜間も良眠で精神的にも 落ち着いていた。 ・食事・トイレ・着脱など家族見守りで可
	月 日	避難先	避難の状況
2	H23 3月12日	AM デ－サービスに迎えに行き 自宅 8°避難指示にて川俣へ出発 15°川俣 避難場所到着	避難所(川俣)で寒さの為トイレ頻回 精神的にも落ち着かず。
3	3月13日	避難所(川俣) トイレが和式で使用困難にて 隣(5~6m)公民館2Fトイレ側に 移動	寒さ・精神的不安定の為排泄頻回になる。 トイレ時転倒し。臀部打撲し疼痛許あり トイレ移動時など歩行・衣類着脱人助す。
4	3月15日	川俣より → 茨城県つくば市 避難場所	避難所で日中・夜間不眠で耳が遠い(難聴) 為か大声で話し。周囲の方に迷惑を及ぼす事が 多くなり、新しい避難所へ移動(7時頃開始)
5	3月16日	茨城県つくば市 避難場所	アポイント狭く。不眠・トイレ移動困難が あり。アポイント借りた。 環境の変化の為。落ち着かずトイレ以前同 様になる。
6	3月22日		食欲はあるも。不眠・頻尿が続く 「家に帰えからう送って行てくれ」と大声を 出した。外へ出て行たりする事が多くなり デ－サービス利用開始。
	以下継続		避難状況が理解出来なく。環境適応 出来ない為。衣類をそろえた。ちよとした事で 怒ったり。大声を出したり。落ち着かない様子あり。 夜間尿失禁する様になり。夜間のオムール使用
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	住 所
		連絡先	連絡先
		連絡先	連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「135-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
7	H23 4月23日	茨城県つくば市	アホー十生活で不眠が続き、大声を出したりし 隣室迷惑もあり、転居と決意 精神的安定を考え、双葉に近い環境（田・畑 が多い場所）
8	5月1日		ここ2ヶ月で4回も転居した為か、 痴呆症状が進み、自病の7人の人殺作も 頻回になり、乗車方が増量となる
	以下継続		乗増量になり初回良眠なるも、日中は相変わらず 不眠状態、最終的に「家に帰る！」と大声・ 外に出る（不眠）（勤務先 大野町で月の 2/3不眠）時、4時頃にひどくなるので、
			ショートステイ利用勧められる、 医療機関時、医師所見書
9	9月		介護サービス利用の増加により、施設内 生活環境への適応出来ないのか、体力・食力、 食欲の減退が日々増す様になる。
10	H24 5月6日		竜巻にあう 特に受傷なし
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

N0.3

震災後から死亡までの経緯について

「125-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
11	H24 5月24日	茨城県つくば市	竜巻にて住居半壊で転居 おまに、環境の変化で以前より落ち着かず 「いっまで、ここに泊ればいいんだ」と、大声を出す 事はなく、食欲もあらかり、体力・気力を
	以下経緯		なく、すぐ寝になる様になる。 夜間オムツ使用のため、尿路感染を患え、 度々・熱発す。長い避難生活で環境の変化が 著明に確実に身体への影響となっていた。
12	11月29日	つくば市	11月27日 熱発し、いちばう病院受診し、尿路 感染と診断される。 11月29日 27日より、熱下りす、再度受診し肺炎 併発し入院となる。
13	H25 1月31日	〃	上記で入院、絶食・水で64日間治療 受けるも午後0時52分永眠す。
			今回の震災で精神的な不安・ストレスが増加・ 介護サービス利用の増加などにより、食欲・ 体力・気力の低下、オムツ使用などにより尿路 感染を起しやすい、病状悪化に繋がり肺炎
			併発した事が、死亡の原因になったと思われ、 母が「家へ送って行ってくれ」と言っていた事が、 死亡により、双葉町に戻す事になったことは 残念でありません。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「136-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	食事はムース食。 月1回、病院に通院。（血圧等） 自宅で、穏やかな生活を送っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ヘルスケアふたば	デイサービス通所中（ヘルスケアふたば）地震に遭遇。帰宅困難につき、そのまま同所に泊。
2	3月12日 ～3月13日	川俣町	原子力事故に伴う避難指示により、社会福祉協議会のバスで、川俣町総合体育館に移動。その後、川俣町総合体育館に移動。※ムース食が調達できず、ベビーフード等を食べていた。劣悪な環境であった。
3	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	社会福祉協議会のバスで、スーパーアリーナに移動する。※ムース食が調達できず、ベビーフード等を食べていた。劣悪な環境であった。
4	3月30日	埼玉県立旧騎西高校	社会福祉協議会のバスで、旧騎西高校に移動する。
5	4月1日 ～5月10日	(埼玉県加須市)	4/1、発熱あり、受診。 肺炎により入院。 点滴治療施行、内服薬服用し、病状軽快し退院となる。
6	5月10日 ～平成24年 10月20日	介護老人保健施設 (埼玉県加須市)	5/10、病状軽快し退院となるも、避難所での生活はとても無理であることから、に入所する。 歩くことはできないので、車イスに乗せてもらえば、後は自分で操作し、庭等を散歩していた様である。トイレも、連れて行って貰えば自分でしていた。 自宅にいるような感じで、日常的に穏やかな生活を送っていた。 月1回程度面会にいくと、相当ストレスは抱えているように感じられた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「136-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況		
7	10月20日 ～ 10月30日	加須市	10/20、発熱あり 病院受診。 肺炎により入院。 点滴治療施行、内服薬服用し、病状軽快し退院となる。		
8	10月30日 ～ 平成26年 6月12日	介護老人保健施設 (埼玉県加須市)	5/10、病状軽快し退院となり、 に再入所する。 歩くことはできないので、車イスに乗せてもらえれば、後は自分で操作し、庭等を散歩していた様である。トイレも、連れて行って貰えれば自分でしていた。 自宅にいるような感じで、日常的に穏やかな生活を送っていた。 月1回程度面会にいくと、相当ストレスは抱えているように感じられた。		
9	6月12日 ～ 6月22日	加須市	6/12、肺炎にて 病院に入院。 点滴治療施行、内服薬服用したが、手遅れ状態であったため治療の効なく、6/22専門的で設備の充実した 病院に緊急搬送となる。		
10	6月22日 ～ 6月25日	病院 (埼玉県羽生市)	6/22、 病院に転院するも、治療の施行もほぼ無理な状態であった。 6/25、午前6時23分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しストレスのため、度々肺炎を起こし、衰弱して死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所		
			連絡先		自宅・携帯
		氏名	住 所		
			連絡先		自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「137-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	特に問題もなく、普段の生活をしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉中学校グラウンド	地震により、双葉中学校グラウンドへ避難。 （車内待機）
2	3月12日	石熊 津島	原子力事故に伴う避難指示により、石熊公民館 に避難。更に浪江町津島に避難。
3	3月14日	二本松	二本松へ移動避難する。
4	3月19日	埼玉スーパーアリーナ	通路での避難生活となり、とても生活するよう な環境ではなかった。
5	3月25日 ～4月4日	病院	3/23日頃から、感冒症状が出現、徐々に悪化し 3/25日、病院搬送となる。 レントゲン上、うっ血、胸水あり、心不全増悪 と判断し、同日入院となる。 診断：①慢性うっ血性心不全②急性上気道炎 ※医師の所見…集団生活に伴うストレス、食事 療法困難等により、悪化したこ とが起因と思われる。
6	4月4日 ～ 平成24年 6月2日	加須市	4/4、の、加須市騎西高校 への移動避難に伴い、病院から 加須市病院に転院。避難所での集団避難生 活は困難のため、療養病棟への入院となる。 体動時の呼吸苦、体動困難、浮腫が見られたが この症状は震災前からあったとのこと。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先
		自宅・携帯	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

137-21

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		入院加療で、浮腫の消失、ADLはほぼ自立となったことから、5/2、退院となる。	
5月2日 ～8月26日	借上げ住宅 埼玉県加須市	退院後、特に大きな変化もなく、穏やかな生活を送っていた。 H25.4月頃から、耳が聞こえにくくなり、手は震えて、字がまともに書けなくなり、記憶も薄れてきていた。	
		※退院後の通院状況 5月…5/6、10、24、31 6月…6/5、14、28 7月…7/12、18、19、25、26 8月…8/9、23	
8月27日 ～9月6日	病院 栃木県都賀郡壬生町	8/26、高速道路で事故に遭い、病院に搬送となる。腰椎圧迫骨折との診断により、入院、安静が必要となったが、以前入院していたことから、から病院に紹介状を書いていただき、病院に入院となる。 9/6、病状軽快し、退院となる。	
10月12日 ～ 平成25年 8月21日	加須市	※H25.4… 10/12、体調不良を訴え、再入院となる。 認知症が進行し、ADL低下していた。 心不全症状、所見は不変。 8/21、午後9時39分、容態急変し、治療の甲斐もなく慢性心不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため、死に至った。震災がなければもっ長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住 所	
		連絡先	
	氏名	住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「138-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	健康状態もよく、普段変わらぬ生活を送っていた。
	月 日	避難先	
1	3月11日	双葉中学校	自宅から、双葉中学校に避難したが元気にしていた。食事支給されたものを食べていた。
2	3月12日	田村市	避難指示により、双葉中学校から田村市へ避難、車で2時間を要す。食事支給されたものを食べていた。
3	3月17日	白河市 白河市 借上げアパート	では、暖房用灯油がなくなるとの事で、寒さに耐えられないので、白河市のへ移動。食事いつものように食べ、元気だった。
4	4月 1日	白河市 借上げアパート	白河市のアパートが3月で契約切れのため、のアパートへ移転。本人は、アパート生活に慣れていないので、窮屈な思いをしていた様であった。
5	5月 7日	いわき市	アパート生活に慣れていないので、いわき市宅に移動。移動時間に3時間程要し、本人はとても疲れた様子だった。
6	5月12日 ～24/20	いわき市 グループホーム	に移動したが、本人が気をつかい、のグループホームに入所。避難の為神経をつかい、入所後ショックを受けたようだ。特に異状もなく、普段の生活を送っていた。
7	平成24年 1月20日 ～2/10	西白河郡西郷村 借上アパート	グループホームから、西郷村借上げアパートに移動。一戸建てなので、誰に気がねすることもなく、楽しく暮らしていた。食事普通通り。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

死亡者氏名	住所	
	生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について
月 日	避難先	避難の状況
8 2月10日 ～3月20日	白河市西郷村 借上げアパート	西郷村借上げアパートに移動。 自然がいっぱいあり、気に入った様子であつた。食事も普通に食べており、元気に生活していた。 1/23日より、西郷村のグループホームへ週4日、昼間のみ通所。
9 (い)も 3月20日 ～ 平成25年 5月29日	病院	貧血がひどくなり、病院で検査、慢性リンパ性白血病との診断で入院。 震災前も病院に通院していたが、白血病の診断はなかった。 5/22日朝、退院が決まっていたのが、容態が急変し、個室へ移動。危篤状態となる。 5/24、腎機能が低下したので、透析を行うためICUへ移動し治療。 5/27、透析を受けた結果、容態が安定したので個室へ移動。体調が良いと話をしていた。 5/29、体調が急変し、午後3時59分、治療の甲斐も虚しく呼吸不全のため、病床にて死亡。 度重なる移動、過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。 このようなことがなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
	※記載の「気管支喘息」について	平成14年10月頃、双葉厚生病院にて気管支喘息の診断を受け、吸入薬(呼吸が苦しくなったときに吸う薬)を処方されていたが、平成20年3月頃には改善したので、薬は処方されていなかった。 その後、平成24年11月頃病院で診察の結果、気管支喘息の診断により、吸入薬を処方される。震災及び原発事故による精神的なもので、再発したのではと言われた。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所 連絡先
	氏名	住所 連絡先 自宅・携帯

✓ 138-34

死亡者氏名		住 所 生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
月 日	避難先	避難の状況	
8 2月10日	白河市西郷村 借上げアパート	西郷村●借上げアパートに移動。 自然がいっぱいあり、気にいった様子であった。食事も普通に食べており、元気に生活していた。 1/23日より、西郷村のグループホームへ週4日、昼間のみ通所。	
9 3月20日 ～5月29日	●病院	貧血がひどくなり、●病院で検査、慢性リンパ性白血病との診断で入院。 震災前も病院に通院していたが、白血病の診断はなかった。 5/22日朝、退院が決まっていたのが、容態が急変し、個室へ移動。危篤状態となる。 5/24、腎機能が低下したので、透析を行うためICUへ移動し治療。 5/27、透析を受けた結果、容態が安定したので個室へ移動。体調が良いと話しをしていた。 5/29、体調が急変し、午後3時59分、治療の甲斐もなく呼吸不全のため、病床にて死亡。 度重なる移動、過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。 このようなことがなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	連絡先
		氏名	住 所

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「139-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	をしていた。 高齢であったが、特段、不自由なく普段の生活を送っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	H23. 3. 12 ～3. 26	自宅	状況は不明。
2	3. 26 ～H24. 1. 14	介護老人保健施設	<p>3/26、自衛隊より緊急避難的受入れ要請があり、同日夜、受入する。</p> <p>自衛隊が双葉町の避難状況を確認していたところ、自宅に残っていたを発見。特に、はオムツ交換もしばらくされておらず、皮膚状態劣悪であった。すぐに入浴をしていただく。は脱水、皮膚がただれひどい状態であった。</p> <p>にて、情報収集に手間取るも、何とか、居宅ケアマネの情報を得ることができた。</p> <p>※入所中の状況 4/5「サービス担当者会議実施」 看護：採血結果異常なし 栄養：体重44kg、採血にて低アルブミン認める。常食全量摂取。 リハ：歩行練習実施、小刻みはあるが独歩可、右膝痛あり。 介護：失見当識あり、認知症検査6/30 7/29「サービス担当者会議実施」 暴言・暴力、幻覚といった症状あり。 薬（リスベリドン）の提供も行う。独歩可能、体重44～45kgで推移。 11/30「サービス担当者会議実施」 不穏症状あり、急に立ち上がった、床</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

139-24

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			に寝て動かなかつたりと、常に見守りを要す。両膝痛や右大腿部痛もあり、移動はシルバーカーを使用したり、車椅子併用する。 1/14、呼吸苦、喘鳴症状あり受診し、気管支炎にて入院となる。
3	H24. 1. 14 ～1. 21	病院	1/14、急性気管支炎（喘鳴、発熱）のため入院となる。妻と離れ、落ち着かない様子でベッドから何度も降りようとしていた。 1/21、抗生剤、酸素施行で病状極快し、退院となる。
4	1. 21 ～4. 28	介護老人保健施設	1/21、経過良好で退院となり、再入所となる。施設へ戻り、妻と顔を合わせるなり、涙を流していた。 ※入所中の状況 2/9「サービス担当者会議」 膝痛、めまいあり。幻覚、妄想あり。 体重45kg、常食提供。 4/28、介護老人保健施設へ転所となる。
5	4. 28 ～H25. 7. 9	介護老人保健施設	4/28、妻と二人揃っての入所となる。 9/11、妻が先に、特養に入所が決まり、声を荒げてお別れする妻に、涙ながら励まして送り出す姿を思い出します。 12/29 肺炎のため、受診。ベッド潰床のため入院せず施設にて療養する。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
氏名		住 所	
		連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「139-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
6	7.9～7.27	病院	肺炎（発熱、呼吸困難）のため、入院となる。 点滴、酸素吸入を施行し、7/27、病状軽快し、退院となる。
7	7.27 ～11.19	介護老人保健施設	7/27、退院し、再入所する。 ※入所中の状況 8/6、受診。口腔検診で膿をもって、口腔外科受診。歯が腐っているため、炎症や肺炎予防のため全て抜歯。 帰ってきて、食事をする時に、急に涙を流したことがあった。ショックだったのか、以前より元気がなくなってしまった様子だった。
8	11.19 ～H26.2.8	特別養護老人ホーム 郡山市	11/19、特別養護老人ホームに入所となる。 ※入所時の状況 精神状況は落ちいており、生活全般に介助が必要な状態であった。 ようやく、妻と一緒に同じ施設で過ごす事ができるようになり、お互い安心した様子。会話はありませんでした。二人とも嬉しい様子が伝わってきた。 ※入所中の状況 生活全般に介助を要したが、健康状態及び精神状態ともに落ち着いていた。 食事はミキサー食を摂取し、時々、ムセリがみられた。一時期、肺炎の診断にて、血中酸素飽和濃度が低く、圧縮酸素吸入を施設内で実施したが、徐々に全身機能の低下がみられ
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「139-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			<p>医師により、老衰によるものと診断される。</p> <p>医師により、家族への状態説明と家族の今後の意向について確認が行われ、施設内における看取り希望であることを確認した。</p> <p>その後、圧縮酸素吸入を中止し、状態に応じた看護及び医療行為を行いながら経過。</p> <p>2/8、午前11時45分、治療の甲斐も虚しく、家族に見守られながら、施設にて老衰のため死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。</p> <p>震災がなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

140-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	杖を使用することにより、一人で歩くことができた。脳梗塞の後、左手足に少しマヒがあるが、トイレも自分で行くことができていた。週2回、浪江町にある老人保健施設のデイサービスに通所していた。
	月 日	避難先	
1	3月11日 ～3月12日	老人保健施設	デイサービスから帰る、途中地震に遭遇、道路も寸断されていたため、自宅に帰ることができず、に引き返す。後に、に避難となる。
2	3月13日	南相馬市	からどこへ避難したか連絡がとれず、いろいろと電話をかけましたが、わからない状態であった。後に、南相馬市のに避難していたことがわかった。
3	3月14日	二本松市	がまで迎えに行き、二本松市に避難させる。
4	3月19日 ～ 平成24年 7月24日	横浜市神奈川区 横浜市西区 (借上げ住宅)	横浜市のに移動する。避難する数日間で、足がかなり弱ってしまったうえに、慣れない土地で、坂道が多いことも重なり、徐々に歩行に介助が必要となった。 介護老人保健施設のサービスの利用するが、その他の外出は殆んどしなくなる。知り合いもない避難先での生活で、徐々に軽い認知症状も見られるようになり、歩行状態がさらに悪化していった。妻が夫に動くように働きかけてきたが、夫もなかなか動かず、妻は介護疲れでうつ状態の様子だった。その状況でショートステイの申込みがあり、まずは2週間ということが入所する。2週間後、入所に切り替える。食事は自分で振れていた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「140-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先	避難の状況		
5	7月25日 ～ 12月10日	介護老人保健施設 神奈川県横浜市	<p>家族の負担が増したことや、狭いマンションの中だけでは、運動量が極端に少なくなってしまうなどから介護老人保健施設に施設し、介護やリハビリ指導を受けることとする。</p> <p>※入所中の状況 足元に不安があり、歩行が難しい状態だったため車椅子で生活し、入所当初よりTVを見て生活していることが多かった。やはり入所生活のストレスを感じていたようで、食べたいものが食べられず、ため息を溜らすことがあった（H24.8月後半） H24.11月半ば頃より、不穏となり、不眠気味、暴言、家に帰りたいという発言が聞かれるようになった。 12/10、朝から気分不快を訴えていた。食事も食べたくないということで様子をみていたが、午後には反応が鈍くなり嘔吐あり。 夕方、救急車で病院に搬送される。 入所より、食事はほぼ10割摂取、入院する前日まで、食事は摂っていた。</p>		
5	12月10日 ～ 平成25年 2月7日	病院	<p>12/10、夕方、病院に搬送される。 検査の結果、小脳出血と診断される。避難生活でのストレスから血圧が不安定になったのが原因にあるとのこと。意識はそのまま回復することなく、ほぼ全介助（E3V3M5）、胃瘻より栄養摂取。 2度の脳梗塞により、左不全片マヒあり。徐々に認知症状及び歩行状態悪化。保存的に加療する。</p>		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名		住 所	
				連絡先	
		氏名		住 所	
				連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

140-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先	避難の状況		
			<p>病院での治療が終わり、これ以上の回復は望めないとの説明を受け、転院先を紹介される。</p>		
6	2月7日 ～5月16日	<p>病院</p> <p>横浜市緑区</p>	<p>2/7、救急医療の病院から、病院へ転院する。 入院時、四肢マヒ、全介助状態。 経管栄養を行い、全身状態管理していた。点滴、経管栄養を施す。</p> <p>2/13、と認定される。</p> <p>5/16日、午前5時40分、治療の甲斐も虚しく老衰のため、病床にて死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもつと長生きし今も存命であったと思われる。</p>		
			<p>※通院状況</p> <p>H23…3/22・4/8・4/18・4/22・5/13・5/31・6/8・7/7・8/5・9/9・10/3・10/24・11/14・11/30・12/24</p> <p>H24…1/20・2/10・2/17・2/21・2/29・3/30・4/13・4/28・5/28</p>		
<p>事情聴取先</p> <p>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名		住 所	
				連絡先	
		氏名		住 所	
				連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「141-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	畑仕事などをしており、健康状態は特に問題はなく、普段通りの生活をしていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉中学校	地震により双葉中学校に避難する。
2	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、バスで川俣町に避難する。
3	3月19日 ～7月22日	埼玉スーパーアリーナ	バスで、川俣町から埼玉スーパーアリーナに移動。
		(埼玉県川越市)	そのまま、に避難。にて少し落ち着いたが、避難生活が長く、慣れていない所での生活で少しずつ体に変化が出てきた。同じ事を何度も言ったり、さっき聞いた事をまた聞いたりとすごく不安な感じが続く。以前の妹とは違くなったと、妹もすごく心配していた。自分のことは自分で何でも出来ていたし、食事も普段と変わりなく摂っていた。
4	7月22日 ～8月11日	田村市	避難先がまた変わり、夜は、部屋の入口がわからなくなったり、すべてが双葉に居た時とは違くなってしまった。食事でも、朝のパンなどは、見ていないと一人で3袋も食べてしまい、周りの人たちが心配してくれた。だんだんと孫や嫁のこともわからなくなってきた。身のまわりのことは全て自力で出来ていた。
5	8月11日 ～平成25年 5月29日	田村市 仮設住宅	物忘れなどが多くなってきたので、ヘルパーに食事や部屋の掃除等をお願いした。目薬などは眼でなく口に入れて飲んでしまうなど、目が離せない感じであった。掃除もきれいにする人だったが、掃除も出来なく、また、針仕事なども好きな人なのに、めんどろと言ってやらなく
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「141-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]	
			生年月日	[REDACTED]	
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
[REDACTED]					
[REDACTED]					
	月 日	避難先	避難の状況		
			<p>なった。仮設住宅での生活は、部屋の中でいつも外を見て、何かボヤッとしている様子。たまは外に出ては、仮設の人たちと話をしたり散歩に行ったりしていた。</p> <p>施設入所のため、ディサービスに通い、楽しいので、今度も行ってみると話していた。食事も普通に摂っていたし、身のまわりのことは自分でやっていた。</p> <p>精神状態は波があり、突然怒りだしたり、不安なことがあれば時間など関係なく聞きに来ていた。また、高血圧の治療は、病院に連れて行っと言われれば嫁が連れて行っていた。薬は飲んだり飲まなかったりだった。</p>		
6	5月29日 ～5月31日	[REDACTED] 病院	<p>5/29、昼過ぎ、子供を学校に迎えに行き、戻ってくると部屋で倒れている母を発見、救急車で郡山市 [REDACTED] 病院に意識のない状態で搬送される。意識も戻ることなく、5/31、午後3時16分治療の甲斐も虚しく脳幹部出血のため、病床上で死亡。</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため病気を引き起こし、死に至った。</p> <p>震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>		
[REDACTED]					
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所		
			連絡先 自宅・携帯		
		氏名	住 所		
			連絡先 自宅・携帯		

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	ヘルスケアふたば	3/11、デイサービス通所中、震災に遭遇。ヘルスケアふたばで一夜を過ごす。
2	3月12日 ～3月16日	二本松市	ヘルスケアふたばで一夜を過ごし、3/12、双葉高校グラウンドへ移動。自衛隊のヘリをム待っている間、福島第一原子力発電所の爆発で、被爆した可能性あり。自衛隊ヘリで、二本松市へ避難。（後日、社協職員から当時の状況を教えてもらうも、詳細は不明。）
3	3月16日 ～3月19日	郡山 学校	詳細不明。
4	3月19日 ～平成25年 3月5日		3/19、郡山 学校から移動する。避難所よりスクリーニング検査実施後、家族送迎にて入所。 訪問診療。震災により緊急避難してきたため、内服薬持参なく、アムロジピン（降圧剤）処方となる。 4月…4/20、訪問診療。 状態特に変わりなく、処方変更なし。歩行時の転倒、除尿の時もあるようなので、バイタル測定時注意してみようという指示有り。 5月…施設での生活にも慣れ、他利用者と笑顔で会話されたり、レクリエーションなど積極的に参加されるようになった。 5/16、エレベーターより降りる際、バランスを崩し、尻もちをついている所を発
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「142-2」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
月 日	避難先		避難の状況
			<p>見。バイタル測定しDrへ報告。様子観察するよう指示あり。</p> <p>6月…6/1、訪問診療。</p> <p>血液検査の結果問題なし。</p> <p>処方変更→ミンザイン、ラキソ追加。</p> <p>6/7、昨晚、ミンザイン内服し立位困難、歩行困難がみられ、全介助にてトイレ介助を行う。転倒の危険あったため、畳コーナーで休んでいただく</p> <p>Dr報告→NS判断で様子見るよう指示有。</p> <p>夜間のトイレ回数が、多い時で15～17回になるときもあり、夜間十分な睡眠が取れるようミンザイン処方となり、一昨日内服したところ、夜間覚醒するも歩けず呂律もまわらない様子あり、トイレ誘導は3回であったが、眠剤内服することで転倒の危険等、リスクが大きいためDrに報告し、内服を一旦中止し、様子観察を行い量を半分に減らしてみるなど検討していくこととする。</p> <p>6/10、家族面会（ ）あり、ホールにて過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面会の際、本人、笑顔が見られている回数多い。 ・日中、居眠りする姿はあるが、他者と会話したり、歌を唄って楽しく過ごしている事を伝える。 <p>夜間、居室にて物音あり、頭部を居室の扉に寄りかかり、左側臥床の状態で転倒しているのを発見。本人「トイレに行こうと思った」話す。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。

--	--	--	--

--	--	--	--

月・日	避難先	避難の状況
		<p>バイタル異常なし、頭部の痛み、気分不快の訴えなし。 頭部クーリングにて臥床に経過している。</p> <p>6/18、病院循環器科受診。 胸部X-P、心電図、超音波、動脈硬化検査を行う。→軽度の心肥大はあるが、他に異常なし。心肥大は高血圧が原因と考えられるため、少し塩分控えめな生活をしてくださいとの事。また、除脈や下肢のむくみの原因は不明だが、高齢と言うこともあり治療というよりもこのままの生活を支援していく方向で経過観察し、塩分量の対応検討する。</p> <p>7月～9月…状態も特に変わりなく、レクリエーション等にも積極的に参加され、本人のペースで過ごされている。</p> <p>10月…訪問診療。 除脈や心臓肥大があるため、ふらつき転倒、塩分控えめの食事を提供するという指示あり。 ・夜間のトイレ回数が徐々に減ってきている。 ・肉、魚は繊維が噛み切れないため、ミキサー食で提供。 ・状態に合わせて、シルバーカーと車イスを使い分けしている。</p> <p>11月…日頃より、レクリエーションにも積極的に参加され、ケアプランの学習的なプログラムも楽しんでされている。 訪問診療で特変みられないが、状態観察</p>

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
月 日	避難先		避難の状況
			<p>を行い、異常の早期発見に努める。</p> <p>12月…歩行はトイレまでの短い距離はシルバーカー使用し、その他は車イスを使用することが増えている。</p> <p>足や顔にむくみみられることあり、Drへ報告し塩分や無理のない程度に体を動かしている。</p> <p>平成24年</p> <p>1月…1/4、居室より「あらあら助けてとの声と同時に、何かにぶつかる音がする。」訪問すると、仰向けに転倒し、後頭部より出血あり。Drへ報告し、患部をガーゼ保護するよう指示有り。</p> <p>住診有り。抗生剤3日分処方となる。</p> <p>夕食後、嘔吐数回あり。以後落ち着く。BP 149/94 P84 SP02 96%</p> <p>痰からみや呼吸苦ややあり。頭痛訴えなし。嘔気治まる。下痢症状なし。セミファーマー一位対応。</p> <p>安静にて経過観察中。</p> <p>1/7、日中より、「私はどこに居るんだべ、息子も心配しているから長塚に帰る。」との訴えあり。落ち着かず立ち上るもふらつきあり、転倒の危険もあり、隣に住むに面会をお願いする。</p> <p>5分程でが来所する。</p> <p>「今晚だけで良いから連れて帰って」「家は狭い無理だ。原発が落ち着いたら長塚に帰れるから、もう少し頑張って」「ここは病院だべ」「そうだ、早く病期治さないと家に帰れない</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「²4~~4~~-5」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。

月 日	避難先	避難の状況																
		<p>よ」…こんなやりとりがあり、その後、徐々に落ち着かれ、21時に入床される。</p> <p>1/11、訪問診療。 発熱もなく、精神状態も落ち着いて過ごされている事をDrへ報告。引き続き状態観察し、変わりある時は連絡するよう指示あり。</p> <p>1/19、面会に来所される。 風邪症状も改善し、漢字や計算問題を解いたり、いつもと変わりなく生活されている事、血液検査の結果、数値に異常はあったものの治療の必要はなく経過見ていく事などを伝える。</p> <p>2月～3月…シルバーカーと車イス使い分けている。夜間、排泄覚醒6回程度。計算問題や漢字の問題も以前と変わらずできている。</p> <p>4月～5月…車イスとシルバーカーを併用し、移動安全に行っている。</p> <p>6月～7月…むくみについてDrへ伝え、様子観察の指示あり。</p> <p>8月～9月…顔や足の甲にむくみがあるがDrより体重、バイタル測定し異常の早期発見に努めるよう指示あり。 普段は食事も全量食べ、夜間も5回程度起きるがシルバーカーで移動できている。長い移動には車イス。最近傾眠がちなことが多くむくみがひどく滲出液が多くガーゼ保護。日中も適宜臥床していただき足の挙上し</p>																
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td>住 所</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td>住 所</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> </table>	氏名		住 所				連絡先		氏名		住 所				連絡先	
氏名		住 所																
		連絡先																
氏名		住 所																
		連絡先																

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-6」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
月 日	避難先		避難の状況
			<p>10月～11月…肉や魚など噛み切れない物はミキサーにかけているが、飲み込む際苦痛の表情がみられ食事量も減少している。Drへ報告し食事量足りない時はエンシュアで対応するよう指示有り。エンシュア1日2本処方となる。頭部に湿疹ありリンデロンローション処方となる。</p> <p>12月…12/15、老人保健施設より、入所申し込みに伴うツベルクリン検査と胸部レントゲン写真のコピー添付依頼あり。12/19、21日、病院にて検査。</p> <p>平成25年 1月～2月…特段、大きな変化なし。 3/5、入所予定。 3月…3/5、退去、入所となる。</p>
5	3月5日 ～ 11月30日	介護老人保健施設	<p>3/5、から移動。</p> <p>※入所時の状況 アルツハイマー型認知症、高血圧との診断。入所時の血圧220/90。両下肢浮腫あり。「お母さんいないの？」等の発言聞かれ、不安な様子が見られた。帰宅願望も聞かれていた。しかし、食欲はあり、全量摂取であった。右乳房下にただれあり軟膏塗布。全身痒みの訴えが強く、持参された薬を塗布。清拭後、移動は車イス対応。移動動作はふらつきなく、見守りで可能な状態。促しに応じて、レクリエーションに参加されていた。夜間不眠で大声聞かれる。夜</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-7」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
月 日	避難先		避難の状況
			<p>間トイレの訴えあり不眠。尿失禁多量にあり。※入所中の状況</p> <p>日中、ウトウトされ夜間不眠の状態が続く。夜間は「助けて下さい」「おねがい」「おーい」などと職員を大声で呼ばれ、トイレに誘導したり、ステーション内で様子を見ることが多かった。夜間、多い時は30分に一度トイレの訴えあり、その都度誘導していた。「いつ帰れるんでしょうか?」などの帰宅願望も頻回に聞かれていた。夜間眠って頂くためと、精神の安定を図ることを目的に日中塗り絵などのレク参加を促していた。入所時同様、全身の痒みを訴え軟膏等を塗布しても治まらず、掻き傷も多かった。また、動悸や息切れなどは見られなかったが、両足の浮腫は続いていたので、足のマッサージ対応などを行っていた。便秘だったので下剤調整したところ、3～4日おきに排便見られた。食事は全量摂取されていたが、体重減少が続き、アルブミン値が低く(2.7)低栄養状態であった。</p> <p>7月に一度食欲が低下、徐々に回復したが、9月半ば～再度食欲低下したため、食事のほか、栄養補助食品を飲用いただき経過を見ていた。</p> <p>11/27～尿量減少。</p> <p>11/29～浮腫著明、呼吸苦・肺雑音・喘鳴、ヒュー音聞かれ酸素吸入したが、酸素濃度は85%程度であった。点滴をしながら数日経過を見たが、改善しなかったため、11/30、常磐病院受診。</p> <p>「心不全」との診断で入院となる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「142-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	軽度の認知症ではあったが、身の周りの事は自分でやっていた。食欲も旺盛で、元気な生活を送っていた。週2回、デイサービスに通所。
[REDACTED]			
[REDACTED]			
	月 日	避難先	避難の状況
6	11月30日 ～ 平成26年 1月9日	[REDACTED] 病院	<p>11/30、呼吸困難にて入院となる。 入院当初、状態を理解できずに、喚いたり、叫んだりして錯乱状態に陥る。 一時回復するも、治療の反応が鈍く、 1/9、午後1時37分、治療の甲斐も虚しく多臓器不全のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活、避難所の移動等及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。 特に、高齢者にとっては厳しい状況があった。震災がなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。</p> <p>医師所見…加齢による老衰の可能性が高いが、避難生活による心労が関与していることは否定できない。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「143-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	認知症あり 身のまわりのことは、全て自分で出来ていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉北小学校	地震により、双葉北小学校に避難。
2	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車（長男）で川俣町に避難する。
3	3月13日	川俣町	避難所での生活は容易でないで、に移動。避難所とは環境も違い、食事、会話も普段と変わりなく、元気に生活していた。
4	3月19日	埼玉県 スーパーアリーナ	にも、迷惑をかけることができないと判断し、自家用車で埼玉県スーパーアリーナに移動避難する。避難中、肺炎で病院に入院する。認知症も進む。
5	3月31日	旧埼玉県立騎西高校	の自家用車で、旧埼玉県立騎西高校に移動避難する。環境も悪く、認知症も進む。
6	5月 3日		騎西高校体育館での生活は、認知症の本人にはひどい環境のため、せめて個室で静かに過ごせる避難所と思い、に移動、デイサービスを受けながら過ごす。
7	7月13日 ～平成26年 1月14日	特別養護老人ホーム 東白川郡塙町	福島県内の避難所が全閉鎖ということで、認知症も進む一方なので、やむを得ず、特別養護老人ホームに入所する。入所中は、認知症も進む一方であったが、元気に過ごしていた。転倒のため、足を骨折し手術を行う。また、昨年末頃より、食欲もなく、ベッドからの転倒が多くなり、外傷も目立ち病院へ往診を依頼し、1/14入院となる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「143-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
8	1月14日 ～1月23日	病院 茨城県常陸太田市	<p>1/14、病院入院となる。 入院中食事もとれず、手を縛られ点滴。 肺炎、心不全と診断され、数日後には、胃潰瘍と診断された。 1/23、早朝（5時45分頃）病院より、容態が急変したので、今、蘇生していると告げられる。 午前9時43分、治療の甲斐も虚しく慢性心不全のため、病床にて死亡。 認知症をもちながらの、過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスのため徐々に認知症も進み、このようなことがなければもっと長生きし、認知症も進むことなく、たった1人の孫と楽しい生活ができ、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「144-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	良好 双葉町にいても郵送していた。健康に問題はなかった。後者
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉町	（新築なので安全） 自宅から近いのでお世話になる。可愛がって10年以上飼っていたペット（猫2匹）を置きざりにしなければならないのが、大変残念な様子であった。
2	3月12日 ～3月15日	川俣町	原子力事故に伴う避難指示により、自家用車で浪江町の避難所となっていた川俣町に避難。この日から、二本松と二本松まで行動を共にする。避難も2～3日が限度。
3	3月15日 ～4月10日	二本松市	に避難。 水道が止まっていたので、トイレは遠くからのバケツでの水汲みが大変であった。元気な様子。普通な感じであった。 この避難所からとは別行動となる。 特設、変わった様子もなく普段の生活を送っていた。
4	4月10日 ～9月30日	猪苗代	のために、毎食、食堂より3階の部屋まで運んでくれた。が持病（狭心症）が再発した時も、車で郡山市の病院まで連れて行ってくれた。こまめに動いていた。 しかし、部屋とだけの長期間の生活は、大変ストレスだった様であるが、普段の生活を送っていた。
5	9月30日 ～平成25年 6月27日	郡山市 応急仮設住宅	仮設住宅に移ってから、色々な役員等を引き受けたり、自分なりに勉強するためへ通学し、資格を取り、再度上級を目指していた。これもすべて、過酷な環境での避難生活や原子力災害により、心身ともに著しいストレスを
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

144-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	<p>早期退職のイギリスへの転居とあったので、母親一人残り、10年以上を日本と暮らすことが、母と子供、と両親ともやむを得ない状況で、</p>	
<p>9月30日～H25.6月27日</p> <p>仮設住宅の集合場所では、P.C.と数人の集まりがあり、行事（会）若者の一人として会場で作業に参画し、全健康に問題は無かった。</p> <p>避難先の状況</p> <p>受け、養えてしまう自分の心に打ち勝つため、頑張ろうとしていたのだと思う。でも、見知らぬ土地での、高齢の母親との二人暮らしは、精神的には大変な負担だったと思う。特段、変わったところもなく、普段通りの生活をしていた。</p> <p>6/27、仮設住宅内で倒れているのを発見。救急車で病院に搬送するも、午前0時57分、治療の甲斐もなく急性心筋梗塞のため、病床上で死亡。これまで、通院、投薬などもなく、至って健康な</p> <p>過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたことが、発症の原因と思う。</p> <p>震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思うと、残念でならない。</p> <p>の巻、週2回位通っている。ある程度介護が必要で母と二人の生活による心労、運動不足、食事のバランス等、この頃既に町で療養中、2週間ほど所帯で暮らしていた。震災前は、母と二人で暮らしていた。震災前は、母と二人で暮らしていた。</p>			
<p>事情聴取先</p> <p>※役場より聞き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名	住所
		氏名	住所
		連絡先	
		連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「145-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	が、自宅にて介護。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	特別養護老人ホーム「せんだん」	3/11の地震により、特別養護老人ホーム「せんだん」に避難する。
2	3月12日 ～3月18日	福島	妻と離ればなれになり、自衛隊のトラックで浪江町→川俣町を経由して、福島に午後11時30分頃到着する。 固い床とおむつ不足等で、ひどい褥瘡を発症する。
3	3月18日 ～ 平成24年 5月24日	老人介護保健施設	3/18、福島より入所となる。 入所時、仙骨部に10×15cmの褥瘡あり。中心部に4×3cmの黒色痂皮あり。洗浄後、ガーベンを敷き、1日2回の処置を行う。 3/20、ドレーン挿入する。 5/29、病院の形成外科を受診、洗浄後、ユーバスタ、周囲にハスレン軟膏を塗布し、1日2回の処置を行う。 9/13、病院の整形外科に定期受診し、2×2cmの大きさに縮小するが、ポケット形成あり。 11/30、褥瘡の処置は継続中。 12月、褥瘡治療終了。 ※医師の所見 事故前、自宅介護では発症していなかったが、長時間（8時間以上）の移動と6日間に渡る体育館での避難生活（おむつ等の物資も不足）を強いられた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

145-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
3月11日					
	月 日	避難先		避難の状況	
5	5月24日 ～ 平成25年 7月9日	特別養護老人ホーム		<p>5/24、入所。 ※入所時の状況 ・四肢の拘縮・エアーマットの使用・体位交換必要・胃ろう・吸引が毎食前に必要・口腔ケアの実施・咳払いができる・自分で排泄も可能・自発的な発語は少ない・歌は好きで夜中でも歌っている事がある。</p> <p>※入所中の状況 常に痰がからんでいる様な感じで吸引の必要がある。床ずれができやすいので体位交換の実施特に大きな変化なく生活を送られる。 H25.6/29、発熱を繰り返す悪寒を伴う発熱を認め抗菌薬治療を開始、一度解熱される。再度発熱があり、「痛いよ～痛いよ」と大きな声があがることがある。 7/8、家族の希望により、病院受診。そのまま入院となる。</p>	
6	7月9日 ～ 7月30日	病院		<p>7/9、肺炎の診断により入院となる。 抗菌薬により治療を施行。 7/16、採血の結果、白血球、CRP値も改善しており、呼吸状態も良好であるため、近々に退院可能と思われる。 7/23、肺炎の治療は完了したが、血液から菌が検出される。 原因としては、①の点滴から菌が入ってきた。②心臓などの臓器に感染している。等が考えられるが、抗菌剤で治療を施行している。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名		住 所	
				連絡先	
		氏名		住 所	
				連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「145-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			心臓の検査は、7/25日に予定している。 問題がなければ、7/29日頃退院を予定している。 7/30、病状軽快し、特に問題もないので退院となる。
7	7月30日 ～ 10月3日	特別養護老人ホーム	7/30、病院退院、再入所。 8/22、昼食の経管栄養終了後、多量に嘔吐あり、経管栄養中止となる。 点滴治療で発熱改善、少量の経管栄養を注入、嘔吐、発熱をくりかえす。 9/1、施設で医師、看護師が常にいない環境で生活を送っている事を説明。看取り介護の説明を行う。 10/3、微熱が続き十分に経管栄養を注入できない。家族の希望により病院受診。肺炎の診断により入院。
8	10月3日 ～ 10月22日	病院	10/3、病院受診、肺炎の診断により入院となる。 抗菌薬による治療を施行。 10/22、病状軽快し、退院となる。
9	10月22日 ～ 11月12日	特別養護老人ホーム	10/22、病院退院、再入所。 今回の入院となった尿路感染症について前立腺肥大の診断により服用開始となるので、尿の状態観察を行い、1日1回陰部洗浄を行っていく。 各関節の拘縮が強くなってきているので、病院では継続的にリハビリが必要と説明を受けたが
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「145-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			<p>当施設では専門職員が十分に行うことは困難な事と話し、日常生活の中で無理のないように関節の可動域に気を付けて介護してもらえればと家族より。</p> <p>11/12、4～5日前から、微熱が続いて常に吸引が必要な状態。 元気がなく意識レベル低下のため、救急車にて搬送、そのまま入院となる。</p>
10	11月12日 ～ 11月16日	病院	<p>施設で意識障害となり、 病院に救急搬送され、検査の結果、尿感染症敗血症性ショックで入院となる。</p> <p>11/15日の時点で、血圧等の全身状態が改善に向かい、重症病棟から一般病棟に移る。</p> <p>11/16、午後8時30分の見回りで、健在が確認されていたが、8時45分の見回りで、呼吸及び循環の停止を認める。午後9時23分、治療の甲斐も虚しく敗血症による突然の状態の変化により、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により、心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。 震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		連絡先	
		氏名	住 所
		連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

146-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日 自宅	<p>双葉厚生病院に、2週間に1回通院（高血圧、糖尿病）し、診察と投薬を受けていた。ほぼ寝たきりの状態であった。</p>	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月14日	自宅	避難指示が出されたのが、わからずそのまま自宅にいた。冷蔵庫にあったものを食べ、水は目黒地内の掘抜き井戸からポリタンクに汲んで飲用していた。
2	3月15日	川俣町	自衛隊が、双葉町の避難状況を確認していたところ、自宅に残っていた、を発見保護し、川俣町に避難させる。
3	3月16日 ～5月20日	福島	避難所での集団生活は無理であることから、とりあえずに避難する。意識も殆どないような状態であった。食事は、夫が作って食べさせていた。
4	5月20日 ～6月6日	病院 福島市	<p>入院時の状況</p> <p>・高血圧症、糖尿病等で前医で治療中だったが、内服薬が切れ、インスリンもまもなくなくなる状況。意識は清明だが座位をとれず寝たきり状態。血圧182/104mmHg、血糖154、血清クレアチン(Cr)2.73mg/dlと腎機能障害を認めた。</p> <p>入院中の状況</p> <p>・食事療法、薬物療法、リハビリ等を施行した。本人の早期退院希望があり、入院18日で退院した。</p>
5	6月6日 ～12月2日	福島	寝たきり状態。発語なし。喜怒哀楽は表情的には感じられない。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「146-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
6	12月2日 ～ 平成24年 1月24日	病院	<p>入院時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 退院後、訪問診療を受けていたが、Cr値が4.8mg/dlとなり、血液透析導入の検討目的で入院となった。寝たきりで座位をとれない状態だった。 <p>入院中の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病、腎不全、高血圧症の治療及び廃用症候群に対するリハビリを行った。Cr値5mg/dl前後で経過した。ベットから車イスへの移乗が可能となった（見守りが必要）。家族と今後の治療方針を相談し、さらに腎機能が低下したら血液透析を行うことで、本人家族の同意を得る。
7	1月24日 ～5月20日	福島	<p>特に大きな変化はない。 寝たきり状態。 発語なし。 喜怒哀楽は表情的には感じられない。</p>
8	5月20日 ～6月25日	病院	<p>入院時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 食欲不振、嘔気、嘔吐のために緊急入院となった。血清尿素窒素100、Cr8.0mg/dlと腎機能障害が進行していた。 <p>入院中の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/23日から、維持血液透析を開始した。嘔気が消失し食欲も徐々に回復した。シャント手術目的で病院に転院した。
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

146-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
9	6月25日 ～7月10日	福島	6/27～7/3、シャント造設（左上腕動脈から腋下静脈）のため、福島第一病院入院となる。 特に大きな変化なし。 寝たきり状態。 発語なし。 喜怒哀楽は表情的には感じられない。
10	7月10日 ～8月12日	病院	入院時の状況 ・シャント手術を終えて、維持血液透析、リハビリ、退院調整のために再入院となった。 一般状態は安定していた。 入院中の状況 ・透析を継続し、リハビリを行った。 週2回（月・金）の午後に透析。 移動は車イスにて移動中。ただ、本人はリハビリやりたくない。とリハビリに対して意欲なしも、下肢運動から介入するとスムーズ、車イス乗車端座位練習10分間、車イス30分間等実施していた。トランスファー軽介助。 DMありも安定していたため、トーセンサーも3回/日チェックは週1回のみ実施していたが130～170代に安定していたためインシュリン中止していた。 時折KT37.0台で経過されているがクーリングのみで対応。 食事形態：経口 食事内容：粥食・軟菜・軟飯 食事：一部介助（セッティングにて自力摂取） 排泄：全介助（オムツ）
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

146-41

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		清潔：一部介助 移動：全介助（ストレッチャー） 睡眠：良 睡眠薬：有 家族が郡山への転居を決め、病院への転院を希望されたため、病院と転院の相談を行った。その結果、8月12日転院となり、わたり病院を退院する。	
11	8月12日 ～9月29日 借上げ住宅 郡山市	8/12、退院し、が転勤することになり、二男のいる郡山市の借上げ住宅に移動。 ※通院状況（血液透析）…病院 8月…13・17・20・24・27・31 9月…3・7・10・12・14・17・19・21・24・26 28	
12	9月29日 ～ 11月29日 病院 郡山市	入院時の状況 9/28、23時頃より意識障害出現、左麻痺あり救急搬送。中等度意識障害、T2半身重度麻痺。 入院中の状況 ・保存的加療にて出血増加なく、意識状態に著明な変化なく経過。10/16、右麻痺が出現し多発性脳梗塞と診断された。保存的加療で状態安定。経口摂取は十分な量を確保困難であり、経管栄養を導入。 11/29、病院へ転院する。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

146-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
13	11月29日 ～ 平成25年 12月2日	病院 郡山市	<p>11/29、病院より転院。</p> <p>脳出血による意識障害、加えて脳梗塞による右麻痺あり、極めて高度、自力で動けず。週3回血液透析継続中。</p> <p>25年11月6日、夕方より呼吸状態の悪化が見られ、酸素使用、経管栄養中止する。</p> <p>平成25年12月2日、午前9時18分、治療の甲斐も虚しく慢性腎不全ため、病床にて死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。特に、寝たきり状態の妻にとっては相当に厳しいものがあったと思う。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

147-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	高血圧、糖尿病のため、定期的（月1回）に通院していた。 双葉厚生病院：メデット錠250mg アマリール3mg錠 メパロチン錠10・ミコンビ配合錠AP
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	双葉北小学校	3/11の地震により、双葉北小学校に避難。
2	3月12日 ～3月15日	相馬郡 飯館村	原子力事故に伴う避難指示により、渋滞を避けながら、自家用車で避難する。結果的に飯館村に避難することができた。飯館村避難中は、食事、会話も普段と変わりなく生活していた。
3	3月15日 ～6月21日	・横浜市金沢区 ・横須賀市 ・横須賀市 ・横須賀市	左記の避難場所を転々としてしまったが、それでも少しずつではあるが、避難生活からは解放されてきた。 食事、会話も普段と変わりなく生活していた。
※	5月から～	（横浜市港区）	を月1回受診。 ・ネルビス錠250mg・グラクティブ錠50mg シコビ配合錠AP
4	6月21日 ～ 12月15日	雇用促進住宅 横須賀市	空き部屋を借りることができたので、約半年間ここで避難生活を送る。 特に変化なく、食事、会話も普段と変わりなく生活していた。
5	12月15日 ～ 平成24年 11月24日	東京都中央区	の再就職に併せて、管理人室に同居する。 特に変化はなかったが、お互い精神的に疲れたし、会話等は減っていった。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「147-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
※	H24.1月から	東京都中央区	を月2回受診。 ・マイバスタン錠10mg メデット錠250mg
※	H24.12月から	横浜市栄区	を月2回受診。 ・メデット錠50mg ジャヌビア錠50mg
6	11月24日 ～ 平成25年 9月17日	横浜市栄区	精神的にお互い疲れ、別居を余儀なくされる。 たまに様子を見に行っていたが、食生活がきちんと出来ていたかは不明。 本人は大丈夫と言っていた。
7	9月17日 ～ 10月16日	横浜市栄区 病院	9/17、寝室で寝ていたが、起きることができなくなり、救急車で 病院に搬送され、そのまま入院となる。 搬送状態：意識不明・昏睡状態（呼吸はしているが、声をかけても反応なし）。 診断結果：脳血管造影検査→脳内出血（脳動脈瘤・クモ膜下出血等） 治療：点滴 ※医師によると、加齢のため手術するのは困難とのこと。要経過観察。 脳出血後遺症により、両上下肢麻痺、意識障害あり、歩行や会話困難。日常生活動作に介助を要する状態。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯電話

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「147-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
8	10月16日 ～ 10月31日	病院 神奈川県茅ヶ崎市	<p>10/16、病院より転院。 病院では、脳内出血の再発がないか、経過観察をしていたが、再発はなかった。ただ、手術が困難で手術をしない以上、現状のままなので療養型病院が入院、介護してもらえるので、医師から進められ、同意し転院した。</p> <p>くも膜下出血後、糖尿病について、経管栄養を行い、インスリン注射を継続しながら、血糖コントロールを行っていた。</p> <p>10/31、午後6時22分容態急変し、治療の甲斐も虚しく肺炎のため病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であつたと思われる。</p>
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「148-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	避難の前日まで、自営業を自分で車を運転し行っていた。その他、自分の時間をつくり、庭木の手入れ、古時計の修理など趣味を楽しんでいた。 健康は良好だった。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月15日	浪江町	原発事故に伴う避難指示により、AM7:00頃自宅を出発。途中、道路渋滞となり、普通40分位で着くが、6時間を要して到着。大きな民家に大勢の人が避難していたので入居させてもらう。身体、精神、食事状況等は、特に変化なかった。
2	3月15日 ～3月26日	郡山市	毎日、部屋でこたつに入って、1日中、テレビ新聞を見て過ごすことが多かった。 イライラやストレスで、便秘気味となり市販の薬を飲んでた。 食事、便が出ないので少量しか食べず、口にするのはお茶が多かった。
3	3月26日 ～4月10日	埼玉県深谷市	ここに来て落ち着かず、散歩は何回もやっていた。買い物にも、歩いて行ったり、草取りなどもやっていた。避難者9人での生活で、旅行にも連れて行ってもらい、大変喜んでいた。 半面、福島を離れて、淋しさもあった。 体を動かすこともなく、1日中、部屋にすることが多く、体重も減り、体力も落ちてきた。 土地勘もなく、ストレスで便秘が続き、市販の薬を飲んでた。食事は少量。
4	4月10日 ～9月30日	猪苗代	4/10、猪苗代に入居する。 には、友人、知人が多くいたので、一時的に元気そうだったが、すぐに部屋から出なくなる。体力的に、歩くのが大変みだった。 ストレスが続き、便秘も続くので、近くの病院を受診。薬をもらって飲んだら下痢する。飲まないと便秘になり、その繰り返し。 食事、1日2食で少量。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「/48-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
6	H25. 10. 27 ～10. 29	病院	10/27、呼吸困難となり、車で病院受診。 病院から救急車で、病院搬送となり、気胸、下葉肺炎腫により入院。 胸腔ドレナージ・酸素吸入施行。 10/29、退院。
7	H25. 10. 29 ～12. 27	郡山市 応急仮設住宅	11/6、胸水を抜く。 11/7、病院より、抗がん剤を使うのが体力的(体重34kg)に無理と言われる。 仮設で安静にした方がよい。 余命宣告等はなかったが、話でガンことは本人も了承。また、抗がん剤を使用しないことも本人は了承。 11/12、介護ベット届く。 11/15、訪問看護週2回、医師月2回来ることになる。 11/20、腹痛と下痢で訪問看護に連絡。 痛み止めの薬を病院に貰いにいく。体重も32kg、体力的にトイレに行くのも大変な様子。オムツ使用にする。 11/30、痛みが何回もあるので、薬の回数も5回服用。殆ど、コタツとトイレのみ。 便秘続く。 12/6、便秘で夜中に下剤3回服用する。 12/12、夜中、下痢でトイレ頻繁。 12/15、痛み止めのシールを胸に貼る。(1回/日) 12/19、呼吸大変で訪問医師に連絡、酸素と点滴をしてもらう。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

148-4-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先	避難の状況	
		12/21、背中、足が痛いと訴える。 点滴を訪問看護にしてもらう。 12/27、便が出ないため苦しくなり訪問看護に連絡。薬を 病院に取りに行く。	
8	H25. 12. 28 ~ H26. 1. 11 病院	12/28、朝から便が出ず、何回もトイレへ。 大雪で訪問看護がPM20:00頃到着。 何とか便を出して貰ったが、その後、 息が苦しく、体が震えるようになり、 本人が救急車を呼んでほしいと訴え、 病院に搬送。PM23:15分頃検査し、肺炎、肺癌のため、AM1:00入院となる。 呼吸不全あり、酸素と抗生剤の投与で加療していた。 臥床傾向であり、夜間不眠・不穏を認めた。 1/11、午前9時5分、治療の甲斐も虚しく肺炎のため、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴を取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

「149-1」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	日常生活においては、普段と変わりなく生活していた。
	月 日	避難先	
1	3月12日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、自家用車で川俣町に避難。
2	3月15日	会津坂下町	高齢者であり、避難所での生活は容易でないため、自宅に4時間をかけて移動する。食事、会話も普段と変わりなく、元気に生活していた。
3	4月 2日	借上げアパート（会津若松市）	会津若松市の借上げアパートに移動する。食事、会話も普段と変わりなく、元気に生活していた。
4	8月5日 ～8月11日	病院	食欲がなくなつたため、病院に1週間入院する。点滴治療等により回復、退院する。要介護3になる。
5	8月11日 ～平成25年 3月15日	借上げアパート（会津若松市）	病院を退院、会津若松市の借上げアパートに戻る。食事、会話も普段と変わりなく、元気に生活していた。
6	3月15日 ～3月21日	病院	3日前から食事もとらずに寝ていたため入院。経口摂取不能。点滴治療を行う。3/21日、午後4時53分、治療の甲斐も虚しく老衰のため、病床のため死亡。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。震災がなければもつと長生きし今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先



「149-追1」～①

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難の状況	
23 8月5日 ～ 8月11日	●●●●●病院	夏の暑さの気候の違い、環境に 慣れず、食欲がなくなり、 ●●●●●の先生に往診して	
		いただきアパートで点滴をして もらいましたが良くなりず先生の 紹介で入院となりました。	
8月11日 ～ 25年 8月15日	借上げアパート (会津若松市)	細かい日付とかは分かりませんが 狭いアパートでの生活にトイレ から出て手を洗う時、お風呂の ドアの方に倒れ、腰を打って、 救急車を●●●●●にて 見てもらったこともありました。	
		●●●●●の先生より、近くの医院に て通院を進められ●●●●● ●●●●●に通院、そのために	
		介護タクシーを頼み、下までには、 タオルケットに乗せてお人がかりで 車まで運んでいました。	
		家に居れば、田んぼや山又通りの人 自動車等も眺め、日ごと、買物に 幸ひ近所の人達と、お茶を	
●●●●●			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住 所	
		連絡先	自宅・携帯
	氏名	住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難の状況
		飲んだり大きな声でお話しもし笑いのたえない毎日でした。 お金の計算とかも間違いなく
		出歩いていました。 こちらでも食事の時は、皆んなで同じアパートに大家族ありました。
		母の部屋に集まって朝、昼、晩ときちんと食べていました。 腰を悪くしてからは、足も引いて。
		トイレも一人で出来なくなり、一人で立っている事も出来なくなりました。自分は、家に居れば
		トイレまで50歩、日に何度も歩いていたのに、と残念がってありました。 お風呂もヘルパーさんに来てもらって
		入ってありましたが出来ればより、室屋での入浴を希望しました。 ふん掛けの入浴に、恥かしさ
		あったか、腰の方は正常ですのて、その日にはお風呂と血圧がより帰ってもらった日が何度もありました。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯電話
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯電話

149-追1-③

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難の状況
		表情もだんだん変わってきて、 話す言葉も少なくなり(声)が枯れた 事になれど答えはなりませんでした。
		ハートからは、起るとは来ますが、 横になって目を見ているのか 多くなりました。
		看護師さん、ヘルパーさん、入浴、 月に1回の先生の往診、又、 後の日は、夜のオムツ交換と
		人の出入りにもストレスを感じ、 又、環境の変化に慣れる 事という事は、高齢者はかなりで
		はなく、家族にも大いなる事では
		(最後に)書いて合つて頂くには私の 言葉では、なかなか伝える事が出来 ません。皆さんも避難生活の
		大いなる事は、合つていさと思うが よくお察しください。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「149-追2」①

27.2.10

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1	8月5日 ～8月11日	病院	食料の環境に慣れることが難しく 夏バテをおこし、それによって食欲がなくなり 何もたべることが出来なくなったため 病院に一時入院する。 点滴治療により回復、退院するが 病状になる。
2			
3	3月15日 ～3月21日	病院	3/13 満100歳の誕生日を迎え、息・町関係病 ガ70歳のお祝いに訪すれ対応していたが その後疲れがでたのか食事もとらずに寝込み 3日間食事もとらずに寝ていたため入院
4			経口摂取不能、点滴治療を行う。 3/14 午後4時53分、治療の甲斐も虚しく老衰 のため病気で死亡 避難先環境での避難生活及び原子力 災害により心身ともに著しいストレスを受け たため衰弱し死に至った。震災がなければ もう少し長生きし今も存命であったと思わ れる
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

No.1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 居	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅にて地震遭遇	震災前は、高血圧症と糖尿病を患うも2週に1回のペースで主治医の診察及び処方を受け安定した病状にあった。 日常は、が自営業で家を留守することから、趣味を兼ねて近くに10a程度の畑仕事や隣り近所の茶飲み友達との会話や孫の世話に当たり普通の生活を送っていた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	平成23年 3月11日	双葉北小学校	地震により近くにある双葉北小学校体育館へ避難
2	平成23年 3月12日	南相馬市	原発事故に伴う避難指示により、南相馬市のへ避難する。更に、20km圏内の避難指示により、白河市に向けて出発。夜の12時ごろ到着する。
3	平成23年 3月12日～15日	白河市	白河市のに一時身を寄せるも、アパートが狭く那須塩原市のへ移る。
4	平成23年 3月15日 ～ 5月10日	那須塩原市	混乱の中、避難先を転々せざるを得ない状況もあり、母としても、あの巨大地震を自宅で一人体験したことからも、避難先では、落ち着けない毎日の環境や、いくら身内と言っても気を遣う毎日、避難後は、かなりのストレスで顔色も悪く、髪の毛も薄くなっていった母を思うとやり切れない気持ちになり早く双葉町の自宅へ帰れるようお願い日々を暮らしました。 この約2ヶ月間の母は、数年前に夫を亡くすも気丈な性格でもあったことから、昔から音楽を共にした近所仲間との語らいの場が無くなり、新たな場所での生活では、なかなか人の会話にも入れない状況や勝手の違いから、外への外出も無くなりほとんどの時間を家の中で過ごすなど精神的・肉体的なストレスを訴えておりました。
5	平成23年 5月10日 ～ 12月21日	白河市借上げアパート	家庭での親子の会話からも、日々の暮らしが思うように行かない母からの訴えもあり、県内であれば近所付き合いのあった友達が居るのではとの思いで白河市内の借上げアパートに避難先を変更する。少しでも双葉町に居た環境に近いところを希望するも、借上げ物件が簡単に見つからず落ち着いた先は、近所仲間が居ない場所になるも、狭小ながらも家族水入らずの生活が出来ればとの思いで家族もひと安心したところであった。
事情聴取先		氏 名	住 所
		連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

「150」

No.2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]
			生年月日	[REDACTED]
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
3月11日				
[REDACTED]				
[REDACTED]				
	月 日	避難先	避難の状況	
5	前ページ 続き	白河市借上げアパート	<p>12月21日朝、朝食に起きてきた母から「気分が悪い」と言われ、横になるよう話したところ、母が横になり掛けた時、突然倒れたため急遽救急車を要請し、[REDACTED]病院へ搬送されました。</p> <p>診断では「脳出血」と診断され、即入院「重篤なので身内には連絡するように」と言われるも病院スタッフの献身的な治療が功を奏し幸い一命を取り留めることができました。</p>	
6	平成23年 12月21日 ～ 平成24年 2月14日	[REDACTED]病院	<p>病院では、徐々に回復しリハビリも開始され、手の動かしや歩行訓練などを行う日々が入院中続きました。</p> <p>しかしながら、まだ外に出ての歩行とまでは行かない中、病院からは退院を促され転院を余儀なくされました。</p> <p>従来の双葉町の自宅であれば、歩行の負担も無い家への出入りや生活でも慣れるまでは車椅子の使用も可能でしたが、現在の避難先では、2階での生活はもとより部屋の改造も出来ないため、完治していない母の生活上の心配もあったため、転院先を探すことになりました。</p>	
7	平成24年 2月14日 ～ 平成24年 6月15日	[REDACTED]病院	<p>[REDACTED]病院からの紹介もあり[REDACTED]病院への転院ができました。</p> <p>[REDACTED]、車での通いが大変でした。</p> <p>病院では、リハビリが継続されるも、家族の誰かが身の回りの世話をしていた入院生活でなかったこともあり、入院生活の不安から自ら体を動かすことが少なくなり、リハビリの辛さを訴え付き添った家族に「早く楽になりたい」「早く家に帰りたい」と訴える日々が多くなってきました。</p> <p>こうした中、当病院からも退院を促され転院を余儀なくされることになりました。</p>	
事情聴取先	氏 名	住 所	[REDACTED]	
	[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

150

No.3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]
	3月11日現在の現住所（入院先）		生年月日	[REDACTED]
3月11日			震災前の健康状態について	
[REDACTED]				
[REDACTED]				
月 日	避難先		避難の状況	
8	平成24年 6月15日 ～ 平成25年 10月4日	[REDACTED] 病院	<p>母が退院しても生活がしやすいよう、戸建の借上げ住宅を確保することが白河市内で出来たことから、[REDACTED] 病院の紹介で [REDACTED] 病院への転院が出来ました。</p> <p>母が白河に来たことから、毎日家族の誰かが、日中身の回りの世話を出来るようになったことから、母も、これまでと違った気持ちになったのか、リハビリにも積極的に取り組むようになり、病院での食事もうっくりとスプーン・フォークを使いながらも食する日常となる生活を送っていました。</p> <p>筋力が衰えたせいか、リハビリが出来なくなり、死亡する約2ヶ月前あたりから食事が自分で出来なくなり寝たきりの生活となりました。</p> <p>このころから、震災のことも、全然分からなくなり、白河で生活している事も分からなくなり、平成25年10月4日永眠いたしました。</p> <p>度重なる避難場所の移動と慣れない避難生活により、心身共に著しいストレスを受け、病に伏して以降の病院の事情も相成り、病状が悪化し、死亡に至ったものと思われる。</p> <p>このような震災が無ければもっと長生きし、今も存命であったと思うと残念でならない。</p>	
事情聴取先	氏 名	住 所	[REDACTED]	
	[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

151-14

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日	川保	自家用車で避難
2	3月19日	埼玉リナー	双葉町バスで移動
3	4月	静岡県浜松市	避難 二人が仕事で113の の7-11で112のガ ス交換を1711に
4	5月	茨城県北茨城	貸工け住宅 母は足腰が悪く（5月） 押車、車椅子用112の 3した
5	8月		
6	10月	茨城県高萩市	中古住宅で妻の母親と4人で同居
7	4月15日		昼食後具合が悪く倒車で連れて行方入院
8	4月16日	茨城県北茨城市	16日4時頃死した。 4は悪い病はそんなにはなく、6カ所を 避難し心身と右につかぬと思、112で 震災がなければもう少し長生きで死と思
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

751-2-①

27.2-2

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1	3月12日	川保	日ごと血圧は少し高く薬を飲んでいほしが川保に行く途中車中で具合が悪くなりやっと避難しました。母は乗り物が嫌いで東京へも行った事がありません
2	3月19日	埼玉、アリーナ	私は(嫁)実母と会津に避難して為母は夫と二人で避難。姉、妹ともばらばらになり不安だったようです
3	4月	静岡県浜松市	普通から人ごみで急に夕暮の中で回りに気を使い、ストレスに感じたと思います。生活は通路とても寒かったと覚えてます。食事は年々好き嫌いが分かって来、毎日具合が悪くなりやせてくるのがわかった様です。トイレも行く、それも気にしていたサエです。この頃は死んでしようと思ひ浜松の嫁に
4	5月	茨城県北茨城市	迎えに来てもらいました。 ○通院しながら実娘と生活 日中は誰にも外へも出ず夜まで毎日1人で過ごし1週間ほど1人暮らしに。無口になつてしまひ、外へ出るのを嫌うようになりました。 ○足腰も弱り寝たきりになると心配し、私(嫁)と私の妹4人で北茨城市に来ました
5	9月	仮設住宅	月1、2度通院、誰にも夫が居なく、すぐ気を使い毎日、がまんをして生活1人暮らしの心で。認知症も出て来、日ごと足腰も弱り増しシルバーカーなしでは外へ出れなくなりました
6	10月	茨城県高萩市	
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯電話

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「151-2」へ②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1			仮設では知り合いが居たので双葉に居た時のように遊びに連れて行くと楽しそうに話して友人のようになってくると変わるものを感じました。
2			高萩にも友人はいなく私と私の母をうやましかって貰った。母は姉・妹の前にも遊びに行けずとても寂しかった。双葉ではしゃつちゅう集まっていたので
3			散歩も道路が狭く車も通るのでシルバーカーを使っていたので運転する人に迷惑がかかると思いあまり外に出なくなりほとんど寝て過ごす日が多くなり体調もだんだん
4			だんまりになってきました。デパートスに行かせたかったのだが生活が一変したせいか行かせたがりませんでした。
5			毎日、家族に気を遣い、言いたい事も言えずがまんして過酷な生活だったと思います。
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「151-3」～①

27.2.18

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1	3月2日	川俣	日ごろ血圧が少し高く薬を飲んでいました。川俣に向う途中、車中で具合が悪くなりやつの思いで避難しました。乗り物が嫌いで遠出をする事は出来ませんでした。2～3日で帰れると思っていたが予想外でそれだけでも精神的にきいていました。
3	4月	静岡県浜松市	生活は通路上でとても寒くつらかったようです。食事は弁当で好きなものが少なかった点。日に日に体調を崩し、やせてくるのがわかりました。トイレットペーパーがなくなると困る状態になりました。体力がだいぶ消耗していき、普段から人ごみが嫌で急に多勢の中で回りに気ずかいばかりの生活は心身共に疲れたようです。
4	5月	茨城県北茨城市	双葉に居たはらこのような苦労はする事もなくやり過ごせたはずですが、ここは車も停められ、病院には行けませんでした。
5	10月	茨城県高萩市	双葉にお世話になり近くの病院に避難して初めて受診しました。血圧と足のむくみ(血圧はやや)高く注意の事むくみはシツア薬がよかったです。生活は毎日夜寝まで一人で11時が9時、1週間位2ノイローセになり、無口になてしまいました。
6			
7			

事情聴取先 ※役所より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「151-3」〜②

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1		震災・症も出始めようです。 精神面もひどくなる一方で、 避難しなければ近所に遊びに行き 姉妹の家に行き遊びしかして薬は シメツを受けました。 茨城に帰る頃はシルバーカー「ジャンパー」 も歩けなくなりました。
2		この頃、父は、 4人で、 の、
3		被災地では血圧、足のむくみ、体調不良 で月2〜3回の通院でした。 血圧は不安定で要観察の診断 足のむくみと、体調不良は不明で いれど、薬だけ飲んでいました。 治療を続けていてもよくならない。 (血圧、むくみ、体調不良、ノドゼ、認知症全て)
4		高齢では病院は25分のかりまじい本人の 希望で同じ病院に通院しました。 住みは、家とは違い道路が狭くシルバーカー の使用の敬告や迷惑がかかり、お出かけ しにくく、1日中寝て過ごす日が多くなり デパートに行かせたので、前の様に 元気がなく、本人が行きたくなくて、 顔がえへた、うんぬん。
5		
6		
7		

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「151-3」へ③

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	体調・病状(避難)の状況
1			入院当日、朝は普通に起床 11時ごろトイレで急に悪化、午後入院 病状は診断書の通りです
2			2日間で死亡してしまいました。残念で なりません。今まで言いたかった事も言えず 毎日、かまさんの生活でとても苦しかたはします。
3			この災害で姉妹、友人ともばらばらに なり何もかも失った本当に精神的に 弱っていったと思います。 双葉に居て良かった。あとを生き残った はすです。
4			
5			
6			
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

死亡の経緯について 詳細

平成 23 年 6 月 7 日 当院外来初診。主病名は高血圧症、高脂血症、腹部大動脈瘤、
抗凝薬継続により 特に大きな変化なく経過。

平成 25 年 4 月 5 日 排便に時間を要し、後、自らの起立不能、嘔吐を来し、
午後 4 時 緊急入院。入院時 既に血圧の低下、意識水準の低下が著明。

頭部 CT には異常所見なく。腹部 X-線にて大腸ガスと少量の胃管を認める所。

血液所見は白血球数の上昇を認め、炎症反応を示す数値は正常範囲内。

直ちに IVH 管理とし 酸素の投与、輸液を開始。同日午後 4 時 40 分頃
再度の嘔吐、下血とともに急激に病状が悪化（低血性ショック）輸液、酸素の投与
昇圧剤の投与にて対処したが 治療効果に至しく 翌 4 月 16 日 午後 3 時 45 分頃より
意識水準の低下、血圧の低下、呼吸状態の悪化が顕著となった。気管挿管の上
人工呼吸器装着となるが 同日 午後 4 時 13 分 死亡した。

極めて短時間に病状が急激で一方向的に進行したため、救急処置に終らせざるをえない状況であり、消化管出血源を特定するに十分な諸検査を施行
する余裕がなく 原因検索は不可能とであった。

したがって 死亡診断書に記載した事象以上の病名・病態については
不明である。

以上

別紙

「151-5」へ①

27.5-7

震災後から死亡までの経緯について

①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1	H23年 4月	静岡県浜松市	毎日1人で外出もできず過ごしており 1カ月過ぎたころから足が弱って来る
2	5月末 2 10月末	茨城県北茨城市	月1~2回通院 高血圧、足のむくみ、薬を服用 安定して過ごしていたが
3			気分のよい日は2~3回散歩に出て いくが道路が狭くストレスにはな っていた。
4	11月	茨城県高萩市	通院 高血圧、むくみそのまま薬服用 知人、姉妹誰もいなく皆バラバラで
5			会いなくなった為寂しいと言っていた。 時々、血圧高く注意するように言われる
6	12月 2 H24年 2月		腹部に大動脈瘤が見つかり、ぶつかり こらばないようにと言われた。いふ ショックを受けていた。
7	3月		血圧はかわらず薬服用 1人で部屋に居る時間が多く、ぼんぼん 無口になって会話もなくなった。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
	氏名		連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「151-5」へ②

②

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1	1124年 8月	茨城県高萩市	双葉に帰りたいと訴えるようになり 外出もほとんどなくなりました。
2	4月		食欲もだんだん無くなり、お粥を食べ なくなり、体調を崩すことが多くなりました。
3	5月 2 6月		通院は変わらず 認知症？がはじめる 家から出ることが少なくなり、足、腰が弱
4			歩く時もシルバーカーがないと歩けなくな りました。テレビを見る時間が多くなりました。
5	7月		外出はほとんどなくなり、家の中でも 寝ていることが多くなりました 食欲もよく日に日にやせてくるのがわかりました。
6	8月		1台の車、認知症？ひどくなる ディーラーズに行かせたことが、行きた からず家で寝ている状態になりました。
7	9月 2 11月		通院は続けているが、ほとんど家の 中で過ごす生活になり寝ていることが多くなりました。 病状も気になり食事もうるに少なくなりました。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

*151-51へ③

震災後から死亡までの経緯について

3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1	H24年 12月	茨城県高萩市	夜からほとんど寝なくなる。 夜になると双葉のことを思い出していた。
2	H25年 1月		薬は続けて服用していた。 日中は、ほとんど寝ていた。 双葉に寄り添っていると何度も言うようになった。
3	2月 2 3月		夜眠れなく、泣いたり、1人きりで言うようになった。 倒れベッドに転がっていることが多かった。 日中は寝ていることが多かった。
4			食事は2食で十分のようになっていた。 かたい物が好きだったが、あまり食べられなくなった。 テレビもあまり見られなくなった。
5	4月		入院するまでは、そう変わったこともなく 15日急にトイレで具合が悪くなり入院
6			高萩市には避難生活を送っていた。
7			

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「152-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホームせんなん	車いすの生活がした健康面は良好でした。
	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1	3月11日		3月11日の地震により避難
2	3月12日	郡山	避難指示により、バスに乗車し に避難。
3	3月19日	特別養護老人ホーム	避難先の郡山での生活は容易ではなく、家族も避難を している互いの安否を確認が出来 なかった。運良に入所。 入所状況が本人はあまり わからなかったと思う。知らない 人達の間で不安だったと思う。
4	4月3日	病院入院	4月2日長女の面会 に行く。 久々に娘に会った安心感と避難 からの疲れからの入院する。
	4月4日	"	面会に行く。 食欲もあり話もよくする。で 安心する。
	4月10	"	面会に行く。顔色も良くなった。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	住 所
		連絡先	連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「152-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
4月16日	病院退院	ストレスや食事、血圧が高くなつてしまつた。退院時、心臓食塩分制限をすすめるに指示。 退院のため何かえに行き、 に帰る。
4月24日	病院入院	4月23日、面会に行つた時少し熱があつたが、 気分だつたので帰つて来たが、夜に発熱をして肺炎になり命の危険があると言われ、病院から言われ、 治療の計画が安定した。
4月25日～5月7日	病院	約2週間の入院（抗生剤処方）。 家族が面会に行くと笑顔がみれなかつた。 面会 食塩分だけは有る。
5月15日		
5月27日 S 6月25日	病院	双葉町のホームに入所して、 時は入院は一度もなかつたが、 環境の変化と家族に会えない不安のため、発熱をして病院に 後診する事が多くなつた。
7月3日	病院	発熱のため後診（解熱剤処方）
7月28日 S 8月3日	病院入院	面会に行くと喜ぶ人で話をすすめるので、戻りようが、何に会に行かないので申し訳なく思ひ、 父も涙を止めて笑っている。
[Redacted]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所 連絡先
	氏名	住所 連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「152-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
8月13		病院でしばらく久々にホームの生活を始める事になりました。生活が出来るまで夜間寝る事が居室内を徘徊したり歌をうたったりしている事で気持ちの安定がないうちに思いましたのでホームの方達の苦勞がわかりました。
9月～12月		ホームの夏祭りや芋煮会に参加させてもらい子供達と一緒に楽しい時間を過ごしてもらいました。
1月7日	病院	発熱のため抗生剤処方している とから連日経過を待つ。
1月11日		私の娘家族と面会に行ったら左足背腫脹で病院に出かけてきて夕方6:00に会う事が出来た。久々に小エナ子供達に会えたので喜んで声を上げていた。左足に何かがかかっている感じがした。
2月11日		震災で死んだ家族4人の法事があったので4家族で面会に行つたのでとても喜んでくれた。食欲があり大玉いふ浪花節を歌っているのが99いふです。
3月14	病院	左足背手術（血腫不全） 医者に左足切断かという話を聞いた。血腫改善薬の様に思っているのに。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について「152-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
3月18日	[redacted]	兄と兄の孫が面会に来たので大きな声で泣き節を用いていた。
4月～6月	"	ストレスのせいか、オムツを外れなくなり洋服も脱ぐ様子が多くなっていき、その中で精神的に波打つ様子。
7月3日	[redacted] 病院	左手背腫脹になり [redacted] 病院後診(湿布処方をしもらう)
8月～12月	[redacted]	面会に行くヒベツトから車イスに移してもらい、会話も出来、食事も自分で食べる事が出来るようになった。ホームで小学生との交流会もあり笑顔で言葉を話してもらう。
1月3日	[redacted]	ホームでの生活も二年目に入り、ヘルパーさんの顔も覚えていくように、声掛けする様子なので安心しました。 面会に行くのも東京からなので何回冬は雪のために行けなかったりするのと、東京のホームを何件かまわってみたいという [redacted] [redacted] の生活にもなれてきているし、長旅は健康面でも心配などという事で [redacted] にお世話になっていることにしました。
2月9日	[redacted] 病院	左大腿部腫脹、[redacted] 病院後診。
2月10日	[redacted]	大腿骨頸部骨折。 ホームのベツトから落ちて骨折
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		
氏名	[redacted]	住所 [redacted]
氏名	[redacted]	連絡先 [redacted]
		住所 [redacted]
		連絡先 [redacted]

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「152-5」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
25年 2月14日	病院 受診	切断の手術という事で、 保存療法にて経過観察、
3月15日	〃	経過観察、 血流が悪いので左足が腫れ、 痛がっていました。
3月25日	病院 受診	〃にて受診
3月29日	〃 (泌尿器科)	受診して副腎皮質軟膏処方を受ける
4月～12月	〃	面会回数も少なく残念で、 申し込みたいが、ホームでの 行事やイベントを数回だけ行われ ていて参加させていたことが少 いです。子供が大好きなのでバ ッにぬいぐるみや果物などを 送っていました。 父も大好きでいまして、 大好きな食事まで送ってしま うことが多かったと思います。
1月～4月	〃	1/3、2/3 面会 バット生活になってしまい面会 はいつも空っぽになってしま う。 3/3 おひるエオだったのが、食 事も大好きなイロハのつちら し居たので、本人も喜んで食 べていました。
	〃	発熱にて受診 3/5～6 抗生剤処方

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	〃	住所	〃
			連絡先	〃
	氏名	〃	住所	〃
			連絡先	〃

別紙

震災後から死亡までの経緯について 152-6

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

26年

月・日	避難先	避難（体調・病状）の状況
5月13日		発熱に2回診 5/13~16 抗生剤処方
5月16日	"	急性腎盂腎炎で入院
6月5日	"	退院（バルニカテール挿入）
6月10日	"	バルニカテール交換
6月16日	"	発熱に2回黒磯病院受診、 （解熱剤処方）
7月~12月		7/2、7/16、7/30、8/15、8/28 9/10、9/24、10/8、10/22、11/4、11/3 バルニカテール交換
12月13日		入院 （肺炎） 肺炎が危殆に状態と告げられ 面会に家族で行ったが、お父様が 酸素マスクをして苦しんでいた。
1月9日		肺炎の勢いが弱く、酸素マスクが もう大丈夫な状態になったので 退院する事が出来た。
1月27日 5 2月10日	"	発熱があり、受診 ホームに 面会に行っても微熱が下がらない と伝えられる。 ベットの生活で整頓が出来ないが 少し楽な状態だった。
2月26		入院 今回も熱があり肺炎になった様子
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所 連絡先
	氏名	住所 連絡先

27年

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「152-7」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況									
27年 2月26日 4月20日		寝たままスリッパには手袋をはか 家族の声にも反応がなくなり、お から身体も硬直していった。 大腿骨頸部骨折した状態でも あったので身体の血流も悪く 足先の紫色に壊死しているよう に思えた。									
4月21日		退院									
4月25日		退院したのでもホームに面会に行 個室に点滴を付けていた。 入院生活も少し長く、徐々に認知症 も進んでいって私の顔もわからな い状態でした。 体力も体重も急激に落ちて衰弱し ていきのびなくなりました。 看護婦さんとうる覚えをして下エ 言われ言葉もなかった。									
4月29日		東京の自宅で兄から連絡を受けた。 震災後見知らぬ土地で何の用にも 行かず父に寂しい思いをさせてしま い申し訳なく思う。 震災で避難生活を続け入れて下エ けのぼろの困りごたに感謝の気持ちで 一杯です。 避難生活及び厚労省災害による心身の著い ストレスがなければ平和な老後だったと思う。									
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2"> 事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う機会があまり ありません。 </td> <td>氏名</td> <td></td> <td>住所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> </table>			事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う機会があまり ありません。	氏名		住所		氏名		連絡先	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う機会があまり ありません。	氏名			住所							
	氏名		連絡先								

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「153-1」～

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	<p>〒付〜ス：避難所（双葉町社会福祉協議会指定事業所 へるすけふたば） 〒付〜ス：2泊3日を月2泊（特別養護老人ホームせんだん）</p> <p>3/11は通所介護の日であったが、備、ヘルスケアふたばへ行き、 デイサービスセンターにて被災。</p> <p>その日は、そのままヘルスケアふたばにて避難。</p>	
<p>月 日</p> <p>3月12日 3月13日～3月16日</p> <p>3月17日</p> <p>3月18日</p> <p>3月19日</p> <p>3月下旬</p> <p>5月上旬</p> <p>5月13日</p>			
避難先		避難（体調・病状）の状況	
川俣		<p>デイサービスセンターのスタッフと同行し マイクロバスにて川俣へ避難。</p> <p>翌3/13にスタッフの指示により、川俣へ移動。 後に、スタッフよりこの間食事もありとらず、意識も朦朧とした状態であった旨の報告を受けている。震災後、（能力的に）本人から家族に連絡を取れなかったが、本人の居場所確認に時間がかかり、また家族も被災していた為、救助までに数日を要した。</p>	
福島市		<p>の自家用車にて川俣から福島市の加入宅へ移動。</p>	
埼玉県川越市		<p>妻と共に川越市に避難、この日より川越での生活が始まった。</p> <p>川俣に、妻と離れ（デイサービスセンターのスタッフと）一人で避難していた為にかかり認知症の状態が悪化し3/17に長男と妻が迎えに行った時はすぐに顔だか認識出来ない程であった。その影響もあり、双葉で何が起ったのか、なぜ家に帰れないのか理解できないようになり「双葉に帰ろう」とよく口にしていた。</p> <p>川越では妻と長女家族が一緒だったため救出時より幾分安定したが、居住環境が激変したことにより一人で出来ないことも増えた。</p> <p>双葉では使っていた電動昇降椅子で経団は一人でトイレに行き用を足したり、自分で台所に行き水を飲む等、家の中を動き回ることが出来ていたが、川越ではソファーに座ると一人で立ち上がることが出来ないため、一人で家の中を歩くという事がなくなり、トイレ以外はずっと座っているような状況であった。その為足の筋力も落ちて全てに介助が必要となった。</p> <p>介助して貰うことに気を遣い動かないでいるようであった避難前、双葉での体の状態を示す資料としてと担当の</p> <p>【添付資料1】 〒付〜スであった双葉町社会福祉協議会より添付して頂いたを添付する。</p>	
病院に受診		<p>3/11以降、服用していた薬がなくなった為、近くの病院を受診。そこから病院の脳外科を紹介され、双葉厚生病院と連携して頂きこれまでと同じ薬を処方してもらった。</p>	
〒付〜ス、ショートステイの利用を開始		<p>近所の〒付〜ス・ショートステイの施設に連絡し利用を開始。双葉の時と同様のサービスで利用可能となった。</p>	
双葉町民が避難していた駒西高校を訪問		<p>避難以降、親しくしていた近所の方と連絡が取れなくなっていたこともあり、勝手に駒西高校を訪問。やいづもお世話になっていたスタッフの方々と再会するが認識できなかった。</p>	
病院脳外科		<p>【添付資料2】 病院脳外科にて</p>	
事情聴取先		住所	
氏名		連絡先	
氏名		住所	
氏名		連絡先	

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

285 / 456

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「154-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		胆石をとった当日2回は原の町 後述病院に通院しました。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	車の駐車場	ゆれがひどいので続いていたので 車の中で過ごす。母はふるえがとまら なかった。
2	3月12日	車の駐車場のガレキから なく川俣町まで行かず。	バスと車で過ごす。 サンタレバき。オーティンガシ すいもどんぐりと思ひ薬持参せず。 (原28町水害発生)
3	3月13日	いわき市	疲れはてていました。 薬をのすなければならぬといふので きってました。
4	3月16日	茨城県ひたさなから	着のり着のりでの状態 このころは足と肩がしんどい状態
5	5月1日	借りかす住宅に。 ひたさなから	胆石の薬（オレソ）は一生涯の薬な けいせいはらうといふ人々と近くの 家で診察とともに出してもらう。 ↓ 8月頃から 足はめつくり弱くなり弱さをほく毎日。 じっとしていかかと思ふとあこり出す。 精神がおかしいんだと！と自分ご まじに。(別紙5枚目)
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

平成24年1月



10月

いろいろな所が痛みだしました。
食欲も無くより無理して食すと
吐いてしまう状態でした。この状態
はあきと暑い8月すぎまで続きまじ、
病院の先生は話す人がいなくてしつた
のでストレスもあるでしうねと言っておりま

通院するもますます状態になりま
した。入院はしたいと強く思っておりま
し。入院はいいと強く思っておりま
し。この間、慢性腎臓病とも言わ
れ、腰痛の痛みはだんだん腰の曲かってくるからど
しうとも言われていた。心電図は不整脈と
か出たので、心臓に下と、言われていた

11月

ついに立てなくなり11月28日
に入院。いろいろな所が痛むものだから
から病名は検査をしてからということでの
入院でした

12月

MRIやう検査の結果肝臓、腎臓
すい臓、その他内臓すべてが弱ってま
した。

のうち心臓は外部の血管の検査で管が
取り検査結果は(3/10)です。

ずっと痛みはしなくなり、体力もよ
くも回復したもう1度検査をという所
でした。くつや手袋とに入院にま
した。手袋は冷たくかきそうでした。

12月～1月

大抵の灰汁から高熱がま
1月1日病院に行くと、全部病
双葉に運ばれて、何れも何れも言わ
れなかった。2日に発熱がなくなり、感染
症による腫脹でなくなり、
5日まで在り、手は冷たくなり、
(2週間ほどかかりました)

1月5日 8時20分にせくなりましたか
 生きたい生きたいと言ってたのにこんなにあけなく
 いったしうとは思いませんでした
 逃げのびてがまんして ストレスためて 心身がストレ
 スのかえりだったよう思えます。

震災がひければお茶のみして 笑ってもう少し
 ええでいようかなのではないかと思っています。
 もう少し もう少し生きていってほしかった。

※ 正月明けに検査予定でしたが延期でした。
 白血球の検査で何を投与すればいいか
 と。

別紙

154-4

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
23. 8. 3.	現在の所.	腰や足が痛くなり近くの に連れて行きました。 老人とくわの腰のまわりが痛さ かと思いきなり（その日まわ） 骨が（ぬえ）少し細かると言われ たそう思ひ出しする
9月.		あまり歩かなくなり、 歩けず（？）からとよく叱つた ものです。
11月		夏、あまりに暑かったので、 金車（？）をしようとして、 たかゆも、もたしてました。
12月.		腰が痛いので、来子（？）をよかえ た、と（？）を言っています。

27. 6. -1

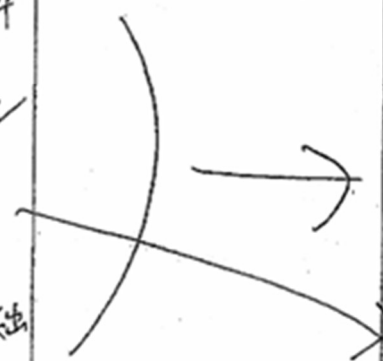
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「154.5」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
※ H23.4 8月から 名義しお たり H24.4. 1月から10月 まで してありす。		<p>H24.4.10月頃には、段々と動けなくなりました。</p> <p>2食3食と歩いてはいたのですが、すべて何をやるにもしんどくなっていました。風呂もままならず、トイレもはって行ったとのこと。月かくぼみ（日）と別人のようでした。</p> <p>車いす一つに生活はできず、毎日通いました。病院もつきませんでした。</p> <p>感染症はわかりません。もう日々を過ごすのが大変です。</p>

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
			連絡先	[REDACTED]
	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
			連絡先	[REDACTED]

別紙

「154-6」

27.11.2

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況		
平成24年 1月～ 10月迄	茨城県ひたちなか市 [REDACTED]	<p>1月から10月初めまで普通に生活していました。（弱ってはいりませんが）</p> <p>24年10月中旬頃から急に体調が悪くなりベッドで寝る事が多くなりました。</p> <p>そのころから台所に立つてもすぐに目まいがしてメシのしけくさ出来なくなりました</p> <p>11月に入ってもベッドで横になってる事が多くなり11月28日に[REDACTED]先生に入院をせよしおうと言われその日のうちに[REDACTED]に入院しました。11月29日から12月30日まで色々検査がありましたが結果は出来ませんでした。</p> <p>12月31日朝から高熱が出て水煎と煮瀝を受けていると言ふことば出来ませんでした。</p>		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
			連絡先	[REDACTED]
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「154-7」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
		<p>25年1月1日にナリ病院の医師 （ホコ）看護師のナ。 頭を冷やしてEけたた。</p> <p>3日にEしに入り生命維持装 置を（ナ）か5日夜亡くなり ました。のち、感染症から脳梗 塞と言われ、でもこちらと（ナ）は わかりません。</p>

<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。</p>	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「155-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）			
1	3月11日	病院	四肢は不自由であったが、 意識ははっきりとしていて、親族と 意思疎通ができた、食事も出来た。
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
月 日	避難先		避難の状況
平成23年 3月11日	福島市		双葉町センターより川俣町へ 福島市へ避難。
3月15日	福島市 介護老人福祉施設		避難所での介護は容易では ないので、同居の家族に 移動。
11月10日	福島市 病院		肺炎の悪化により、 と病院 に入院 抗生物質治療を受ける。
	以後数回にわたり		病院への 入退院を繰り返す。
			以降、入院を繰り返す毎に、 体調悪化をたどる。
平成25年 4月25日	病院		4回目の入院時 症状が急に悪化し、永眠する。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

病名 右肝炎

上記の如く患者 1月6日より入院加療中にてこ3.

4月25日に転院されました。

東日本大震災後、双葉町から福島に避難し、

平成23年4月に当院に第1回入院して以降、入院退院を

くりかえしてまいりました。もとより老衰と胆管狭窄症

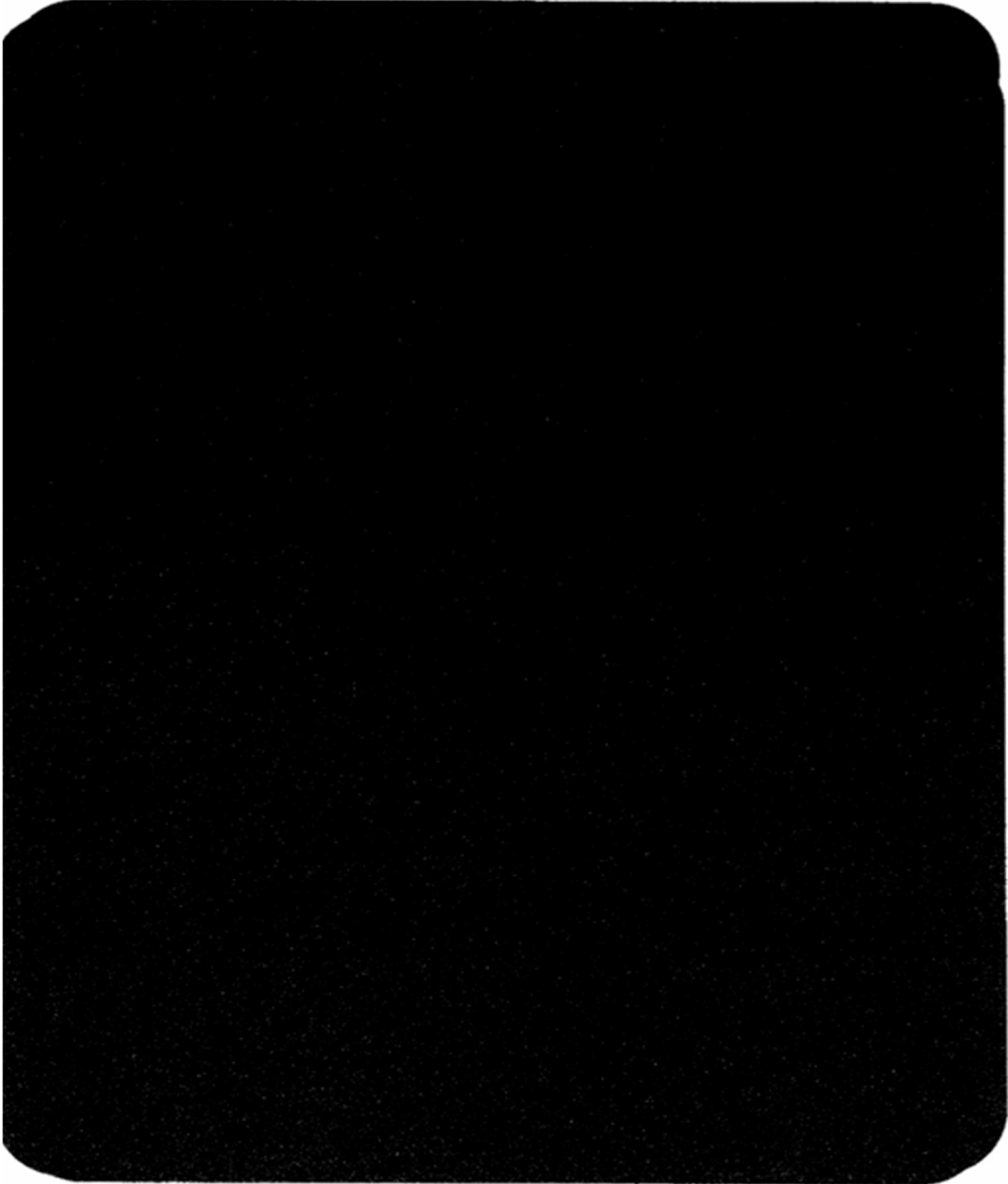
がありねばきりの状態での避難生活が全身状態の

悪化につながり、たもとと推測されます

平成 25 年 4 月 25 日

17-55-33

平成25年 9月25日



別紙

震災後から死亡までの経緯について 「156-1」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		自宅に2人生活。
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
3月11日	自宅	地震により自宅が半壊する恐れあり 娘と車で一夜を過ごす	
3月12日	川俣町	避難指示により、娘と車で移動 川俣町に避難する	
3月15日	埼玉県坂戸市	寒さが耐えられず、夜はストーブの 前に座わり、風は座布団で保温をする 疲れを訴える事が多く娘の車を乗る所へ 車を10時間かけ移動する。数日後からは 食事、会話が寂しく生活をする。	
4月24日	埼玉県鶴ヶ島市	テレビなどの報道により、帰宅困難と知り 娘家族と新しいアパートへ引越をする。 3月28日妻が施設より避難中、脳梗塞 で那須の病院へ搬送されたと知らされ、 埼玉から片道3時間かけ娘家族と病院 へ通う。5月6日意識が戻らぬまま妻が 他界。那須で仮葬儀を行ない、娘の 所へ遺骨を持ち帰る。 妻の死がショックとなり、帰宅困難など のストレスが多くなり、日増しに自暴自棄に なる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先
		自宅・携帯	

別紙

「156-2」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
8月15日	東京都文京区	浪江町から避難した姉が、会分転換をする為と移転する。甥の世話にもなりながら普段の生活をするが、帰宅願望も精神状態が不安定になる
10月20日	東京都隅田区	一人暮らしをする甥の世話になり生活をする。環境が変り、最初の頃は楽しい生活をするが、一ヶ月を過ぎる頃から情緒不安定になる。
平成24年 1月15日	東京都文京区	自ラ姉に連絡をし、姉と生活をする。昔話やたまに娘の訪問に喜ぶが、毎日生活を過ごすとい不満が火となり、情緒不安定になる
3月10日 S 9月20日	東京都隅田区	身体的には、普段の生活を行なうが、精神的には不安定で姉の所を不満がでると甥の所へ行き、甥の所を不満がでると姉の所へ行く生活を繰り返す。娘や息子が話に行くが、精神状態が不安定
9月20日	埼玉県坂戸市	精神状態が落ち着かず、娘の近所のボウルで生活をする。ビジネスホテルの為、娘が食事の面倒をみる。娘と一緒に生活をする事を促すが、異国地に拒否する。食事、会話共に変わりなく生活をする。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「156-3」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況		
10月15日	埼玉県騎面高等学校 双葉町避難所	町民の入居と過ごしたいと本人の強い希望により入所。一週間に一度娘が面会。洗濯物や身の回りの世話をする事と同意を受ける。同じ部落の人や顔なじみの人達と再会を喜ぶ事も多か。だが、自分の事は自分でしなければならなかった生活が、自爆的に苦痛になり、同室の人とのトラブルもあり、避難所を退所する。		
11月15日		介護付老人ホームに入所 身体的にも脚や手などの痛みを訴える。娘の面会時には外食など出かける。ホームの入居者との言葉の壁でストレスを感じることが多くなる。コミュニケーションが困難な為、部屋に13時間ばかり過ごす。		
平成25年 1月1日		大晦日と元旦は娘と一緒に過ごす。少しおせちを待参。たまに美味しいと食べる。自分の好きな物が食べられないと不満。ホームでの生活も、自由がないと帰宅希望や自殺願を訴える。		
2月10日		一週間に一度面会に行く（娘） その他に病院へ通院をする時は娘と通う。院内でインフルエンザが流行と家族に連絡。面会拒否。 インフルエンザに感染はしたが、体力低下。部屋で寝ている事が多い。		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「156-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
3月10日		面会時に風邪をひいたとスタッフより報告。医師も常時いる為、大丈夫と説明される。いつも強い口調で帰宅願望や自殺願望を訴えるが、弱さは発言で衰弱した様子
3月11日		朝7時頃 ホームより電話があり、意識不明で病院へ搬送されたと言われ、車格があり、娘家族が病院へ行く。医師より肺炎を患っていると説明。高齢である事から意識が戻る保障はわからないと言われる。
3月15日	病院	毎日、娘が面会に行き、意識は戻らず。3月15日4時20分 病院にて死亡。高齢であった為、環境の変化に付き、いけず、愛の死後、自暴自棄に陥り、慣れたしきた生活を失い、心身共に著しいストレスを感じ、生きる気力を失った為死に至った。過酷な環境や悲しみが必要ならば、もっと一人で安心した生活を過ごせたと思われる。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

「157-1」

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難先	避難の状況																
1	3月11日	双葉町役場	東日本大震災により双葉町役場へ避難																
2	3月20日	東京都板橋区	双葉町より常葉町、川俣町の避難所を経由し、東京都板橋区へ避難																
3	3月30日	病院	体調を崩し、病院へ入院治療、4月9日退院																
4	5月13日	猪苗代町避難所	東京都板橋区より、猪苗代町の避難所へ移動																
5	8月10日	白河市借上住宅	猪苗代町の避難所より白河市借上住宅へ移動																
6	9月2日	福島	福島県へ通院、肺病が判明し入院、午後9月13日に退院																
7	9月15日	病院	白河市借上住宅にて倒れ、病院へ入院治療 平成24年12月23日病院にて死亡																
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td>住所</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td>住所</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> </table> </div>				氏名		住所				連絡先		氏名		住所				連絡先	
氏名		住所																	
		連絡先																	
氏名		住所																	
		連絡先																	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「157-2」～①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	特に悪い所もなく、普段の生活を送っていた。
	月 日	避難先	
1	3月12日	常葉	3/11、地震により双葉町役場に避難。 3/12、原発事故に伴う避難指示により、自家用車で常葉町に避難。
2	3月14日	川俣町	常葉町より、川俣町に移動する。
3	3月20日 ～3月29日	東京都板橋区	3/20、双葉町が埼玉県スーパーアリーナに移動したため、を頼りに移動する。 3/26、体調を崩し、板橋病院を受診。肺炎との診断であったが、満床のため入院できず、3/26～3/29まで、通院により点滴治療を受けるが、改善しないため、3/30入院となる。
4	3月30日 ～4月9日	板橋病院	3/30、入院。 抗生剤治療にて肺炎は軽快。胸部レントゲンでみられた下肺野の浸潤影症状も軽快を認めたので、4/9退院となる。
5	4月9日 ～5月12日	東京都板橋区	4/9、退院し、に戻る。 ※通院状況 4/18・25(板橋病院)
6	5月13日 ～8月9日	猪苗代	二次避難所となった、猪苗代に移動する。 ※通院状況7/14・21()
7	8月10日	借上げ住宅 白河市	二次避難所が、9月末に閉鎖されることになったので、白河市の借上げ住宅に移動。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

157-2-②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況
8	9月2日 ～9月13日	福島県 病院	9/2、原発性肺癌、間質性肺炎の診断。もともと肺に認められていた、間質性肺炎の影響で急性呼吸不全にて入院。 9/13、症状軽快したので退院。 ※医師の所見 避難生活の影響で精査加療時期が遅れた。
9	9月13日 ～9月15日	借上げ住宅	9/13、退院し借上げアパートに戻るも、9/15、救急搬送され入院となる。
10	9月15日 ～ 12月23日	白河 病院	9/15、借上げ住宅で、呼吸苦、意識低下にて、救急搬送され、白河 病院入院となる。 抗生剤投与、人工呼吸器設定となる。 12/23、午後11時28分、間質性肺炎のため、治療の甲斐も虚しく、病床にて死亡。 過酷な環境での避難生活による影響で、精査加療時期が遅れ、また、原子力災害により心身ともに著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。震災がなければもっと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避 難 先	避難（体調・病状）の状況
平成 23 年 9 月 14 日	借り上げ住宅 （白河市 []）	13 日に福島 [] を退院し、借り上げ住宅に戻り 14 日は特段変わったところもなく過ごしていました。
平成 23 年 9 月 15 日	借り上げ住宅 （白河市 []） 白河 [] 病院	<p>午前中に入浴し、その後寝室で横になって休んでいました。昼食の時間になりましたので何度も声をかけましたが、反応がないため（呼吸困難、意識低下）、急いで救急車を呼びました。救急車の中で酸素吸入器を装着したところ意識が戻り白河 [] 病院へ搬送されました。</p> <p>白河 [] 病院の救急外来にて診察を受けました。担当の医師からは、肺が真っ白な胸部写真を示され「肺炎であると判断されるが、投薬治療により退院できるものと思われる」との説明がありました。</p> <p>本人は、酸素吸入器を装着していたものの意識がはっきりして落ち着いており、普通に会話できる状態となっておりましたので家に帰るつもりでいたようでしたが、医師の判断により入院することとなりました。</p>
[]		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名 []	住 所 []
		連絡先 []
	氏名 []	住 所 []
		連絡先 []

別紙

157-34 ~ (2)

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避 難 先	避難（体調・病状）の状況
平成 23 年 9 月 16 日	白河 病院	16日の早朝になり、白河 病院より病状が急変したので至急、病院に来て欲しいとの連絡があり病院へ駆けつけました。病院へ行くと本人は個室に移されており、人工呼吸器を装着していましたが、何とか会話はできる状態でした。看護師の説明によると血中酸素濃度が急激に落ち込んだため危険な状態と判断されたとのことでした。
平成 23 年 9 月 17 日～平成 23 年 12 月	白河 病院	入院当初は人工呼吸器を装着していたものの会話が成立していましたが、次第に昼間寝て夜に起きていることが多くなり、せん妄状態がみられるようになって会話が成立しづらくなりました。 その後、喉を切開して酸素吸入管を取り付け食事も鼻に管を通して摂るようになり病状は一進一退を繰り返したものの、徐々に改善し11月の下旬になり喉の酸素吸入管と鼻の食事吸入管を取り外し、少しの会話が出来るまで回復しました。 しかし、酸素吸入管と食事吸入管を取り外した翌日に容態が急変し、発熱して体温が40度となり、血中酸素濃度が減少してしまい、再び酸素吸入管と食事吸入管を取り着けることになり以前より状態が悪化してしまいました。 その後は、病状が一進一退を繰り返しながら次第に病状が悪化していきました。

事情聴取先 ※役場より聞き 取り調査を行う 場合があります。	氏名	住所	
		連絡先	
	氏名	住所	
		連絡先	

別紙

157-31~③

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避 離 先	避難（体調・病状）の状況
平成 24 年 1 月 ～平成 24 年 4 月	白河 病院	<p>血中酸素濃度が徐々に低下し続けてきたため人工呼吸器の酸素濃度を徐々に高く設定しなければならなくなり、3 月頃には肺に水が溜まり、その治療も合わせて行うことになりました。</p> <p>依然として昼間寝て夜に起きていることが多くなり、起きている時間が短くなりました。直接話をできないため、単語を並べる程度の筆談をしておりましたが、余り通じませんでした。</p>
平成 24 年 5 月 ～平成 24 年 8 月	白河 病院	<p>段々と睡眠している時間が長くなり、起きている時に、話しかけても、それに答えるような反応がなくなってきました。</p>
平成 24 年 9 月 ～平成 24 年 12 月 23 日	白河 病院	<p>殆ど睡眠しているようになり、あまり目を開けることもなくなりました。</p> <p>12 月になるとほとんど目を開けることもなくなり、23 日の死亡する間際には鼻の管から入れた栄養剤等をすぐに排泄してしまうようになり、その後心肺機能が停止し、医師により死亡が確認されました。</p>



事情聴取先 ※役場より聞き 取り調査を行う 場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	

別紙

「157-3」～④

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避 難 先	避難（体調・病状）の状況
		震災前は肺疾患が全く認められませんでした。震災後、住み慣れた双葉町を離れた寂しさと過酷なストレス、環境の変化と避難疲れによる影響で避難後すぐに体調を崩して肺炎で入院しており、東日本大震災・原発事故の避難生活が続かなければ、もう少し穏やかに長生きできたものと考えております。



事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	
	氏名		住 所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

158-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	23 3月11日	病院	平成11年に発症した脳梗塞の手術後の後遺症により、食事も自分でできません。ほとんどが寝たりの状態だった。
<div style="background-color: black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
	月 日	避難先	避難の状況
1	23.3.18	病院	避難指示により、県内あるところへ移動させられていたが、1週間後位に左記に入院していることがわかった。意識もはっきりしていたが、移動に伴う「床ずれ」がひどくて起きるまで4ヶ月経った。
			認知症がどんどん進んでいき、環境の激変により
2	24.6.28	白河市 病院	一時的に救急入院とあるという事で、白河の病院に移された。食事も自分でできなくなり、流物食の状態だった。
	(25.11.1)	(白河市 介護老人保健施設)	意識もなくなり、植物人同様の状態が続き、平成25年12月11日午後2時42分入院先で死亡した。
			数度の長距離移動、環境の激変により、身体にも著しいストレスを受けたため、死亡に至った。震災がなければもっとおどろくべき生き残りかもしれない。
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「158-2」-①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	病院	平成11年に発症した、脳梗塞の手術後の後遺症により、食事も自分では出来ず、ほとんど寝たきりの状態であった。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日 ～3月18日	不明	避難指示により、県内あちこち移動させられていた様ですが、1週間後位に左記に入院していることがわかった。 意識ははっきりしていたが、移動に伴う「床ズレ」がひどく、治るまで5ヵ月程かかった。
2	3月18日 ～ 平成24年 6月28日	病院	
	平成24年 6月28日 ～ 平成25年 11月1日	病院 白河市	より家族の希望あり転院する。 入院当初は意識はあるものの意思の疎通は なく全介助で経過観察（経過）をした。 入院後意識が徐々に回復へつと回復を 一時は回復、回復しました。 H24.8.30 胃腸造瘻を行いました。 その後意識が徐々に回復し、声かけに 反応する程度ありました。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

$r_{158} \sim 2.1 \sim (2)$

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		

月 日	避難先	避難の状況
4 11月1日 ～ 12月11日	介護老人保健施設 [redacted] 白河市 [redacted]	<p>来庁後とは異なる入所しました。 急病はありその返答はよくないが、急病後 ありました。四肢の硬直激しく、毎日で郵がす 事はよく全介助で行っておりまして。 12月11日入浴後、血圧多量あり急変し、 14時42分 死亡に至る。</p>

平成26年 8月11日

上記のとおり、情報提供します。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
23 3月11日	[redacted] 病院	平成17年K発症して、腰硬症の手術の後遺症より、食事も自分で出来ず、ほとんど寝たきりの状態ではあったが、全般的に軽い内容でなければマア話せた。 私達(妻と孫娘と私)3人は距離的に近いので週1〜2度は必ず訪れ、本人も又大変楽しんでいた。
3月11日 ~3月18日	不明	避難指示により、私は郡山市Kとあり、避難先(結果的には6ヶ所目)をすぐ母に電話で問い合わせるも病院などから避難してしまい、電話で追跡する中々わからず1週間後位は、県内あちこち移動させられていた筈ですが[redacted]病院に入院していることが判明した。
3月18日 ~9月9日	[redacted] 病院	当方の色々な都合(転居等)により5月6日初めて左記病院を訪れた。本人は思っているよりも元気で意識もはっきりしていたが移動時になつた「床ずれ」がひどく治るまで5ヶ月程かかり、距離的に事や諸々の理由で5/6、6/10、7/7、7/9、9/4回しか訪れることが出来ませんでした。初めの頃は比較的元気でしたが、環境の変化からか当方の訪れる回数が増えたり減ったり...今考えると本人は元氣(覇気)が衰えて、おとなり暴力的な言葉をよく言うようになった。
9月10日 ~24 6/28	全上	1/9、2/11、3/23、4/20、5/28 K訪れるも、本人は口数も少なくなると反応も小さくなって「トントンカン」と話をすると弱くなってきた。訪れるのも距離的に大変なので福島県内(郡山市で療養してから白河市K)に転院するべく6/28K看護士同道のうえ転院した。
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted] 住所 [redacted] 連絡先 [redacted]
	氏名	[redacted] 住所 [redacted] 連絡先 [redacted]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

158-31②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
5 24 6月28日 ～25 11月1日	〇〇〇〇〇〇 病院 白河市 〇〇〇〇〇〇	週一回は必ず訪れておりましたが、入院当初は意識はありましたが、だんだん意識の疎通が出来なくなり全介助状態になり7/20頃経管栄養（経鼻）になり入院当初は肩鎖への抵抗暴力（アイル）や嘔吐もありましたが、時々嘔吐や嘔吐が有り9/30頃胃口の悪化を要した。その後症状は反り変化はなく、声かけにうなづく程度反応はありましたが、
6 11月1日 ～12月11日	介護老人保健施設 〇〇〇〇〇〇 白河市 〇〇〇〇〇〇	上記病院内の当施設の施設に入院し、そのうち入所となりした。あり症状は変化はなく意識はあるものの返答もだんだん出来なくなり四肢の硬直が激しくなり、自分で動くことが出来なくなり全介助状態となり11月中旬頃から意識もなくなり植物人間の状態となり12月11日入院後の状態が急変し14時42分に死亡致した。施設の長距離移動、環境の変化、事故の頻る回数、減少等により心身共に強いストレスを受け、死を早めたものと思われる。震災がなければ、地元でも心身共に長生き出来たものと思われる。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

159-1

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	特別養護老人ホーム	
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月11日	老人ホーム	3月11日の地震及び津波により避難
2	3月15日	特別養護老人ホーム	避難所が容易でなく福島市の の方へ移動された。
3	9月28日	福島市 病院	肺炎を患い 病院に入院した。
4	10月1日	福島市 病院	1日午前7時15分 治療の甲斐もなく急性呼吸不全のため、病床上で死亡。過労な環境での避難生活で身体が弱く、ストレスを受け死に至った。震災前より高齢で、長年、今も懸命に生きていたと思われる。
5			
6			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります		氏名	住 所 連絡先

別紙 /

震災後から死亡までの経緯について

159-2

①

27.11.02

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23年 3月11日	南相馬市 特別養護老人ホーム [redacted]	<p>長男の自分は、同じ1～2回の洗濯物を 衣袋で親父に顔を合わせお話を お休調も元気にした。施設の方から お母様をこれと言って言われておりませ しでした。</p> <p>地震時は施設に入。2いので 無事だろうと安易な考えでした。</p> <p>双葉町には、自分重天婦をけりて、 地震3時間後に家に警察の方 が来られ、カー原発が危ないで 避難して下さいと言われ車で避 難しました。地震の状況を伝える唯一 の手段は車のラジオだけでした。最初 に飛び込んで来たニュースが親父 が入所していた[redacted]の倒壊 でした。死亡者もいるという事と海に 近かった事で津波の方もお心配では。 自分は半分絶望的になり合同 葬儀になるのかなと思いました。</p> <p>入所していた施設の介護士さん 後で聞いたのですが、津波で介護 士さんの隣りにいたおばあさんが 流されたことになり、反対側の親父が助かりました。</p>
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[redacted]
	住所	[redacted]
	連絡先	[redacted]
	氏名	[redacted]

別紙 2.

震災後から死亡までの経緯について 159-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成27年 3月11日	老人ホーム [redacted]	以前、施設が地震と津波で使えなくなるとの事で、その日のうちに避難して、3月14日までその所で生活しました。
3月15日	特別養護老人ホーム [redacted]	その避難所が容易でなくなり、施設の関係で3月15日から福島市の[redacted]さんの方へ移動されました。 先ほどの施設から一泊と避難介護に頂いた介護士さんで[redacted]さんか4月から南業で仕事をしています。 震災の関係で3月15日入所させて頂きました。後日、介護士さんの方から連絡があり、入所手續等を経て新しい居の建物が初めて生活が確認されました。又、お話の中で90年代後半頃に地震と津波に遭遇して、福島市まで2ヶ所の施設を移動し、苦勞とショックが大変な経験を自分達が入所するまで、衣類や日常の購入後に親父と対面しました。以前は様々な気持ちは見られず、言葉数も少なくお母さんも暗く感じました。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
	氏名		連絡先	自宅・携帯電話
			住 所	

別紙 3

震災後から死亡までの経緯について

「159-2」
③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23年 3月15日 S 平成24年 1月13日	特別養護老人ホーム [redacted]	入所してから親父の状況確認 など、何度か訪れ、訪れる毎に [redacted]の時の様に自分息子の 名前を呼んでいたが、[redacted] [redacted]では、介護士さんや息子さんが 来たとはいわれても、うなづく程度 でした。又 [redacted]に茨城県 交換で行った際は、自分の家へ連れ て行けとか、施設が海に近かった ので海に連れて行けとか、言葉も 大変失礼した。 でも、その時は話すのも辛うそで イスに座ったままでした。
平成24年 1月14日 S 2月8日	福島市 [redacted]病院	熱が出て体調不良の為、左記 の期間で [redacted]病院に 入院した。 血糖値のコントロールが悪くなり 発熱せいでと診断されました。 退院の際は車イスで車の所まで [redacted]入院の為、足腰が弱りました その後 [redacted]さんへ戻り、リハビリ 等、普通の生活に戻りました。
平成24年 2月9日	特別養護老人ホーム [redacted]	

事情聴取先
※役場より聴き取り調
査を行う場合があります。

氏名

住 所

連絡先 自宅・携帯

氏名

住 所

別紙4、

震災後から死亡までの経緯について

「159-2」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

④

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成24年 2月9日 9月27日 9月28日 10月1日	特別養護老人ホーム 福島市 病院	施設に戻、てもちも何度が、夜類等の事で訪れても、親父の方からは何も言わず、こちらから声を掛けるとうなづく程度で同じでした。 さんから親父の病状を急ぎ、第1報の連絡を受け、病院へお不安が掛け付けました。肺炎の類いと緊急入院した状態でした。 医士の方に任せ、一時帰宅はしたが、10月1日の朝3時頃に電話があり、急変したと集合のけしめした、間に合わず、午前7時15分に治療の甲斐も無く急性呼吸不全のため病床にて死亡はした。 大震災と津波により過酷な環境での避難生活で心身ともに著しいストレスを受け、終い年まで亡く死に至りました。 震災がなければ、も、長生きし、今も在命であつたと思っています。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
	氏名		連絡先	自宅・携帯
			住 所	

別紙 1.
(追加)

震災後から死亡までの経緯について

「159-3」 ① 27.11.24

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23年 3月15日	特別養護老人ホーム [redacted]	東日本震災及び原発事故により 自分達（[redacted]）は埼玉県に避難 難して、当時父が[redacted] 老人ホーム[redacted]に入居して いて、どこに避難している事も分ら ず、遠方の為、数少ない面会 となりました。 母の生活状況を施設の方 より資料として状態の変化が分 かる様にコピーして頂きたい と追加資料として添付致し ます。
平成24年 9月27日	[redacted]	
平成24年 1月14日	[redacted]病院	老人ホーム[redacted]に入居して いた途中で病気で入院。 追加資料として診療記録を 病院より取り寄せ添付致し ます。 尚、退院時も[redacted] [redacted]も頂いていたので添付致 します。
平成24年 2月2日	[redacted]	

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

いて

いて

いて

いて

別紙

震災後から死亡までの経緯について

27.11.13

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

160-1

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成16年6月	震災前に双葉町社会福祉協議会のデニサセにて、車に倒し、脊骨痛が、救急車で平町区の[]に、慢性硬膜下血腫を発症し、入院治療。回復したが、身体的に全て介助が必要状態となり、平成16年9月には要介護5と認定。毎月2回の[]の医師による往診とポータルシステムを利用しながら、私（長男）と妻が自費で介護をしていた。	
平成23年3月12日	浪江町 []	避難を余儀なくされ、病状により避難先での生活は困難のため緊急入院。
3月13日 ～3月15日	郡山市 [] 病院	[] 病院に入院
3月15日	東京府神奈川	（2日間容態は安定していた） 病院の医師の許可を得て、
3月18日	府中市 [] （アパート）	府中市 [] へ移動 介護ベッドが入ったので、アパ ルトの部屋にて生活。
3月末迄		（調布市） [] 先生が 主治医となり、往診 主治医による診察受診。 毎週1回訪問入院。 介護師によるケアを継続 （ [] ） []
[]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「160-2」
No2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
420 4月	H25年 3月25日 継続 32	主治医による診察は前月 2回診察 訪問入浴月曜日（月4日） 看護師による身体ケア（月4日）
5月	府中市福祉課 相談	ショートステイ に利用 。送迎にストレッチャー車を使用 。環境の交代、ストレスによる 下痢症状が継続している。
6月		震災による移動後病態に 主治医の交代、環境の交代等 心身共に影響を及ぼしている。
7月		ショートステイ 検査（血尿等）
8月		ショートステイの送迎には か送迎車に添乗する。
9月20日	府中市 に転居	転居に伴い ケアマネを府中市 に変更。 。体調は落ちついてはいるが 下痢が続く 。おむつ交換は家内にて実施

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「160-3」

No.3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23年10月		「四肢冷感」の拘縮が急速に増え思ってきた。
平成24年1月 2 12月		主治の毎月2回の往診と 訪問看護師による体身のケア、 (毎週1回・月4回) 週1回の訪問入浴 ・毎日1人は自宅で看護。 おむつ交換までは用事と おまかせ二人体制で実施する。
5月頃		※ 一時帰郷（双葉町）のさいは ショートステイにお預けた。
11月		お母に声かけると反応してこ 身から這きあがりなつか 平穏になる。にきりかえしては きた。（私と家内のことは分かる様子）
平成25年 1月4日	日救急車で 搬送された	下痢がいくつか発生落着 いてきた。 嘔吐による誤嚥性肺炎 を発症し、 [REDACTED] へ入院 抗菌剤点滴や酸素吸入 などで治療を受け肺炎が軽 快したため1月29日退院。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住 所
	氏名	連絡先 自宅・携帯
		住 所

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「160-4」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

No 4 止

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
25年 2月		ショートスライ()にて経過を見てもらい、主治医にも報告し、月2回の往診を受ける。看護師に3ヶ所-月4回実施する。
2月17日	小平市	「吐き気と呼吸困難で」病院内「急性肺炎」の診断で救急車で搬送された。
2月22日	府中市	「」にて入院し胸部CT検査で両側胸水多量が確認された。
2月28日		治療を行い「うっ血性心不全」の診断で「」の病室にて亡くなった。
<p>① 環境の変化、避難生活及び震災事故によるストレスを受け衰弱し死に至ったと思われる事故さえなければもっと長生きし今も在命であったと思われる。</p>		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

別紙

161
160-0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日		通院はしていたが、健康状態は普通でした。

月 日	避難先	避難の状況
3月11日	郡山公民館 浅川公民館	3月11日の地震により郡山公民館に避難。
3月12日	田村市	避難指示により、自家用車にて田村市総合体育館に避難。
3月14日		
4月1日	県立	県立病院に入院
H22. 4/1 ~ 4/4	特別養護老人ホーム	避難先での生活・栄養管理・身体運動の不備の爲入院
H22. 4/4 ~ 4/8	小規模介護施設	
H22. 4/8 ~ 4/11	病院 入院	心臓バイパス手術後、骨折
H22. 11月 ~ H23. 2月	小規模介護施設	自宅にあり、介護は充分な介護が受け、熱中症
H23. 4/1 ~ 5/1	病院 外科	脳梗塞・心臓バイパス手術後、心臓の手術
H23. 5/1 ~ 5/11	病院 内科	脳梗塞 感染症
H23. 5/11 ~ 5/14		
H23. 5/14 ~ 5/17	病院 内科	肺炎等
H23. 5/17 ~ 5/18	病院 (3次手術)	入院
H23. 5/18 ~ 5/19	病院 入院	発熱、脱水症（経口で水分摂取困難）
H23. 5/19 ~ 5/20	病院 入院	血小板減少症、脳出血、肺炎
H23. 5/20 ~ 5/21		安静な上地、環境、入院先と縁なし、自分自身に不安、話さず、声も出なくなり、不安と恐怖の中、静かに静かに亡くなりました。
事情聴取先	氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		連絡先
	氏名	住 所

別紙 1.

震災後から死亡までの経緯について

161

28 1.22

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		年齢の割には通常の生活には支障なく自分のことは自分でできて、家族に支えがなかった。生活していた健康状態は良かった。良く言えば元気でした。
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
4/23 3月11日	郡山公民館 浪川公民館	3月11日 大地震により郡山、浪川公民館に避難。	
3月12日	田村市	本人は、地震への不安感で寝不足、食事の取れず、元気がなく言葉が少なかった。避難場所により、自家用車で田村市に避難。大勢の急落者がある。寝ることも出来ず、憔悴している様で有った。体調が悪く、よく見えた。病院にも行かず体調不良で起す。	
3月14日 ～4月1日まで	東京	環境の変化により、元気が無く、体調が悪く見えた。震災前は、大猫に遊んだ。火に行ったりと奮力していたので、元気があった。家族が「ババア」になった為精神的に不安定で有った。	
4月1日 ～7月5日	足立区 都営住宅	環境が合わず、自分の家（双葉）に帰りたいと話す。元気が無い様子であった。運動不足もあり体調が悪く、長期避難の為に精神的に疲れていた。口数も減っていた。子供達にもあまり会えないで精神的に落ち込み状態。	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	住 所

別紙 2.

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

161
160-1
②

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
7月5日 ～7月19日 7月22日 ～8月5日	特別養護老人ホーム [redacted] "	・避難のため生活栄養管理身体。 運動の不備で急入所。口数も少なく、 毎日不安の横顔であった。顔色も悪い。 ・今後の生活について不安を呈する様子が見られた。避難へのストレスが見られた。
8月8日 ～10日	小規模多機能型ホーム [redacted]	・避難のため、生活栄養管理身体。 運動の不備で急入所。口数が少なく精神的に不安定。
10月3日 ～10月29日	[redacted] 病院入院 [redacted]	・ショートステイ先で入浴する際、足を滑らし、足を骨折、しばらく歩行困難。 食欲が減り体調不良。 精神的にも不安定。足を骨折した際、苦痛の顔でいる。顔色も悪い。
11月1日 ～H24 6月	小規模多機能ホーム [redacted]	・同居人である [redacted] の介護は、十分な介護が与えられていない。 ・長期避難、環境の変化、耳の聞こえも悪くなっている。顔色も毎日悪い。体調も悪い様である。足の骨折もよくならない。日に日に歩行が困難になっている。翌6月まで同じ状態である。震災前とは、元気が無く、別人の様である。
H24. 4月5日 ～5月2日	[redacted] 病院外科	脳挫傷、ショートステイ先でトイレに入った後にけいれんが起きました。 顔が非常に悪く、話しが聞き取れない。
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted]
	住所	[redacted]
	連絡先	[redacted]
	氏名	[redacted]
	住所	[redacted]
	連絡先	[redacted]

別紙 3.

震災後から死亡までの経緯について

161
160-1
③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1/24 5月11日 ～5月12日	病院内科	・尿路感染症になる、熱が出る。 ・体調が悪い様子 ・食欲が少ない
6月		・体の動きが少ない ・声で掛けてもあまり話さない。
6月8日 ～8月4日	病院内科	・肺炎となる。高熱が出る。 ・体調が悪い。 ・話しが出来ない。
8月	(ショートステイ)	・食欲が無い。
8月12日 ～10月11日	病院入院	・発熱、脱水症（症状が安定したので解熱） ・毎日体調が悪い様子である。 ・話しが少ない。
10月11日 ～11月25日 ～5月10日	病院入院	・血小板減少症、脳出血、肺炎 震災後本人は慣れない土地、環境の変化、入院を繰り返す精神的に苦しい環境で育った為、体が衰弱衰弱がかりになり体調が悪化に達した。 審査よろしくお願いします。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「162」-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	糖尿病のため、1日3回、毎日1万～2万歩を歩いていた。インシュリンを打たなくても良いくらいの状態になっていた。食事、会話が普段と変わりなく、元気に生活していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月14日	川俣町	原発事故に伴う避難指示により、状況もよくわからい中で、着の身、着のまま、家族で川俣町に避難、不安な日々を過ごす。おにぎり、パンのみの食生活で、常時服用していた薬が無くなり、持病も悪化していた。
2	3月15日 ～4月28日	千葉県四街道市	避難所での生活は着のみ着のまま、とても寒く容易でなかった。糖尿病の薬も残り少なくなり、やむを得ず24時間かけて移動。親戚宅にお世話になっていたが、見知らぬ土地に移り、持病をかかえているため、一から病気の状況を医者に話して把握してもらうまで時間がかかった。食事は3食、健康に気を使った食事を食べさせてもらい、時々、気分転換に近くのショッピングセンターに買い物や外食に出かけていた。 (四街道市)、(千葉市)、(佐倉市)、(四街道市)等に、月2回のペースで通院、薬を処方してもらい服用していた。
3	4月29日 ～5月17日	立川市	4/29、が、都営住宅に住む事ができるようになったので、今まで通り皆と一緒に暮らすため立川市に移動する。家族一緒に生活することができるようになり、大変喜んでおりました。
4	5月17日 ～6月17日	国立病院機構	5/17、訪問看護師が、訪問中に異常に気づき救急車を手配。に搬送。診察の結果肺炎の診断により入院となる。循環器、皮膚、整形外科にて治療。酸素療法を行い、退院後も、自宅で在宅酸素を使うようになる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「162」-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先		避難の状況
6月17日 ～ 平成25年 3月6日	立川市		<p>5月末、立川市が行っている健康体操教室に参加中、血圧が高く、腕の痛みを訴えていたため病院受診を勧められる。</p> <p>6月初め、国立病院機構を外来受診した際に脳梗塞が判明。</p> <p>環境の変化やストレスにより、持病の糖尿病や脊柱管狭窄症が悪化。</p> <p>その後、採血やレントゲン撮ったり、内科、整形外科に通院するも改善せず、段々腕の痛みが手先に広がり、足にも力が入らなくなり、立ち上ることも困難となり車イス生活となる。そのため、通院が難しくなったため、介護サービスを利用し、入浴やマッサージなどのサービス提供を受ける。</p> <p>6/24、の照会で、クリニックを受診。</p> <p>①頸椎症性脊髄症・腰部脊柱管狭窄症…自宅にてリハビリテーション施行中。</p> <p>②慢性呼吸不全</p> <p>③糖尿病、高血圧症…自宅にてインスリンと降圧薬服用中。</p> <p>の診断により、訪問診療を受けることになる。</p> <p>訪問診療4回/月、ヘルパー2回/週、リハビリ2回/週のサービスを受ける。</p> <p>今までと違い、何かと不自由を感じるも家族皆で一緒に生活ができていることか</p>
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。			連絡先 自宅・携帯
		氏名	住 所
			連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「162」-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
	月 日	避難先	避難の状況
			ら、大変喜んでいた。
6	3月6日 ～3月22日	国立病院機構	3/6、肺炎を併発して入院となる。 点滴治療を施行、3/22、病状軽快し退院となる。
7	3月22日 ～ 10月29日	立川市	入院前と同様、訪問診療4回/月、ヘルパー2回/週、リハビリ2回/週のサービスを受ける。
8	10月29日 ～ 平成26年 1月27日	自宅 白河市	10/29、東京では友人が居ないため、福島に帰りたいとの思いが強く、友人が多い白河市に妻と2人で移動する。 白河市に移動する際にあっても反対したが「俺には時間がないんだ。」と言って聞かなかった。 白河市に移動してからも、訪問診療3回/月、リハビリ2回/週のサービスを受ける。 自宅での酸素療法を継続していた。 本人がものすごく努力し、車イスを使用していたが、何とか杖で歩けるようになった。 食事も糖尿病であるため制限されていた部分もあるが、食べられないというような事はなかった。 1/27、早朝、自宅浴室で倒れているのを妻が発見。救急車を要請するも、既に呼吸停止しており、検視の結果、1/26、午後10時頃分、心筋梗塞による死亡と診断される。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
			連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「162」-4

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日 明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		
月 日	避難先		避難（体調・病状）の状況
			家族で住んでいれば発見も早く病院に連れて行くことができた。過酷な環境での避難生活及び原子力災害により心身共に著しいストレスを受けたため衰弱し死に至った。特に持病を持っている者には過酷な状況であった。震災がなければもっと長生きし、今も存命だったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所
			連絡先
	氏名		住 所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 163-1 ①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	特に悪い所もなく、普段の生活をしていた。農業を営んでおり、トラクター等も運転していた。
	月 日	避難先	避難の状況
1	3月12日 ～3月14日	自宅	自家用車で、中通り方向に向けて出発したが、浪江町を過ぎたあたりから渋滞が始まり、殆ど停車状態で進まず、夕方になつても渋滞が解除されず、疲労と空腹のため、やむを得ず避難をあきらめ自宅に戻る。自宅では、停電のため暖もとれず、食事も作れず、寒さのあまり布団を頭からかぶり、余震を恐れ、壓ったまま自宅で一夜を過ごす。
2	3月14日 ～5月8日	埼玉県草加市	が、3/14未明、埼玉から車で迎えにくる。少々の仮眠をとり、3/14昼過ぎ、埼玉に向けて出発したが、渋滞とガソリン不足が重なり、3/15未明、埼玉に到着。地震当初から埼玉に着くまでの3日間、食事、飲み物は殆ど口にできなかったため食欲不振に陥り、それが長時間（長期間）尾を引き、体は衰弱して痩せ細り、自力では立ち上がれない状態であった。ショックの余り食事も殆ど摂れず、一日の大半は寝て過ごす状態。又、外出もせず、会話もショックの余り話さず、体力も減退、物忘れも目立ち始めた。
3	5月8日 ～5月16日	埼玉県草加市	5/1、嘔より、咳、痰、鼻汁出現。 5/8、クリニック外来受診。 Cxp上、左肺炎像を確認。 そのまま入院となる。 抗生剤による治療を行い治療。 5/16、軽快退院となる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「163」-1②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）			震災前の健康状態について	
	月 日	避難先	避難の状況		
4	5月16日 ～ 平成25年 5月31日	宅	<p>入院前と同様で、地震、余震、放射能汚染のトラウマとなり、その恐怖が夢にまで出てくると言い出し、又、新聞・テレビ等のマスコミを見ているうちに、放射能の恐ろしさ、帰還不可とわかり、放射能汚染で先祖の墓、生まれた故郷を捨てなければならない増悪感で情緒不安となり、その悪夢から逃れようとして痴呆症に陥っていった。認知症治療のため通院。</p> <p>※通院状況</p> <p>H23年…7/19.25.8/11.9/4.11/10.21 H24年…2/27.3/22.4/13.29.5/7.28.6/19.7/12 8/2.23.9/18.10/9.19.11/2.12/13 H25年…1/8.28.2/19.3/18.4/4/12.13.20.30 5/23.26.31.</p>		
5	5月31日 ～6月15日	クリニック 埼玉県草加市	<p>5/25、大の散歩中に転倒。その後、歩行困難、左下肢痛出現。</p> <p>5/26、当院整形外科受診。骨盤CTにて恥骨骨折を認める。</p> <p>5/31、入院となる。この頃より認知症が悪化し、管理できなくなり 認知症病棟へ紹介。</p>		
6	6月15日 ～7月8日	宅	<p>6/18～、ショックを改善させようと、週4～5回ディサービス() (越谷市)に通所させるが、本人の個性が強いため人間関係がうまくいかず、また、本人も拒否したのと入院が重なり中止する。</p> <p>※通院状況()</p> <p>6月…6/17.18.24…恥骨骨折 7月…7/4.5.8…恥骨骨折</p>		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所		
			連絡先		
		氏名	住 所		
			連絡先		

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「168」-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

③

死亡者氏名			住 所		
			生年月日		
	3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について		
	月 日	避難先		避難の状況	
7	7月8日 ～ 10月11日	クリニック 埼玉県草加市		6月下旬より、体力低下し歩行困難となる。 7/8、デイサービスにて、体温38℃、Spo2 88% (room)にて、同日入院となる。 Cxp上右肺炎を認め、抗生剤治療を行う も、徐々に食事が摂れなくなる。 7/28、IVH留置し高カロリー輸液開始するも、 徐々に衰弱。 10/11、午前9時46分、治療の甲斐も虚しく老衰 のため、病床にて死亡。 過酷な環境、慣れない土地での避難生活及び原 子力災害により故郷に戻れない悔しさ等、著し いストレスを受けたため衰弱し、死に至った。 震災がなければもつと長生きし、今も存命で あったと思われる。	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。		氏名	住 所		
			連絡先		
		氏名	住 所		
			連絡先		

別紙

震災後から死亡までの経緯について「163」-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

28.5.13

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日 自宅	異常なし トラクター車を運転した。	
[REDACTED]			
[REDACTED]			
	月 日	避難先	避難の状況
1	H23.5.8 ～5.16	[REDACTED] クリニック 埼玉県草加市 [REDACTED]	H.23.5.1 嘔吐・咳・痰・鼻汁出現。 H.23.5.8 当院外来を自決し、Cup上 左肺萎縮を確認。抗がん剤による副作用と 行う。転院。 H.23.5.16 転院決定。
2	H25.5.31 ～6.15	[REDACTED] [REDACTED]	H.25.5.25 大歩歩中に転倒。 その後、歩行困難・左下腹痛出現し H.25.5.26 当院重症外科医診。 骨盤CTは2取骨骨折を認め、5.31入院。 H.25.6.15 認知症が更に悪化。管理下で 経過観察。[REDACTED] 認知症病棟へ転入。
3	H25.7.8 ～10.11	[REDACTED] [REDACTED]	H.25.6月下旬より徐々に歩行困難を きたす。H.25.7.8 デイケアにて2時間30分 SpO ₂ 88% (room) 同日当院へ転入。 Cup上左肺萎縮を認め抗がん剤治療を行う。 徐々に食事が摂れなくなり、7.28 IVH 発生し高血圧・平衡感覚障害。徐々に衰弱し H.25.10.11 死亡確認に至る。

平成 26 年 7 月 24 日

上記のとおり、情報提供します。

住所

氏名

別紙

震災後から死亡までの経緯について 163-2 2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	特に悪い所もなく、普段の生活をしていた。農業を営んでおり、トラクター等も運転していた。（毎日乗用車を運転していたので健康状態は良好な状態）
月 日	避難先		避難の状況
1	平成23年 3月12日 ～3月14日	自宅	自家用車で、中通り方向に向けて出発したが、浪江町を過ぎたあたりから渋滞が始まり、殆ど停車状態で進まず、夕方になっても渋滞が解除されず、疲労と空腹のため、やむを得ず避難をあきらめ自宅に戻る。自宅では、停電のため暖もとれず、食事も作れず、寒さのあまり布団を頭からかぶり、余震を恐れ、座ったまま自宅で一夜を過ごす。
2	平成23年 3月14日 ～5月8日	埼玉県草加市	が、3/14未明、埼玉から車で迎えにくる。少々の仮眠をとり、3/14昼過ぎ、埼玉に向けて出発したが、渋滞とガソリン不足が重なり、3/15未明、埼玉に到着。地震当初から埼玉に着くまでの3日間、食事、飲み物は殆ど口にできなかったため食欲不振に陥り、それが長時間（長期間）尾を引き、体は衰弱して痩せ細り、自力では立ち上がれない状態であった。ショックの余り食事や殆ど摂れず、一日の大半は寝て過ごす状態。又、外出もせず、会話もショックの余り話さず、体力も減退、物忘れも目立ち始めた。（この頃より認知症の軽度の症状が認められる）
3	平成23年 5月8日 ～5月16日	埼玉県草加市	5/1、頃より、咳、痰、鼻汁出現。 5/8、外来受診。 Cxp上、左肺炎像を確認。 そのまま入院となる。 抗生剤による治療を行い治療。 5/16、軽快退院となる。 ⑧入院前、退院後には軽微に更に物忘れが進行しているが認められ、一日一語も話せなくなり、状態は更に悪化。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		連絡先	
		氏名	住所
		連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

1631-2
③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23. 5月16日 ～ 平成25年 5月31日	宅（通院）	入院前と同様で、地震、余震、放射能汚染のトラウマとなり、その恐怖が夢にまで出てくると言い出し、又、新聞・テレビ等のマスコミを見ているうちに、放射能の恐ろしさ、帰還不可とわかり、放射能汚染で先祖の墓、生まれた故郷を捨てなければならない増悪感で情緒不安となり、その悪夢から逃れようとして痴呆症に繋がっていった。認知症治療のため通院。（多分） (更に食事の不安、お風呂の不安、洗濯の不安、軽度の徘徊が認められ、送り迎えのバスターを2度送り迎えに来た等) この頃より認知症の症状が認められ通院を開始 ※通院状況 () H23年...7/19.25.8/11.9/4.11/10.21 H24年...2/27.3/22.4/13.29.5/7.28.6/19.7/12 8/2.23.9/18.10/9.19.11/2.12/13 H25年...1/8.28.2/19.3/18.4/4/12.13.20.30 5/23.26.31.
H.26. 5月31日 ～6月15日	クリニック へ入院 埼玉県草加市	5/25、犬の散歩中に転倒。その後、歩行困難、左下肢痛出現。 5/26、当院整形外科受診。骨盤CTにて恥骨骨折を認める。 5/31、入院となる。この頃より認知症が悪化し、管理できなくなり認知症病棟へ紹介される。
H.25 6月15日 ～7月8日	宅（通院）	6/18～、ショックを改善させようと、週4～5回デイサービス() (越谷市)に通所させるが、本人の個性が強いためか人間関係がうまくいかず、また、本人も拒否したのと入院が重なり中止する。 ※通院状況 () 6月...6/17.18.24...恥骨骨折 7月...7/4.5.8...恥骨骨折 認知症特有の症状が出現、さらに患者のこのトラブル、意味不明の怒鳴り等を強制的に抑え
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「163-2
(4)」

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H25年 6月 7月8日 	〇〇〇〇（通院） 入院 	認知症が進み、妻、子、孫の名前、顔も忘れ、誰かだか解らない。 夜 病院の中を徘徊、病院の夜中に数回呼び出し看病がある。 認知症が進んでも「東京」の事は覚えている。 「新しい（同居の）望願がある」。 「用植と分けたい」「病室分けたい」「新創の・病」と分けたいと～病院から脱出したいと妄想を述べている。 更に徘徊が進む。 かなり痩せて細く、小きな体になる。 叫んでも反応しない（目もあけない）。 ほとんど寝たきりで口もあけなくなる。
H25. 7月8日 ～ 10月11日 10月11日	〇〇〇〇 クリニックへ 入院 埼玉県草加市 〇〇〇〇 入院中、死亡	6月下旬より、体力低下し歩行困難となる。 7/8、デイサービスにて、体温38℃、Spo2 88%（room）にて、同日入院となる。 Cxp上右肺炎を認め、抗生剤治療を行うも、徐々に食事が摂れなくなる。 7/28、IVH留置し高カロリー輸液開始するも、徐々に衰弱。 10/11、午前9時46分、治療の甲斐も虚しく老衰のため、病床にて死亡。 過酷な環境、慣れない土地での避難生活及び原子力災害により故郷に戻れない悔しさ等、著しいストレスを受けたため衰弱し、死に至った。震災がなければもつと長生きし、今も存命であったと思われる。
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名 〇〇〇〇 氏名 〇〇〇〇	住 所 〇〇〇〇 連絡先 〇〇〇〇 住 所 〇〇〇〇 連絡先 〇〇〇〇

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

285.70

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H23年 6/1 ~	定	退院後、筋力が弱っている為には歩行も十分ではなく、よきま一人での歩行は困難のため毎日杖に歩行のリハビリ、筋力強化を繰り返す。その結果、一人での歩行は可能になり、復活する。新聞も読めるようになり、テレビも付く。これは、いかに見える様子は、震災前と比べると、正気に戻った。真剣に復元する。その後、ブツブツと話す。内容は震災（放射能）がなければこんな所へ来なくてよかった。田舎へ帰りたいと繰り返す。筋力強化後、散歩を始める。散歩を始めるが、直に戻ってくる。犬と連山の散歩をする。犬の散歩は30分位は犬がリードを引っ張る。その散歩の繰り返して、続けさせたが、そのうち帰りの道を忘れた。迷子になり始める。
7/1 ~		1時間経過して戻った時は、近所に出ていながら、すぐ直ぐに戻っているのに自宅が解さなく始まる。
8/1 ~		5月11日は戻れなくなり、夫の友人に送られて帰ってくる。
9/1 ~		田舎に住んでいた時は、ほとんど車で湯の温泉に行き、入浴。カウチ等を楽しむ。温泉と入行まわると出る。介護施設の方へ連絡して、小まな温泉に案内。とうとう本物の温泉に入っている。
10/1 ~		
11/1 ~		
12/1 ~		
12/31		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

「163」-3 ②

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1924年 1/1 ~	● 宅	八畳の部屋に両親二人で住んでいたが、 部屋が狭まるといふ。一人部屋がほしい といふ。田舎では〜と昔話をし始め、 グダリ始める。
2/1 ~		食事の支度忘れ始める。食事をいいたく 言ひ出す。向かい果てを買い食ひ始める。
3/1 ~		夜中、二時頃から起す始める。次第に エスカレートし出掛け始める。更にエスカレ ートし電車へ乗る。田舎へ向かい出掛け始める。
4月 ~		最後の頃は市内へ行く。農協から現金 を引出し持ち帰る。3/2に出たお金を 自らの部屋に数ヶ所に分けて隠し始める。
5/1		どこに隠したか忘れ盗すかもしれないと 始める。酒は飲まぬがタバコは昔から 吸っていた。体に悪いからと禁煙を試み 隠し吸う。更に注意すると暴れ出す。
6/1		次第にタバコを吸う事を忘れ始める。 犬の散歩回数は減っていくが継続して 遠くへ行くようになる。公園へベンチに坐り ブツブツ大に話をする（田舎へ帰る）と。
7/1		食欲は以前と比較すると半分に減る。 一回、リウマチになる。
8/1		昼は温和だが夜中の徘徊が激しく 始める。荷を持って田舎へ帰ろうと エスカレートし始め馬車まで歩いて行く様になる。
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1		
4/1		
5/1		
6/1		
7/1		
8/1		
9/1		
10/1		
11/1		
12/1		
1/1		
2/1		
3/1</		

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「163+3

③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
125年 1/1 ~	●	朝起き、顔を洗う。釜を焚く事と忘れぬ 入浴するが煤がリサがある 着換える煤がリ 始まる しきりに田舎の話し 始まる 田舎準備 トーカーの整備、車のバシテリ ect 帰還を夢り始まる せつと昇り返す 兄弟の顔、名前、住所等完全に 忘れる。散歩も嫌がる。一人で中庭 が激しくなる 完全デレ。新聞も観る 更に度々、小土蔵 - 50年分は布団の中 で過ごす。 食欲全无。食事も億劫し始まる タバコも完全に吸え事忘れ始める 目が醒めると田舎の話し。帰還の話し 始まる。桜の花見等。期節が再訪する 寝ている時、急にビシッとした様に感じ始める 伝言（地震の震？） 子供、孫の前、顔を忘れる 最近事は變かぬ。 食欲はほとんどない 度々更に小土蔵 の頂上に探り始め、何を探して いるのかと探しているものが自分でも解らない 大々散歩は更に減り、近く公園でバスケ い坐り、ブツブツ大に話している事が更に 多く、長くなる（田舎へ帰る話）
2/1 ~		
3/1 ~		
4/1 ~		
~ 5/4		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	住所
	青年月日
	平成23年3月11日現在の現住所(入院先)
平成23年 3月11日	震災前の健康状態について 家事半分をこなし、1か月の数日はシルバー人材でのアルバイトをしていました。体を動かすことが大好きでした。月に一度は内科医に受診していました。

月 日	避難先	避難 (体調・病状) の状況
H23 3月11日	双葉町立双葉南小学校	・自宅にて東日本大震災にあう。 ・大きな揺れに動けなくなり孫に手助けしてもらい双葉町立双葉小学校に一時避難。
3月11日	双葉町立双葉中学校	・津波が来るとの情報で町立双葉中学校に避難 ・夜は避難先で一晩過ごす。
3月12日	川俣	・朝方の放送で西のほうに逃げてくださいとの連絡で一旦家に帰る。と別れて先に車で避難。 ・車で288号線を郡山方面に逃げたが、反対車線から車が帰ってくるのに気づきUターンして違う道を走って逃げることを考え福島浪江線を上って、他の車に続き後を追うように川俣にたどり着いた。 節子は水分を取らないでいたため青白くなり地元の方におにぎりやペットボトルの水分をいただいたりして川俣町中をまわり避難所をみつけ休んだ。 も夜には合流。
3月13日	川俣	食事は白米のおにぎりをひとつ食べて水分のみ。
3月14日	検査まわのため車中	知人を頼りに朝方はやく川俣避難所をでた。 新しい避難所への入所はむずかしく、体のチェックをしてからになり9時間 の敷地内で検査の順番を待ちつづけた。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
	3月15日	喜多方 避難所	喜多方の知人の手配で への入所ができた
	3月18日	病院	避難中でのなれない生活でストレスが体調を悪くさせ、常備薬もそんなになかったため喜多方の病院に受信させてもらった。
	3月20日	喜多方 避難所	不安定な血圧、体のかゆみなどをしきり訴え体にかゆみは血が出るくらい無意識にかいていたりして保健婦さんや、対応の医師に相談したりした。
	3月23日	喜多方 避難所	数回となく血圧の上昇がみられ、避難所の保健婦や避難先の委託医師に診ていただいた。
	3月24日～ 3月31日		毎日避難所の保健師に話を聞いていただいていたたりバイタルをみてもらい心と体のバランスを保っていた。
H23	4月2日	埼玉県鶴ヶ島市	越してすぐに 内科を受診。不安定な血圧、体のかゆみなどカキ傷をみてもらう
H23	6月		初めての団地生活は大変で、周りの環境の変化知らない土地での生活のストレス、言葉のストレス、食べ物のストレス、生活の日々を追うごとにストレスはふくらみ胃痛にかわり、そのためになどで検査をすすめられ受信した。 6月28日 9時30分から上部内視鏡検査・CT検査 特に異常は見られずストレスからの影響か？と診察
H23	8月		初年度の夏は私が、狭心症になり夏の暑い生活に我慢を続けて倒れる寸前でした。検査入院をしました。 センターへ8月27、28、29と入院 節子も心不全や腎不全の疑いの数値がでました
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります		氏名	住所
			連絡先 自宅・携帯
		氏名	住所
			連絡先 自宅・携帯

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
			<p>知らない町での生活は大変不自由で不安な毎日でした言葉は通じないのではないかと発することもままならず家族に付き添ってもらいながら医者や、買い物に出かけ一人では何もできませんでした。</p> <p>初めは物珍しく近所の公園や近くのコンビニに買い物に出向いたりしていましたが、足が痛いから……とだんだんと外への外出の機会も少なくなりました。</p> <p>毎日顔を見合わせていれば、夫婦での喧嘩が絶えなくなりました。</p> <p>こんなことでは家庭の中がおかしくなると判断し、週一回単身赴任の息子は帰省し家族との団聚を心がけたり、外食して周りの環境に慣れさせるようにしたりと外へ出させるようにしてくれました。</p>
H23	9月		<p>は下肢の痛みから医師からの紹介でセンターを紹介されて検査にいきをおこなう。結果軽度の貧血があり特に異常は見られず、ストレスから痛いような気になる可能性があるのかと言われました。</p> <p>センター</p>
H23	11月		<p>は指の痛みを訴え整形外科へ受信</p> <p>23年11月2日指のMRIを受け指に軟部腫瘍が見られ良性ではあるが大きくなる可能性があることから再発防止に腫瘍切除術が行われることに</p> <p>11月16日に切除の手術を行い、6週間ほど抜糸からリハビリまで通院しました。</p> <p>クリニック</p>
H24	1月		<p>保りつけのクリニックにて心不全・腎不全疑い塩分制限の指示がでた</p> <p>ストレスや運動不足で体に異常がでてきているのではないかと言われた</p>
H24	3月		<p>急にが心臓の痛みを訴え心電図の検査を受けました</p> <p>24年3月16日</p> <p>心臓の弁の動きが鈍いと診断されたが、ひどく異常はみられませんでしたが必要観察になった。</p>

<p>事情聴取先</p> <p>※役場より聞き取り調査を行う場合があります</p>	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

「164」-9

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H24	7月		埼玉の暑さもあり、最近のストレスが口喧嘩ばかりになり口を開けば互いに言い合いをしていた 何処にも出かけない状況が続き、ストレスもたまるばかりでした も私も狭心症を恐れて外にはでずにいきました
H24	10月		季節もかわり兄弟のところへ行きたいという妻の発言で二本松にいる弟夫婦のところへ連れて行ってもらった 新幹線にのり、で郡山までいきました 福島に行くのも弟夫婦に会うのも震災以来でしたので すごく楽しみにしていききました ただ、外に出る機会が少なく電車やバスにのりつけていないため、少し歩くと疲れがでて、ホームでの階段が大変でした。 夜は皆で外食をして親戚が少し集まり、被災の時の事を振り返り話した。妻は、思い出すと悲しくなり涙していた。 親戚の話の中で同じことの話を繰り返し繰り返し話していて兄弟からは妻の様子がおかしいのではないかと言われた。
H25	1月		は些細なことで口論となり、家じゅう騒ぎまわり日頃のうっ憤を晴らすのごとく大きな声で罵ったりして のところへ一人で電車をのりつぎ家出して黙って出て行った。 のところへ電話をしたら、避難先での環境が違いすぎてストレスがどんどん溜まり、毎日の生活にも張り合いや目標がもてずに、あらさがしばかりして家族に不満をぶつけているようなことを話していたと言うことでしたが、いつまでもお世話になることも心苦しく 週末終わり次第で二本松へ迎えに行き、埼玉まで連れて帰ってきました。 どんな心境なのか一週間くらいしゃべらず生活していましたが、のちに普通に生活してまいました
H25	3月		このころから他の人と会話をしたくて電話を頻繁にするようになりました。私の愚口をいってはストレスを発散しているようにみえました。 自由にならないことへの不満が八つ当たりの行動にでたり暴言を吐いたりしていました。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

「164」-5

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H25	5月		息子が気晴らしにと、富士山をみにつれていってくれた とてもお天気が良く気持ちよかった 車に乗せられての長時間外出は久しぶりの為、 次の日は疲れたが、思い出になったと語り合った [redacted]は大変喜んで、帰ってきた後も富士山富士山と 楽しく会話をしていた。
H25	6月		[redacted]と口論が続く毎日 お金のことや、昔の話をもちだしいろいろ話を一日中 そばで話しためうるさくて口論となる。 繰り返し繰り返し同じ話をしてくてわからなくなる 毎日のストレスがお互いにひきおこして 狭い部屋の中での生活に目を向けるのがお互いの事で いっぱいになり口論なり、激しくなると手も出たりして 大声を出す私に、妻がやりきれなくなり家族と共に 私を一旦離して生活することとなる。
H25	7月		[redacted] [redacted]避難先の高齢福祉課とのやり取りで入院 妻はほっとしていたらしい。 私が入院しているときは家族が一週間に一度必ず面会 にきてくれた。妻は来なかったり話をしなかったりで 私の行動をうかがっていた 数か月も離れて暮らすうちに私は徐々に落ち着いてきた 乱暴に騒いだり行動したりするのはストレスと躁鬱の躁と 軽い認知が出てきたとの診断がだされた 妻も被害妄想がでていた。話があちこちで私と話しに 耳を傾けず、家族には自分が大変だと話すばかりだ
H25	12月		半年の入院でだんだん落ち着いてきた私は 3月に家に帰れるようになるため自宅での帰宅宿泊が 毎週行われるようになり徐々に慣れるための帰宅が 行われるようになりました。妻は不機嫌になり家族が自分に 視線が来なくなったと思い、嫉妬し始めました。 面会も妻は、最終段階では来なくなり家族に任せきり になりました。

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

164-6

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H26	1月		<p>のために一緒に参加するためいわきへその後一週間二本松の兄弟のところへ息子に連れいかれたこの2、3か月前ぐらいからちよつと同じことを何度も聞いたり何回も話したりする傾向があったことで、息子から薬をもらつ予防してはどうだ？と話されたことが大変ショックだったらしい病人扱いされたなどと悪い方向に考えがいき、息子にいろいろ言われたと大げさにとらえたらしく友人や妹に電話して自分を馬鹿扱いしてる…と言い電話の相手に一部始終話して、ストレスを解消していた。</p>
H26	3月		<p>とで迎えにきてくれた。 妻は私が帰ることの不安を家族に漏らしていたが</p>
H26	4月	川越市	<p>毎日些細なことで口喧嘩をしストレスは膨らむばかり私の隔病の入院で妻は自由に解放されたようでした8か月妻は私と離れていたことで解放されて生活していたため、退院後の生活では不満をまともにぶつけて精神的に病んでいたようです 暴言、暴力、被害妄想、躁病、の症状が繰り返される毎日で、体調にも変化が見られ、薬の服用もきちんとしていない時が見られ、医者への通院も家族に付き添いを頼まず、黙っていくようになり、医者に行けば車に載せてくれない、付き添ってくれないなどと、うそを繰り返すようになりました。 時には、診察ではなく話をしに行くだけの時もあり主治医の先生は理解していたせいか話をきいて家族に電話をくださることも多々ありました。 やがて睡眠もろくに取らなくなり、一日中騒いで怒鳴りあげていることもありました。 口に出して言うことは、震災でみんなに会えないしこんなところで暮らすより、福島に仮設にいけば皆に会えるんだなどと怒鳴るようになり、夜昼が逆転して騒ぎまくる状態でした。</p>

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

「164」-7

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H26	5月		免許書き換えに郡山まで息子とききました 妻はそれが不満だったらしく、自分ばかり置き去りに されたと妄想が始まり 免許書き換えはしなくてよかったはずだと 罵り騒いだ。 帰宅後家の鍵を閉めて、一人にしておくから鍵を しなくちゃいけないんだと言い、開けようとしなかった
H26	6月		膝の痛みが頻繁になり、内科の先生に接骨院を紹介 していただき、そこに通った 気分がいいと車にのっけてと頼み込み、頼むのが 嫌だと受診しないで続かなかった 日増しに暴言が増えていった 膝の痛みは骨粗鬆症といわれ、リハビリやコラーゲンの 駐車も必要となる。 しかし、連れて行くと頼むのがいやで行かない日が 続いた。 菓の管理があやふやで、朝も夜も飲んだりのまなかつたり して、家族に確認する回数が増えた。 体がだんだん弱くなり、このころから食べ物の変化で 少しづつなんかも食べるようになり、胃のほうも痛み出したりして 医者に言っ胃カメラを飲んでみてもらっていた
H26	10月		突然、被害妄想がひどくなり怒鳴ったり騒いだり暴れたりして 家族に迷惑をかけている [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] にも自分のいいように話して自分を正当化して 騒いでないと言い張ったり、何が何だかわからないのよねと 不思議なことのように言っている日もあった
H26	11月		下肢が内出血したように全体に広がり、夜中病院に連れてい ほしいと言ってきたので [REDACTED] 連れて行ってもら 日頃から病状の把握できていないため、病院での対応も難し 夜勤対応の先生での処置は結局何もしないまま帰ってきた 本人も先生に話をしたらきがすんだみたいで、痛くはない 大丈夫だと話して帰った。 [REDACTED] センター救急外来

事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

164-8

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H27	1月 7日		私の行動がいちいち気になるらしく何かにつけて口をだして口論となる。 日増しにエスカレートしていき、被害妄想もはなはだしくなる。
	10日		は車中でべらべら話し始めるため息子に注意を受けて気分が一転した
	14日		私の眼科受診についていき診察を共にするわけではなく、付き添いの線を馬鹿にして、医者にはいったが話も聞かせてもらえなかったなど暴言を放ち家で暴れた
	17日		夜中幾度となく騒ぎ私はうさくて寝てられず部屋を移すが一時間置きぐらいにやってきては耳もとでぶつぶつ話はじめ
	18日		ほとんど朝方まで繰り返していた
	19日		普通に食事をしてすごすが、ぶつぶつ何やら話していて独り言のように一日ぶつぶつしていた
			被害妄想が激しくなり言ってもないことやってもないことを繰り返し話していた
			居住地の市役所に相談し対応していただいた
			話を聞いていただき、今後対応が難しくならないにちに対策を考えてほしい要望をしていました。現在の状況を面接して聞き
			こんでくださり、相談行いました
	20日		前日の相談ごとで暴言を家族に贈る
	27日		ほんとにそんなこと言った？と尋ねていた
	28日		私の白内障の手術に付き添うが、先生との話などにはめんどくさがり聞こうとせず、後からは聞かせてもらえなかったとウソをうそをついて線をいじめていた。
	29日		妻は術後の受診に眼科へは付き添いはしなかった。線と仲良く行ってきたらいいんじゃないのと被害妄想が始まり、ぶつぶつつぶやいていた。
			市役所の勤めで認知症相談会にいった
			早めの受診をすすめられましたが本人が警戒していて自分はそんな病院には行かないし検査もしないと言った
	2月 16日		相談に出向く 地域包括センターの介護士がつき息子夫婦と先生とで今後の妻のことでどうしたら警戒心を持たずに に受診させるよう勧めていくか話あった

事情聴取先 ※後場より聞き取り調査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

「164-9」

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H27	2月 26日		妻は██████████クリニックを受診した際に倒れてしまい、脳の検査も必要となりそのまま██████████へ移動して受診した 警戒心の強い妻は██████████の先生に、██████████で大きい検査をすすめられたが「頭が悪くなってなんかいいよ、そんな病院にはいかない」となってしまった ただ、このころはだいぶやせ細り、心身ともに疲れていたよう
H27	3月 15日		母は突然頭が痛いと言急変し 頭をおさえながら苦しくなり、大動脈解離でなくなった

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

$$r_{165} = -1$$

死亡者氏名		住所
		生年月日
	3月11日現在の現住所（入院先）	震災前の健康状態について
1	3月11日	81歳の年寄で病院に入院していたが、一層も無く、国葬をしても病院に行くことなく治し、兄と二人で生活していた。店番、家事一般をこなす。元気で明るい母。余計な心配も無い人。耳令と同域人にやさしく接している。母、苦しい生活の中でも我が子に代わり毎日を楽しんでいる。
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
3月11日	双葉北小学校	3月11日の夜で東家を訪ねて見ると母と兄も避難していたので一緒に避難先の校舎に移った。夜中に双葉北小学校に移動。
3月12日	津島浪江高校分校 10時30分到着 12時30分出発 ↓ 14時過ぎに川俣町到着	北小から避難してから朝6時頃防護服を着た警察官と消防士の車に乗って来て原爆の事故で放射能が漏れている事を知り津島の方面へと送られた。ただで皇姑に（分校）をもち入る。トイは20人以上になり、警備と消防、あつちの不安定さで川俣方面に移動することになった。その道中から自衛隊と警察の長蛇の列を組んで浪江方面へ向けていた。その時母は戦争でも始まるのかと言っていた。私も娘も双葉避難所と書かれたアウタートを探しては母と一緒に車を走らせていた。
3月12日～3月15日	川俣	12日小中学校に到着してから皇姑にはいれず、外を見ているだけで、そのとき原爆の被害にあつたことに皇姑に避難指示を出て、ふくや車中泊から皇姑に移動。しかし母は一歳もせず宮の中をうろつき回ってまわりの人を見ては今の状況を把握して、いつにならぬ寂しさを感じていた。 15日にはじめて母の妹の川俣の家に居ると連絡があり、お父さんと母は何かに、行ってそこに着くとように思えた。
3月15日～4月2日	福島市飯坂町 へ避難	妹を何処に行かした後、八役場へ避難先の届けを提出してから出発。泊めてもらうようにお願いする。 叔母の家で地震で水道が壊れて大変だった。私達五人を受け入れてくれた。
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		住所 連絡先 住所 連絡先

351 / 456

352 / 456

震災後から死亡までの経緯について

「165」-4

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成24年 5月1日 ～平成26 12月17日	3月2日 入院 3月22日 〃 6月1日 通院 本家で終り 6月4日 6月14日 6月21日 双葉町社会福祉会 〃に訪問 7月2日 7月26日 外食 7月30日 8月27日 平成24年9月11日 火曜日にけいさくバスに通う 9月24日 10月22日 〃 10月24日 〃 (インフルエンザ注射) 11月1日(不曜日)と金曜日の2日 〃に 11月19日 〃 12月17日 〃 平成25年1月7日 〃	<p>退院するまで朝8時ごろから夕方3時ごろまで病室に付添い、入院中は一人で歩いたりする事が出来たが、3月22日～3月22日 左慢性硬膜下血腫と圧迫骨折(背骨) 〃病院</p> <p>平成23年10月19日の転倒で左腰下血腫と圧迫骨折にはる通院最後の検診で無理をせず歩行が出来なくなると診断される</p> <p>6月4日 〃で検診通院してからこの間は歩いているように見えながら落ちつかない様子が見られ、検診に行ったら精神的に落ちつかないし車いすにの時に血圧が高くなっていて、病状の悪化が28日検診で悪化したため又通院との事。</p> <p>6月14日 〃で検診通院するにあたり双葉町社会福祉会 〃に母の事をお話しに行く。また〃双葉の親戚の人を見つけたら普通に会話している</p> <p>7月26日 〃外食、いつ切ったかわからないが、1と腹が膨らみ、くりに切れている。つれていって、3針を打った。要するに炎症を起している様にと事</p> <p>9月11日今日から 〃に行くことになる。社協さんとケアマネージャーさんに来てくれて、母の様子を見て家にいようか外に出て皆さんと話してリハビリを勧められたりした方がよいこと(週1回)取れたので、通うことになった。家にいるとほとんど話を聞けなくなってしまった。お風呂をおしえて、バスにのりした。〃外に出た方がよいと思い、バスを利便して(11月7日水) 〃を週2回にしよう。少しは出て来ようから施設の方に空いて出たことも有り、家でぼーとしていたよりは外出して体を動かした方が本人のためだと2回に、</p> <p>11月1日より不曜日と金曜日をけいさくバス 〃に行く事に。〃火曜のみ 〃は毎日入浴可能で、見守り、皆さん楽しそうに話してくれたり、ケアマネージャーさんと相談して、入浴は風呂に入りに行き、お母に話してあげた。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
	氏名	連絡先 自宅・携帯
		住所

[illegible]

355 / 456

	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
7	平成26年 1月1日 ～ 平成27年 10月24日	12月16日引越え始める。	母が以前から死ねば自分の家まで死にたいと言っていたので、私と姉は母のことを思いとめて家を早急で移す。 12月17日母を施設に送りながら引越し先の八王子に社長と三人で出発する。新居は息子達やハエ子のケアマネージャー二人に頼んでお願いした。介護ベッドを入れてもらい、着いた当日には不慣れなようにも感じてもらった。 次の日、ケアマネージャー二人、ティサースの担当者と母の親戚会合などをさせてもらい、早急に対応してくれる様子を促して貰った。 最初母は八王子に引越せよと言っていたものの、自分も一緒に連れて行くつもりだと思っていたので、ケアマネージャーや担当者さんの話しを聞いていくうちに息子が置いていかれることには母も子孫に捨てられると思ったらしくお前の嫁に私もこんな風に扱われていたんだと涙が出てきた。 この日を境に、震災や原発事故に対しては「俺はこれからは出ない」という決意をした。どんなに苦しい時も乗り越えて生きていく。 夜中に出たおりの救急車があるのに病院につけて行く。今までの病院と違うのが夜の病院は建物が暗く静けさを感じて眠ることにした。 ティサース担当者からグレンダから何かあります。と懸念も複数あり、引越しする前に事前に病院に調べるつもりで感心な吸引をしてくれる所があった。その結果として近頃の吸引出来ることになり、全体的にいい感じでしゅうりょう吸引出来ることになり、病院に行く。病院 2月9日、仙河の薬師に行き、2月9日の薬師に初診する。通院する。2月16日、薬師に再診と薬をもらう。3月6日、薬師に行く。3月16日、病院に検査と薬をもらう。行く。その時の担当医師はどうして、後遺症などに同意して廃棄物を処分するのはどうして、高価な金銭を期待しているのと母は言う。老医師に皮肉られてはいないと思いついて吸引してくる病院を
	平成27年：1月22日		
	(1月31日) > 病院 内科		
	2月9日 > 眼科		
	2月16日 > 病院		
	3月6日 > 眼科		
	3月16日 > 病院		
	4月8日 > 眼科		
	5月11日		

<p>事情聴取先</p> <p>※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

[illegible]357 / 456

358 / 456

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

事情聴取先
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
		3月11日現在の現住所	震災前の健康状態について
1	3月11日		<p>震災前の健康状態については、とても良好な健康状態でした。</p> <p>持病などもなく、また大きな病気や怪我もしたことがありませんでした。</p> <p>震災当日まで自営業で釣具店を経営しており、自分でポリタンクの海水を運んだり、マイカーを運転し関東地方の間屋に行ったり、店の荷物の出し入れなども本人一人で出来ておりました。私生活では、毎晩30分以上のウォーキングをしたり、町民大会に参加するなど、誰の助けもなく私生活を過ごしておりましたので、同年代の人よりもすごく健康な状態にありました。</p>

	月 日	避難先	避難の状況
2	平成23年3月11日	ヘルスケアふたば	当日は、水道から水が出なくなり、ヘルスケアふたばと自宅を行ったり来たりしていた。
3	3月12日	浪江町 [REDACTED]	自宅から、次男の嫁の実家がある南相馬市小高区へ行った。その後、原子力発電所が爆発し、長男の孫を母親に渡すため、当該場所へ移動し、宿泊した。
4	3月13日	南相馬市原町区 [REDACTED]	当日の朝、自動車のガソリン給油の為、南相馬市原町区へ行くが、ガソリンの補給が出来ず、エンジンを止めたまま、寒さの中、車中に宿泊する。
5	3月14日	川俣町 [REDACTED]	次男が避難している川俣高校の [REDACTED] に移動。ここで生活する先が見えないことで精神的に追い込まれ、不整脈や体調不良となり、福島市の [REDACTED] 病院での診察を受診する。
6	3月17日	福島市 [REDACTED]	次男が福島市内にアパートを借用した。ガソリンが無いため、自動車を川俣 [REDACTED] に残し、次男の家族と共に、移動しアパートに同居。家財を購入する店も閉店中で、暖をとれる物が購入できず、日々寒い状況で過ごす。
7	3月19日	福島市 [REDACTED]	長男が福島市内にアパートを借用した。ほとんど長男は仕事で不在の為、長男が借用したアパートに移動。長座布団で寝ていたが、ようやく布団が購入できたので、布団で寝るようになった。
8	3月28日	福島市 [REDACTED]	長男が借用したアパートの他の部屋に空きがあったので、長男と同じアパートの別の部屋を借用し、移動。過去にアパート暮らしなどをしたことが無いため、物音などが気になり、落ち着かず、眠れない日々の生活が続く。
9	3月28日	〃	不整脈が続き、精神的にも不安定で体調が悪く、福島市の [REDACTED] 病院に通院。その後、その後6回ほど同病院に通院
10	4月頃	〃	双葉町の自宅と自分の店、町の様子を見に行くが、変わり果てた様子にショックを受けるが、店の再開ができないかと考える。
11	5月頃	〃	双葉町の状況が分かってくるにつれ、今後どうなるのか不安になり始める。
12	6月頃	〃	近所にいた次男がいわき市へ引っ越すことが決まり、夫がどうしたらよいのか考え込むようになる。
13	6月頃	〃	今後の生活の見通しや生計の見通しが立たず、楽しみの商売のできなくなり、口数も減るようになる。
14	7月4日	[REDACTED] 病院	不整脈の検査の為、 [REDACTED] 病院に入院
15	7月6日	福島市 [REDACTED]	[REDACTED] 病院を退院(狭心症の疑いあり)
16	8月5日	〃	[REDACTED] 病院にその後5回ほど通院
17	8月10日	いわき市 [REDACTED]	次男夫婦が住んでいる近傍にあるいわき市泉町にアパートを借用し、移動。アパートの前にレミコン工場があり、朝3時から稼働している為、その音が気になり、熟睡することが出来ない日々が始まる。

	月 日	避難先	避難の状況
18	平成23年8月頃	〃	二本松市で自動車事故を起こす。本人が隠していたが、その後、保険の書類が届き発覚した。過去に事故を起こしたことがないのに、夫がおかしいと感じる。
19	8月下旬	〃	アパートの鍵を紛失する。過去に鍵を紛失したことがないのに、夫の行動がまたおかしいと感じる。
20	9月頃	〃	毎日イライラが続くようで、日々落ち着かず、ソワソワしている。
21	10月頃	〃	笑うことが少なくなり始め、声を掛けても返事もしない時が出始める。
22	11月3日	〃	本人の精神状態が不安定になり始める。また、大小の失禁も同時に始まる。
23	11月上旬	〃	自分のアパートの部屋が分からなくなり、近所のアパートのドアホンを押すようになる。家の場所について話をしてもよく理解できず、一緒に寄り添っていないと迷惑をかけるのではと感じ、できる限り寄り添うように始める。
24	11月上旬	〃	〃が合った。ガラスが割られ、店の商品が盗まれた。かなり精神的にショックを受けていた。
25	11月下旬	〃	夜中に一人で家を出るようになり、電話で家に帰ってくるように説得する。電話で話しても返事があまりなく、行動がおかしくなる。自殺されるのではと不安になり、目を離さないようにした。
26	12月頃	〃	新居を建てるため、次男と一緒にハウスメーカーに行くが、新しい家に興味もなく、双葉にいつ帰れるかと聞くようになる。
27	平成24年1月頃	〃	再び、次男と一緒にハウスメーカーに行くが、内装などの希望を聞いても、反応がほとんどなくなる。自分で判断することや好みを言う事もできないようになる。
28	2月頃	〃	新しい家を見学に行くが、双葉にはいつ帰れるかと質問される。ここには、いつまで住むのかと思っているようで故郷に早く帰りたいと思っているようである。
29	3月10日	〃	近所のレミコンの音やアパート生活での苦痛を解決するため、借金をして家を建てて引っ越す。しかし、引っ越し日に「いつになったら双葉町に帰れるのか？」と聞くような事があった。また、引っ越して落ち着くことを期待したが、だんだんと双葉町民と会うことや話す機会も少なくなり、落ち着くどころか、さらに精神的に不安定な状況が増していく状況になる。
30	3月頃	〃	福島市の〃病院から〃を紹介される。
31	5月17日	〃	精神的に不安定な状況が続いていることから、長男と私で〃に診察に行く。医師からは脳からくるストレスと言われた。

	月 日	避難先	避難の状況
32	平成24年5月頃	〃	次男にパソコンからプリンターに印刷が出来ないと電話。次男が確認すると、ケーブルが接続されていない。また、別の日には、パソコンの電源が入らないと電話する。次男が確認するとコンセントが入っていないかった。段々と日常の事ができなくなっている。自動車事故も起こしており、当時乗っていた大きなエクストレイルから、小型車のノートに車を変更させる。
33	5月頃	〃	〃で診察を受診するが、病名はわからない。
34	6月頃	〃	〃から「うつ病」の薬をもらい服用するも、効果が感じられない。
35	6月29日	〃	〃から、〃を紹介され通院する。医師からは、避難による「うつ病」と診断される。
36	7月頃	〃	この頃から、大小のお漏らしがひどくなり始める。過去に診療を受けたことがある〃の先生に相談し、〃を紹介される。〃では、認知症の検査をしてもらったが、例題にも普通の人と同じ程度に答えられているので、認知症ではなく、避難に伴うストレスによる「うつ病」だと言われ、うつ病の薬と睡眠薬を処方される。
37	8月26日	〃	〃にも行く。MRIと脳の検査を実施した。医師からは脳からくる強度のストレスと言われる。
38	9月頃	〃	他の人に会うのを拒み、友人が来ても空いている部屋に行き逃げるようになる。
39	11月頃	〃	双葉町に帰りたいと言う日が多くなり始める。
40	12月頃	〃	近所のニワトリの声が気になることや精神的に落ち着かないこともあり、朝方眠れなくなる日々が続く。何をするかわからないので、一緒に起きて、様子を見ては、行動したいことを聞いて、だんだんと手伝う日々が始まる。
41	平成25年1月	〃	各病院を月1回受診し、〃は、月2回の受診を行う。
42	2月頃	〃	〃から次男に電話がある。3名の方から父の言動がおかしいと連絡があった。現在、いろいろな病院に通院し、見てもらっている旨を伝える。
43	3月頃	〃	自動車運転中に交差点で事故を起こす。その後、自動車にドライブレコーダーを取り付ける。
44	4月頃	〃	自宅近所の川の土手に、おむつを大量に捨てる。
45	5月頃	〃	夜中に、3回居なくなることがあり、驚く。玄関の内鍵を抜いて玄関を開けられないようにして、1ヶ月様子を見る。その後、夜中に家からは出なくなる。
46	6月頃	〃	ペットの下に、のこぎりとハンマーを隠す。怖くなり、すぐに捨てる。また次男を読んで夫に話をしてもらい注意をする。

	月 日	避難先	避難の状況
47	平成25年6月27日	"	長男の孫が結婚することとなり、東京都内のホテルの部屋で食事をするが、食事を喉に詰まらせる。食事を詰め込めないよう、必ず一緒にご飯を食べ手伝うように始める。
48	8月頃	"	家からほとんど外出しなくなり、気分転換をさせようと庭の草むしりをお願いするが、草と花の区別ができなくなり、花まですべてとってしまう。説明しても何を言われているのか分からない様子である。
49	10月頃	"	家の中の片づけをお願いするが、集中力が持続せず、すぐに片づけをやめてしまう。
50	11月頃	"	双葉町に帰りたいと毎日のように言うようになる。行かないように説得するのが大変だった。
51	12月頃	"	一緒に散歩に行くようにするが、話をするも返事がない。家の場所が分からなくなるのが怖らしく、私にぶつかるとぐらいいびつたりくっついて歩いてくる。
52	平成26年1月頃	"	朝から気力がなくなり、新聞を取りに行くのもおっくうになる。朝から何もせず、気力もなくなってきた。
53	2月頃	"	友人が来ると他の部屋に隠れるのが常になり、そこでいつもソワソワしている。
54	4月頃	"	家の鍵を再び無くす。どこに行っていたのか聞いても、はっきりわからない。何をしてきたかも分からなくなる。
55	6月頃	"	話をしても、さらに分からない様子になり、反応も鈍く、声自体を発することが少なくなり始める。
56	7月頃	"	食事について、 [REDACTED] の先生に相談すると、脳の働きが悪くなり、満腹感が分らず、物を詰め込んでしまうので、よく噛んで食べさせるよう、また食事中に目を離さないように話をされる。
57	8月頃	"	お漏らしの状況は変わらず、時折おむつはトイレに流したり、お風呂場に捨て詰まらせるという日々が続く。トイレは付き添わないとい何をするかわからない状況になる。さらに、お風呂の手伝いや着替えなどの手伝いも多く必要になってくる。
58	8月頃	"	自動車を運転中に震災後3回目の事故を起こす。夫は事故には気付いていない、認識もわからない状況であった。その後、危険な為、自動車を運転させないようにした。
59	10月頃	"	家の鍵再度無くす。無くしたことにすら気が付かない状況となる。聞いても、答えなくなる。
60	11月頃	"	字を書いても、ミズのような字になり、ほとんど読めないような字になる。

	月 日	避難先	避難の状況
61	平成27年1月頃	〃	MRIと各病院の通院を繰り返す。避難後に脳のMRI検査を5回実施。
62	平成27年2月頃	〃	テレビを見ていても、ボーっとしているだけで、理解はできていない感じである。
63	3月頃	〃	テレビのリモコン操作もできなくなり始め、だんだんと気力もなくなっていく。テレビをつけるのも手伝わないと出来なくなる。
64	4月頃	〃	子供が来ても、会うのがおっくうになり、落ち着かず、ソワソワする。
65	6月頃	〃	大熊町の知人からデイサービスに半日でも来ないかと誘われ諭すが、夫に抵抗される。
66	7月頃	〃	何か話をして、ほとんど分からないようになる。食事やトイレ、風呂、洋服を着ることなど、手伝わないとほぼできない状況になる。
67	8月頃	〃	次男の車で姉の家に行ったが、姉の家へ行く道が分からなくなる。なんとか、近所まで行き、姉の家の前にも関わらず、姉の家がどれかと聞いても、分からないと言う。震災前や震災後にも何度が行っていた姉の家も分からなくなり、家の中にお邪魔しても、話すらできず、ソワソワして落ち着かない様子だった。
68	8月頃	〃	日々夫を散歩に誘い、一緒に歩くが、夫は肩を曲げ、まるで障害者のような感じ歩くようになってしまい、私から離れると家に帰れなくなるとの恐怖で、私の靴を踏みながら歩いている状況だった。
69	9月20日	〃	次男が室内に洗濯を干す器具を付けに来る。夫に手伝いを頼むが、次男からドライバーやネジを取るようお願いされても、ドライバーやネジが何なのか分からなく、手伝いも出来ない状況であった。
70	9月24日	〃	9月からは、体が疲れるのか歩くことさえ嫌がりました。食事を喉に詰まらせることも度々あり、長男や次男に注意をもらっていました。
71	9月25日	〃	今日は朝から体が疲れるのか、横になったままである。ほとんど話もしなかった。夕方、相撲を見終わると、6時だから食事だよと言い、ありがとうと言って、食べ始める。 20秒程度目を離した隙に、「ウッ」と言う声がし、びっくりした。 顔面が紫色になり、呼吸がなかった。次男の嫁に電話をし救急車を要請した。救急車は到着まで15分程度かかったと思う。その間、次男の嫁が心臓マッサージなどの処置を一生懸命してくれた。 その後、救急車で〃〃〃〃に搬送され、医師からは回復が難しいと言われる。

	月 日	避難先	避難の状況
72	平成27年9月28日		<p>一度も意識は戻ることなく、午前8時42分に亡くなった。</p> <p>双葉町にいた時の夫は元気で、仕事やお客さんとの会話が大好きだった。家族のこと、店のこと、友人のことをとても大切にしてくれた人であった。</p> <p>避難後に精神的におかしくなってしまうからは、空を眺め、雲の動きを見て「故郷は遠いな～」というのが口癖でした。</p> <p>自動車運転でも過去事故など起こしたことがない夫が、震災後は3回も事故を起こし、最後には事故を起こした認識すらなくなっていた。</p> <p>震災後、楽しみであった商売をすることや、双葉町民と触れ合い、お客様との会話がなくなったこと、自分の生まれ育った町への帰還見通しも立たず、店の営業再開ができないことで震災前の何でも自分で出来ていた、そして周りの人も面倒を見ていた夫からは考えられないほど、自分の事すら何もできない別人のように変わっていったことは、ストレスによる「うつ病」が震災によって酷くなっていたとしか考えられない。</p> <p>周りとの会話もなくなり、生活も一変し、したこともやアパート生活、また故郷に帰る見通しすら立たない、非常に過酷な状況におかれ、未曾有な大震災と原子力災害により心身ともに著しいストレスに襲われました。夫は将来への希望もなくし、夫の全てを奪っていきました。原子力事故は、恐ろしいし、悲しいです。</p> <p>このような大震災そして原子力事故がなければ、今頃元気で余生を楽しんでいたことは、疑いもないことだと思います。</p> <p>何でも一人でできた、そしてやってきた夫が、このような死になることはありえないです。</p>

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「167」-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所(入院先)		震災前の健康状態について	
1	3月11日	下記参照のこと	
月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
震災前	自宅	<p>トイレ、着替えなどの身の周りの世話は問題なく行う。</p> <p>自宅の前の畑でダイコンやジャガイモを育てる。春には山菜を採りに山に入り、秋には庭の柿の実を自分でもぎ取る位元気だった。</p> <p>入れ歯だったが肉が好きで平均的な男性より食事量は多かったように思われる。</p> <p>2009年秋に耕運機の下敷きになり頸椎を損傷。手足に痺れが残ったが、生活に支障は見られず。ただし、体の起き上がりに苦労するようになり、介護用ベッドを使用。持病などはない。</p>	
2011年 3月11日	自宅 双葉ヘルスケア 介護施設せんだん	<p>自宅で入浴中に被災。避難の際に入れ歯を紛失。これ以降入れ歯を作るまで3ヶ月程度食事に苦労した。</p> <p>妻の運転する車で両親をヘルスケアふたばに避難。</p> <p>父を横にさせたかった所に、老人ホームせんだんでベッド1床空きがあるとの連絡を受ける。</p> <p>妻の運転で施設へ。父と母ふたりで一夜を過ごす。</p>	
2011年 3月12日	南相馬市小高区	<p>12日早朝、原発が爆発しそうなので、避難してくれと言われる。</p> <p>が南相馬市小高区に住んでいたので午前6時半ごろ施設を出発し、12時ごろ到着。</p> <p>その後、原発爆発の連絡を受けて、妻の親戚が住む福島市に車で向かう。</p> <p>父は戦争を経験していたこともあり、普段から不平を口にするような性格ではなかった。しかし、短期間での度重なる長距離の避難は心身に相当の負担があったと思われる。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り 調査を行う場合があります。	氏名	住所	
		連絡先	
	氏名	住所	
		連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

167-2

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
2011年 3月13日	福島市	<p>で妻の親戚の家にお世話になる。</p> <p>父は体の不調を訴えることはなかったが、自宅はどうなっているかという話を繰り返す。</p> <p>居候暮らしは肩身が狭い思いをすることが多く、ガソリンを確保できたので、新しい避難先に移動する。</p>
2011年 3月16日	静岡県御殿場市	<p>両親の体調に大きな変化は見られないものの、避難生活の長期化は健康に悪影響があると考え、妻の親戚が住む愛知県小牧市に避難する。</p> <p>長距離移動による体の負担を考慮し、御殿場市のビジネスホテルに両親と妻、私で泊まる。</p>
2011年 3月17日	愛知県小牧市	<p>妻の親戚の住宅に4人で避難。</p> <p>避難中にテレビを見ていて、ますます状況が悪くなりどうしようかと思っていた所に、義理の姉から山形県鶴岡市に空いている一軒家があり、使っても構わないとの連絡を受ける。</p> <p>他人の家での生活にストレスを感じていたので移動することを決める。</p>
2011年 4月上旬	山形県鶴岡市	<p>一軒家での生活。</p> <p>父は愚痴や体の不調を訴えることもないが、入れ歯が無いので、食事には苦労していた。20日程度の生活だったが、父の健康を考慮し、介護ベッドをレンタルする。</p>
2011年 4月中旬	山形県鶴岡市	<p>役場を通じ県から鶴岡市内の に避難できると連絡を受けたので、指定された旅館に向かう。この旅館が、自動車学校の教習生が泊まるような旅館。</p> <p>父が寝起きに苦労しているので、布団の部屋からベッドの部屋に移動するが、日が当たらず、カビ臭い。加えてゴキブリが出る為、夜間寝ることが出来なくなった。</p> <p>十分な睡眠時間を確保できない日々が続いたのでもっと良い部屋にするよう何度も話をしたが改善されず。しかたなく我慢していたが、睡眠不足のイライラから両親が口ゲンカをすることが多くなる。</p> <p>震災前にケンカをする両親の姿を見ることは一度もなかったことで、父も母も環境が変わったことでストレスが相当溜まっていたと思われる。</p>
2011年 5月ごろ	山形県鶴岡市	<p>仮設住宅を視察。</p> <p>筋力がかなり衰えてきたので、介護ベッドが必須に。住宅が狭く、介護ベッドが設置できなさそうなので入居を見送る。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

震災後から死亡までの経緯について

「167」-3

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
2011年 8月	いわき市	<p>いわき市 住宅に入居。 長引く避難生活で部屋の中にこもることが多くなった。 庭仕事や散歩をすることもなかったためか、筋力が相当衰えた様子。</p> <p>父が階段の昇り降りに苦労しているので、1階の部屋を希望した。</p> <p>両親と妻、私の4人生活が始まる。 周囲の目が無くなった影響もあるのか、父が「双葉の家に帰りたい」と口にするようになる。</p> <p>このころには時間制限が設けられたが、双葉町の自宅に行くことができるようになっていた。</p> <p>私が一時帰宅した際に津波でガレキまみれとなった自宅をカメラで撮影し、父に見せる。</p> <p>変わり果てた自宅に大きなショックを受けたようで「がっかりだ」と一言。母も涙を流していた。これ以降、口数がさらに減るようになった。</p>
2011年 10月ごろ	いわき市	<p>高齢の父にとって環境の変化がストレスになるようで「双葉の家に帰りたい」と昼夜を問わず繰り返すようになる。 「いつかは帰れるようになる」となだめる日が続く。</p> <p>このころに母のガンが判明する。 父は相当な衝撃だったようで号泣し「いつまで生きられるのか」と何度も問いかけられた。食も細くなり、「死にたい」と話す。</p>
2012年 1月	いわき市	<p>父と50年以上連れ添った母が死亡し、大変なショックを受けた様子だった。 これ以降、食事量がさらに減ってくる。</p> <p>かつては漁船に乗っていて筋肉隆々だった父の体が骨と皮のようになっていて、こんなに痩せてしまったのかと心底驚いた。</p> <p>父の体の自由が利かなくなってきたため、介護施設の入居を考えるが、地域の施設は300人待ちの状態とのことで、施設入居を断念する。</p>
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	
	住所	
	連絡先	
	氏名	
	住所	
	連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

「167」-4

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況		
2012年 10月	いわき市	<p>を再建。父と妻、私の3人暮らし。父の体を考えて、玄関、廊下に手すりを設置する。</p> <p>父は手すりを使って歩くことはできたが、トイレが自分で出来なくなり、私と妻で介護を始めた。</p> <p>この時期に父がふろ場で転倒、腰の骨を骨折し、へ連れて行く。</p> <p>入院を希望したが、空きベッドが無いので、自宅で介護して下さいと言われる。</p> <p>病院へ再三、入院させてくれるように頼んだが、断られて自宅で私と妻で介護した。</p> <p>と判断される。</p> <p>父は体を動かしたかったが、骨折で体が痛むため、体を動かせず、私たちでは十分な介護が出来なくなる。</p> <p>本人も私たちもどうしてよいか分からなくなり、相談員に相談し、ヘルパーさんに1週間に2、3回来てもらい、父の介護をお願いする。</p> <p>1日中ベッドの上で生活するため、食欲がほとんどなくなり、父は衰弱していった。</p> <p>日が経つに連れ食も一層細くなり、震災前の半分ほどさらに、妻が居なくなったことで心の支えを失い、生活のハリを失ったように見える。</p> <p>妻に先立たれてからは、生きる目的を失ったように見えトイレ以外にも生活全般で解除が必要になった。父はこの時期からほとんど寝たきりの状態になり、昼夜逆転した生活になる。</p> <p>父の強い希望で双葉町の自宅を見に行く。津波被害で大津波の被害を受けた自宅に強いショックを受けたよう何も話さず。</p>		
2012年 12月	いわき市	<p>妻と介護生活が続ける。2人では苦勞することが多いので、デイサービスに入浴を依頼する。</p> <p>妻と介護生活が続けながら、いわき市内及び近隣市町村でも介護施設を探したが、満室で断られ、家でデイサービスを利用しながら、妻と24時間交代しながら介護していた。</p> <p>夜中に5-6回位起こされ、父本人も介護する私達も少しずつ、ストレスがたまっていった。</p>		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

167-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況		
2013年 6月ごろ	いわき市	<p>温厚な性格で、父が怒る所は見た事もなかったが自宅から小高、福島、愛知、山形、いわきと自宅を再建するまで我慢していたものがストレスとなり、一気に爆発したようで、色々と文句を言ったり、「死にたい」「殺してくれ」と言ったりするようになり、私も妻も困っていた。</p> <p>父の性格から言って、相当、家のこと、自分の妻の死、自分の体の事で私達には分からない程悩んでいたと思うと、何もしてやれなかった自分が情けなくなった。</p> <p>この頃から、食事もほとんど取らなくなり、心配し、医者に相談し、病院のベッドが空き次第、入院させてくれることになった。</p> <p>亡くなる12-13日前に軽い肺炎を起こしていると言われた。</p>		
2013年 8月ごろ	いわき市	<p>週に1~2回程度の間診を依頼していた医師が父の異変に気づき、近くので肺炎と診断される。</p>		
2013年 8月12日	いわき市	入院して2週間で肺炎により死亡		
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>				
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	
	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H23	3/11	自宅	普通
	3/12	川俣	避難指示により車で川俣（避難所）に移動（徒歩に乗り時間か）
	3/19	さいたまスーパーアリーナ	川俣から町全体でバスに乗り避難する。
	3/31	旧騎西高校	さいたまスーパーアリーナから旧騎西高校へバスに乗り移動
	4/6	旧騎西高校	病院 眼科 診察
	4/12	同上	病院で眼科にかかり 眼球がめまいしいとの事で 病院に紹介状を書いてもらう。
	4/14	同上	病院で血液検査・レントゲンを取る。
	4/19	同上	検査結果を聴く。 眼球がずれているとの事で手術の予定 決める。
	4/21	同上	旧騎西高校にて夜トイレで転倒し 頭部を打撲する
	4/22	同上	で頭部を診察
事情聴取先		氏名	住 所
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	連絡先
		氏名	住 所
			連絡先

別紙

168-2

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H23. 4/24	旧西高高校	旧西高高校の地下で、 転倒したと知らせが入る。 (腰) (腰部・打撲)
4/28	同上	にて、眼球の手術を 4/28～5/1まで入院する。
5/11	同上	先月(4月)に転倒した時に痛めた 腰部で に診察。 MRI・レントゲンの結果、救急車で 病院へ移動、そのまま入院 (5/11～5/22まで)
5/24	同上	旧西高高校 1-A教室にて、認知症の 症状が見られる(ハイパーになった。 お前がわくした、お前の死んだと15分おきと 言う)。 一人でどこかへ行ってしまう。これ で探す。
6/27	同上	痛みをうったえたので に 診察。その時に薬をもらう(腰部の痛みのため)
7/12	同上	腰の痛みが引かず に診察。 MRI・レントゲンを取ってもらう。結果 (痛風増悪、腎臓・尿管に生ずる) 入院期間が約1ヶ月間と言われる。
8/12	旧西高高校	から母が危篤との連絡 を受け、親戚を集める。親戚を集める。
8/13	同上	母・命を失う。ここから約1年病状が 変わらず入院になる。
H24. 8/14	同上	にて、脳梗塞・肺炎にて 死亡

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難(体調・病状)の状況
H23.9月～12月	お見舞に行っている時に、仮寮に帰りたいと言うのが多くなった。 急に大声を出す事が増えた。
H24.1月～3月	大声などの言動が増えていったため、個室へ移動。 線香などのフェーブを取りたりあったため、手に火傷をかいせたり。 手首を傷つけて取らないようにしていた。
H24.4月～7月	以前と変わらず、このような言動が増えていった。 急激にやめていった。
H24.8月	※以前よりも体力がへっていき、言動もへっていった。 脳梗塞・肺炎にて死亡。
	震災前は、よく出歩きた。友達の家にも歩いて いったり、よくしゃべったり笑ったりと99%たのですが 避難してからは、見知らぬ土地で出て歩いたり 出来ず、しゃべる友達もへって、口数も少なくなりました。 震災がなければ、このような事にはならなかったはずで、

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

震災後から死亡までの経緯について 「169」-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

①

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日	自宅	
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
3/11	自宅	普通	
3/12	川俣	避難先により車中泊（川俣）に移動 （地震により7時頃から12時頃）	
3/19	エーデルスパーアリーナ	川俣小学校から町全体でバスに乗り避難する	
3/21	旧騎面高校	エーデルスパーアリーナから旧騎面高校バスに乗り移動	
3/21	同上	避難の疲労・ストレス、団体生活により は30日入院する。	
3/22	同上	肺炎からの診察	
3/25	同上	同上	
3/28	同上	帯状疱疹のため診察	
3/28	同上	耳鼻科で検査 病院に紹介状を貰い28日5時頃	
3/29	同上	MRIを取る・蛇口修理（断水）	
3/29	同上	検査の結果 飲んでいる薬（アスピリン）血中濃度が上昇している。により 手術延期になる。31日入院する	
3/30	同上	病院に2時間待ちで手術入院	
3/30	同上	病院に退院	
3/30	同上	家族に吸う方法、など電話で受け取る	
3/30	同上	病院の先生が 10日検査結果が来た様子は、 泣いて居る人の苦痛をやわらげるための処置	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		氏名	住 所
		氏名	連絡先
		氏名	連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「169」-1 ②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H23. 7. 26	旧 野田高校	耳鼻科 診察
8. 12	同上	定期的に耳鼻科 診察
8. 13	同上	泌尿科 診察
8. 15	同上	呼吸科 診察
8. 19. 26	同上	耳鼻科 診察
-	同上	7. 2. 8. 16. 30 眼科 1/10 呼吸器科 1/10 循環器科 1/10 泌尿器科 診察
	同上	10/9. 20 眼科 1/10 循環器科 1/20 泌尿器科
	同上	10/11. 25 眼科 1/10 泌尿器科 1/10 呼吸器科
	同上	10/11. 25 眼科 1/10 泌尿器科 1/10 呼吸器科
H24. 1月	同上	1/1. 13 眼科 1/10 呼吸器科 眼科 1/20 循環器科 1/20 泌尿器科
2月	同上	2/3 眼科 1/10 呼吸器科 1/10 循環器科
3月	同上	3/2. 23 眼科 1/10 呼吸器科 1/20 眼科
4月	同上	4/10 眼科 1/10 泌尿器科 1/10 呼吸器科
5月	同上	5/1 呼吸器科 1/20 眼科
6月	同上	6/3 眼科 1/10 呼吸器科 1/20 眼科 6/10 泌尿器科 1/10 循環器科
7月	同上	7/6. 20 眼科 1/10 循環器科 1/20 泌尿器科
8月		8/3 眼科 8/9 呼吸器科 8/18 泌尿器科 8/20 循環器科
9月	同上	9/1眼科 9/21 眼科 1/10 呼吸器科 8/24 循環器科 9/29 泌尿器科
10月	同上	10/6 眼科 1/10 眼科 1/20 呼吸器科 眼科 1/10 循環器科

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

震災後から死亡までの経緯について

169-1-1 ③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H24. 11月		耳鼻科 眼科 呼吸器科 呼吸器科 循環器科
12月	同上	呼吸器科 眼科 循環器科 12/8 ~ 25 病院（市）に たまたま入院
H25. 1月	同上	眼科 耳鼻科 呼吸器科 循環器科 循環器科
2月	同上	耳鼻科 3/5 ~ 20 入院（市）に たまたま入院
3月	同上	耳鼻科 呼吸器科 循環器科
4月	同上	呼吸器科 耳鼻科 循環器科 呼吸器科
5月	同上	眼科 呼吸器科 循環器科
6月	同上	眼科 呼吸器科 循環器科 眼科 呼吸器科 眼科
7月	同上	呼吸器科 眼科 循環器科 耳鼻科
8月	現住所	眼科 耳鼻科 呼吸器科 循環器科 眼科
9月	同上	眼科 呼吸器科 眼科 耳鼻科 循環器科 呼吸器科 眼科
10月	同上	眼科 呼吸器科 眼科 耳鼻科 眼科 呼吸器科 眼科 耳鼻科
11月	同上	眼科 呼吸器科 眼科 耳鼻科 循環器科 眼科 呼吸器科 眼科 耳鼻科
12月	同上	呼吸器科 眼科 耳鼻科 循環器科 眼科 耳鼻科
H26年 1月	同上	呼吸器科 眼科 耳鼻科 循環器科 呼吸器科
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「169」-1④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H26. 2月	現在所	1/2 外科 1/10 呼吸器科 3/10 循環器科 2/10 眼科
3月	同上	2/10 呼吸器科 3/11 循環器科 1/10 呼吸器科 3/10 眼科 3/10 眼科
4月	同上	4/10 眼科 3/12 呼吸器科 3/10 眼科 3/10 呼吸器科
5月	同上	5/10 眼科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科 3/10 眼科
6月	同上	6/10 眼科 3/10 眼科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科
7月	同上	7/10 呼吸器科 1/10 呼吸器科 3/10 循環器科
8月	同上	8/10 眼科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科
9月	同上	9/10 眼科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科 9/10 ~ 10/10 入院（肺炎等）
10月	同上	10/10 呼吸器科 10/20 呼吸器科 10/20 呼吸器科 10/10 眼科 10/10 外科 10/10 眼科
11月	同上	11/10 眼科 外科 10/10 眼科 10/10 眼科 10/10 眼科 10/10 眼科
12月	同上	12/10 呼吸器科 10/10 呼吸器科 3/10 眼科 10/10 眼科 10/10 外科（転倒による頭部出血）
H27. 1月	同上	1/10 眼科 3/10 呼吸器科 10/10 呼吸器科 10/10 呼吸器科 10/10 呼吸器科
2月	同上	2/10 呼吸器科 3/10 眼科 3/10 眼科 2/10 入院 3/10 入院
3月	同上	3/10 眼科 3/11 循環器科 3/14 呼吸器科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科 (ビルに吸入)
4月	同上	4/10 呼吸器科（ビルに吸入） 3/10 外科 3/10 呼吸器科 3/10 呼吸器科 3/10 呼吸器科 3/10 眼科

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「169」-1 ⑤

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
11月 5月		呼吸器、外科、循環器 耳鼻科 呼吸器
6月	同上	呼吸器、循環器、耳鼻科 呼吸器、耳鼻科
7月	同上	呼吸器、循環器、耳鼻科、耳鼻科
8月	同上	呼吸器、耳鼻科、循環器、耳鼻科 入院 痰の吸引、夜・夜中、日中、看護業務 18リタメネーに相談の結果 （介護的）に入院させた。
9月	同上	慢性呼吸不全のため 死亡

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「169」-2
~①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難(体調・病状)の状況			
震災前	<p>自分の事は自分で管理する父だった。</p>			
平成23年4月～7月	<p>おろさない工事にされたためか、外出が少なくなった。 ・団体生活のため、自分にあった生活が出来なくなり、寝れなくなった。 ・双葉町に関するニュース等を見るたびに、戻りたいとよく言っていた。</p>			
平成23年8月～12月	<p>外出するのが減っていた。 団体生活が進むにつれて、一入りが増えていった。 夜中に起きる回数が増えた。</p>			
平成24年1月～6月	<p>外出しても、体力が落ちているせいか、歩いては休むをくりかえしていた。 双葉町に一時時の身を話すことが増えた。</p>			
平成24年7月～12月	<p>パートをかりて、団体生活は終わるまで、酸素吸入の生活になり、 通院以外の外出が減った。 家の中で転ぶ事が多くなった。</p>			
平成25年2月 2/5～2/20入院	<p>お見舞に行った時に、双葉町のニュースや記事を見ながら いつになったら帰れるんだとよく言っていた。</p>			
平成25年3月～7月	<p>酸素吸入が増え、睡眠時間が少なくなった。 外出も少なく、家で新聞やテレビを見るだけの生活が目立った。 楽になりたいとつぶやき、事が何回もあった。</p>			
平成25年8月～12月	<p>アパートから新居へ移転。 その後、酸素吸入生活が続き、外出も通院以外になくなっていく。 体力も落ちていき、よく転ぶ事が多くなった。</p>			
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

169-2
②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難(体調・病状)の状況
H26.1月～8月	家の中での移動もなくなり車イスでの移動が増え、 声も出さなくなったり、Xモ書きて伝える事が多くなる。 食事の量も少しずつ減っていった。
H26.9月 9/8～9/18入院	肺炎で入院している間、トイレなども行くのがつらく、車イスで 移動していた。
H26.10月～12月 12/26転倒	足の筋力もへってきているという事で転ぶ事が多くなり、 けがなども増えていった。
H27.1月～7月	外出も通院やタクシー・バス以外では行かなくなった。 Xモ書きも少しずつ読めなくなり、なっていっていった。
H27.8月・9月 8/20入院	入院中のXモ書きも読めなくなり、手足の筋力も落ちていった。 慢性呼吸不全のため9/3死亡
	震災前は、いつも自転車で出かけたりよくしゃべったり 笑ったりとマイ父でしたが、避難してから、 家にこもったり、通院が多くなったりと増え、別人のように 見えていきました。震災がなければこのような事は なかったはずで。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

「169」-3 ①



震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]
	3月11日現在の現住所(入院先)		生年月日	[REDACTED]
1	3月11日	[REDACTED]	震災前の健康状態について	
[REDACTED]				
[REDACTED]				
月 日	避難先		避難(体調・病状)の状況	
			<p>① 肺炎になってから息切れが99くなり</p> <p>[REDACTED]の循環・呼吸・耳鼻科で 診察、検査してもらい、[REDACTED] 病院の紹介状をもらって、 「気管切開」の手術をしてもらいました。 手術後は、しゃべるのにもつづいた様で 取、言葉が通っていました。 メモ書きなどで伝える事が出来ていました。 耳鼻科・循環・呼吸器科の月には、 気管切開してからの術後の経過を 定期的に診察してもらいました。</p> <p>② 17-7αリンの薬は、平成23.5.12から 飲んでいました。</p>	
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[REDACTED]	住所	[REDACTED]
	氏名	[REDACTED]	連絡先	[REDACTED]
			住所	[REDACTED]
			連絡先	[REDACTED]

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「169」-3
~②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
	③	<p>の 方に作成していただいた資料が あるのでこちらを見て下さい。</p>
	④	<p>気管切開してから歩くのもつらく なってきた。あまり家から出なくなり 歩いている時も、少しの段差などで つまづく事も多く、むいたの方をよくおた してました。その事も、家の中での 車イスでの移動が難しくなっていました。</p> <p>酸素吸引を家族で行っていた が吸引しても日中夜中ずっと 行っていました。</p> <p>本もろくも読めなかった。</p>
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>		
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。</p>	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

第1表

作成年月日 平成27年 6月 1日

電話番号

FAX番号



利用者及び家族の 生活に対する意向	ご本人：デイケアに行きたい。お風呂にも入りたい。
	ご本人：病状が不安定で吸引などの処置があるため本人をひとりにしておくことができない。体力も低下して介護量も多くなってきているため、できるだけ介護サービスを利用したい。

介護認定審査会の意見及び サービスの種類の指定	
----------------------------	--

総合的な援助の方針	<p>①病状に応じた対応がとれ、ご自宅で不安が少なく過ごせるようにお手伝いします。</p> <p>②自宅で安全・安楽に過ごせるようにお手伝いします。</p>
-----------	--

生活援助中心型の算定理由	1.一人暮らし 2.家族等が障害、疾病等 3.その他()
--------------	-------------------------------

私は、上記居宅サービス計画書(1)について説明を受け、その内容に同意し、これを受領致します。			
平成	年	月	日
利用者(代理人)	氏名	姓	印

169+3-3-4-3

平成27年 平成27年 6月 1日

第2表

No. 1

目 標		援 助 内 容			
長期目標 (期間)	短期目標 (期間)	サービス内容	※1 サービス種別	※2 サービス提供事業所	頻度 期間
H27/ 6/ 1～H28/ 5/31	H27/6/1～H28/5/31 (3ヶ月毎)	バイタルサインのチェックと体調の確認 薬療法の介助 服薬の指導	通所リハビリテーション		3回/週 H27/ 6/ 1～ H28/ 5/31
H27/ 6/ 1～H28/ 5/31	H27/6/1～H28/5/31 (3ヶ月毎)	①病状の観察を行い、 病状の変化に応じて適切な対応がとれる ②病状悪化時に早めの対応ができる ③在宅療養環境が適切に行える ④気管カニューレの管理が適切に行え、感染などのトラブルが回避される ⑤医師の指示どおりに内服する	訪問入浴介護 医療 ご家族		1回/週 H27/ 6/ 1～ H28/ 5/31
H27/ 6/ 1～H28/ 5/31	H27/6/1～H28/5/31 (3ヶ月毎)	①就寝時の呼吸音が緩和される ②起立動作・移動動作がスムーズに行え、身体に負担が少なく過ごせる ③安全に入浴できる	福祉用具貸与 福祉用具貸与 特定福祉用具販売 訪問入浴介護		毎日 毎日 毎日 1回/週 H27/ 6/ 1～ H28/ 5/31

※1 「保険給付の対象となるかどうかの区分」について、保険給付対象内サービスについては○印を付す。

※2 「当該サービス提供を行う事業所」について記入する。

[illegible]

※1 「保険給付の対象となるかどうかの区分」について、保険給付対象内サービスについては○印を付す。

※2「当該サービス提供を行う事業所」について記入する。

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「170」-1

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
平成23年3月11日現在の居住地（入院先）		震災前の健康状態について	
1	平成23年 3月11日	別紙参照	
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
	別紙参照		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住 所
		氏名	連絡先 自宅・携帯
		住 所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

別紙

- 1 [] は、当主であった [] を早くに病気で亡くし、その後は [] が当主を継いで酒蔵に入り、[] の経理や総務を分担しながら営んできた。[] 店の経営方針として地元を大切にしたいという思いがあり、従業員はすべて地元の人を雇い、酒米も地元のものを使用するなどして、地元の雇用にも貢献してきた。

平成20年3月、[] 転倒により左大腿骨頸部を骨折し、[] 病院に入院し [] 手術をした。この手術で [] は人工関節を入れることとなり、歩行時に杖などを使用しなければならなくなったが、それ以外は健康上の問題はなく、はつらつとしていた。退院後は主治医を双葉町の [] 先生として、定期的に往診してもらっていた。

なお、約2か月間の入院中に以前ほど体が機敏に動けなくなったため、後日、[] に [] と診断された。それでも、[] は店にやってきた町の人たちと親しげに話しをし、通りを歩く人たちに挨拶をかわしており、従前どおり身の回りのことはほとんど自分でできていた。

そして、[] に経理業務を教えるなどして、次第に一線を退くようになっていった。[] を営んでおり、[] は第一線からは引退したものの、電話注文や経理のアドバイス、また元経営者として常に気配りをする心がけを忘れることはなく、そのため引退してから従業員をはじめ多くの方々から信頼を受けていた。

- 2 平成28年3月の福島第一原発事故直後、[] の自宅で屋内退避を続け、原発1号機の水素爆発を自宅で体験した。

3月12日の夜、最後のパトロールで通りかかった自衛隊の装甲車の隊員に促され、[] 荷台に毛布を敷き、[] そこに寝かされた状態で [] (川俣町)へ避難した。

それまで体験したことのない大地震や、[] 荷台での避難を余儀なくされたこと、劣悪な環境の避難所で夜を越さなければならなかったことは、[] にとって精神的に大変な負担になったようであった。

- 3 翌日、避難所のベッド数が足りないことと、避難所のキャパシティをオーバーしたことが理由で、退くに避難してきた [] は出ていくように促された。

そして、偶々いわき市の [] 宅に連絡がついたので、[] は [] の荷台に寝かされて川俣 [] の避難所を出発した。

いわき市までの道のりは国道399号線を通った。本来であれば、川俣町からいわきまでは、東北道と磐越道を使って2時間位の道のりである。それが、震災と原発事故により全ての道路が閉鎖されていたために、399号線を使わざるを得なかった。この国道は阿武隈山系の西斜面を飯館村から都路・川内村を通っていわき市小川地区へ通じる山道で、避難するのに5時間以上もかかった。

しかも、警戒区域と設定されてしまったため、本来ならばもっと状態の良い道を通れるはずが、

悪路を選択しなければならなかった。特に川内村と小川間は道幅も狭く急坂・急カーブが続き、その上この時期は雪が積もっており、車は幾度もスリップやスピンを繰り返した。は車中で何度も嘔吐し、そのたびに、世話をするやそのの腕をつかみ、「絶対に恨まないからここで下してほしい。」「ここに捨てて行ってくれ。」と泣きながら言っていた。家族はそれを励まし、雪の夜の山道をひたすらいわきへと向かった。いわき市の宅に着いた時にははすっかり弱り切っていた。

- 4 車の荷台に寝かされての夜の強行軍の避難と生活環境の急激な変化、そして慣れ親しんだ家に帰れなくなったことなどは、の弱り切った老体にとって計り知れないほどの負担となっていた。それでもは、当初は気丈にふるまい、親戚に挨拶などをしていた。

しかし、慣れない生活がたり、わずかな期間で歩くことはおろか立つこともできなくなり、みるみる食欲もなくなり、次第にふさぎ込んでいくようになっていった。

第一原発ではその後の数日間に次々に水素爆発と放射能漏れがおり、大勢の市民がいわき市から遠くに避難してしまい、多くの医師や看護師も避難してしまったうえ、薬も手に入らないようになり、病院も閉鎖された。そのため、先の見えない状況や、原発事故による避難という想像できない被災に、はひどく心配し、強いストレスを感じていた。

また、その後双葉町は役場機能を埼玉県加須市に移してしまい、震災前のケアマネージャーとも連絡がつかずは適切な社会福祉関係の援助が受けることができなくなった。そのため、がいわき市の社会福祉課に日参して何とか話をつけ、平成23年6月中旬からは、がケアマネージャーに決まった。

治療の面では避難先から車で5分程の距離にある医院のにお願ひし主治医になってもらった。

- 5 しかし、を中心に家族皆でのためにできるだけのことをし続けたが、は、震災後約1か月の間に、従来のから、をとばしてにまで一気に悪化してしまった。

その後、一時は少し体力を回復したようにも見えたがは歩行器等を使用しても歩くことはできず、短時間立っているのが精いっぱいの状態となった。排便等も震災前のように自分ではできず、紙おむつと尿取りパットを使用しなければならなくなった。の治療のもと、健康状態は安定を保てるようになったが、認知症は急激に進行していった。

のとくとは異なり、老人をかかえるということは、家族にも大きな負担になった。も歯がゆかったと思われるが、特に昼夜を問わずに介護を続けるにとっては心身ともに大きな負担となった。

双葉町民という理由で、いわき市の施設を利用できないため、すべて家族で介護しなければならなかった。は24時間介護のために家を空けることができず、夜も仮眠だけで介護を続けていた。がどうしても出かけなければならない際は、家族の誰かが残っての介護を続けた。

朝、目を覚ました後、紙オムツを交換。その後家族の介助によって車いすへと移されて居間へ

と移動して一日中車椅子に座る生活になった。が外に出ることを進めても、はそれを拒むようになり、家族以外の人との会話を嫌がるようになった。夕食後にベッドに移されるという生活をしていて、昼間は車いすに座った状態で眠っていることが多くなっていった。震災前と異なり、排便等は自分で完全にできなくなったため、介護用の紙オムツと尿取りパットを使用し、家族が交換していた。両手は自由に動かすことができたので、食事は他の家族と同じものを自分でスプーン等を使用して食べていた。

6. 避難生活でありつつも次第に落ち着きができ、それなりにの気持ちが落ち着いてきたところを見計らって、いわき市のケアマネージャーの勧めでデイサービスに週2回通うようになった。

ところが、家族の介護のもと、避難先の住宅でもようやく平穏に生活ができるようになったと思ったが、平成24年3月上旬、気温の変動が激しくなった時期に、は体調を壊した。それまで

医院には点滴を受けるために通院していたが、4月2日に意識がなくなり病院へ入院した。すぐに集中治療室へと運びこまれ検査と治療が始まった。この時、主治医が総合病院の先生に引き継がれた。

病院における入院治療のおかげで病状は回復したが、は体力的にかなり弱り、寝たきりの状態になった。しかもこの時、倒れた際の転倒で右腕の肩関節が脱臼していることが検査で判明した。病状がある程度回復した時期に、一時的に整形外科の担当となり右肩関節の手術をしたが、脱臼してからかなり時間が経過してしまっていたため、右肩はもとのようにはならなかった。

7. の治療の元、順調に回復し平成24年9月10日退院となったが、入院前と比べて相当弱ってしまったことから、家族での介護の継続は不可能と判断され、家族も悩んだ末だったが、の紹介でに入所した。

に入所した理由はがいわき市民ではないために保険が適用される施設に入所できなかったこと、この介護施設は医療機関と提携していること、いつでも家族がすぐに行ける場所にあることのほかに経済的な理由があった。経済的な理由とは、が原発事故により休業となり、家族の収入がなくなってしまったために、母の年金及び東電から支払われる精神的慰謝料で支払える範囲内でなければならなかったということである。

入所するとともに、主治医は老人ホームと契約していた先生へと代わり、すぐにと診断されてしまった。

ここは24時間完全介護の施設であったが、紙オムツの交換不足による菌の感染事故があり心配であったため、平成24年11～12月に病院に何度か通院し、平成25年1月には体調を壊したので同病院へ入院することとなった。病院には平成25年1月28日に入院し、同年5月11日に退院した。

8. 退院後は、前回のでの反省から、家族で相談して自宅介護をすることとした。介護の中心はで、このためにはと¹はヘルパー2級の資格を取得

した。

健康管理に関しては、[] 病院の「[]」より週1回看護婦の訪問看護を受け、検診及び指導をしてもらった。リハビリも兼ねて、ケアマネージャーはデイサービス[]となり、デイサービスを週1日（のちに週2日）受けていた。

[]のデイサービスは[]によく合ったようで、[]は毎週行くことを楽しみにするようになった。介助によって車いすに座ることはできたが、入院前のように一日中座っていることはできず、朝、紙オムツを交換後車いすへ移動し、午後再びベッドに戻るという生活であった。

食事は一人では食べることはできず、常に[]介助した。[]の意識状態は、家族のことは分かるが、その他のことについてはおぼろげな状態であった。

- 9 その後[]の健康は比較的順調に経過していたが、平成26年1月11日、体調が急変し[]病院へ救急入院した。

その日の朝までは元気に食事をしていたが、この時から、食べ物はおろか水すらも受け付けなくなり、胸部の血管を切開しカテーテルを心臓付近まで入れ血液中に直に栄養分を点滴するようになった。呼吸も困難になり血液中の炭酸ガスの濃度が高くなったため、人工呼吸器を取り付けた。意識はほとんどなく、自分で体を動かすこともできず、一日中ベッドに寝かされている毎日であった。

[]は成年後見人となり、[]に届く書類の手続等をすべて行った。

しかしその甲斐もなく、平成27年10月3日[]は病室で静かに息を引き取った。[]の人生であった。

- 9 []は避難生活中、[]の現状からして、自分が死んだ時、死亡の知らせ（記事）は出さないように、葬儀は私の兄弟とその家族が出席すればいいなど、遺言として家族に告げていた。避難生活中の家族の負担を考えての言葉であった。そのため葬儀は[]の身内10人のみが出席する寂しいものであった。

[]の葬儀は800人以上の参列者があったことを考えると、家族は避難生活の惨めさを思い知らされることになった。また、家業の復興の為に、[]は駆けつけることができず、家族の中でも暗い影を落とした。

- 10 もし原発事故がなく、原発避難をしていなかったら、家族みんながバラバラに生活することなく、[]はもっと幸せにもっと長く充実した人生を生き、みんなに看取られていたはずである。そう思うと、[]も歯がゆい思いが募るばかりである。

震災直前、[]だったのがわずか1か月の間に[]にまで悪化したことは、稼業の復興に向かっていた[]にとっても、大変な問題であった。[]は介護のために、自分の時間を全て費やしていた。「いわき市に避難をしている双葉町の住人」という理由で、受けられるはずのサービスを受けることができないのと、避難による急激な体調の変化に、[]はもとより、家族一同みな疲れ切ってしまっていた。

原発事故さえなかったら、双葉で平穏に生活ができ、[]もこのような苦しみを味わうことがなく、

家族もこのような苦勞をすることはなかった。

最後まで、双葉の家を懐かしんでいて、一目でも見てみたいと切望していた●でしたが、避難後は一度も帰ることがなく、生涯を終えてしまった。

この●の気持ち、家族の気持ちを、計り知れない精神的苦痛を是非とも汲んで頂くことを願う次第である。

以上

「171」-1

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所 (入院先)		震災前の健康状態について	
1	平成23年 3月11日	(自宅)	健康状態に特に大きな異常はなく又、認知症等も発症はしておらず、と二人で静かに笑顔に満ちた生活を送っていた。
月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
1	2011/3/11	自宅	14:46東北地方太平洋沖地震発生、19:3分「原子力緊急事態宣言」がだされた為、自家用車は無く自転車にて寒さ厳しい夜間に、双葉北小学校に設置された避難所へ一時避難する。大勢の避難者であふれ休憩するスペースも確保が困難だった。又、不安と緊張で大きなストレスとなった。
2	2011/3/12	双葉北小学校	5:44福島第一より半径10km圏内に避難指示が発令されるが、何が起きていてどうして避難しなければならないのか全く解らず不安と緊張でストレスが心身を蝕んでいった。
3	"	"	数年前に心筋梗塞を患い、もともと体は弱く静かな生活を送っていたところに予想もしないそして、何の為の避難か情報が無く大きな不安の中で時間が過ぎ、心身にかかる負担は大きなものだった。
4	"	"	8:00頃、町より伊達郡川俣町への緊急避難が周知される。福島第一原発で何が起きて何の為の避難なのか理解できず心身の疲れはピークに達していたものの、ただただ町の職員の誘導に従って行動した。
5	"	"	バスにのり避難を開始する。急な避難要請の為、自宅へ一旦戻る事も出来ず、着の身着のまま川俣町へ避難を開始。バスは満員状態の為、足を延ばす事も出来ず食事も喉を通らず、そのストレスは計り知れない物だった。
6	"	川俣	川俣へ到着。川俣町の住民の皆様にはとても暖かく迎えていただき感謝に耐えません。普段の落ち着いた生活と全くかけ離れた生活に戸惑い、心身に大きな負担を抱え家族に連絡する手段ももっていなかった為身の切られる思いだった。
事情聴取先 * 役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
		連絡先	
		氏名	住所
		連絡先	

震災後から死亡までの経緯について(1 枚目)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難 先	避難(体調・病状)の状況
7	2011/3/13 (平成23年)	川俣	避難から一夜明けても不安と緊張で十分な睡眠は取れず日常の生活リズムは崩れ食事は喉を通らず、家族とも連絡がつかず、先の見通しが全くつかない中での生活は、今まで経験した事のない試練だった。
8	"	"	日常で飲んでた薬も切れ、心身への負担は更に厳しさを増した。寝れない、食べれない、家族とも連絡が取れない、何故このような生活になってしまったのか、誰にこの悔しさをぶつければ良いのか苦しさで一杯だった。
9	2011/3/14	"	福島第一3号機の原子炉建屋が爆発。この先ふさと双葉町、我が家はどうか、揺れるのか、体調は戻るのか心配と不安で笑うことを忘れてしまっていた。
10	2011/3/15	"	福島第一4号機の原子炉建屋が爆発。絶望感で、この先自分は何の為に避難し、生きていくのか絶望感で一杯だった。
11	2011/3/16	"	37.8度の熱が出て体調の不具合が増してきた。嘔吐もするようになり日に日に体がやせ細っていった。
12	2011/3/17	"	熱は下がらず、変わらず不安な避難生活を過ごす。TVで原発の放送を見る度、当時の事が思い出され、未だに連絡のつかない家族の心配も重なり、何を頼りに生きてゆけば良いのか憂鬱さと絶望感で一杯となった。
13	2011/3/18	"	熱は下がらず、変わらず不安な避難生活を過ごす。この頃より住民の方々の目が気になりはじめる。いったい、何時までここで過ごすのか、誰を頼れば良いのか、この不安を誰に話せば良いのか憂鬱さが増すばかりだった。
14	2011/3/19	埼玉県さいたま市スーパーアリーナ	川俣町から埼玉県さいたま市スーパーアリーナへ避難を実施する。ふさと福島を離れ埼玉県へ行く事となり、二度と福島へ帰れないのかなという思いがよぎり、何の為にこの先生きてゆくのか、憂鬱さで一杯だった。
15	"	"	熱の下がらない体に加え、狭いバスによる長時間の移動で体への負担は増し、何も出来ない苛立ちと絶望感で目の前が真っ暗になっていた。
16	2011/3/20	"	さいたま市スーパーアリーナの中で段ボールで仕切った廊下に横たわって暮らす生活が始まった。体調が思わしくないのが続き、嘔吐も繰り返し避難者として他の方々に見られる視線が気に掛かりストレスが増す要因となった。
17	2011/3/21	"	震災後初めてがスーパーアリーナに尋ねてきた。共に無事だったのを確認し喜びあった。家族との再会に少しでもあるが気が晴れた。が、今後の生活の不安は全くぬぐえず、体がだるく何もする気が起きない うつ の初期症状だった。
18	2011/3/22	"	新聞やニュースで毎日のように原発事故が報じられ、一生故郷に戻れないと毎日考えるようになった。心身の疲れストレスとともに微熱は続き、段ボールで仕切られた生活の中で自分の生きている意味が解らなくなってきていた。

震災後から死亡までの経緯について(2 枚目)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避 難 先	避難(体調・病状)の状況
19	2011/3/24	埼玉県さいたま市 スーパーアリーナ	微熱は収まったものの、顔は青白く元気はなく以前のような笑顔は全く見られなくなった。笑うことを忘れていたのかとさえ思った。
20	2011/3/26	"	との連絡は取れたものの、それ以外の家族とは依然連絡が取れず、不安な日々を送る。数年前に心筋梗塞を患った後遺症がストレスにより少しずつ体を蝕んでいった。
21	2011/3/27	"	冷たいコンクリートの上での寝食、帰る場所の無い苛立ち、心に重くのしかかる将来への不安、家族の安否それらの一つ一つが重しとなり心身へのストレスとなり体調の不調が毎日続くようになった。
22	2011/3/28	"	スーパーアリーナへが訪ねた。体と心のヤツレぶりに驚きを隠せなかった。気が抜けたようにボーっとしていて、何を聞いても上の空で震災前の表情は面影もなかった。
23	2011/3/29	"	双葉町役場職員から30日、31日の二日間にかけて加須市の旧騎西高校避難所に移る旨の説明有。自分たちでは何もできないので、ただただ双葉町の皆様に着いていくしかなかった。
24	2011/3/30	"	さいたま市スーパーアリーナから加須市旧騎西高校避難所へ第一陣が出発。新しい避難所への不安が募った。
25	2011/3/31	加須市 旧騎西高校避難所	と共に加須市旧騎西高校避難所へ避難。教室へ入るスペースは無く、体育館の中に大勢の双葉町町民と一緒に避難生活を送る事となった。体調は以前不安定で、発熱を繰り返していた。
26	2011/4/1	"	一人畳一畳分のスペースの中での避難生活が始まった。落ち着きのない生活空間の中で、ただ休んでいるだけなのに、心も体も和らぐ事はなかった。将来への不安が少しずつ体を蝕んだ。
27	2011/4/23	"	旧騎西高校避難所での避難生活も20日以上が経過し、少しずつこの生活にも馴染んできた。しかし、体調の不安定さは相変わらずで自由に活動できない不安定さが悔しく、故郷への思いも募るばかりだった。
28	2011/5/19	"	連日、福島第一原発の報道が繰り返され、その度に故郷「ふたば」への思いは大きく募るばかりだった。この頃からも胸の苦しさを訴えるようになった。自分の体調も改善はされず不調の日々が続く。(微熱の繰り返し、嘔吐、震災場面を思い出す)
29	2011/6/7	"	数日前から胸の苦しみを訴えていたが、心筋梗塞により倒れ、病院へ救急車で運ばれ入院する。
30	2011/6/8	"	も体調が優れない中、に付き添い病院で付き添う。長期避難によるストレスが心筋梗塞の要因となった。

震災後から死亡までの経緯について(3枚目)
 災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避 難 先	避難(体調・病状)の状況
31	2011/6/8	加須市 旧騎西高校避難所	三女と[]が入院先に訪れ病状について説明を受ける。[]は体調が優れない為、旧騎西高校避難所へ戻り休息する。
32	2011/6/9	"	[]の心筋梗塞の手術を実施。手術は成功する。早速、[]にその件を伝えたとほっとした様子だった。
33	2011/6/22	"	[]が入院中の為、一人で旧騎西高校避難所で避難生活を過ごす日々が続く。ただでさえ心細い中、相談や会話する相手も少なく気分が滅入る一方だった。体重は激減し食事もあり進まずストレスが心身を更に蝕んだ。
34	2011/7/3	"	[]と共に[]病院へ入院見舞いに行く。久しぶりの家族の体面に少し心も安らいだ。
35	2011/8/21	"	[]と共に障害者手帳の再交付申請を行う。
36	2011/9/19	"	[]が入院先の[]病院より退院し再び旧騎西高校避難所で二人での避難生活が始まる。ほっとした反面、これから先の見えない生活に大きな不安を抱え、狭い空間での生活に絶望感を感じていた。
37	2011/10/18	"	この頃になると、ふるさと「ふたば」の状況も解り、帰還困難区域に指定され自分たちが生きている間は一生双葉町に戻れないと感じ、家族や周囲にも絶望感を話すようになった。その話を聞くのが辛かった。
38	2011/11/12	"	又、発熱が続き体調が優れない日々が続くようになっていた。下痢・嘔吐の回数も多くなり心のストレスが一番の要因となっていた。
39	2011/11/28	"	この頃より目の不調を訴える事が多くなった。視野が狭くなり見づらくなった。原因は不明だが、度重なるストレスが要因であると確信している。
40	2011/12/18	"	旧騎西高校避難所に尋ね色々話を聞く中で、「何で私たちはここに住んでいるんだ?」「私たちが何か悪いことをしたのか?」「いつまでこの生活が続くんだ?」としきりに質問を受けるようになった。
41	2011/12/25	"	体調が思わしく無い事から旧騎西高校避難所に尋ねると、しきりに双葉に帰りたい、帰りたい、帰りたいと繰り返すようになる。話そうようになった。「死ぬ前に一度戻りたい」とも言うようになった。
42	2012/1/10 (平成24年)	"	[]避難先の旧騎西高校で側溝にひっくり返り、骨盤を骨折し[]病院に緊急搬送され入院する。ストレスにより憂鬱な時間の経過でボーっとした事によるつまずきが原因だった。

別紙

171-5

震災後から死亡までの経緯について(4 枚目)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避難 先	避難(体調・病状)の状況
43	2012/2/15	加須市 旧騎西高校避難所	の入院先病院に見舞いに行く。何でこんなに災難が続くのか、どうしてこんな目にばかり合うのか悲しそうな目をして訴えていた。
44	2012/3/18	"	の写真を持って入院見舞いに訪れる。最近涙もろく、少しの事で泣くようになった。依然体調は回復せず、体もやせ細っていった。
45	2012/4/10	"	入院先の病院より退院する。3か月ぶりに避難先旧騎西高校避難所に戻り、再度夫婦二人で暮らす事となる。
46	2012/6/11	"	避難生活も1年3か月となり先行きの見えない生活がまだまだ続いていた。生活には少しずつ慣れてきたものの、一度も帰還する事が叶わず、落胆の表情が印象に残った。
47	2012/8/21	"	ふるさと「ふたば」の見慣れた風景と、我が家の写真を撮って避難先の父母に見せた所、荒れ果てた我が家を見て落胆した様子だった。目も悪く視野が狭いので写真は大きく拡大して見せた。涙が印象的だった。
48	2012/9/18	"	と旧騎西高校避難所に訪れる。この時期になると少しずつアパート等に移り住む方が多くなり寂しさを感じているようだった。父母も、何処かに移り住みたい考えを持っていたが、二人とも心臓の手術を行ったり、骨折したり、視野が極端に狭くなっている為
49	"	"	二人だけで生活することは極めて困難で危険を伴った。そのことを話すたびに涙ぐみ、伏せてしまった。この先の不安で押しつぶされそうな様子だった。
50	2012/11/17	"	発熱により、布団に伏せていた。家族が面会に行ってもキョトンとした表情で誰が来たのか解らないような表情を受かべるようになった。長期避難のストレスによる「うつ」が散見されるようになった。
51	2012/12/25	"	クリスマスの為ケーキを持参して訪れるも、誰が来たのか解らないような様子だった。ケーキは一口しか食わず食欲がない様子だった。夫婦間の会話も少なく、口喧嘩する回数が多くなった。
52	2013/2/16 (平成25年)	"	避難生活も約2年となり先行きの見えない生活がまだまだ続いていた。一人又一人と新しい生活環境を求めて旧騎西高校を退避する家庭が多くなる中で、友達も少なくなり寂しさが増すばかりだった。口数も減り老け込んでいった。
53	2013/3/18	"	以前から視野が狭かった為、目の手術を行うための検査を受ける。「今更目の手術をして何になる」と投げやりの、生きていく目的が無いような言葉が印象的だった。
54	2013/5/28 ~ 2013/5/29	"	病院にて目の手術を受ける。(白内障他) 難病指定:網膜剥離変性症と診断を受ける。

震災後から死亡までの経緯について(5 枚目)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避 難 先	避難(体調・病状)の状況
55	2013/7/2	加須市 旧騎西高校避難所	同じ教室で避難生活を送っていた方々もついに引っ越す事となり、この教室に残るのは[]となってしまった。寂しさとこの先の不安、生きていく目的の意味を多く語るようになり、絶望感に苛まれ家族にも辛くあたるようになっていった。
56	2013/8/19	"	双葉町よりアパートについての説明会へ。二人で日常生活が出来ない事から、双葉町より福島県郡山市にある[]の紹介を受ける。
57	2013/9/14	"	[]へ下見及び説明会の為、[]にて訪れる。福島県への入居という事で、父母も少しは安堵感があったようだ。暫くぶりの長時間移動で、母が体調を崩し、下痢と熱が出てしまった。
58	2013/10/8	"	[]との契約が成立し、10月19日からの入居が決定する。
59	2013/10/19	[]	[]入居開始。
60	2013/10/30	"	[]での生活が始まり環境が変化した事により体調が優れず、微熱が続く。周りに知人が誰もいなく心細さを訴えていた。又、お金の事も心配し先行きの不安が大きくなるばかりだった。
61	2013/11/11	"	体調不良による微熱の為、近くの[]にヘルパーを伴い通院する。
62	2013/11/12	"	風邪をこじらせ[]にヘルパーを伴い通院する。
63	2014/1/13	"	[]に入居開始し約2か月が経過したものの、環境に馴染めず心が折れそうな日々が続く。又、体調もすぐれず心が重い日々が続く。
64	2014/3/19	"	[]に入居したものの、他の入所者の目が気になり避難者としての待遇に対し嫌味をいわれるようになった。「どうせ、国と東電からお金をたくさんもらっているんでしょ」と。
65	2014/5/13	"	[]へ通院。目の治療と体調が優れない為診察を受ける。
66	2014/8/8	"	[]へ通院。同じ入所者の視線が気になり、なかなか入所先に馴染めず、憂鬱な日々が続く。[]との会話も少なく少しの事で喧嘩する事が多くなった。

震災後から死亡までの経緯について(6枚目)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避 難 先	避難(体調・病状)の状況
67	2014/9/22		相変わらず、なかなか入所先に馴染めず、憂鬱な日々が続く。同じ入所者の視線が気になり。白い目で見られていると感じるようだと言っていた。被害妄想が進んできたように思える。
68	2014/11/30	"	入所から約1年が経過し、やっとでの生活にも落ち着きを取り戻してきた様に思える。ただ、「うつ」の影響か被害妄想が多くなり、職員の方々に迷惑をかける事が多くなった。
69	2015/1/18	"	生活のリズムは安定してきたものの、長期に渡る避難のストレスからは元に戻る事は無かった。震災から約4年目を迎えるようになって「ふるさと ふたば」に帰りたいという思いは強く泣いてばかりだった。
70	2015/4/14	"	へ通院。体調不良による通院。
71	2015/7/7	"	へ通院。体調不良による通院。孫の写真を 見せ勇気づけるも最近涙もろく、少しの事で泣くようになった。体調の不調は続き体も痩せ細っていった。
72	2015/9/14	"	へ通院。うつの症状がみられるようになり、トイレの汚れも目立つようになった。自分で汚した事を覚えておらず、センターの職員や、に八つ当たりするようになった。
73	2015/11/27	"	風邪の2へ通院。微熱と嘔吐を繰り返す。体は細くなり顔は青白く元気な笑顔は全く見られない。
74	2016/2/2	"	被害妄想が多くなり特に、の職員に対し「私のお金使い込んだらう」と罵声を浴びせる事が多くなった。職員の方々には本当に申し訳なく心苦しかった。
75	2016/3/22	"	へ通院。急性胃腸炎と診断される。原因は不明だが、長期に渡る避難生活とストレスが影響を及ぼしている。
76	2016/7/22	"	へ通院。血液検査の結果、数値はあまり良くないとの説明有。「なんで こんなになっちゃったのかなあ」とつぶやいた一言が心に重くのしかかった。
77	2016/8/22	"	職員への被害妄想が、益々ひどくなってきたとの説明をの職員より説明を受ける。我々家族も困り果ててしまい、ここを退出されたいどこに行けばいいのだろうと不安ばかり頭をよぎる。苦しい日々が続く。
78	2016/9/16	"	へ通院。体のむくみが目立つようになり、むくみの薬を処方してもらう。最近はおうつのせいか 誰かに八つ当たりすることが多くなった。又、泣くことも益々多くなった。

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

400 / 456

震災後から死亡までの経緯について(8 枚目)

災害用慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

	月 日	避 難 先	避難(体調・病状)の状況
91	2017/11/18	■■■■■	視力低下や難聴の為話していることが解らず転倒が多くなり、恨みや被害妄想が多いため周りの入所者や職員・ヘルパーへの迷惑が多いため、別の施設への入居の検討が必要との説明有。
92	2017/12/6	〃	転倒が多く足のむくみも増。視力は低下し全然見えない状況、耳の聞こえは悪く悪循環となっている。特別養護老人ホームへの入居検討が必要。認知症が進み、家族が面会してもすぐには誰か解らないようだ。
93	2017/12/23	〃	転倒は相変わらず多く、後頭部を打つことも多い。「もう一度 自宅に戻ってゆっくり過ごしたいな」と泣きながら話していた。
94	2018/1/1	〃	朝食後胸の痛みを訴えベッドで横になる。呼吸が荒く、痰の絡みが有り顔面蒼白、発汗著名の為、7:50救急車で■■■■■へ搬送される。
95	2018/1/2	■■■■■	■■■■■にて懸命に治療を行うも、低酸素性脳症・急性心不全により4:06分死亡が確認された。

東京電力福島第一原子力発電所事故前は、■■■■■自宅にて生活し健康状態及びその他に異常は無く認知症も発症していなかった。■■■■■と二人暮らしではあるものの地域の方々に支えられ協力し合いながら笑顔に満ちた生活を送っていた。しかし、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難指示により通常の生活は剥奪され又、度重なる避難により心と体への負担は多くなり、体はやせ細り病弱となり発熱や嘔吐を繰り返した。精神的には避難によるストレスに加え、避難先での罵声・白い目で見られ計り知れない苦痛を味わった。その事が原因で「うつ」病も発生し晩年は認知症も患い震災前の笑顔に戻る事は無かった。又、慣れない避難先での環境から骨盤骨折や難病指定の網膜剥離変性症も患い転倒する事も多く、被害妄想に侵される事も多くなり入所先の皆様方に迷惑をかける事が多くなった。震災前の母の性格は穏やかであった為、震災により性格がまるで変ってしまった。

5か所の避難先変更、度重なる新しい場所での生活の不安、見知らぬ人との共同生活、一つ一つのストレスが心身を蝕んでいったと思います。

6年9か月たったから東京電力福島第一原子力発電所事故の影響では無いと思われる意見も一部あると思いますが、度重なる避難・病気の発症・ストレス・計り知れない苦痛を引きずって死ぬまで心身を蝕んでこいたは言うまでもありません。

ふるさと「ふたば」を思い、震災後一度も我が家を見ることが無く病気の■■■■■を残して旅立った事は本当に残念で 東京電力福島第一原子力発電所事故さえ無ければと思うと、ただただ残念で悔しさだけが残ります。

震災後から死亡までの経緯について

「172」-1
~①

災害時慈善支援に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名	[REDACTED]		住 所	[REDACTED]	
	平成23年3月11日現在の居住所（入居先）		生年月日	[REDACTED]	
1	平成23年 3月11日	[REDACTED]	震災前の健康状態について 糖尿病によりインスリン注射		
[REDACTED]					
[REDACTED]					
月 日	避難先		避難（体調・症状）の状況		
3/11	双葉中学校		緊急避難命令のため母の薬を保持してい 避難したため、低血糖を起す。		
3/12 5:30頃	[REDACTED]		インスリン注射 その他の薬を取りに自宅 に戻るも部屋が散乱 持ち帰り事が出来ず。		
6:00頃 16:00頃	[REDACTED]		10時頃 緊急避難命令の発令により [REDACTED] 宅に身を寄せる 妹・弟の家族が避難（30人位）。水が便所・炊 原・幼稚園所・水素塔発後 東京に居る 所に何のりて出発。高速道路通行止めのため 郡山へ金沢～新潟経由にて北陸自動車道 通り東京へ。16時半に5分り、急激な状態を初め 母は体調を崩し絶叫と嘔吐、何回も嘔吐 を繰り返して想像を絶した。		
3/15 3:00頃	[REDACTED]		[REDACTED] 宅に到着。 持病持ちの母は、衰弱がひどく 叔の 分からぬ言葉で発した状態 [REDACTED] 病院にて 急性化膿性胆管炎と診断される。 インスリン等の薬の投与される。		
事情聴取先 ※役所より照を取り調 査を行う場合があります。		氏名	[REDACTED]		住 所
		氏名	[REDACTED]		連絡先
			[REDACTED]		住 所
			[REDACTED]		連絡先
			[REDACTED]		自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

1723-1
②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
8 29	江戸川区 [redacted]	都営住宅入居
5 6		胆のう炎と胆石症にて入院
5 12		
28	[redacted]	入院
5 5		希望団地の元で転倒（F）
7 9		第3,4腰椎圧迫骨折のため
M24 1	いけき市 [redacted]	4月1日（F）和達大橋を仕事に出掛け（8:00） 帰宅（20:00）の途中に（F）を旧母一人で 留守番。部し相手も居ない困難な生活で 寂しいのでFと同居を希望。体調が悪化した 時に仕事で事務が居ない為自分でFと 同居を希望する。この時あった。（当時保証正の音も 無かった為、収入を偽り上げようとした。） 6月には、いけき市への転居を希望。築10年の 古い1軒を借り上げ申請しリホームに移る
10	いけき市 [redacted]	いけき市に転居 持病を持つ母Fと共、活動的であったが 避難生活には順応できず徐々に 精神的衰弱が顕著。不可解な行動が 繰り返された（家族が寝静まるとFの カマを掛け、徘徊する様になり警察に保護 工れる事が数回あった）

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について

「172」-1
③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月	日	避難先	避難（体調・病状）の状況
			に入居
			にお世話になる
4	28		
5	12		<p>最終的に家に帰りたいと言っていたが、一度も自宅に戻ることなし永眠。</p> <p>多摩に居れば、30坪の目当りの良い庭に散歩用犬を飼い、庭には20匹の鳥や鶏の放し飼いで家族一斉の生活。近所には古くからの親しい友人と、親戚に因縁、丹病がある為毎日500歩を歩いて人一倍健康に注意した人でした。</p>

<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別

骨折・精神面

災後から死亡までの経緯について

「172」-2
①

30.6.25

災害被害者支援センターの審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
平成23年5月	東京都江戸川区 [redacted]	都営住宅でダブルベッドに 寝ている状態。日中一人で 生活する為 ヘルパーさんが 来て入浴介助も自分で 病院通いもやってもらっていた。 圧迫骨折後 コルセットをするも 脊椎変形(彎曲)が著しく 常に不快感あり。 (入院中)退院後も考慮して 病院併設の介護施設への 入所も本人納得の上進めていた が、退院の段階になり、そんな 約束した覚えがないと言い出し、中止
平成24年1月	いわき市 [redacted]	精神科([redacted]) [redacted] から デンラス(抗うつ剤) が処方されていた。 落ち込んだり 暴言も吐 いたり その日により症状が 違った。(平成24年7月頃) 胸痛、背部痛、腹痛が あり、ベッドで寝ているこ が多かった。 [redacted]
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	[redacted]
		住所 [redacted]
		連絡先 [redacted]
	氏名	[redacted]
		住所 [redacted]
		連絡先 [redacted]

別 24.2 ~ 28.5 期間分 災後から死亡までの経緯について 「172-2-2」
 災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく
 記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
平成24年 2月	いわき市 [REDACTED]	<p>体調の良い時は すぐ近くの [REDACTED] 公園でくつろいでいる事もあった。</p> <p>日中からベッドで眠る事が多く、夕方頃目が覚め朝と夜を基違いし。</p> <p>「こんな早く起きて」と言われたり、まだご飯食べていないと言ったり、変だと感じる事が多くなった。</p> <p>洗濯機の中に水洗いた下着が放り込まれているのに、気付き 増々おかしいと思っただけ、今度は 便が入った下着をそのまま入れられていて、その頃お世話になっていたヘルパーさんに相談し、ケアマネーさんを紹介してもらった。</p> <p>結果、相当痴呆が進んでいると言われ、いわき [REDACTED] を受診するように指示された。</p>
平成24年 7月	[REDACTED]	[REDACTED]

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「172」-2③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
平成24年 9月 9/16	いわき市平 [REDACTED] [REDACTED]	本人が精神面で安定せず施設の職員さんから一ヶ月位南けて面会に来るように言われた。 以後、失働きでどこにも連れていけない それまでとは違い、常にイベントがあり希望ど、外食や小旅行などもあり、職員さんにもかわいがってもらえたり徐々に落ちつき、時には感謝され、次に面会した時は、恨み言を言われたり一進一退を繰り返した。 H. 25. 6. 21 ~ 6. 25 体調不良で [REDACTED] に入院(急性膵炎・胆管炎)入院中、夜間廊下も歩き回り暴れたりしたので、退居させられ [REDACTED] (それ以降入院拒否となる) 8/20 再び総胆管結石発作で [REDACTED] で点滴治療
平成25年6月		
平成26年8月		

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「172」-2 ④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
平成27年10月	いわき市 [REDACTED]	発作が一年に一度位の割合で起きていたのが、それより半年に一度になり、数ヶ月に一度になり間隔が短くなる。
平成27年12月	[REDACTED]	クリスマス会で出たケーキを食べる。(最後のケーキ) この頃から一ヶ月位の絶食期が頻繁になる。 (点滴のみ) 回復後は、面会時の送り(エレベーターまで)を必ずやってくれた。
平成28年3月	[REDACTED]	胸腹水貯留・総胆管結石 胆管炎により絶食・点滴
平成28年5月	[REDACTED]	5/2 絶食後一度も食べられ口にする事なく眠ったまま 永く眠
[REDACTED]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-1 ①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住所	
		生年月日	
平成23年3月11日現在の居住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	平成23年 3月11日		眼斜通達
	月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
	3月11日	自 宅	一夜様子を見ながら過ごす
	3月12日	双葉町ヘルスケーヤ 川俣町	避難指示有り自分の車出せず 一旦ヘルスケーヤに集合 役場のマイクロバスで避難所 疲労
	3月17日	*	避難所出一斉にスクリーニング検査
	3月19日	埼玉県 さいたまアリーナ	バス移動 周囲に迷惑かけないよ神経を 使い 疲労
	3月21日	埼玉県 [redacted]	避難前から定期的に診察白内障進行 おさいの点眼液を持参してこないため、 困って居るとき医療関係者の方が巡回 して来たので医院を開き診察 点眼液
	3月28日	*	便秘の為診察 寝る前飲む薬28日分 ついでに点眼液多め2種類5本
	3月31日	埼玉県加須市 騎西(旧)高等学校 避難所	バス移動 夕方6時頃到着 [redacted] 自分で階段上がり到着が遅いため出入り 口の場所部屋の皆さん人の事考えなく 自由自在出入りが激しい食事のときは ホコリと一緒に 就寝時は頭の上を歩かれ ている ストレス
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	生 所
			連絡先
		自宅・携帯	

別紙

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-1②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
4月 9日	埼玉県加須市 [redacted] 病院 役場指定	4月7日 夜中咳きをする 8日病院に行くよ進めるが気が向かない 内科 診察 飲み薬4種類7日分 咳き痰出やすく 感染 胃炎
4月16日	双葉町社会福祉協議会 [redacted]	[redacted] 風呂に入れてもらうようになり部屋まで 送迎 ストレスからリラックスできる時間 担当者と会話しながら部屋に帰って来る 避難所に来てから幻覚妄想が始まる様 になり社協の職員さんに相談日々を過ごす
6月30日	[redacted] 病院	眼科 継続 皮膚科 体かゆい軟膏
7月19日	・	泌尿器科 尿のとき違和感有り診察 検査の結果前立腺肥大 薬で様子21日分 整形外科 腰 脇腹痛みテープ
8月 9日	・	泌尿器科 継続
8月30日	・	・ ・
9月20日	・	・ ・ 皮膚科 継続
10月11日	・	・ ・
11月 1日		泌尿器科 検査 転移可能性もありの診断 内科 高齢者インフルエンザ予防接種
11月23日	・	内科 大腸検査前日準備
11月24日	・	内科 大腸内視鏡検査
11月29日	・	泌尿器科 継続 皮膚科 継続
12月13日	・	内科 十二指腸 胃酸 薬2種類14日分
12月21日	・	内科 眼科 継続 整形外科 テープ

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	[redacted]	住 所	[redacted]
			連絡先	自宅・携帯
	氏名	[redacted]	住 所	[redacted]
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-1-③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
1月10日	埼玉県加須市 病院	泌尿器科 検査 薬28日分
1月14日	・	内科 継続 2種類7日分
2月 7日	・	整形外科 腰 脇腹 飲み薬7日分テープ 泌尿器科 継続 薬28日分
3月 6日	・	泌尿器科 継続 薬28日分
3月23日	・	整形外科 継続 飲み薬14日分
4月 3日	・	泌尿器科 継続 28日分
4月14日	加須市 病院	整形外科 定期的に巡回して来る優しい 先生に診察をしてもらように本人の希望 飲み薬28日分 テープ コルセット
4月24日	病院	内科 血圧 14日 十二指腸 胃酸胃60日 皮膚科 軟膏3種類
5月 1日	・	泌尿器科 継続 薬45日
5月 8日	・	内科 診察 血圧薬46日分
5月21日	加須市 病院	整形外科 薬28日分 テープ
6月12日	病院	泌尿器科 検査 薬13日分
6月25日	・	泌尿器科 継続 薬多めに60日分
6月26日	・	内科 診察 血圧 薬3種類60日分
7月 2日	加須市 病院	整形外科 飲み薬2種類28日分 テープ
7月30日	福島県白河市 応急仮設住宅	借りている車で移動 休憩をしながら 運送屋さん荷物 一所に仮設到着
9月18日	白河市 病院	病院で処方して頂きました 薬がきれ受診にいき処方してくれました からの継続 毎月受診
9月27日	・	泌尿も薬なくなり受診処方 毎月
10月16日	・	血圧診察 薬処方 泌尿は が調べて大きいから 病院で検査すること 紹介状を書いてくれました

事情聴取先
※役場より聴き取り調
査を行う場合があります。

氏名

住 所

連絡先 自宅・携帯

氏名

住 所

連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-1④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
24年11月14日 ↓ (25年 2月28日)	白河市 [] 医院	毎月血圧の診察 薬処方 診察の通院したひを一括にしました
24年11月15日 ↓ (29年 7月21日)	[] 病院	紹介状持って受付をし泌尿器科で診察 検査の結果薬で様子の事 年齢 診察の通院したひを一括にしました
25年 3月10日	[] 病院	朝食事の時から元気がなく吉田医院に 電話をするが日曜日でしたので出ない 翌日迄我慢するの事昼近く様子を見に行き 顔色がなく唇が紫すぐ救急車で病院 呼吸不全の事(ICU)入院 会話普通
3月11日		ICUに面会手足が固定動くため管が外れ 環境が変わり色々な治療去れて居るので 本人も驚き妄想幻覚始まる
3月12日		面会(ICU)同じ固定可哀想 会話普通
3月13日		朝病院から電話有り(ICU)から病室移動 すぐ行きこの日から退院23日迄付き添い 元気になる23日午前中退院仮設に本人も 安心(妄想幻覚)は [] 出て仮設の生活を してからわ(妄想幻覚)起きて居ない <small>入居するに 遅くとも</small>
4月28日		病院に電話し主治医の先生に連絡取って くれてすぐ来るようにの事自分の車でつ れていく診察入院(入院中)は毎日面会
5月26日		午前中退院(入院中眼科の方も診察)
6月 4日	[] 医院	入院中の薬不足分診察 胸に貼付テープ 吸入(前立腺肥大)注意 死亡するまで使用病院の薬説明書
6月14日		診察血圧病院からの薬切れ同じ者処方
9月 6日	[] 病院	前回と同じ入院
10月22日		午前中退院(入院中ソーシャルワーカー) 別室に呼んで介護保険制度の話

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-1⑤

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
25年10月15日	白河市 [redacted]	契約書交わす
10月28日	[redacted]	訪問介護スタート入浴介助全身浴 週3回ベッドレンタル紹介11月から 4月迄置く 月¥2500円 1264
11月15日	[redacted]	訪問介護終了 入院の為
11月 7日	[redacted] 病院	眼科は前回からの継続
11月18日	[redacted]	朝食事を済ませ間を居てベッドに横になり午後10時頃ベッドから降りて立つのに足に力が入らない体を支え用を済ませ病院に電話呼吸器科主治医の先生絆の方に手を仮病院診察の結果脳梗塞底酸素血症入院の事脳梗塞は麻痺がのこることも呼吸は酸素使用の為ソーシャルワーカーの方が退院近くになると相談しに来て施設を進めてくれ入所
26年 1月27日	[redacted]	退院でき直接施設に責任者迎え父施設の車到着皆さんに挨拶し部屋を案内落ち着いた所で施設の雰囲気聞き答えはいい所と聞いた時 ほんと施設に入れたことに後ろめたさがお世話に
2月 3日	[redacted] 病院	[redacted] 便秘の為施設から電話有り迎え診察薬処方施設戻る [redacted] から継続
2月 7日	[redacted]	呼吸器科 入院しない限り毎月通院
6月20日	[redacted]	採血レントゲン診察予約10時終了は午後3時頃施設戻る呼吸の方一括に
2月12日	[redacted]	[redacted]
2月28日	[redacted] 病院	[redacted] の継続
4月25日	[redacted]	胃内視鏡検査
4月28日	[redacted]	[redacted] 死亡迄
5月23日	[redacted] 病院	眼科 継続

事情聴取先
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。

氏名

氏名

住所

連絡先

住所

自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-1⑥

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
26年 7月 3日	●●●●● 病院	施設から電話有り体調すぐれないの事 迎え病院連れて呼吸器科診療入院
8月 8日	"	退院施設直接 9月10月11月12月通院
10月10日	"	皮膚科 診療継続
12月 2日	"	"
12月 2日	"	眼 科 診療継続
27年 1月16日	"	皮膚科 診療継続
2月27日	"	"
4月10日	"	"
5月15日	"	"
1月16日	"	整形外科 診療前回の継続
1月23日	"	"
1月23日	"	眼科 診療継続
6月 2日	"	"
12月11日	"	"
7月13日	●●●●● 医院	右耳の下ごめがみ付近痛み施設から 電話迎え診療疼痛の薬処方
7月21日	白河市 ●●●●●	痛み取れず耳鼻科診療 疼痛発熱時薬
1月16日	●●●●● 病院	呼吸器科 診療継続
12月11日	"	"
10月30日	"	定期検査の結果入院
11月27日	"	退院施設直接
28年 2月19日	"	皮膚科 診療継続
4月22日	"	"
6月 3日	"	眼 科 診療継続
12月 2日	"	"
1月15日	"	呼吸器科 診療検査継続
12月16日	"	3月抜き
8月13日	"	総合診 診療の結果入院
8月19日	"	退院直接施設

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-1-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
29年 2月17日	病院	皮膚科 診療継続 塗り薬3種類交互 減る 4月は3回 6月 11月
4月 4日	・	耳鼻科 右耳の下腫れ痛い 4日から13日迄通院
6月12日 8月20日 8月22日	・ ・ ・	眼 科 診療白内障点眼液7、8、9月 ・ 左目白内障の手術し見えるよう なり片目出煩張っていました 右目若いとき火花入り失明 退院施設帰る手術は付き添い
1月20日	・	呼吸器科 診療継続 12月20日迄
30年1月17日	・	・ 診療継続
1月22日	・	・ 施設より電話迎え病院診療 咳き痰を出やすく薬
1月26日	・	ドック検査
2月14日	・	呼吸器科 診療継続
2月26日		眼 科 検査点眼液
3月14日	・	呼吸器科 診療継続
3月17日	・	呼吸器科 施設で意識なくなり私が一時 帰宅で留守病院に連れていてくれる バスで郡山駅似着き電話が入り父の様 対が思わしく内のこと電車で戻り私が 着くまで父のそばにいてくれていまし た 着いた時は意識がもとり安心
3月29日	・	退院し施設にもどる

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-1 (8)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
30年 4月 9日	病院	<p>朝8時過ぎ頃、施設から電話有り、膝下足が腫れている連絡 先に受付をして診察の時間が分かり次第施設で連れて来て行きますとのこと、検査が有るからすぐに、施設に電話して、連れて来ていました。</p> <p>私と交代をし、検査済み診察の結果入院 朝9時30分頃から病室に入るのは午後3時頃でした。</p> <p>それまでは、呼吸器科待合室出車椅子待っていました。</p> <p>ベットに横になるまで会話は普通寒い寒いと叫んでいるので布団要求しましたが、熱が出るため、の返事入院しの会話は、寒い、絶食の言葉が最後 私がいる間布団無し、点滴 痰処置</p>
4月10日	.	<p>面会に行き、手足固定、顔が腫れ耳もとで話をするのですか返答無し目を開けようとしても、腫れているので、目が開く事なく</p>
4月11日	.	<p>朝7時前病院から電話有り、すぐ来れませうかの事、病院行き病室に入ると父の姿が見えない、別の病室 看護婦さんが案内 意識がない、呼んでも呼んでも意識戻らない。先生が来られその時間死亡の時間</p> <p>震災後避難生活がなければ、薬漬けにならず、回りにきお使う事なく、双葉で生活して居たらもう少し長生きできて居たかも.....</p>

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅、携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H23年 3月11日	浪江町 [REDACTED]	震災前の健康状態 眼科通院は左目（白内障）の病気 進みぐあいの検査と進行おさえ点眼液 定期的に（バイク）通院 右目は、若いときから失明 日常（片目）で生活
3月12日		避難指令が有り何も用意もせず避難し 長引きにつれ、点眼液がないため不安 このまま、見える目も失明なりがち
3月21日	[REDACTED]	先生は専門ではないが訳を話して [REDACTED]店から進行おさえ 点眼液 2種類 1日3回使用する間隔5分 あけ、介助
6月30日	[REDACTED] 病院	眼科専門の受診進みぐあい検査 乱視も進み眼鏡注文 進行おさえの点眼液はなくなり次第受診 眼鏡はできしだい受け取り
12月21日		点眼液がきれ、受診進みぐあい検査 進行おさえ点眼液なくなり次第受診
H24年 7月30日	白河市 [REDACTED]	移動して着たとき、在庫有り
H25年 4月28日 5月26日 H28年	[REDACTED] 病院	別な病気で入院し眼科の方も受診 退院の時六か月分点眼液 H28年度までは、常勤の先生でなくても 受診に行くと、手術を進めるが、ここでは できない。ほかの病院 本人拒否する。
[REDACTED]		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住 所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住 所
		連絡先 自宅・携帯

31.2.27

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2-②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H29年 6月12日	●●●●● 病院	常勤の先生なので手術も病院での事 受診を終え進行おさえ点眼液を少し 減らす。
7月 5日	●	受診済みぐあい検査 手術をすることに決め、8月18日から 新たな点眼1日4回左眼
8月20日	●	手術前日（入院）付き添い有り
8月21日	●	左眼（白内障）手術
8月22日	●	退院（室料差額 食事療養費）支払い
8月30日	●	手術後の経過受診点眼3種類1日4回 痛みや炎症、細菌の感染、炎症抑え、 受診経過は良いの事
9月27日	●	痛み炎症の点眼1種類使え終えたら終了

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-2 ③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況		
H23年		整形外科		
7月19日	●●●●● 病院	寝返り仰向きに体をいごかすとき痛み 夜長起きている。 レントゲンを取り、痛みと炎症を抑える 貼り薬		
12月21日		前回と同じ貼り薬		
H24年				
2月 7日		受診 飲み薬（脊髄、中枢神経、筋肉緊張 や痛みを和らげ）（痛み炎症を抑える） 胃潰瘍、胃炎の薬、痛み抑え貼り薬 飲み薬は寝る前		
3月23日				
4月14日	加須市●●●●● 医院	飲み薬（朝）だけ2種類 痛み炎症を抑え、胃の炎症抑え 痛み炎症抑え貼り薬 部屋の世話突きの人が連れ出てくれる。		
5月21日		私が薬だけ取りに行く 14日コルセット その時説明有り今となっては覚えてい ない。安静にしていられるといいね		
7月 2日		私が薬だけ取りに行く		
H27年				
1月16日	●●●●● 病院	日常車椅子の生活（布団に入るまで） 車椅子乗るようになってから足の甲 腫れてくるようになり（他科）に受診に いたとき整形外科に受診（他科）の合間 にレントゲンなど取る 整形外科の先生（他科）の先生との受診 上記と関係外来受診		
1月23日				
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-2-④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
R23年 3月28日	埼玉県 [REDACTED]	内科 便秘なり受診に行き寝る前に飲む薬を 処方（[REDACTED]）新都心店 避難前は自由に体を動かし気兼ねも なく、避難後は場所がわからず我慢が 多いため体調が崩す。
4月 9日	[REDACTED] 病院	7日の夜中に咳を苦しめる 朝方病院に行くこと進めるが気が向か ない 食欲もなく、次の日は腰を上げる タクシーで病院に着き受診レントゲン CTの画像もとり（風）ではないような事 業は（感染 菌殺し朝食後2錠 咳を鎮め る薬 粘膜を正常痰を出しやすい薬 胃潰瘍胃炎の薬3種類1日3回 この時から、呼吸器の方が進行が始ま りかなと想う
6月12日	・	泌尿の薬を飲むようになり薬付けが 始まり
11月 1日	・	高齢者インフルエンザ予防接種受ける 便秘の下剤 寝前2錠
11月23日	・	大腸検査準備 夕食後（下剤）の薬2錠
11月24日	・	大腸内視鏡検査 8時30分
12月13日	・	1階の外来処置室で下剤飲む 胃 十二指腸逆流性食道炎の薬 寝前 過剰な胃酸中和1日3回
12月21日	・	上記と同じ

事情聴取先 <small>※役場より聞き取り調査を行う場合があります。</small>	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-2 ㊦

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H24年 1月14日	埼玉県 [redacted] 病院	内科 十二指腸、胃酸の薬飲み続け
4月24日	,	今までの(ストレス)がたまり過ぎて 高血圧が始まるようになり薬処方 1日1回朝 前回と同じ薬も飲み続け 受診血圧の薬処方
5月 8日	,	血圧薬、前回と同じ薬も一緒
6月26日	,	
		<p>[redacted] 病院通いは、この日で終了</p> <p>避難生活入ってから色々な病気になり 集団生活の中で回りに迷惑をけてはと 思い、亡き(父)も好き好んで通院して いた訳では有りません。</p> <p>ここに来る待ては(カット)有りました。 内科は便秘で受診下剤を処方 川俣、アリナー(トイレ)場所が分かりづ らい我慢多かった。</p> <p>[redacted] に来てからは、場所が分かる為ひん ばに通う(ノロウイルス)が騒がれてい たときでしたので、下痢かと思ひ聞く 尿、便がでにくくなり受診 前立腺肥大の診断 便秘は大腸内視鏡検査以降は、処方の薬 飲み続き効果なし(タクシー)で</p>
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住 所
		連絡先
	氏名	住 所
		連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2 ④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H24年 7月30日	福島県白河市	移動
9月18日	■■■■■ 医院	■■■■■からの飲み続け（高血圧、前立腺）薬 きれるので受診に行き、血圧測り薬処方 毎月一回受診するこなり行きたくないとい きも有り説得
H25年 2月28日		年月日まで高血圧で受診していました。 退院後の不足分（薬）吉田先生に受診し 薬処方してもらう時も有りました。
H26年 2月 3日	■■■■■ 病院	施設から電話有り、体調良くないの事 迎えに行き、病院（■■■■■）受診便秘 腸の働きを助ける薬処方 車椅子と在宅酸素を使用の為乗り降りは 外出の時は酸素携帯使用
4月24日		胃内視鏡検査があるため施設迎え
■■■■■		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	
	住所	
	連絡先	自宅・携帯
	氏名	
	住所	
	連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2-⑤

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H25年 3月 9日	白河市 仮設	呼吸器科 夕食を作り（父）の所にもって行く食欲 起きれないの事土曜日なので掛かり付 け医院午前中終わり我慢する言うので 深刻に考えない
3月10日	病院	朝 医院に電話する出ない月曜迄待つ こと、深く考えなく度々誘われていた 絆集会所に午前中体操終わり（父）所 に行くと顔が蒼白にな苦しんでいた所に 医療に詳しい友人が遊びに来る（父）の 爪みですぐに救急車連絡の指示 救急車で搬送 当直の先生は偶然にも呼吸器専門 救急待合室で検査終わるまで待つ 呼吸不全（ICU）に入院
3月11日		面会時間 午後12時～13時 18時～19時 面会（ICU）昼間手足固定動くため 尿も 管
3月12日		面会（ICU）同じ状態 前日、今日騒ぐ財布 腕時計が自分の所にないため盗まれた と思い警察にと私が預かっていること を話すと安心するが忘れる
3月13日		朝病院から電話（ICU）から病棟に移動の すぐ病院に行く今日から付き添え
3月23日		支払い済ませ午前中看護婦さんに声を かけられ元気に笑顔退院しました
4月28日		元気ない食欲なしすぐ病院電話入れ 何科と聞かれ呼吸器科主治医と連携を 取ってくれ乗り物を聞かれ自分のです

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2~⑧

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H25年 4月28日	■■■■■病院	呼吸器科 呼吸器科外来受診すぐ入院になり病名 前回と同じような入院中は毎日面会 食欲でると病院の食事が合わなくなり 食べた物を要求する先生に相談 退院近くなると少し許してくれる じょじょにリハビリテーションで呼吸 機能改善 筋力体力強化の訓練時々参加 午前中退院する
5月26日		胸や背中に貼り付け、吸入剤、気管支 炎症、介助
9月 6日 10月22日		入院 病名Ⅱ型呼吸不全、肺炎 毎日面会 午前中退院 薬（血圧下げ朝1回 胸貼る 1日1回 気管支拡張剤夕食後
11月18日		朝食を済ませ10時（トイレ）に行こうと しても足に力が入らないと騒ぐ（父）の 所にいたから気が付くのはやいので 用を済ませ病院に電話し主治医の先生 に連絡を事務員から、車に乗せるのに 絆の人に手をかり病院着き車椅子を 借り呼吸器科外来待合室に行き主治医 先生と脳梗塞主治医先生と連携を取り 合え後遺症残ることはなかった 呼吸器科は、肺炎、慢性呼吸院
H26年 1月27日		午前中退院 今日から（在宅酸素、携帯酸素、車椅子） 使用になりました

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-2 ~ (9)

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
H26年 1月27日	[REDACTED]	呼吸器科 退院後 直接(施設)入所責任者迎え 父を介護用の車に 車椅子 携帯酸素の まま 車に乗り施設に着く しばらくし雰囲気が分かり安定する 入所 させた事に後ろめたさ有り 父の答えは「いいところ」と言ってくれ 私に手をかけないよう安心させるため 慣れるまで施設に通う	
2月 7日	[REDACTED] 病院	退院後 外来通院診察(主治医)先生の 曜日に合わせることにしてもらい 診察前検査(尿・採血・レントゲン)私が 車椅子・携帯酸素を持ちながら歩き回る 診察 午前中行き 診察は午1時過ぎ昼食 院外処方 時間かかる車乗ってイライラ 施設に戻る午後8時過ぎ 送迎も私 車椅子・酸素使用の生活なので乗り降り 大変……診察後診療予約票を先生出し 検体検査まへの検査は 2月同様 通院	
6月20日	.		
7月 3日	.	施設から電話有り体調がすぐれない 迎え病院連れて呼吸器科受診 入院 病名は色々有り過ぎ主治医の先生治療 してくれ 日増しに元気になり 食事を 取れるようになり退院までになり 入院中は前回も今も(紙おむつ使用) 入院中の(薬)は病院で退院後院外処方 午前中退院 元気に施設に戻る	
8月 8日	.		
事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所	
		連絡先	自宅・携帯
	氏名	住所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 173-2-10

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
H26年 8月22日	病院	呼吸器科 外来通院 検体検査前の検査（尿・採血 レントゲン）通院は同じなれ診察は 午後過ぎ診察終わり次第昼食院外処方 朝起きてから布団に入るまで車椅子 足の甲（バンパン）に腫れて来る	
12月 2日	・	通院 上記同じ	
H27年 1月 ~ 9月 10月30日	・ ・ ・	呼吸器科 前回資料の記入か抜けて居ました 通院 上記同じ 急性肺炎で入院 前回の繰り返し 治療方（点滴・酸素・もろもろの機械） 入院のたび同じ方です	
11月 2日	・	痰から（MRSA）細菌が検出されて個室 病院持ちの説明 この細菌は病室中に いますの事説明有り	
11月27日	・	快復し午前中退院 施設	
12月11日	・	外来通院 前回と同じ主治医先生が 体調崩引き継ぎは院長先生が診察	
H28年 1月15日 7月15日 8月13日	・ ・ ・	外来通院 同じやり方 診察 夕方 施設から食欲がないの電話有り 迎えすぐに病院に連れて救急外来室 待合室に居ると名前を呼ばれ診察室 総合担当の先生看護師さんに指示を 出し検査に連れて行く検査結果入院 治療は点滴機械などで	
8月19日	・	快復に向かえ退院午前中施設	
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所	
		連絡先	自宅・携帯
	氏名	住所	
		連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「173」-2-⑪

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
H28年 9月21日	●●●●●●●●●● 病院	呼吸器科 外来通院 検体検査前の(尿・採血・レントゲン)診察午後2時近いそれから昼食車に乗るまで車椅子 院外処方 施設に帰る
10・11・12月	●	外来通院 上記と同じ
H29年 1月20日 12月20日	● ●	入院なし 通院有り 1年間 外来通院で過ごしました
H30年 1月17日	●	外来通院 検体検査前(尿・採血・レントゲン)診午後2時近い それから昼食車に乗り院外処方施設帰る
1月22日	●	施設電話よこす体調悪い向かえに行く 総合担当の先生診察院外処方
2月14日 3月14日 3月17日	● ● ●	予約票外来通院 診察上記と同じ 朝 施設で意識なくなり責任者看護師二人で病院に連れて診察をしてもらい入院をしていました 私は一時帰宅でバスでむかっている郡山駅から乗る人もいるので立ち寄るそのとき電話入り(父)が意識ないの事郡山駅から戻り私が着くまで二人で付き添ってくれ意識も戻っていました直ぐ戻る事出ないときは前持って連絡入れておき すぐに病院に連絡を取って くれるようお願いして出掛けます

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 177-2-12

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
<p>H30年 3月17日</p>	<p>●●●●●●●● 病院</p>	<p>呼吸器科 一命は取り戻し徐々に良くなり点滴もして居るが食事を取れるようになり日増しに元気になり退院も予定がきました</p>
<p>3月29日</p>		<p>午前中 退院し院外処方施設にもとる</p>
<p>4月 9日</p>		<p>朝 施設から電話有り 父の両足(ふくらはぎ)がパンパンの事先に受付を済ませ検査有りすぐ連れて来る様に連絡入れ連れて来てくれる検体検査前に携帯酸素持ち車椅子でいつもの検査を済ましておく 先生の診察は午後1時過ぎごろ 普通なら車椅子押しながら一緒に診察に入るのですが今回は看護婦さん先生が別に調べる事が有るの事</p>
<p>4月10日</p>		<p>面会に行きその時手足固定 顔全体腫れ 呼びかけても目を開く事できないでいた</p>
<p>4月11日</p>		<p>朝か有り駆けつけた時は意識がない 駆けつけ時詰め所には看護婦かいはい 先生が病室に 入ってきた時間が死亡の時間（自然死）疑問</p>
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。</p>	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

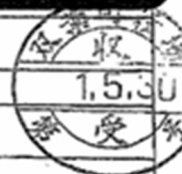
別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-3①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成23年		前立腺肥大
7月19日	●●●●●●●●●● 病院	尿が出にくくなり トイレに行く回数が 頻繁になった 排尿に時間がかかり 違和感があった為 病院を受診 診察の結果 前立腺肥大と 診断される 医師からは 薬での治療で様子を見ると 言われる
11月 1日		検査結果 説明有り マーカーの数字が 多くなると癌のこと ●●●●●●●●●● 病院の資料有り提出
平成24年		処方薬が切れ 9月から 白河市 ●●●●●●●●●● に 受診 診察をして 薬処方してくれる 二回目の時は触診 大きい為 ●●●●●●●●●● 病院で検査すること 紹介状を書いてくれました 紹介状をもって ●●●●●●●●●● に受診 診察の結果 年齢の為 薬で様子を見る と言われる 本人は薬をきちんと服用していました 資料なし

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名	●●●●●●●●●●	住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯



別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-3②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成25年 3月10日	白河市 [redacted] 坂股 [redacted] 病院	呼吸科 9日 夕方から元気がない様子 食事 食べない 我慢する 大丈夫の事 10日の経緯 朝 食事 食べない 布団から起きない 顔色が少し悪い 唇が紫色 [redacted] 病院に電話をするが日曜日で不在 本人は明日まで我慢するの事 このとき 咳 痰の予兆が分らず また 泌尿で病院に掛かっているが 頭に浮かんでいないため 午前中 一人 昼頃 様子を見に行くと 顔が蒼白で 唇は黒ずみ 爪は変色 すぐに異変を 感じ 救急車を呼び病院に行く つき次第 台車に乗せ看護師が検査室 医師に呼吸不全と診断される ICUに入院し治療を受ける [redacted] [redacted]

事情聴取先
※役場より聴き取り調査を行う場合があります。

氏名

[redacted]

住 所

連絡先

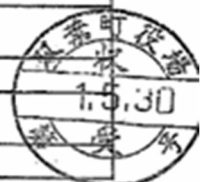
自宅・携帯

氏名

住 所

連絡先

自宅・携帯



別紙

震災後から死亡までの経緯について 「173」-3 ③

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
平成30年 4月9日	●●●●●●●● 病院	介護施設より足が腫れているので、病院を受診したいとの連絡があった。 病院で検査を受けると、すぐに入院することになった。このときは普通に会話ができていた。 しばらくして病室に入ってから、点滴や痰の吸引をされた。本人は「寒い寒い」と繰り返し訴えるようになった。看護師に確認すると、熱が出てきているようだとのことだった。
4月10日	●●●●●●●● 病院	面会に行くと、顔がとても腫れていて、目を開けるのも難しい様子だった。呼び掛けには反応するが、会話することができない状態となっていた。食事は前日に入院してからできていなかった。
4月11日	●●●●●●●● 病院	病院から午前7時前に連絡があり、病院に行くことすでに意識のない状態だった。何度も呼び掛けたが、意識は戻らず、死亡した。 震災前はほとんど病気をすることはなかったが、避難生活を送るうちに、いろいろな病気にかかり、いろいろな薬を服用するようになり、弱っていった。 避難による知らない土地での生活は、慣れないことも多く、気を遣っていた。本人はストレスを感じていたと思う。避難生活がなければ、知らない土地で旅立つこともなかった。双葉町で生活できていたら、もっと長生きできていたと思う。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	●●●●●●●●	住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯



別紙

4-1

震災後から死亡までの経緯について 「174」-①

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所（入院先）		震災前の健康状態について	
1	3月11日		震災前、血液内科に入院。血小板の減少による出血性の病気であった。3月11日は自宅療養中であった。
月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況	
3月12日 ? 3月14日	福島県伊達郡川俣町	震災翌日、川俣町に移動。校舎内ではなく、自宅であったが、当日の夜は、寒さと慣れない環境が相まって、年老いた本人にとっては相当辛い様子であった。	
3月15日 ?	茨城県取手市	茨城県取手市の自宅を頼り、10時間がけて移動。同市内の借り上げアパートに入居。長旅の疲れが顕著に見られた。慣れない土地での生活のせいか、体調が悪くなった。今思えば、その後に発う痴呆症のような予兆も見られた。時折ボーッと空間を見つめることがよくあった。会話も減った。	
3月25日	病院通院	血液内科及び整形外科を受診。	
4月21日	〃	血液内科を受診。	
4月25日		震災前からの脊髄の痛みは相変わらずあるようで、辛そうであった。血液の異状は改善の兆し無し。食欲はあるようであった。	
		※ 通院時の処方薬は、おくす貯蔵紛失のため、不明である。	
事情聴取先		住 所	町役場 収 23.30 受 解
※役場より聞き取り調査を行う場合があります。		連絡先	
氏名		住 所	
氏名		連絡先	
		自宅・携帯	

震災後から死亡までの経緯について 「174」-②

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
4月26日 1 8月9日	福島県猪苗代町	<p>猪苗代にて双葉町民との避難生活を送る。本人は、当地の環境が良いのか、少し落ち着きを取り戻したようだ。この地域の血液内科を探したところ、病院長があり、受診したところ、即入院となるが、2週間程度で退院する。入院中は食欲はあり、顔色はよかった。退院後は、季節が春ということもあって、暑さとも知らず、だいたい、肩の痛みはほとんど無くなったようだ。暑い季節を過ごしたが、ホテルという、環境の中での生活は、本人の体調にとっては、助かった。ただ、次第に感情の変化が乏しくなった。</p> <p>ホテルでの食事は、の文広間でとるのだが、本人にとっては、そこまで歩くのが苦になるとのこと。部屋に運んで来てとっていた。</p> <p>※おくりぐは、給食。</p>
8月10日 1 12月9日	福島県白河市	<p>同市内の借上げアパートに転居。この頃から物忘れが激しくなる。環境の劇的な変化がこうさせるのかと、叔父家族は憤る。食欲はあるが、外出するのも苦になつてきたようだ。</p> <p>口数も少なくなり、こちらから話しかけないかぎり、話さなくなった。</p>

事情聴取先 ※役場より聞き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住所	
			連絡先	自宅・携帯

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

434 / 456

別紙

4-4

震災後から死亡までの経緯について「174」-④

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
26年 8月10日	福島県いわき市	同市内に新築し転居する 家族間で、本人もデイケアサービス へ行かせることを決断する。
26年 10月23日 }		当初は、週 2 回の送迎付きの ケアサービスであった。
28年 3月31日		本人が行きたがらないかと心配 したが、ケアサービスの車が来ると 自ら進んで乗り込んでくれたの で安心した。 施設での様子は、他の利用者 とも仲よく過ごして、出された 食事もしっかり食べていたようだ。 この時、 この施設での終盤は週 4 回に 増えた。
27年 10月27日 }	病院	高血圧と骨粗鬆症で入院 体力は弱まり、一人で歩かせるが 不安であった。 食事の量は減った。 訪ねてきた自分の娘を判断で きないほど痴呆の症状は悪 化していた。
28年 5月30日		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯
	氏名	住所
		連絡先 自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について「174」⑤

4-5

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況		
27年6月1日	（いわき市）	デイケアサービスもこの施設に変更する。		
28年5月31日		本人の様子は前施設の時から改善の兆しなし。 食量の量は、次第に減ってきた。 デイケアサービスの送迎の車の乗り降りは介助が必要であった。 この施設での利用回数は利用期間中 週4回の利用に増えた。 が訪ねてきても、誰であるか分かっていないのか定かではなかった。		
<div style="background-color: black; width: 100%; height: 20px; margin: 10px 0;"></div>				
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災後から死亡までの経緯について「174」⑥

4-6

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況		
28年6月4日	病院	ある日突然、食事を食べ付けなくなり、点滴のために入院。		
28年6月22日		我々家族が付添い看護として一緒に寝泊まりしていたが、付添いが体力的に困難となり、施設に入れることを決断する。		
28年6月22日		入居後に担当医が「」に変わる。		
29年1月30日		先生によると、それまで服用していた薬の量が多過ぎる物があるとのことであった。何となく、食欲が無くなったのも、薬の副作用ではないかと、これまでの病院に不信感を抱く。 薬の量を減らしたところ、食欲が戻り、体力が回復した。しかし、面会に行くたびに痴呆の症状は進行しているようで、ついには我々家族も分からなくなってしまった。 平成29年1月30日、同ホームにて死亡。死亡時は早朝ということもあり、スタッフに異常を発見されるも、家族に看取られることもなく生涯を閉じる。 高齢の本人にとっては、辛い		
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>				
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

別紙

震災後から死亡までの経緯について 174-⑦

4-7

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難（体調・病状）の状況
		避難生活であつたことでしょう。 避難後は一度もふるさとの家 家へ帰ることもなかった。 震災と原発事故がなければ 今も存命であつたと思われる。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯
	氏名		住 所	
			連絡先	自宅・携帯

震災前の経過

- ① 母は父とエッセリが好む野菜作りをするなど、
 収菜町での生活で大変楽しんでおりました。
 近隣の方ともよくお付き合いをしておりました。
 人達が遊びに来るとお茶などにお話に興じておりました。
 日常生活はなんとも自分達が生活を楽しんでいた。
 炊事・洗濯等の身の回りの事は問題なかった。

- ② 病気の、高血圧の薬は服していた。
 腰痛で病院へブロック注射をいく時期がありました。

③ 介護度

震災前

震災後 平成24年4月1日
 " 25年2月29日
 " 29年5月1日



震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

死亡者氏名		住 所	
		生年月日	
3月11日現在の現住所(入院先)		震災前の健康状態について	
1	平成23年 3月11日		良
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
<div style="background-color: black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
3月11日	福島県郡山市		
	伊達郡川俣町		
3月12日			
	福島市		
3月16日			
	福島市	親戚から連絡有り	
3月17日		母と自家用車で迎えに行	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。		氏名	住所
			連絡先
		氏名	住所
			連絡先

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
平成 23 年 3 月 2 日		<p>東北福島第一原子力発電所の異常から、避難指示が出され、その後も避難生活となり、母は父(長サビズ)の事が気になるも連絡を取ることができず不安なものとなり、東電原発事故後は強制的に父とも別れ別れの生活となり、精神的にも不安が増す生活となる様です。</p> <p>母は、厳しい寒工のもと</p> <p>高年齢であり不安な避難生活を余儀なくされ、これほどの生活とは、お3人違うプライバシーの全くない集団生活(母は父)との連絡が取れない子供達とも連絡取れない。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
		<p>一人での生活は不安感にとらわれ、精神的にも身体的にも非なるダメージを受けた様です。</p> <p>母を迎えに行った時は、満足食事もできなかったのか、見る影もないほど痩せていた様子です。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
5月17日	千葉県松戸市 [REDACTED]	母は着の身着のすぐ避難に しに。寒い中での過酷な避難 生活でストレスがかなりあった。 [REDACTED]で生活する様になった 以降、避難生活のもうによる 肉体的 精神的 ストレス [REDACTED] [REDACTED]家族に放射能汚染 の恐怖、中避難場所まで 迎えに来るもついに葬。 [REDACTED]に一緒に住む 車の中を眠るなど心算突然 の生活環境の変化で急激 な病状悪化が重なった。	
11月26日	千葉県松戸市 [REDACTED] [REDACTED]入院	消化管出血の疑い 排便時の出血 (本人はトイレでの出血に驚い ていました)	
12月27日	[REDACTED]退院		
[REDACTED]			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
4月1日	千葉県松戸市 [redacted]	退院をしく 新年を迎えすしく。 食事はあせち食へ 会館などに普通に 過している。
2月18日	千葉県松戸市 [redacted]入院	潮方発熱 緊急入院 食欲不振 脱水症
3月20日	千葉県松戸市 [redacted]退院	
[redacted]		

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	0
			連絡先	0
	氏名		住所	0
			連絡先	0

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「175」へ⑦

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
3月20日	千葉県松戸市	退院してから体調が良くなりました。 でもおは夜もいびきでなかなか眠れないとの事。好きな本も読まなくなり、近隣のスーパーで反響がない事だと言っていました。父がお世話をなっていました。社会福祉法人[REDACTED]の方に車の事で相談しました。自宅に乗りこんだと言っていました。お話しが妙として下っていました。	
4月1日	[REDACTED] 特養 [REDACTED]	その後 [REDACTED] 認定 特養 [REDACTED]	
6月25日		サービス週利用 友達とできると思いましたが、	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

別紙

1752-③

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
424 4月 14日	千葉県松戸市 [REDACTED] [REDACTED] 入院	右肋間神経痛 右側胸～背部痛
6月 23日	千葉県松戸市 [REDACTED] [REDACTED] 退院	歩行困難)の状態でいる かもしれません。
	千葉県松戸市 [REDACTED]	自宅に帰るまで一生懸命 母はりハビリのばんばつ いたに。 そのうち杖だけで歩けるまで 回復した。
6月 25日		デイサービスに行くように なりました。 楽しそうでした。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	0
			連絡先	0
	氏名		住所	0
			連絡先	0

別紙

震災後から死亡までの経緯について

175-9

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
H24年 7月29日	千葉県松戸市 入院	右大腿骨遠位 端骨壊死関節炎 右膝関節骨壊死
9月12日	千葉県松戸市 退院	自宅へ帰るリハビリ 毎日家の中を歩いている。
	サービス	週3回利用 食事の量、語り音程と 変わりなく元気よく過ごしている。 ヒアリングをしてくれるので、 サービスは非常に助かる。 お世話になっている様です。
10月19日	千葉県松戸市 入院	両側変形性膝関節症 歩行障害
H25年 1月14日	千葉県松戸市 退院	H24年9月12日 (父が入院) 11月28日 右大腿骨を打撲し骨折した 金属の棒を入れる手術をする。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名		住所	
			連絡先	
	氏名		住所	
			連絡先	

別紙

震災後から死亡までの経緯について

「175」〜⑩

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
<p>24年 12月12日</p>	<p>千葉県松戸市 [REDACTED] へ</p>	<p>母が入院しついで。 千葉県松戸市 [REDACTED] へ 9月12日 父の呼吸状態意識 レベルに変化が見られパ タに閉じても不安定な状況 であった事から、救急車で入院 その事を母に知らせると、 日数が立つにつれて不安感 に始まり悲壮感 見えあり 精神的 身体的にも非常 にダメージを受け、何か落着 かない様でした。</p> <p>母は自分も入院している。 歩行は困難。不安感。 ストレスがあったと思います。</p> <p>父が急小室心筋梗塞 死去</p>	
<p>事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。</p>	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

別紙

〒175-2100

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
725年 1月14日	千葉県松戸市 [REDACTED]	724年11月28日 患部に金属のボルトと埋め込 み手術を行った。その後も 痛みは消えなかった。
7月1日		[REDACTED] サービス利用 歩行時に痛みが強く感じられ [REDACTED] の認定
		母は父亡き後は娘の 嫁と先に世話になり続 けている事、苦勞を分かっている 事の心労もある様です。
12月5日	千葉県松戸市 [REDACTED] [REDACTED] 入院	入湯ポリープ
12月7日	千葉県松戸市 [REDACTED] [REDACTED] 退院	
[REDACTED]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

震災後から死亡までの経緯について

175-12

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
H26年 2月15日	千葉県松戸市 [黒塗り] 入院	右上葉の肺炎 胸痛、咳	
3月2日	千葉県松戸市 [黒塗り] 退院		
		入院・退院をくりかえしな ばら デイサービスを利用し ました。普通に生活してい ました。	
H29年 8月30日	千葉県松戸市 [黒塗り] 入院	食欲不振 脱水症 腎機能障害	
	千葉県松戸市 [黒塗り] 退院		
		退院後は、デイサービスを利用。 足の痺れがあり、歩くことが難しい状態	
[黒塗り]			
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
		フロアや車椅子よりリビング室へ 行き、体操など行っている様子を テレビで眺めながら、下肢運動 を行うと足の痛みが少し改善する 様子です。
11月30日 8月31日	特別養護老人ホーム [redacted] 入所	<p>2011年12月9日の腰椎圧迫骨折の 既位である歩行器の転倒に 注意を払ってほしい。 歩行器を使用して移動して 外出時は車いす使用 無理のない程度に身の回りの事 は自分でしていき、 リハビリや集団体操にも参加 するなどしていき、 食事 週2回位はパン朝食で しゃり、など食事は普通の 食べられている様子です。</p>
[redacted]		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所
		連絡先
	氏名	住所
		連絡先

別紙

175.~(14)

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況		
		<p>8月</p> <p>母に、亡孫が生まれ、抱くことができて喜んでいました。福島に帰り父にも見せたかったと言っていた事が思い浮かびます。</p>		
<p>大1年</p> <p>7月</p>		<p>このころから食欲の低下、不眠症 本人の身体の原因、環境変化がストレスの原因様です。</p>		
事情聴取先 ※役場より聴き取り調査を行う場合があります。	氏名	住所		0
		連絡先		0
	氏名	住所		0
		連絡先		0

別紙

震災後から死亡までの経緯について

〒175-2-15

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況
	特別養護老人ホーム [REDACTED]	月末奥特別養護老人ホーム に行き、時 々お世話をして [REDACTED]の嫁さん先に来て楽しかった。 世話になっては、お言葉、お言葉 父の介護、自分の事など色々、心の 中にあるんだと思います。

事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名		住所	0
			連絡先	0
	氏名		住所	0
			連絡先	0

震災後から死亡までの経緯について

災害弔慰金支給に係る審査会の重要な資料となりますので、できる限り詳しく記入してください。

月 日	避難先	避難(体調・病状)の状況	
2 4月3日	特別養護老人ホーム [REDACTED]	<p>食事がとれないとの事 特別養護老人ホームより朝 連絡有り。</p> <p>母の食へ行き、母が喉に のみ込めないのと言っていた。 その後ベッドに横になりまじく。 一時私は帰宅し、 夕方に再度老人ホームより連絡 有り。母の顔色があかしく、 駆けつけると母は意識がなく 心臓マッサージと心肺蘇生のため 4月3日亡くなった。</p> <p>母は新しい人間関係、避難生活 と急激な環境の変化、自分の 病状悪化で入院、退院をくりか えし、気遣いなどの心労が かさね、原子力災害により 心身ともにストレスを受け 死に至った。</p>	
事情聴取先 ※役場より聴き取り調 査を行う場合があります。	氏名	住所	0
		連絡先	0
	氏名	住所	0
		連絡先	0

つまり

これは人災の犠牲者たちの怨念を込めた「声」である。

ここまで読んで、この方たちの最後の叫びを、被告らは「想定外」と言えたら、たいしたもんだな。

被告らは、鬼畜であってはならない、人間界に在ってほしい。

原告は当時の双葉町災害対策本部長として、非常に無念でたまらない。

原発行政の欠陥と被告らは受け止めなければならない。

原発事故現場から遠くで、机上論の避難指示を出すことは子供でもできる。原告はこの時、規制主務省庁の最前線の原子力安全・保安院、第一原発保安検査官事務所長及び原子力防災専門官らの任務懈怠によって、事故情報の共有を阻まれ、町民に対する避難指示が遅れてしまった。

この責任は未だに解決されておらず、この被害・損害の賠償はこの家族の方たちによって請求されるだろうから、誠意をもって対応することを期待したい。

被告国は、原子力災害対策特別措置法を事故後に改悪したようだが、不遑及の原則に反するので、事故発生時の平成23年3月11日時点の原子力災害対策特別措置法で、原告らに対応しなければならないことは必定である。

原発事故の後遺症は、終生終わることがない心の痛みと無念さを考えずにはいられない。その心と身体に受けた被害・損害は、被告らが判断するものではなく、専門家という政府御用達のものでもない、本人及び家族以外が判断してはならない。

原子力行政の欠陥を指摘しておく、「避難の指示」に続きがなかった。続きというのは、「避難生活計画」である。これを準備せずに避難させたことは、不作為であり避難させた者の責任の所在が法制化されていないことは、避難指示を受けた方々に新たな被害を与えてしまった損害の解消を求める権利がある。

原告は、無法に従うことはないと主張しておく。

おわり